松山市埋蔵文化財調査年報　19

平成18年度

2007

松山市教育委員会
財団法人松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター

正　誤　表

ページ	誤	正
iii　－24行目	文化調査センター	文化**財**調査センター
P62　－14行目	竪穴式住居	竪穴式住居**址**
〃　－21行目	を深堀した結果、	を深**掘り**した結果、
P68　－21行目	土坑墓	土**壙**墓
P70　－図3・西	土坑墓１・土坑墓２	土**壙**墓１・土**壙**墓２
P114　－12行目	法起寺式	法**隆**寺式
P152　－27行目	3. 実側図	3. 実**測**図
P154　－表1　・No.	513	**460-1**
P157　－表1　・番号14～18	報112集	報**第**112集
P173　－表9　・No.1	『松山大学構内遺跡Ⅳ-6次調査-』	『松山大学構内遺跡Ⅳ-6次調査**地**-』
〃　－　〃　・No.6	『中村地区の遺跡』	『中村地区の遺跡』 **中村松田遺跡2・3次** **小坂七ノ坪遺跡2次**
P175　－表12・No.15	弥生時代の土器絵画の	弥生時代の**絵画土器**の
P176　－表12・No.18	播磨天神山古墳出土	播磨**塚**天神山古墳出土
〃　－表12・No.23	若草遺跡重圏日光鏡	若草**町**遺跡重圏日光鏡

松山市埋蔵文化財調査年報　19

平成18年度

2007

松山市教育委員会
財団法人松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター

巻頭図版１　松山城三之丸跡６次調査地（西より）

巻頭図版２　北久米遺跡４次調査地出土　埴輪

序

松山市には、数多くの貴重な埋蔵文化財があります。財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターでは、松山市教育委員会の指導を得て、開発工事等によって失われようとしている遺跡について、事前に発掘調査を実施し、記録保存に努めています。

本書は、平成18年度に埋蔵文化財センターが松山市域において実施した発掘調査報告、並びに松山市考古館が主体となって開催した展示会、講演会などの教育普及活動の概要をまとめたものであります。

当該年度の発掘調査では、弥生時代から近世に至る数多くの遺構や遺物を発見しました。特に北久米遺跡4次調査地と6次調査地では、二つ塚古墳の墳丘の一部と周溝がみつかり、周溝内からは大量の埴輪片が出土し、古墳の規模が松山平野において最大級の前方後円墳であることがわかりました。また、松山城東郭跡では、江戸時代の石組溝や建物の礎石などがみつかり、東郭の具体的な様子が初めて明らかにされたことなど、郷土の歴史を解明する貴重な資料を得ることができました。

このような資料や成果が得られましたのも、関係各位の皆様の埋蔵文化財に対するご理解とご協力のたまものと感謝し、厚くお礼申し上げる次第です。今後とも、なお一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

本書が、松山市民の皆様をはじめ、多くの方々に埋蔵文化財に対するご理解を深めていただける資料として、ご活用いただければ幸いです。

平成19年12月26日

財団法人松山市生涯学習振興財団
理事長　**中　村　時　広**

例　　言

1．本書は、松山市教育委員会と財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが、平成18年4月1日から平成19年3月31日までに実施した発掘調査の概要と、松山市考古館が行った教育普及事業の成果などをまとめた年次報告書である。

2．確認調査については、第Ⅱ章の表にその概要をまとめた。

3．各調査の報告は、発掘調査担当者が執筆し、編集は河野史知が行った。

4．本書に掲載した写真の大半は、大西朋子が撮影した。

5．位置図は、国土地理院発行の2万5千分の1図を使用した。

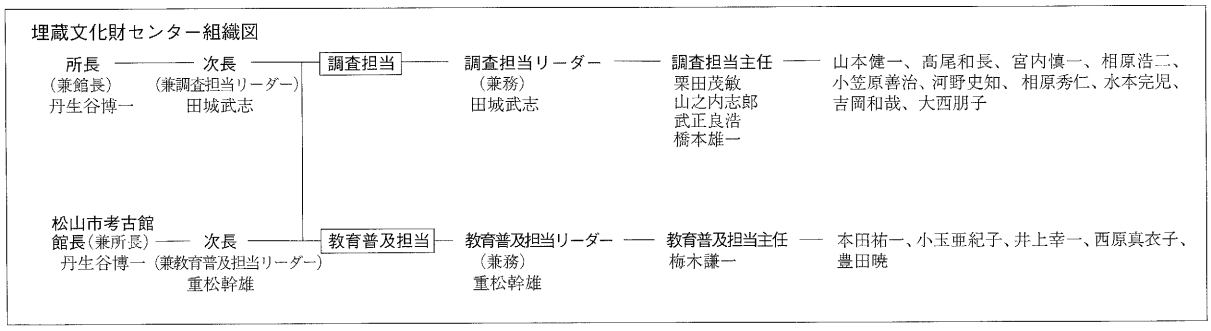
6．遺構は、以下の略号で記した。

ＳＢ：竪穴式住居址（建物址）　掘立：掘立柱建物址　ＳＲ：自然流路　ＳＤ：溝　ＳＧ：池
ＳＥ：井戸　ＳＫ：土坑　ＳＡ：柵、柱列　ＳＰ：柱穴　ＳＸ：性格不明遺構

7．各図の方位は、国土座標第Ⅳ座標系に基づく座標北を基本とする。なお、磁北の場合には方位の上に「磁北」と記入した。

8．刊行組織は、以下の通りである。（平成19年4月1日現在）

松山市教育委員会	教育長	土居　貴美
事務局	局長	石丸　修
	企画官	仙波　和典
	企画官	田中　郁夫
	企画官	田浦　雅文
文化財課	課長	家久　則雄
	主幹	森川　恵克
	主査	栗田　正芳
(財)松山市生涯学習振興財団	理事長	中村　時広
	事務局長	吉岡　一雄
埋蔵文化財センター	所長兼考古館館長	丹生谷博一
	次長兼教育普及担当リーダー	重松　幹雄
	次長兼調査担当リーダー	田城　武志



整理作業協力者（五十音順）

青野茂子・浅井茂之・池内芳美・石川千代美・石丸由利子・猪野美喜子・岩本美保・江島淳子・大野裕子・大庭美鈴・岡田弥生・岡本邦栄・越智田美紀・金子育代・川添利恵・菅 留美・木下奈緒美・木西嘉子・桐間ゆかり・忽那理恵・國田克彦・佐伯利枝・篠森千里・新保恵美子・末光美恵・鈴鹿八恵子・仙波千秋・仙波ミリ子・髙尾久子・田﨑真理・多知川富美子・戸川安子・中村 紫・西川千秋・西本三枝・丹生谷道代・萩野ちよみ・原田由美・東山里美・平岡直美・福岡志保美・堀 眞也・本多智絵・政本和人・松下郁子・松本美代子・水口あをい・村上真由美・森田利恵・八木幸徳・矢鋪妙子・矢野久子・山下満佐子・山邊進也・渡部英子・渡邊佐代枝

9．以下の方々より、ご指導・ご協力を賜った。（五十音順・敬称略）

上原真人（京都大学大学院）・内田九州男（愛媛大学）・岡村道雄（奈良文化財研究所）・北垣聰一郎（石川県金沢城調査研究所）・榊原正幸（愛媛大学大学院）・下條信行（愛媛大学）・髙瀬哲郎（佐賀県立名護屋城博物館）・田﨑博之（愛媛大学）・田中哲雄（東北芸術工科大学）・長井數秋（日本考古学協会会員）・中野良一（愛媛県埋蔵文化財調査センター）・名本二六男（日本考古学協会会員）・前園実知雄（奈良芸術短期大学）・松原弘宣（愛媛大学）・三浦正幸（広島大学）・山内英樹（愛媛県埋蔵文化財調査センター）・山中敏史（奈良文化財研究所）・吉田広（愛媛大学）

10．ご指導・ご協力を賜りました機関は、以下のとおりである。（五十音順・敬称略）

石川県金沢城調査研究所／愛媛県教育委員会／愛媛県歴史文化博物館／株式会社京都科学／株式会社古環境研究所／株式会社パレオ・ラボ／株式会社吉田生物研究所／国立大学法人愛媛大学／国立大学法人愛媛大学大学院／国立大学法人京都大学大学院／国立大学法人広島大学／財団法人愛媛県埋蔵文化調査センター／財団法人元興寺文化財研究所／佐賀県立名護屋城博物館／史跡松山城跡整備検討委員会／東北芸術工科大学／独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所／奈良芸術短期大学／日本考古学協会／パリノ・サーヴェイ株式会社

11．本書の仕様は以下のとおりである。

製版　カラー写真・写真図版－175線
印刷　オフセット印刷
用紙　カラー写真：マットコート、本文：マットコート
製本　アジロ綴じ

本 文 目 次

I　平成18年度　松山市埋蔵文化財調査概要
高田遺跡 …… 2
本谷遺跡 …… 6
文京遺跡29次調査地 …… 8
松山城東郭跡 …… 10
松山城黒門跡 …… 14
松山城三之丸跡6次調査地 …… 18
大峰ヶ台遺跡10次調査地 …… 22
東野お茶屋台遺跡7次調査地 …… 26
東野お茶屋台遺跡8次調査地 …… 30
樽味立添遺跡4次調査地 …… 32
樽味高木遺跡13次調査地 …… 34
樽味四反地遺跡14次調査地 …… 38
樽味四反地遺跡15次調査地 …… 40
樽味四反地遺跡16次調査地 …… 42
東本遺跡8次調査地 …… 48
小坂七ノ坪遺跡4次調査地 …… 50
小坂遺跡 …… 54
小坂遺跡2次調査地 …… 58
小坂遺跡3次調査地 …… 62
小坂遺跡4次調査地 …… 66
古川遺跡 …… 68
古川遺跡2次調査地 …… 72
古川遺跡3次調査地 …… 76
北久米遺跡4次調査地 …… 78
北久米遺跡5次調査地 …… 82
北久米遺跡6次調査地 …… 86
平井遺跡3次調査地 …… 90
平井遺跡4次調査地 …… 94
平井遺跡5次調査地 …… 98
葉佐池古墳4次調査 …… 102
久米高畑遺跡67次調査地 …… 106
久米高畑遺跡68次調査地 …… 110
来住廃寺33次調査地 …… 114
四国がんセンター解体工事に伴う事前調査 …… 116

II　平成18年度　松山市埋蔵文化財調査関係資料 …… 122
松山市埋蔵文化財確認調査一覧 …… 125

松山市埋蔵文化財本格調査一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・148
Ⅲ　平成18年度　保存処理及び出土遺物整理　・・・・・・・・・・・・・・・・・・152
1．平成18年度出土遺物整理の概要　2．保存処理　3．出土遺物整理

Ⅳ　平成18年度　普及啓発事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・160
1．展示活動　2．教育普及活動　3．収集・保管活動　4．広報・出版活動
5．施設の利用　6．資料の貸出・調査　7．職員研修・会議　8．考古館月別入館者数調

挿図・写真目次

巻頭図版1　松山城三之丸跡6次調査地（西より）
巻頭図版2　北久米遺跡4次調査地出土埴輪

Ⅰ　平成18年度　松山市埋蔵文化財調査概要

高田遺跡　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
図1　調査地位置図（縮尺1：25,000）
写真1　調査区と旧北条市内（南より）
写真2　椋之原14号墳遺物出土状況（東より）
写真3　椋之原16号墳B主体遺物出土状況（北西より）

本谷遺跡　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
図1　調査地位置図（縮尺1：25,000）
写真1　調査地全景（南西より）
写真2　遺構完掘状況（北より）

文京遺跡29次調査地　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
図1　調査地位置図（縮尺1：25,000）
図2　遺構配置図　（縮尺1：200）

松山城東郭跡　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
図1　調査地位置図（縮尺1：25,000）
図2　遺構配置図　（縮尺1：250）
図3　松山城東郭跡の現況　（縮尺1：1,500）
写真1　中央部SK群（南西より）
写真2　調査地全景（北西より）

松山城黒門跡　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
図1　調査地位置図（縮尺1：25,000）
図2　遺構配置図　（縮尺1：100）
写真1　調査地全景（南西より）
写真2　西石垣下段検出状況（北より）
写真3　西石垣下段東西ベルト北壁断面（北西より）
写真4　西石垣上段検出状況（北より）
写真5　西石垣上段南北ベルト東壁断面（北東より）
写真6　北石垣検出状況（東より）
写真7　東石垣検出状況（東より）
写真8　東石垣南北ベルト東壁及び東西ベルト北壁断面（北東より）

松山城三之丸跡6次調査地　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
図1　調査地位置図（縮尺1：25,000）
図2　調査区及び遺構配置図（縮尺1：800）
写真1　調査地遠景（南西より）
写真2　小普請所南面石垣検出状況（東より）

写真３　小普請所南西隅検出状況（南東より）
写真４　東堀西岸検出状況（南東より）

大峰ヶ台遺跡 10 次調査地 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　T2 第８層遺物出土状況（南西より）
図２　調査地全測図（縮尺１：250）
図３　T2 出土弥生土器（縮尺１：3）

東野お茶屋台遺跡７次調査地 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　３区 30 号墳調査状況（南西より）
図２　遺構配置図（縮尺１：400）　写真２　３区 30 号墳遺物出土状況（南西より）

東野お茶屋台遺跡８次調査地 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　遺構完掘状況（北西より）
写真２　周溝１土層（南東より）

樽味立添遺跡４次調査地 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　遺構完掘状況（南西より）
写真２　SK3 遺物出土状況（北東より）

樽味高木遺跡 13 次調査地 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　南半部完掘状況（北より）
図２　SB2 出土遺物実測図（縮尺１：4・1：2）　写真２　北半部完掘状況（南より）
図３　遺構配置図（縮尺１：100）

樽味四反地遺跡 14 次調査地 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　遺構完掘状況（東より）
写真２　SD1 石列検出状況（北より）

樽味四反地遺跡 15 次調査地・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　遺構完掘状況（西より）
図２　遺構配置図（縮尺１：200）

樽味四反地遺跡 16 次調査地・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　現地説明会（北より）
図２　遺構配置図（縮尺１：200）　写真２　北半部完掘状況（北東より）
図３　出土遺物実測図（縮尺１：4）　写真３　南半部完掘状況（北より）
写真４　SK1 検出状況（北東より）
写真５　SB11 カマド検出状況（南東より）

東本遺跡８次調査地 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　SB1 検出状況（北東より）
図２　遺構配置図（縮尺１：100）

小坂七ノ坪遺跡４次調査地・・50
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　調査前風景（西より）
図２　調査区配置図（縮尺１：100）　写真２　Ｂ区 SP1 半掘状況（南より）
図３　Ｂ区遺構配置図・SP1 測量図（縮尺１：40・１：20）
図４　第Ⅷ層出土遺物実測図（縮尺１：3）

小坂遺跡・・・54
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　１区完掘状況（西より）
図２　遺構配置図（縮尺１：150）　写真２　畠１・畠２完掘状況（北西より）
図３　出土遺物実測図（縮尺１：3・１：2）

小坂遺跡２次調査地・・58
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　２区完掘状況（南より）
図２　遺構配置図（縮尺１：150）　写真２　２区 SP219 遺物出土状況（東より）
図３　２区出土遺物実測図（縮尺１：3）

小坂遺跡３次調査地・・62
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　北側完掘状況（東より）
図２　遺構配置図（縮尺１：150）　写真２　南側完掘状況（東より）
図３　SD1 出土遺物実測図（縮尺１：3）
図４　SR1 出土遺物実測図（縮尺１：3）

小坂遺跡４次調査地・・66
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　調査地東部完掘状況（西上方より）

古川遺跡・・・68
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　遺構完掘状況（東より）
図２　調査地位置図（縮尺１：1,500）　写真２　SD2 遺物出土状況（北より）
図３　遺構配置図（縮尺１：100）

古川遺跡２次調査地・・72
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　遺構検出状況（東より）
図２　遺構配置図（縮尺１：75）　写真２　トレンチ遺物出土状況（南東より）
図３　出土遺物実測図（縮尺１：4）

古川遺跡３次調査地・・76
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　調査地から遠景（西より）
写真２　木片出土状況（東より）

北久米遺跡４次調査地・・・78
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　二つ塚古墳墳丘現況（北東より）
図２　４次・６次調査地位置図（縮尺１：500）　写真２　周溝外堤検出状況（南東より）
図３　出土遺物実測図（縮尺１：6）

北久米遺跡５次調査地 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 82
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　調査前全景（西より）
図２　調査区と遺構配置図（縮尺１：250）　写真２　１区遺構検出状況（東より）
図３　出土遺物実測図（縮尺１：3）

北久米遺跡６次調査地 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 86
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　作業風景（西より）
図２　出土遺物実測図（縮尺１：4）　写真２　後円部検出状況（東より）
図３　二つ塚古墳復元想定図（縮尺１：500）

平井遺跡３次調査地 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 90
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　遺構完掘状況（南東より）
図２　遺構配置図（縮尺１：250）　写真２　SK6 遺物出土状況（東より）
図３　出土遺物実測図（縮尺１：４・１：３・１：２）

平井遺跡４次調査地 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 94
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　遺構完掘状況（南より）
図２　遺構配置図（縮尺１：150）　写真２　SD3 遺物出土状況（西より）
図３　出土遺物実測図（縮尺１：３・１：２・１：１）

平井遺跡５次調査地 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 98
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　調査区南側遺構完掘状況（北より）
図２　遺構配置図（縮尺１：200）　写真２　調査区北側遺構完掘状況（北より）
図３　出土遺物実測図（縮尺１：４・１：３・１：２）

葉佐池古墳４次調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 102
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　T36 完掘状況（東より）
図２　墳丘盛土残存想定範図（縮尺１：400）　写真２　Z 調査区列石近景（東より）

久米高畑遺跡 67 次調査地 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 106
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　調査区遺構検出状況（北より）
図２　遺構配置図（縮尺１：150）　写真２　遺構半掘状況（北より）
写真３　掘立２・SP12 断面状況（西より）

久米高畑遺跡 68 次調査地 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 110
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　掘立 001（東北東より）
図２　遺構配置図（縮尺１：150）
図３　久米官衙遺跡群西部（縮尺１：1,500）

来住廃寺 33 次調査地 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 114
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　調査区全景（東から）
図２　遺構配置図（縮尺１：150）　写真２　掘立柱建物１・２検出状況（南東より）

四国がんセンター解体工事に伴う事前調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 116
図１　調査地位置図（縮尺１：25,000）　写真１　T5 南区調査状況（南より）
図２　調査地トレンチ配置図（縮尺１：2,000）　写真２　T21 石組溝検出状況（南より）
図３　T3 遺構確認状況（縮尺１：200）　写真３　T3 北門跡検出状況（南より）

図4　T5 遺構確認状況（縮尺1：200）
図5　T21 遺構確認状況（縮尺1：200）

Ⅱ　平成18年度　松山市埋蔵文化財調査関係資料　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・122
図1　松山市埋蔵文化財確認調査による遺跡検出地点位置図
図2　平成18年度　松山市埋蔵文化財本格調査位置図（縮尺1：80,000）

Ⅲ　平成18年度　保存処理及び出土遺物整理
2．保存処理　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・153
写真1　上苅屋遺跡3次調査地出土鏃（処理前）
写真2　上苅屋遺跡3次調査地出土鏃（処理前）
写真3　上苅屋遺跡3次調査地出土鏃（処理後）
写真4　樽味高木遺跡12次調査地出土器種不明（処理前）
写真5　樽味高木遺跡12次調査地出土器種不明（処理後）
写真6　樽味高木遺跡6次調査地出土獣歯（処理前）
写真7　樽味高木遺跡6次調査地出土獣歯（処理後）
3．出土遺物整理　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・157
図1　匙形土製品実測図（縮尺1：4）

Ⅳ　平成18年度　普及啓発事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・160
1．展示活動
写真1　巡回展「発掘へんろ」風景
写真2　速報展「むかし・昔のまつやまを掘る」風景
写真3　特別展「四国・弥生の宝物」風景
2．教育普及活動　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・162
写真4　特別展記念講演会風景
写真5　企画展記念講演会風景
写真6　初心者のための考古学講座風景（発掘現場見学）
写真7　クラフト教室「石を磨いて勾玉作り」風景
写真8　夏休み古代体験学習風景（火おこし体験）
写真9　大人のための体験学習セミナー「ガラス勾玉を作ろう！」風景
写真10　現地説明会風景（久米高畑遺跡67次調査地）
写真11　博物館学芸員実習風景
写真12　出前考古学教室風景
3．収集・保管活動　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・172
写真13　大連古代ハス開花風景

表目次

Ⅱ　平成18年度　松山市埋蔵文化財調査関係資料 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 122
表1　平成18年度　松山市埋蔵文化財確認調査一覧（1）～（10）
表2　平成18年度　本格調査一覧

Ⅲ　平成18年度　保存処理及び出土遺物整理
2．保存処理 ・・ 153
表1　平成18年度　金属製品保存処理遺跡名一覧（1）（2）
表2　平成18年度　動物遺骸体保存処理遺跡名一覧
表3　平成18年度　調査出土木製遺物、金属製遺物、動・植物遺体一覧
3．出土遺物整理 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 157
表1　匙形土製品一覧

Ⅳ　平成18年度　普及啓発事業
1．展示活動・・ 160
表1　展示会一覧
2．教育普及活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 162
表2　講演会等一覧
表3　教育普及活動（体験教室）一覧
表4　現地説明会一覧
表5　体験学習一覧（1）～（4）
表6　職場体験学習一覧
表7　出前考古学教室一覧
4．広報・出版活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 172
表8　考古館出版物一覧
表9　調査報告書一覧
5．施設の利用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 173
表10　施設利用一覧
6．資料の貸出・調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 174
表11　資料貸出一覧
表12　資料調査一覧（1）・（2）
7．職員研修・会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 177
表13　職員研修・会議一覧
8．平成18年度　考古館月別入館者数調・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・177
表14　平成18年度　考古館月別入館者数調（平成18年4月1日～19年3月31日）

Ⅰ　平成18年度
松山市埋蔵文化財調査概要

高田（たかだ）遺跡

所在地　松山市高田乙10番、乙11－3、乙11－4、乙223－4の各一部
期　間　平成18年9月15日～同年12月5日
面　積　1,800㎡
担　当　高尾和長・栗田茂敏

図1　調査地位置図

経　過　調査地は、貯水池造成及び進入路建設工事に伴う事前調査である。周辺には松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地の『№34椋之原古墳群』、『№51椋之原山遺跡』があり椋之原古墳群では13基の古墳が確認されている。現況は、既存の配水地、柑橘畑、雑木林の丘陵地で高低差30mを測る。

遺構・遺物　本調査で検出した主な遺構は、古墳3基（椋之原14号墳、椋之原15号墳A・B石棺、椋之原16号墳A・B主体）、土坑13基（SK1～13）、溝1条（SD1）である。遺物は遺構内から弥生土器、土師器、須恵器、鉄器（鏃、槍、鉇、鍬・鋤先）、石器（石鏃）、装飾品（管玉）、人骨、赤色顔料、粘土、陶磁器が出土した。以下では、注目する遺構を取り上げて概要を説明する。

弥生時代前期末～中期初頭：SK1は調査区北西部のC2区標高74.6mに位置する。平面形態は円形である。規模は径1.25m、深さ1.00mを測る。断面形態は袋状で床面は平坦である。遺物は弥生土器の甕形土器、壺形土器の破片が上層～下層で出土した。

古墳時代前期：16号墳は、調査区南東部のH10・11区標高91.6mに位置する。墳丘の形状・規模は調査範囲の関係から確認できていない。主体部はA主体とB主体の2基を検出した。

A主体は、H10区のB主体の下段に位置し西側は削平され南側は調査区外につづく。墓坑の平面形態は1ヶ所のコーナー部を検出したことより長方形と考えられる。規模は長さ（1.85）m、幅（1.20）m、深さ43cmを測る。断面形態は箱状である。検出遺物は木棺痕跡と赤色顔料、槍、鉇、管玉がある。木棺痕跡は幅63cm、長さ100cm、厚み5cmを測り「コ」の字状に検出した。赤色顔料は木棺内の北側に45×80cmの楕円形状に検出し、北東側が濃く北西から南にかけては薄い。槍と鉇は重なり合って赤色顔料の上面から、管玉は赤色顔料の中から出土した。

B主体は、H11区のA主体の上段に位置する。墓坑の平面形態は長方形である。規模は長さ3.48m、幅1.55m、深さ1.40mを測る。断面形態は逆台形状である。床面からは木棺の掘り方を検出した。平面形態は、長方形である。規模は長さ2.5m、幅94cm、深さ16cmを測る。床面はほぼ水平である。遺物は、粘土、赤色顔料、鉇が出土した。粘土は北側床面に「コ」の字状と床面から浮いた状態で出土した。赤色顔料は北側の粘土痕跡の中心から70cm×45cmの範囲で検出し北東部が濃く周辺は薄い。鉇は北側の床面から「U」字状に折り曲げられた状態で出土した。棺外からは土師器の高坏とその周辺から赤色顔料が出土した。

15号墳は、調査区の南東部H10区標高89.3mに位置する。主体部はA・B2基の箱式石棺を検出した。墳丘の形状・規模は調査範囲の関係から確認できていない。2基の石棺はほぼ壊滅状態であり出土遺物はない。

14号墳は、調査区の中央西部D･E3区標高77.9ｍに位置する。調査地は、果樹園として開墾され、その後は雑木林となっている。古墳は開墾時に破壊されたと思われ墳丘中央部（主体部上部）に石室の石材を一辺1.6ｍ、高さ0.85ｍの基壇状に組み上げられていた。

墳形は墳丘盛土が開墾時の削平により失われている。現況の地山からその範囲から推測すると直径15ｍ前後の円墳になると思われる。

墓坑は、地山を「L」字状にカットし長方形状の平坦面を作り出す。石室は、北東角に基底石4個が「L」地状に1段残る。ほぼ壊滅状態である。出土遺物は須恵器片、鉄鏃、鍬、鋤先、管玉、石鏃、陶磁器、陶磁器内から人骨が出土している。

小　結　本調査からは、弥生時代・古墳時代の遺構と遺物を検出した。

弥生時代　遺構では、土坑の形態と検出状況に注目する。弥生時代前期末から中期初頭の土坑9基を古墳の墳丘内から検出した。土坑9基は標高73～78ｍに位置する。平面形態は円形4基と楕円形5基である。規模は円形が径102～125㎝、深さ42～100㎝、楕円形が90～148㎝、深さ40～117㎝を測る。断面形態は8基が袋状、1基が逆台形状である。平面と断面の形態より貯蔵穴と考えられる。

古墳時代　古墳3基を検出した。古墳時代前期の古墳は椋之原15号墳･16号墳の2基がある。椋之原16号墳は丘陵の頂上部より2ｍ下がった標高91.6ｍに位置しA・B2基の木棺の主体部を持つ。15号墳は16号墳より2ｍ低い標高89.3ｍに位置しA・B2基の箱式石棺を主体部とする。

出土遺物は16号A主体から完形の槍と鉇、碧玉製の管玉、床面から木棺痕跡、朱が出土した。16号B主体からは折り曲げられた鉇、朱、木棺を覆っていたと思われる粘土が出土した。15号A・B石棺からは出土遺物はないが、石棺と同じ石材が14号墳の南に位置するコンクリート製の水槽の石材として使われている、その石材には赤色顔料の付着がある。水槽のコンクリート上面には「紀元二千六百年昭和十五年吉日」と刻まれている。

古墳時代後期の古墳は椋之原14号墳がある。14号墳は横穴式石室と考えられるが、石室はほぼ壊滅状態で基底石が4個1段残るだけである。出土遺物には鉄器、管玉、陶磁器の蓋付壺がある。壺は北東コーナー部に据え置かれていた。壺の中には人骨が収められ､蓋内面には文字が書かれていた。

文字は、中央部に墨書で「出土品 土器十三箇 刀剣破片二振分 古墳（平安末期？）前発掘アリシ模様」、縁の部分に「昭和十三年十月十四日（皇紀二五九八）正岡村更生山発掘ノ位置ニ祀ル」、返り部の内面に鉛筆で「昭和35年3月2日発掘して見る22年ぶりに」と書かれている。このことから昭和13年に墨書書きした壺に、石室内の人骨を収め東角に埋葬している。22年後の昭和35年に同一人物がもう一度石室に入り、壺を掘り出し蓋裏に鉛筆書きをしている。文字から見ると、昭和35年までは古墳の石室は存在しその後崩壊したと考えられる。

今回の調査からは、弥生時代前期末から中期初頭の土坑が高地の古墳墳丘内から検出したこと、古墳主体部内から折り曲げられた鉄器が埋葬されていたことが注目される。

これらの出土した遺構と遺物は、現在までに調査事例の少ないものであり、土坑からは弥生時代前期末から中期初頭の集落形態、折り曲げ鉄器の出土は古墳時代前期の埋葬形態を考える上での大変貴重な資料である。（髙尾）

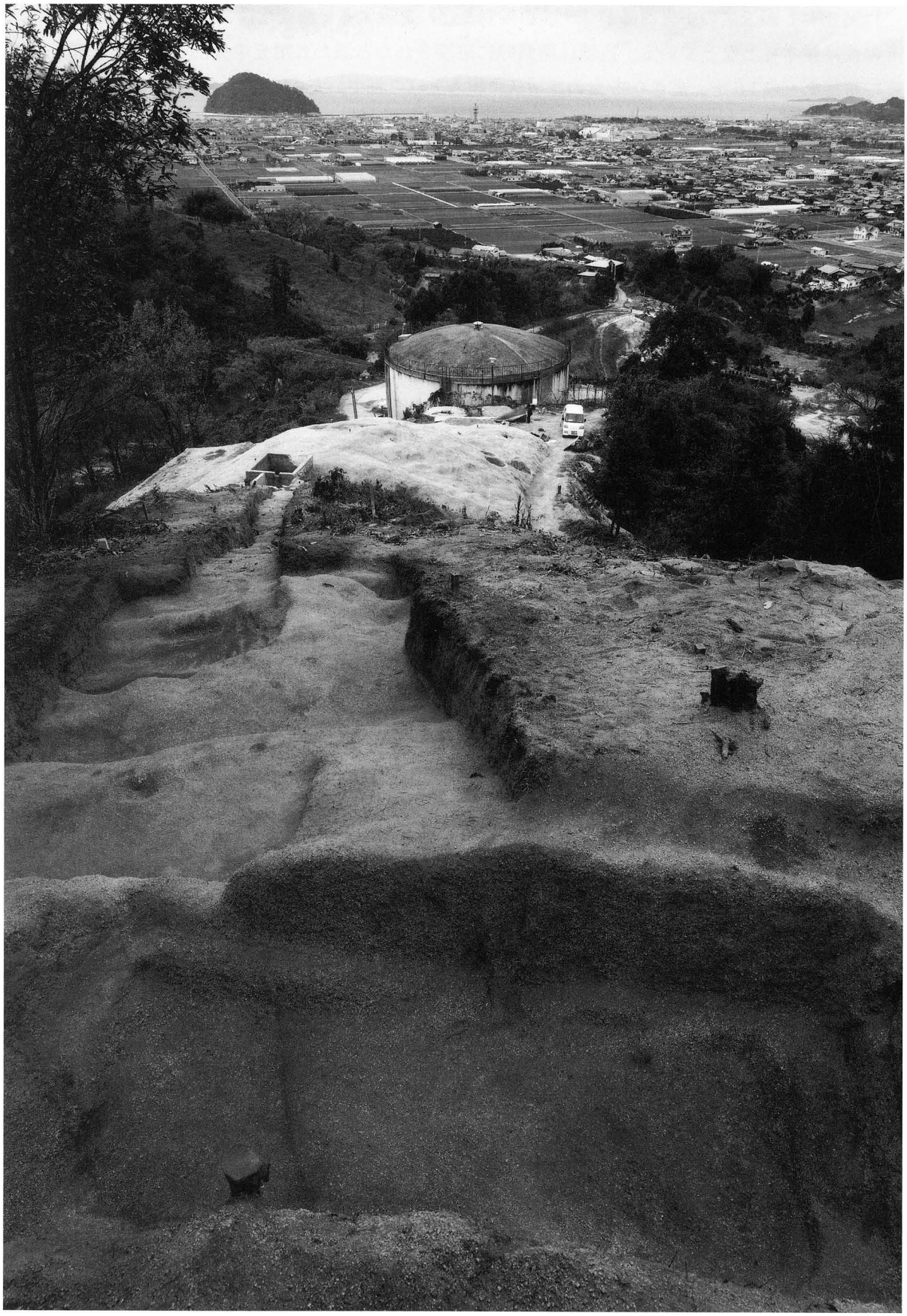


写真１　調査区と旧北条市内（南より）

写真２　椋之原 14 号墳　遺物出土状況（東より）

写真３　椋之原 16 号墳Ｂ主体　遺物出土状況（折り曲げられた鉇と赤色顔料）（北西より）

本谷遺跡（ほんだに）

所在地　松山市本谷乙170番1、乙170番3の各一部
期　間　平成18年7月24日～同年9月8日
面　積　353㎡
担　当　髙尾和長・栗田茂敏

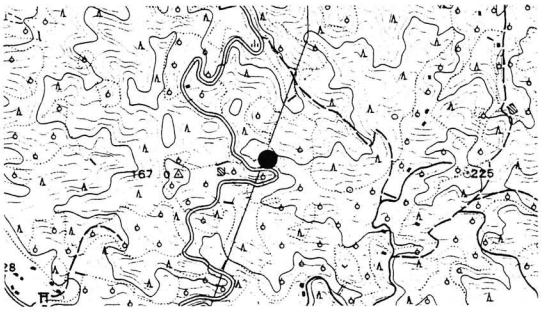


図1　調査地位置図

経　過　本調査は、貯水池建設工事に伴う事前の埋蔵文化財の発掘調査である。調査地の西方扇状地突端部付近では、縄文時代後期の土器が多量に採取される遺跡が存在し、古墳時代後期の古墳も数多く分布している。踏査からは、弥生土器、土師器が表面採集され、試掘調査からは、遺構では竪穴式住居址、溝、柱穴、遺物では弥生土器、土師器、須恵器が出土した。

遺構・遺物　本調査では2層の土層を確認した。①層腐葉土、②層黄色土（地山）である。2層上面が遺構検出面となる。調査区は斜面であり南北の高低差7.5ｍを測る。

検出した主な遺構は、土坑1基（SK）、溝4条（SD1～4）、柱穴10基（SP）、自然流路2条（SR）、性格不明遺構2基（SX）である。遺物は遺構内から出土している。その遺物には、縄文土器、弥生土器、須恵器、土師器、石器（石鏃、石庖丁）、鉄器（刀子）がある。

SK1は調査区南東部のE3区に位置する。SX1の床面から検出した。平面形態は円形である。規模は径80×60㎝、深さ60㎝を測る。断面形態は逆台形状である。埋土は3層に分層でき①層褐灰色土（7.5YR4/1）、②層褐灰色土（10YR4/1）、③層黄灰色砂質土（2.5YR4/1）である。出土遺物は土師器がある。SX1は調査区の南部E2～F6区に位置する。規模は長さ20.6ｍ、幅5.0ｍを測る。埋土は5層に分層でき、③層・④層は2層に細分できる。①層暗褐色土（10YR3/3）、②層にぶい褐色土（7.5YR5/4）、③－1層褐灰色土（7.5YR5/4）、③－2層褐灰色土（7.5YR5/1）、④－1層橙色土（7.5YR6/6）、④－2層灰褐色土（7.5YR5/2）、⑤層黒褐色土（7.5YR3/2）である。出土遺物は弥生土器、土師器、須恵器、石器、鉄器、炭化物がある。

小　結　本調査からは、縄文時代から古墳時代の遺構と遺物を検出した。

遺構では、SX1とSD・SK・SPの配置に注目する。SX1は段カットした上段にSD4、下段にSD2・3が巡り、平坦面にはSKとSPがある。SX1は三日月形に斜面を掘削し、遺構を配置するための平坦面を作る段状の遺構と考えられる。

遺物では、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、土錘、石鏃、石庖丁、刀子がある。

出土遺物からは、調査地が縄文時代から古墳時代後期までの幅広い時期にかけて生活が行われていた事を示すものである。また、土錘の出土は調査地が山間部であることから大変興味深い資料である。

今回の調査で縄文時代から古墳時代までの遺物と遺構を検出したことより、本調査地の周辺には縄文時代、弥生時代、古墳時代の各時代の生活拠点である、住居址が存在するものと思われ今後周辺での調査には特に注目するものである。（髙尾）

写真１　調査地全景（南西より）

写真２　遺構完掘状況（北より）

文京（ぶんきょう）遺跡29次調査地

所在地　松山市鉄砲町11番2
期　間　平成18年7月10日～同年8月31日
面　積　480㎡
担　当　宮内慎一

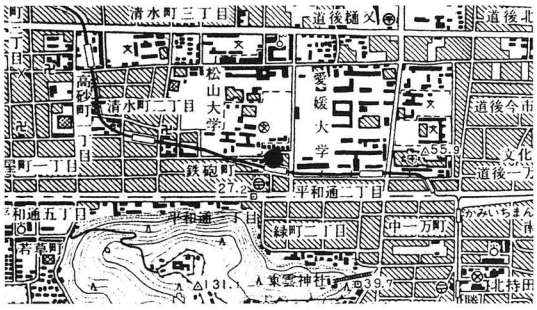


図1　調査地位置図

経　過　本調査は、松山市が指定する埋蔵文化財包蔵地『№67文京遺跡』内において民間業者（濱商株式会社）による集合住宅建設にあたり実施したものである。調査地は、松山平野中央部の標高27mに立地し、財務省四国財務局職員宿舎跡地である。調査地周辺では文京遺跡（愛媛大学構内）をはじめ、松山大学構内遺跡や松山北高等学校構内遺跡などがあり、縄文時代から中世までの集落関連遺構や遺物が多数確認されている。

遺構・遺物　調査地内には、建物基礎や近現代の攪乱坑があり、調査地南西部や北東部では遺構面が削平されていた。基本層序は、第Ⅰ層造成土（層厚70～120㎝）、第Ⅱ層耕作土（層厚10～20㎝）、第Ⅲ層床土（層厚10～15㎝）、第Ⅳ層暗褐色土（層厚20～30㎝）、第Ⅴ層黄色シルト（層厚5～80㎝）、第Ⅵ層灰色砂礫層である。このうち、第Ⅳ層は弥生時代から古墳時代までの遺物を含む包含層である。検出した遺構は弥生時代のもので、竪穴式住居址2棟、溝1条、土坑2基、ピット46基である。遺構は第Ⅴ層上面で検出したものであるが、調査壁の土層観察により第Ⅳ層中及び第Ⅳ層上面から構築されていることを確認した。遺物は遺構、包含層及び攪乱坑内から弥生土器（中期中葉～末）、土師器（古墳～中世）、須恵器（古墳～古代）、陶磁器（中世）、石器が出土した。第Ⅴ層上面の地形測量の結果、調査地北東部が最も高く、漸次、南西部に向けて緩傾斜をなしている（比高差15㎝）。以下、主な遺構について概略を説明する。

竪穴式住居址：SB1は長さ3.1m、幅2.5mを測る小型の長方形住居址である。住居内にて床面修復のための貼床と炉址を検出した。炉址は住居構築時と貼床後とにそれぞれ見られ、住居中央部に付設されていた。遺物は貼床後の炉址周辺に甕形土器や高坏形土器のほか、完形の壺形土器や砥石がまとまって出土した。出土遺物より、SB1の廃棄・埋没時期は弥生時代後期前半とする。SB2は推定径5mを測る円形住居址で、住居壁体に沿って周壁溝を検出した。出土遺物より、SB2の廃棄・埋没時期は弥生時代中期後半とする。

土　坑：SK1は長径1m、短径0.7m、深さ48㎝を測る楕円形土坑で、土坑壁体は一部袋状を呈する。遺物は埋土中より少量の弥生土器片が出土した。SK2は直径1.3m、深さ38㎝を測る円形土坑で、土坑壁体は筒状または袋状を呈する。堆積状況をみると、埋土下位にて堆積土が盛り上がる箇所があり、人為的に埋め戻されたものと考えられる。遺物は甕形土器の底部や壺形土器の口縁部、底部が埋土中位付近から出土した。断面形態や堆積状況などから、貯蔵穴の可能性がある。SK1･SK2は、共に弥生時代中期後半の土坑とする。

小　結　調査では弥生時代の遺構を確認した。調査状況から、調査地北側や東側には弥生時代中期か

ら後期の集落遺構が存在する可能性が高いと判断される。一方、調査地南側では攪乱に削平されてはいるものの、第Ⅴ層黄色シルトや第Ⅵ層灰色砂礫層の検出状況から安定した土壌が存在する可能性は低いと推測される。つまり、調査地南側近隣が集落の形成される微高地の南辺ではないかと考えられる。今回の調査成果は、道後城北地区における弥生時代集落の広がりを知るうえで重要なものであり、古地形を復元するうえで貴重な資料となる。

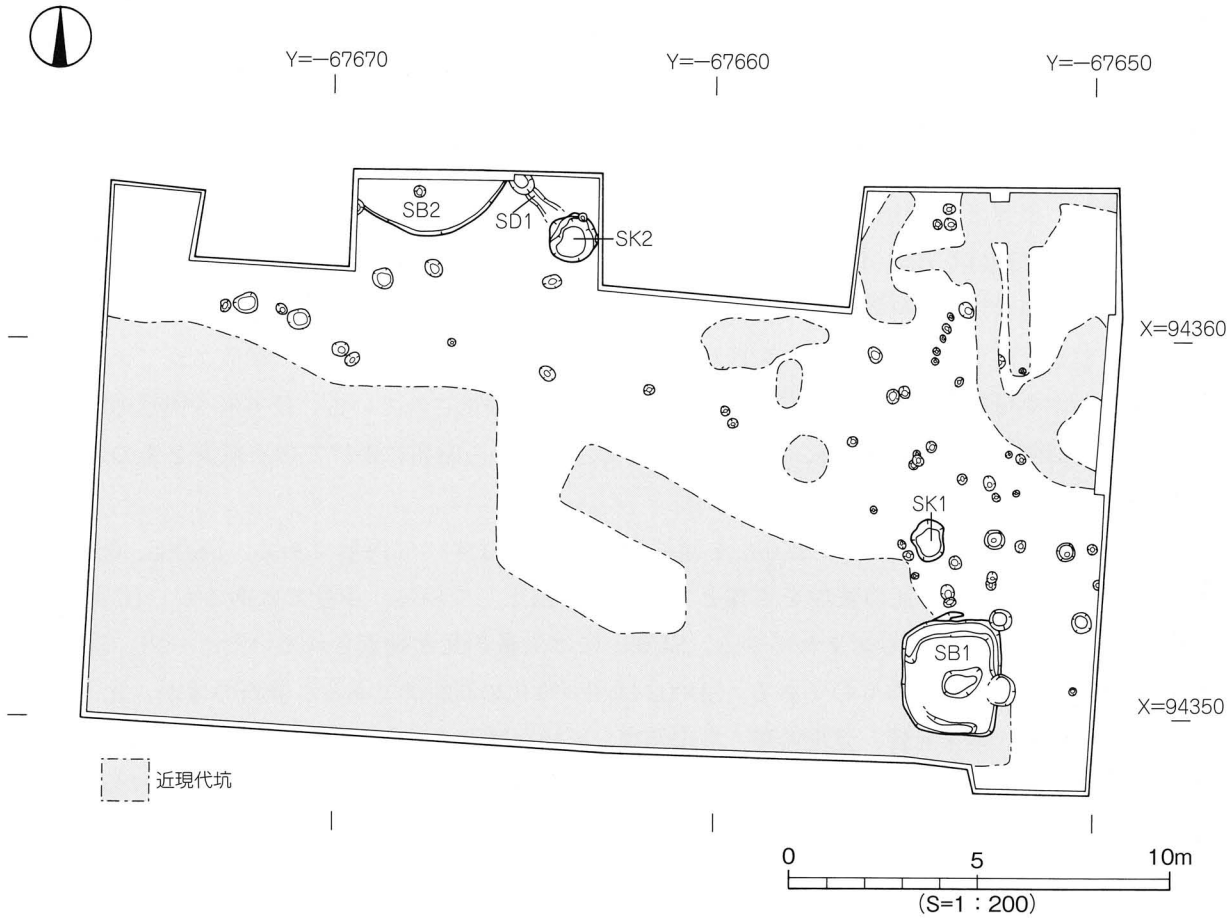


図２　遺構配置図

まつやまじょうひがしのくるわあと

松山城東郭跡

所在地　松山市大街道3丁目2－24
期　間　平成18年3月9日～同年4月28日
面　積　約263㎡
担　当　橋本雄一

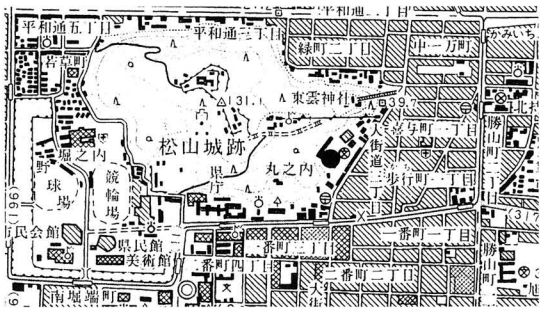


図1　調査地位置図

経　過　学校法人松山東雲学園の中学・高等学校本館建て替え工事に際して、発掘調査を実施した。当該地は、松山市が指定する包蔵地『№74城ノ内古墳群』に位置することに加えて、松山城東郭（ひがしのくるわ）に立地することから、江戸時代に松山藩の家老屋敷が置かれていた当時の遺構が検出されるものと期待された。調査は埋蔵文化財センターが主体となり、3月9日から着手された。

遺構・遺物　東郭は、松山城が立地する勝山と呼ばれる独立丘陵東麓の、南東方向を正面とする谷状地形を造成して設けられている。敷地の南東正面には石垣が設けられ、その両端の門が置かれた場所の周辺には、現在でも良好な状態で石積みをみることができる。このような立地条件のもとにある当遺跡は、整地土層そのものと、これを掘り込んだ江戸時代以降の遺構によって構成されている。

調査区の中央付近において、江戸時代後半の遺構が密に検出されている。長方形や円形の廃棄土坑を16基、江戸時代の石組溝2条、溝2条に加えて、明治から昭和にかけての石組溝2条のほか、試掘調査時も含めて計10基の礎石を検出した。

江戸時代後期の土坑のうち、SK001を除くほかのものはすべて円形である。SK005、006、008、009、011、012からは、瓦の破片を主体とする遺物が出土している。少量ではあるが、18世紀後半以降の京焼系の磁器なども含まれている。SK001には大量の瓦が投棄されていた。一方、SK010は埋甕であるが、明治以降のものである。SD002は江戸時代の石組溝である。碁石のほか、北宋銭が5枚出土している。聖宋元寶、元符通寶、皇宋通寶、天禧通寶各1枚と銭名不明のもの1枚である。これとは別に寛永通宝1枚が、この溝もしくは近接するSD003から出土している。SK004は病院が置かれていた明治以降の廃棄土坑。調査区南東端で検出した2条の石組溝（SD004・005）は、明治20年に新築された県立松山病院に関する記録や、学園の前身である松山女学校に関する戦前の図面にも記載されている溝である。柱状に加工され、2本平行に配置された花崗岩の石材の間に漆喰を貼ったものであるが、これらは、昭和20年7月26日の松山空襲の際に焼け落ちた校舎の残骸によって埋まったものと判断している。溝中には、漆喰の直上に割れた窓ガラスの破片が飛び散り、炭化物が堆積している。さらにその上に、屋根瓦を葺く際に使われた粘土が炎を受けて焼土になった状態で堆積している。焼夷弾による空襲で校舎の大半が全焼する被害を被った当時の惨状を今に伝える遺構である。

小　結　江戸時代の整地土層上面における遺構の遺存状況は、戦災の後片付けのためのごみ穴や給水管、運動場のための暗渠等による多数の攪乱が存在するにも関わらず、比較的良好であった。建物の形状や配置状況を詳しく知ることはできなかったが、東郭の実態を初めて確認することができたことは大きな成果であった。

写真１　中央部 SK 群（南西より）

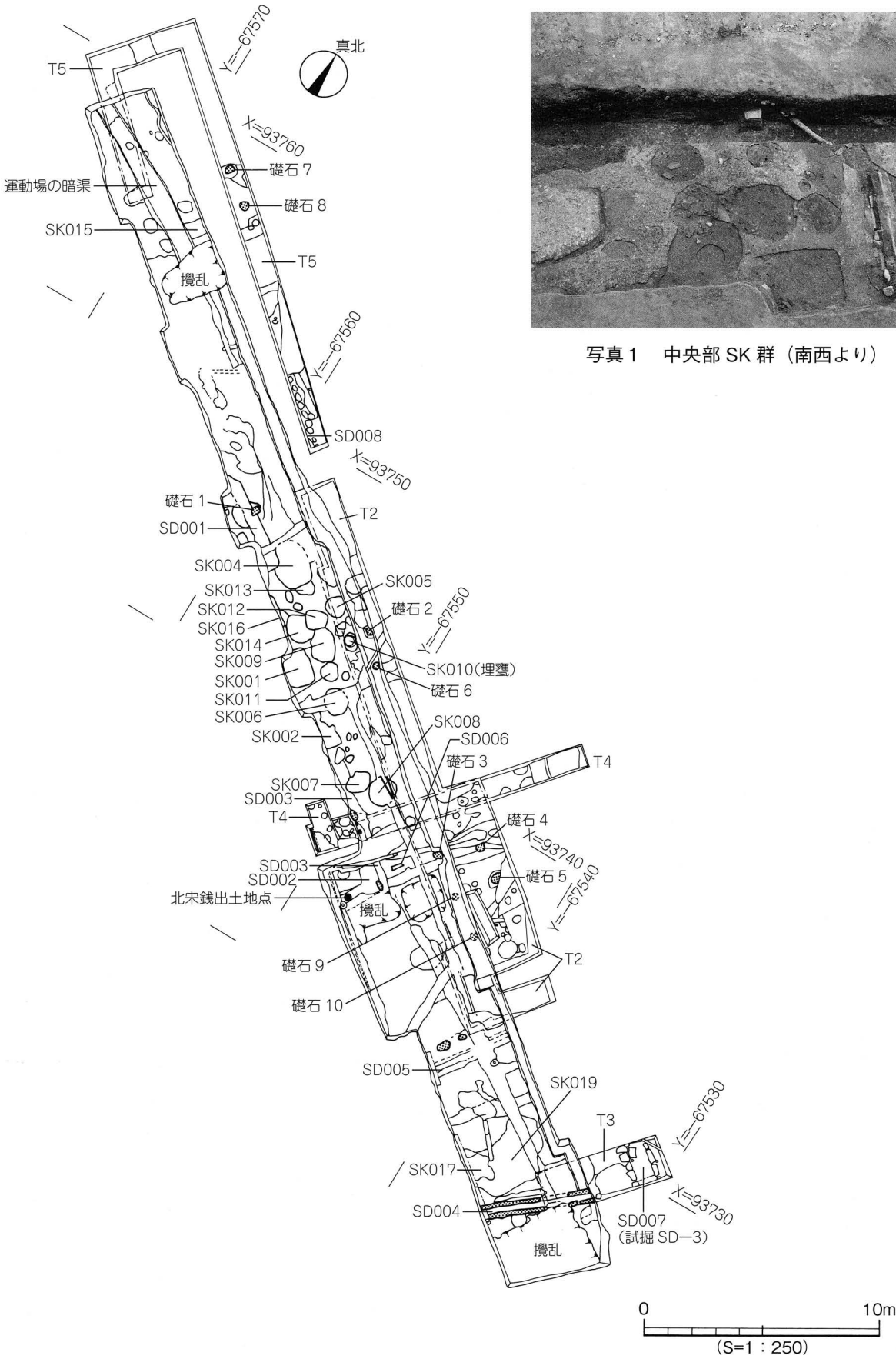


図２　遺構配置図

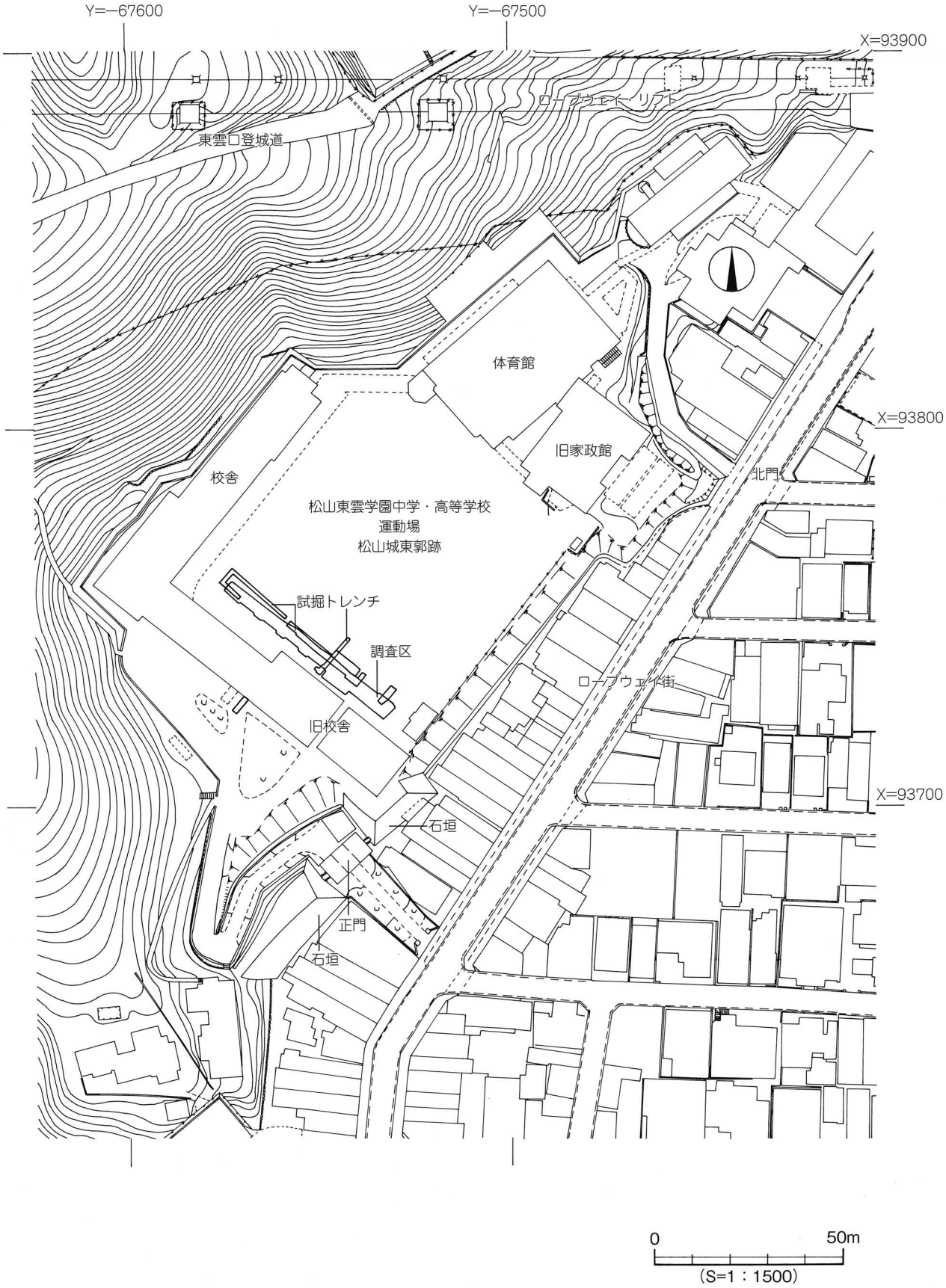


図３　松山城東郭跡の現況

写真２　調査地全景（北西より）

松山城黒門跡（まつやまじょうくろもんあと）

所在地　松山市堀之内
期　間　平成19年1月22日～同年3月29日
面　積　約130㎡
担　当　楠寛輝（文化財課）

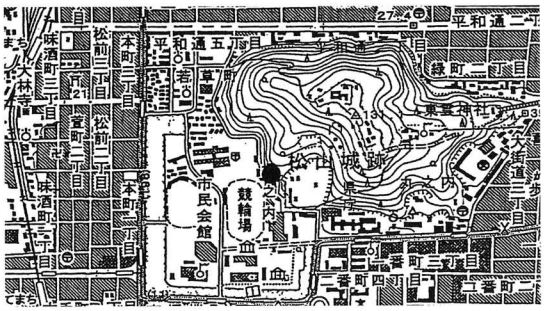


図1　調査地位置図

経　過　黒門は、大手登城道の三之丸と城山との画期を成す門である。大手登城道には黒門に続いて栂門や槻門等が連続し、この辺りが松山城の防御上とても重要であったことが分かる。これらの建造物は現存していないが、明治初期に周辺を撮影した写真には槻門が写っており、その頃までは存在していたようである。黒門跡石垣は、続櫓を載せられる形状をしているが、古絵図や古文書等から考えて続櫓は存在せず、土塀が続いていたようである。その黒門跡石垣には、平成18年6月の地震の後、その被害調査を行う中で西及び北石垣に大きな孕み出しが確認された。そこで松山市では、史跡松山城跡整備検討委員会（委員長　下條信行　愛媛大学教授）に諮るとともに、文化庁等の関係機関と協議を行い、平成19年度から2ヵ年で復旧工事を行うことを決めた。そのため、今回、解体で破壊される石垣上面の近世遺構の確認と孕み出しの原因究明を目的に、事前の確認調査を行ったものである。なお、来年度も根石や門礎石等の確認を目的に追加調査を行い、黒門の全容解明を目指す。

遺構・遺物　西石垣下段：明確な近世の遺構は検出されなかったが、石垣の中心部から北東部にかけて、南北4m×東西3m程度の範囲で、近世と考えられる明黄褐色盛土を検出した（それ以外は全て栗石）。栗石の幅は東面と比べ西面や南面がかなり広く、西面や南面の栗石の上には近現代と考えられる黄橙～暗灰黄色の粘質土が厚く堆積しており、西面や南面は近代以降に改修されていると考えられる。調査前の石垣の観察でも、西面や南面には谷積みや天端石に平滑でない石材が複数見られることから、近代以降の改修が想定されていたが、これが発掘調査によっても裏付けられた。なお、南側の攪乱については、控柱穴跡の可能性もあるが、埋土は近現代と考えられる暗灰黄色粘質土であり、控柱穴跡と認定するには至らなかった。また、西石垣上段南面の近現代切石積み石垣の根石は、先述の近世と考えられる明黄褐色盛土を切って据えられていた。

西石垣上段：近世の遺構としては、控柱穴跡が2基検出された。また、石垣の中心部に南北8.5m以上×東西1.5m程度の範囲で、西石垣下段と同様に近世と考えられる明黄褐色盛土を検出した（それ以外は全て栗石）。東面は黒門石垣の中でも孕み出しが最も目立つ箇所だが、それと対応するように、東側のほぼ全域が攪乱によって大きく掘削されていた。この攪乱の下層では炭や焼土が一部に見られるものの、全体は締まりの悪い褐色～黒褐色の土が堆積している。そのため、この範囲は現地表面で最大20cmほど陥没しており、天端石もこの攪乱に向けて倒れ込んでいる。これらのことから、ここに雨水が集まり、石垣内部へ流入したことが、石垣孕み出しの原因と考えられる。長年に渡る雨水の流入に伴う水圧と土圧が、元々積み方が悪く弱かった部分を中心に、徐々に石垣を中から押し出したものと考えられる。

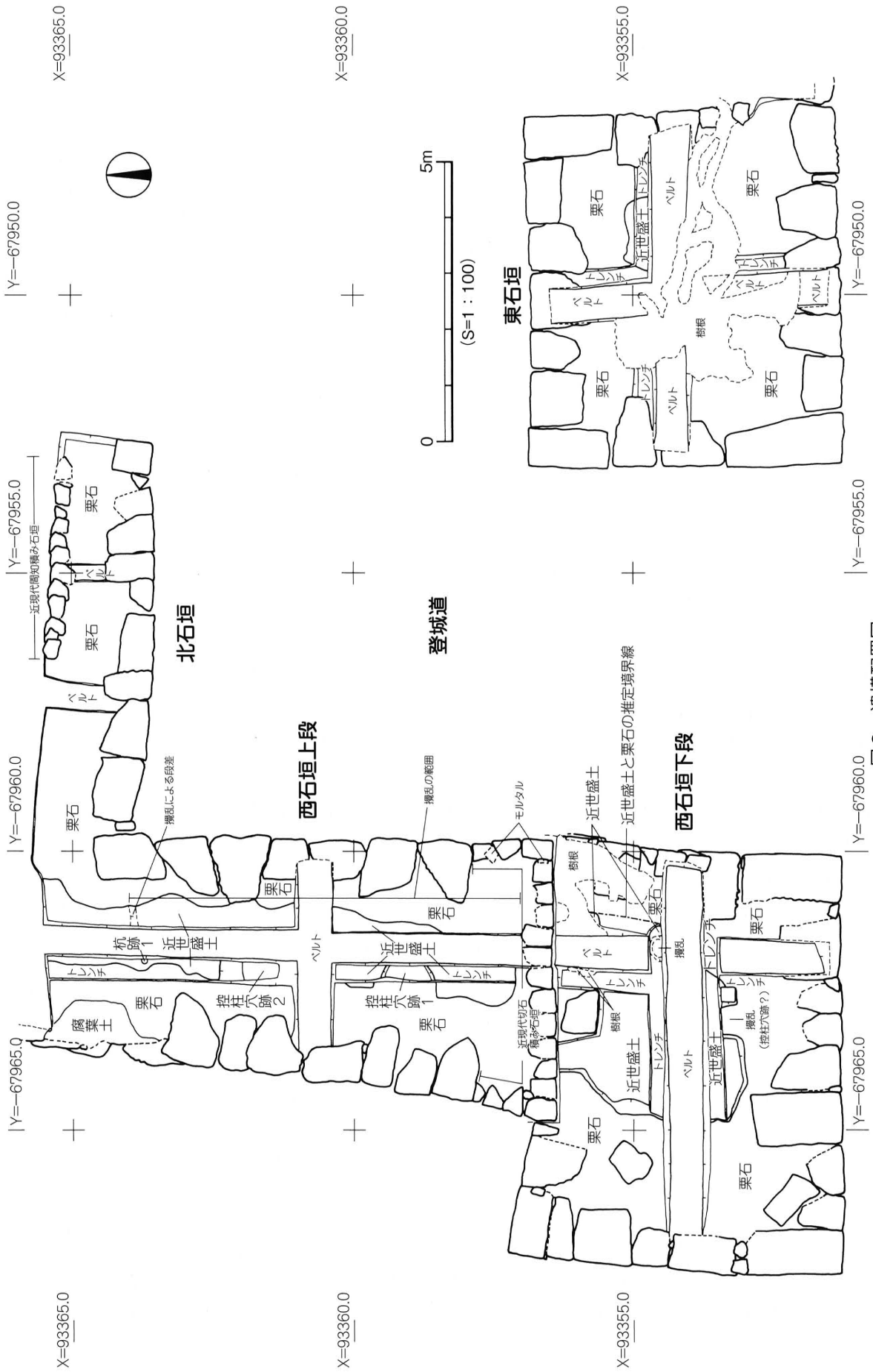

X=93365.0
X=93360.0
X=93355.0
Y=−67950.0
Y=−67955.0
Y=−67960.0
Y=−67965.0
0
5m
(S=1：100)
東石垣
北石垣
登城道
西石垣上段
西石垣下段
近現代間知積み石垣
近現代切石積み石垣
近世盛土と栗石の推定境界線
撹乱による段差
撹乱の範囲
モルタル
栗石
ベルト
トレンチ
樹根
撹乱
撹乱（控柱穴跡？）
杭跡1
近世盛土
控柱穴跡1
控柱穴跡2
腐葉土

図2　遺構配置図

北石垣：上面は西から東に向けて急角度で下がっており、表土はほとんど流出して全面に栗石が露出していた。これらのことから考えて、ここが水道となっていたことや、ここを流れる水がかなりの割合で石垣内部に流れ込んでいたことは間違いなく、西石垣上段東面と同様に、ここでも水が石垣の孕み出しの原因だったと考えられる。また、石垣背面の近現代間知積み石垣の設置のため、東側の石垣の厚さが２ｍ程度と薄くなったことも、石垣の孕み出しの原因と考えられる。

東石垣：近世の遺構は検出されなかったが、石垣の東部で、西石垣と同様に近世と考えられる明黄褐色盛土を検出するとともに、この明黄褐色盛土の存在する範囲を除いた全域で、にぶい黄褐色粘質土を検出した。このにぶい黄褐色粘質土の厚さは明黄褐色粘質土に比べて薄く、その下はすぐに栗石となる。この結果を踏まえ、石垣の観察を再度行ったところ、このにぶい黄褐色粘質土の範囲の石垣は、構築段階では用いられた打込ハギの布崩し積みと比べ、全体に目地がよく通っていることや、一部に切込ハギ的な造作を行っているものがあることが確認された。これらのことから、このにぶい黄褐色粘質土は近世の改修に伴うものと考えられる。

小　結　今回の調査では、期待された近世の控柱穴跡等の遺構を確認できただけでなく、近世や近代に予想以上に多くの改変を行っていたことが確認されるなど、期待以上の成果を得た。また、石垣の孕み出しの最大の原因が、石垣内部への雨水の流入であったことを明らかにすることができた。孕み出しの原因が判明すれば、改修工事でこれを改善することが可能となる。そのため、孕み出しの原因を把握することは、今回の調査の最大の課題であり、それを把握できたことは本当に大きな成果であった。改修工事を実施するに当たっては、今回の確認調査の成果や今後実施する追加調査の成果を生かし、「文化財の保存」と「安全の確保」の両立に努めたい。

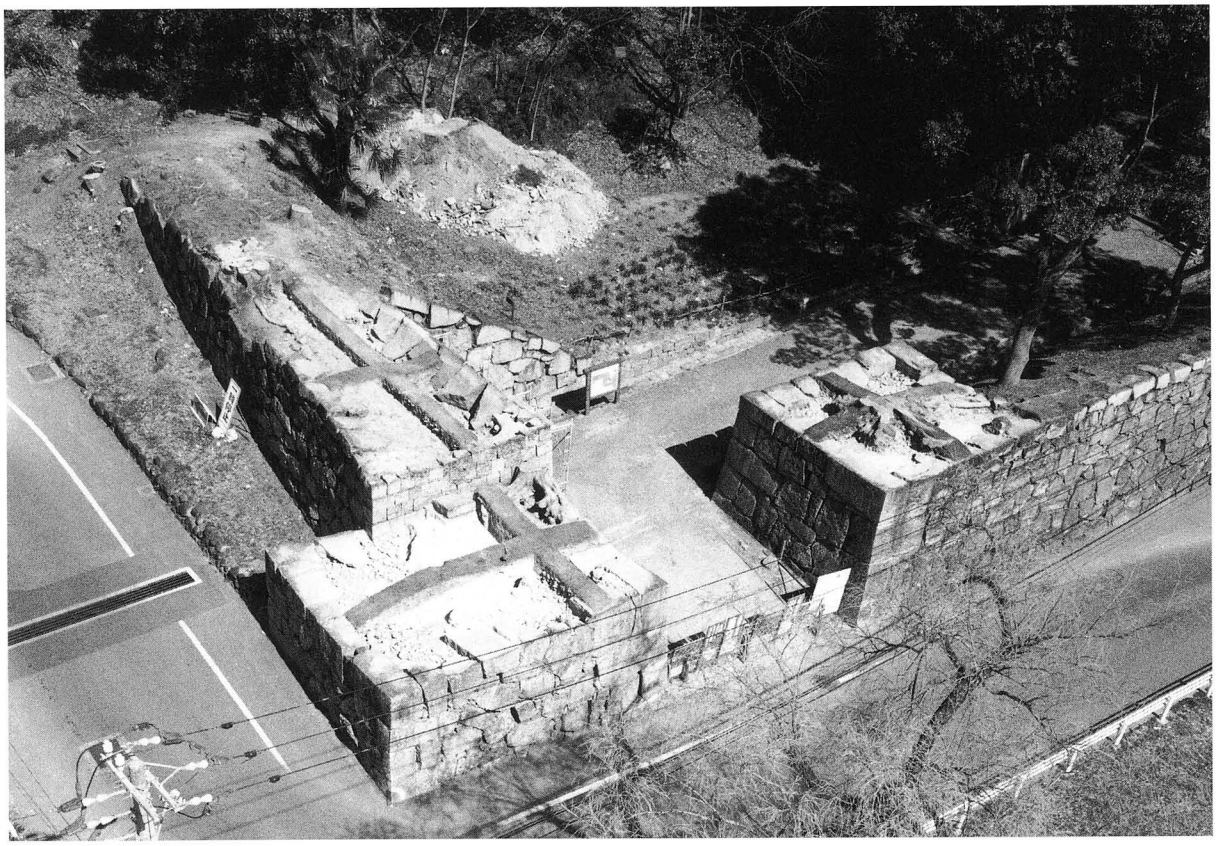


写真１　調査地全景（南西より）

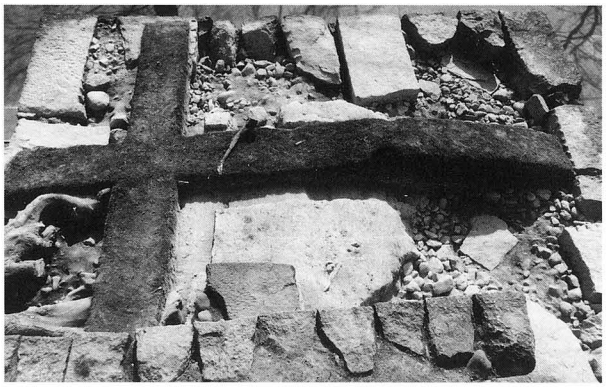


写真２　西石垣下段検出状況（北より）

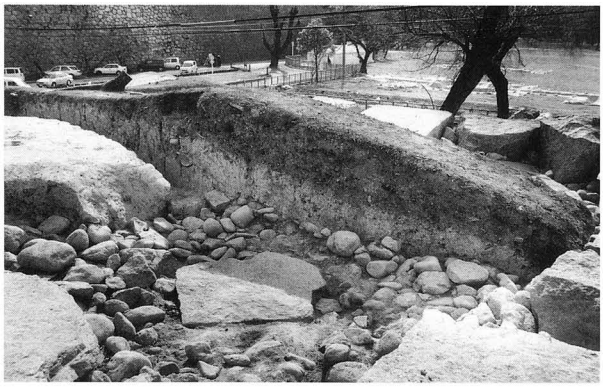


写真３　西石垣下段東西ベルト北壁断面（北西より）

写真４　西石垣上段検出状況（北より）

写真５　西石垣上段南北ベルト東壁断面（北東より）

写真６　北石垣検出状況（東より）

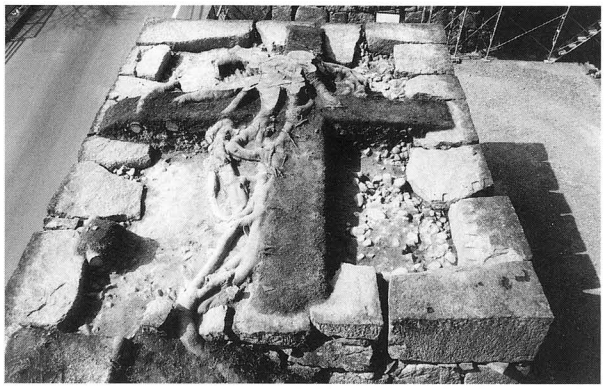


写真７　東石垣検出状況（東より）

写真８　東石垣南北ベルト東壁及び
東西ベルト北壁断面（北東より）

まつやまじょうさんのまるあと
松山城三之丸跡６次調査地

所在地　松山市堀之内（競輪場跡地）
期　間　平成18年８月１日～平成19年３月16日
面　積　約600㎡
担　当　岸見泰宏（文化財課）

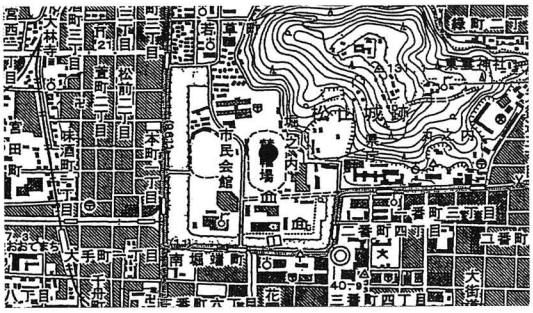


図１　調査地位置図

経　過　本調査は、「城山公園（堀之内地区）整備事業」に伴う確認調査である。今回の調査では、平成18年度に撤去の終了した競輪場の跡地において、土地区割りに関連する遺構の確認を行うことを目的とした。なお、本調査では、競輪場跡地の北側半分を調査対象とし、南側半分は平成19年度以降着手する予定である。

遺構・遺物　本調査では、小普請所石垣、東堀西岸、東西道路２条、南北道路１条、土坑等が確認された。

【小普請所石垣】小普請所の西面と南面について、石垣を確認した。西面石垣は検出長18ｍ総延長82.4ｍ、南面石垣は検出長20.4ｍ総延長38.4ｍを測る。築石は幅60～70cm、高さ40～50cmの花崗岩で、控長は60～70cm程度であった。石垣の裏面は幅１ｍ前後まで栗石層であるが、栗石の隙間には精緻な灰白色の粘土が詰まっている。通常、栗石層は川原石のみで構成されるが、小普請所石垣については、高さが低いことから、目潰し粘土を混入することによって安定を図った可能性がある。ただし、検出された全域で石垣の上部が削平されており、根石のみないし２段程度しか残されていないため、高さを復元することは難しい。

石垣の裾部には、貼石底を持つ石組溝が作られている。石垣の対面には幅50～60cm、高さ30～40cmの砂岩が並べられており、底部の貼石は厚さ10cm、幅奥行20～40cmの砂岩で、一部融解しているものもある。

【東堀西岸】検出長は６ｍを測る。堀底部から岸部への立ち上がり部分には太さ10cm程度の木杭が0.5～１ｍ間隔で千鳥に打たれており、土留め施設と考えられる。この西側上部には、石垣が残されていたが、粗い間知積みであり、現代のものと考えられる。石垣基底部には幅46cmの梯子胴木が据えられていた。さらに西側に４ｍの位置に向かって地山層が2.5ｍ程度上がっており、平坦になることから、ここが東堀西岸の上場と考えられる。

【東西方向道路１】三之丸跡４次調査地（野球場跡地）で確認された東西方向道路の延長部にあたり、南北には石組側溝を持っている。北側側溝は南北道路１との交差点で道路を横切っており、南側側溝は南方向へ折れている。道路側溝に使用されている築石はいずれも幅、高さ10～20㎝程度と小振りで、１段のみが残されていた。道路面は削平が著しく明確でない。道路幅は、側溝の内側で約７ｍ、外側で約８ｍを測る。

【東西方向道路２】小普請所の南側、御用米蔵の北側にあたる道路である。道路北側は小普請所南面石垣と一体となった石組側溝を持つが、南側では石組溝が確認されていない。ただし、2－6,3－5ト

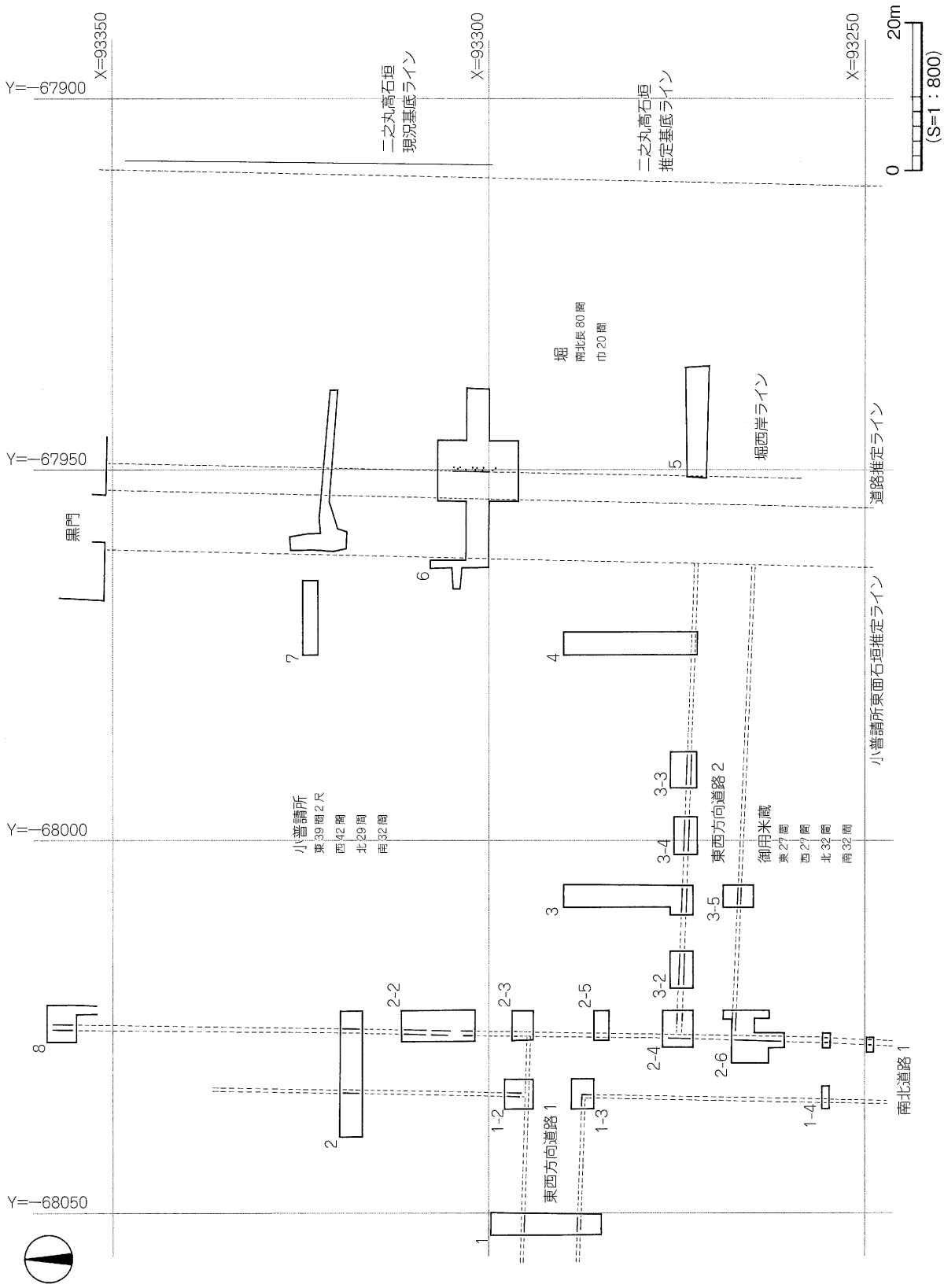


図２　調査区及び遺構配置図

レンチで小普請所南面石垣と並行する素掘りの溝が確認されており、この溝が道路側溝である可能性がある。2－4，2－6トレンチでは、黄色細砂を叩き締めた道路面が確認された。

【南北道路1】小普請所と御用米蔵の西側を通る道路で、県民館跡地で確認された南北道路の延長部である。東側は小普請所西面石垣と一体で作られた石組溝をもち、西側については2,1－2,1－3トレンチで石組溝を確認したが、遺存状況が悪く築石はほとんど残されていなかった。2－4トレンチ以南の東側は御用米蔵にあたるが、東側側溝の東面石組は現代の攪乱によって失われており、西側石組のみが残されている。西側石組は、幅50～60㎝、高さ40～50㎝程度の大きさの花崗岩が使用されており、一部には矢穴や刻印を持つものもあり、石垣からの転用と考えられる。時期は明らかではないが、改修によるものである可能性がある。2－6トレンチでは黄色細砂を叩き締めた道路面が確認されている。

小　結　【土地区割りの規格について】小普請所西面石垣および南北道路1はN－1°4′15″－E方向を採る。これは、3・4・5次調査で確認された杉馬場東側の境界溝の方位、N－1°4′15″－Eとほぼ同じ傾きである。しかし、三之丸跡3次調査及び4次調査で確認された南北方向道路はN－0°37′44″－Eであり、約1°のズレが生じている。一方で、小普請所南面および東西道路2については、N－92°7′56″－Eであり、東西道路1はN－92°2′5″－Eであった。県民館跡地及び三之丸跡3次調査で確認された東西道路は、N－91°14′54″－Eを軸線としている。

現況の土塁堀側の法線を見てみると、西側は約1°東に傾いており、南側は約2°程度南に傾いている。このように三之丸の地割軸は南北軸が1°程度、東西軸は1～2°程度東へ傾いていることが、ほぼ明らかになった。

また道路幅については、三之丸跡3次調査から6次調査までに確認された道路は全て石組側溝の外側間で約8ｍであり、4間幅（7.92ｍ）が規格として存在していた可能性が高い。

【「亀郭城秘図」との対応関係について】三之丸跡の調査では、文久年間に描かれた絵図「亀郭城秘図」を基準とし参照してきたが、小普請所、御用米蔵、堀など主要な施設については、大きさが書き込まれている。例えば、東堀については、「南北80間　巾20間」という書き込みが見られる。今回確認された西岸の千鳥杭から現況の二之丸西高石垣基底部までは約41ｍであるが、巾20間であれば、39.6ｍとなり、近似する（三之丸跡2次調査の成果から1間は1.98ｍで換算している）。

また、堀西岸上場より、西側に道幅を8ｍ加えた位置が小普請所東面石垣推定ラインとなるが、この位置は、2－4トレンチで確認された小普請所石垣西南隅から約63ｍの位置になる。「亀郭城秘図」には小普請所の規模として「東39間2尺　西42間　北29間　南32間」とあるが、この南32間（63.36ｍ）はほぼ一致しており、小普請所東石垣推定ラインは妥当性が高いことがわかる。

このように、「亀郭城秘図」に書き込まれた施設の規模が概ね当を得ていることが明らかになったことは、大きな成果といえる。三之丸跡は後世の開発によって激しい攪乱を受けており、遺構が確認される可能性がきわめて低い箇所も多いが、「亀郭城秘図」に書き込まれた数値によって、ある程度正確な区割りの復元が可能であろう。

次年度以降、競輪場跡地南側において東堀や御用米蔵等の位置や規模、道路の配置等を確認し、三之丸の土地利用に関する資料の充実を図りたい。

写真１　調査地遠景（南西より）

写真２　小普請所南面石垣検出状況（東より）

写真３　小普請所南西隅検出状況（南東より）

写真４　東堀西岸検出状況（南東より）

大峰ヶ台遺跡（おおみねがだい）10次調査地

所在地　松山市南江戸5丁目1463
期　間　平成18年3月1日～同年4月14日
面　積　243㎡
担　当　栗田茂敏・吉岡和哉

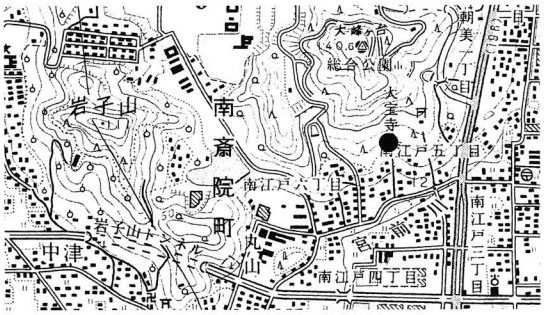


図1　調査地位置図

経　過　「南江戸花見公園」リフレッシュ工事に伴う調査である。調査地となった児童公園は、大峰ヶ台丘陵南麓の古刹、大宝寺境内の一角に所在している。この寺は大宝元（701）年の創建と伝えられ、その本堂は鎌倉前期の貴重な建築として、昭和28（1953）年、国宝に指定され今日に至っている。この大峰ケ台丘陵には弥生時代から古墳時代にかけての遺構が多く分布することが古くより知られており、今回の調査に至るまでに、主に松山総合公園整備に伴って9次にわたる調査が行われている。これらの調査のうちよく知られたものを挙げると、南西麓での後期古墳、客谷古墳群の調査（3次調査）や、頂上部で行われた4次調査における弥生中期中葉の高地性集落の調査、北西斜面で行われた朝日谷古墳の調査（7次調査）などがある。特に朝日谷2号墳は、当平野のみならず県下最古の前方後円墳で、主体部である粘土槨からは2面の後漢鏡をはじめとして鉄剣、銅鏃群など貴重な副葬遺物を出土している。また、調査地南方0.5㎞には、古墳時代前期の大規模な農業灌漑用井堰を検出した古照遺跡が、また西方1.5㎞の宮前川流域には弥生時代後期から古墳時代前期の大量の遺物を出土した宮前川遺跡がある。

遺構・遺物　総面積1380.87㎡の公園用地のうち、掘削により遺構に影響が及ぶと判断された部分が調査対象となった。図2のような調査区の形状で、総面積243㎡である。トレンチ状に細長い溝状の調査区となった部分は、T1～T4と呼称し、ある程度面的に掘削できる3箇所について、1～3区の調査区名称を被せた。調査地は大峰ケ台丘陵の南麓斜面にあたる場所にあって、南に開ける谷の東斜面にあたっている。現況では、盛り土や切り土による造成によって緩やかな南下がりの緩傾斜面となっているが、地山面でみると、東からフラットにひろがってきた面が、1区の西端近くになって西下がりに落ち込んでいくという地形となっている。図2のアミ掛けを施した部分が谷地形の落ち込みの中ということになる。

上述のような地形から、調査では谷地形の一部と、この谷に流入堆積した遺物を含んだ土層、この谷が埋まった後にこれを切ったり、またフラットな地山上に営まれた柱穴群や畑跡が検出された。このうち、谷を埋めた包含層は、大きく2層に分けることができ、上層の灰褐色系のシルト層からは弥生時代から近世に至るまでの土器片が出土し、また下位の暗褐色～黒色系のシルト層からは、古代以降の遺物の出土はなく、弥生土器、須恵器が出土した。これらそれぞれの層からの遺物は層位的に出土するわけではなく、混淆状態での出土であるところから、それぞれある一定の期間に、丘陵上方からの土砂とともに混在状態で押し流されてきて堆積した状況が窺える。

検出された柱穴は15基、T2で1基検出されたほかは1区での検出である。暗灰色系のシルトを埋

土としており、後述の畑と同様、江戸時代のものと考えれるが、削平が激しく、特に地山面で検出されたものは、深さ2～3㎝程度の遺存であった。

畑は1区、2区、T4で検出された。1区では取水口状の石組み施設、その他では南北方向の畦畔、東西方向の畝状遺構が部分的にみられた。石組み施設からは、土師器皿2枚の出土がみられている。これらの耕作痕跡には、鉄分やマンガン粒の含有が少ないところから、水田ではなく畑と判断した。

包含層出土の遺物で最も多いのは弥生土器である。ついで、土師器、須恵器、そして少量の近世～近代の陶磁器、土師器の順となっている。図3に示したのは、T2出土の弥生土器で、中期中葉のものがほとんどで、須恵器においては6～7世紀代のものが多く出土している。

小　結　今回の調査では、この遺跡の立地にふさわしく、大峰ケ台丘陵上に存在する多くの遺構群からの流失遺物と考えられる遺物群の出土をみた。この丘陵上では、弥生時代においては高地性集落や土器廃棄跡などが知られており、また、前期から後期の古墳時代全般を通じて古墳が営まれていることは周知のとおりである。調査で出土した弥生時代の遺物は中～後期のものが主体で、中でも中期中葉のものが圧倒的に多い。1988（昭和63）年、総合公園メインエントランスの整備に伴って行われた6次調査地はこの丘陵東麓にあたるが、ここでも丘陵上方からの流失遺物と考えられる

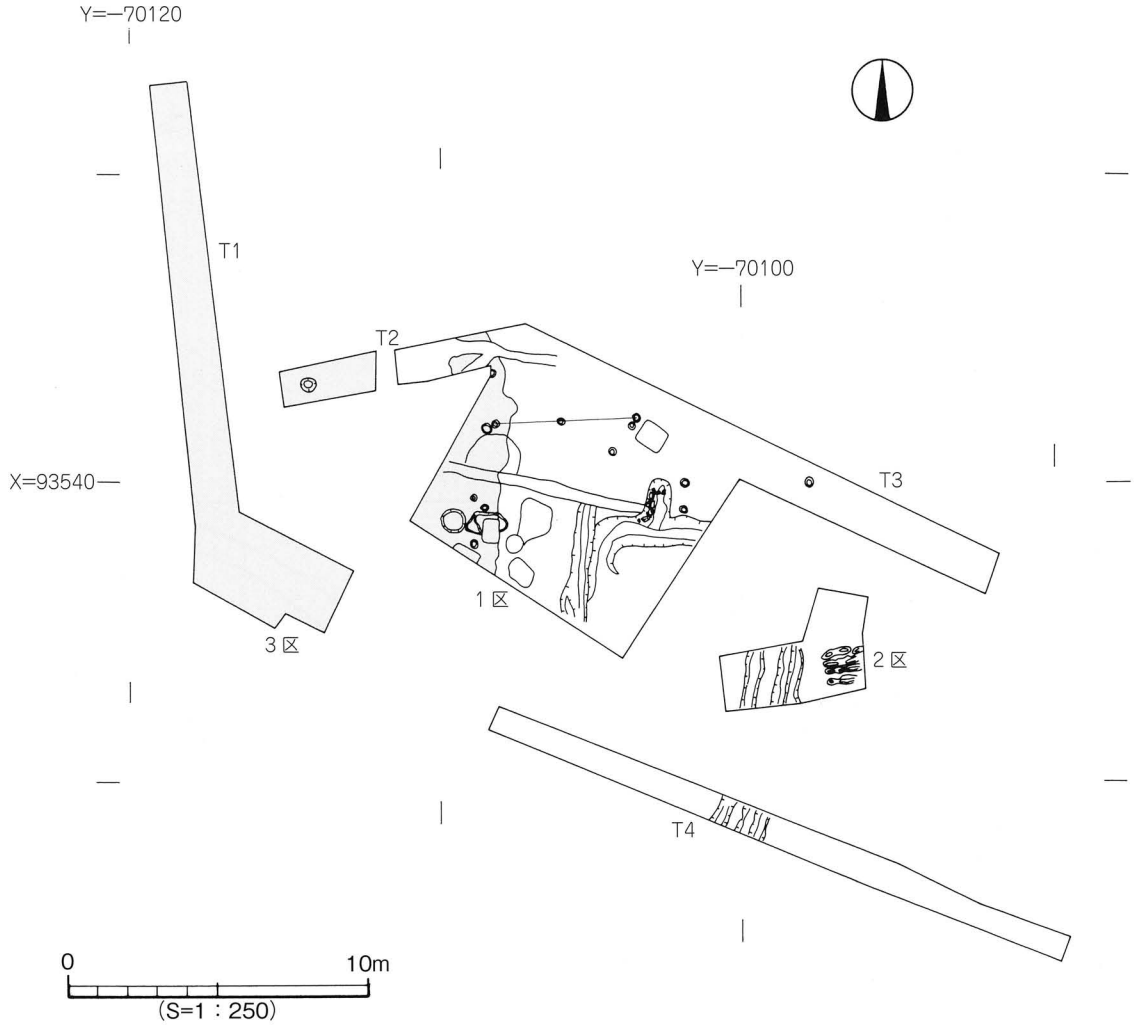


図2　調査地全測図

中期中葉の遺物群の堆積があり、似通った状況がこの南麓でも確認されたといえる。現時点で丘陵上で確認されている中期中葉の集落は頂上部の4次調査地のみであるが、麓でのこのような遺物の出土例をみると、頂上部に限らず、丘陵の各所に小規模な生活遺構が点在していた可能性が考えられる。その他、これらの弥生遺物と混淆状態で出土した須恵器類は、すべてが古墳時代後期のもので、これらはこの丘陵に数多く分布する後期の古墳群に由来するものであろう。柱穴や畑遺構は、出土した土師器皿や僅かな陶器片からみて江戸時代後期頃のものと考えられる。小規模な虫食い状態での調査で、全体像の復元は難しいが、寺院を間近に望む緩傾斜地での小規模な畑や、これに伴う簡素な小屋といった往時の景観が推定されよう。(栗田)

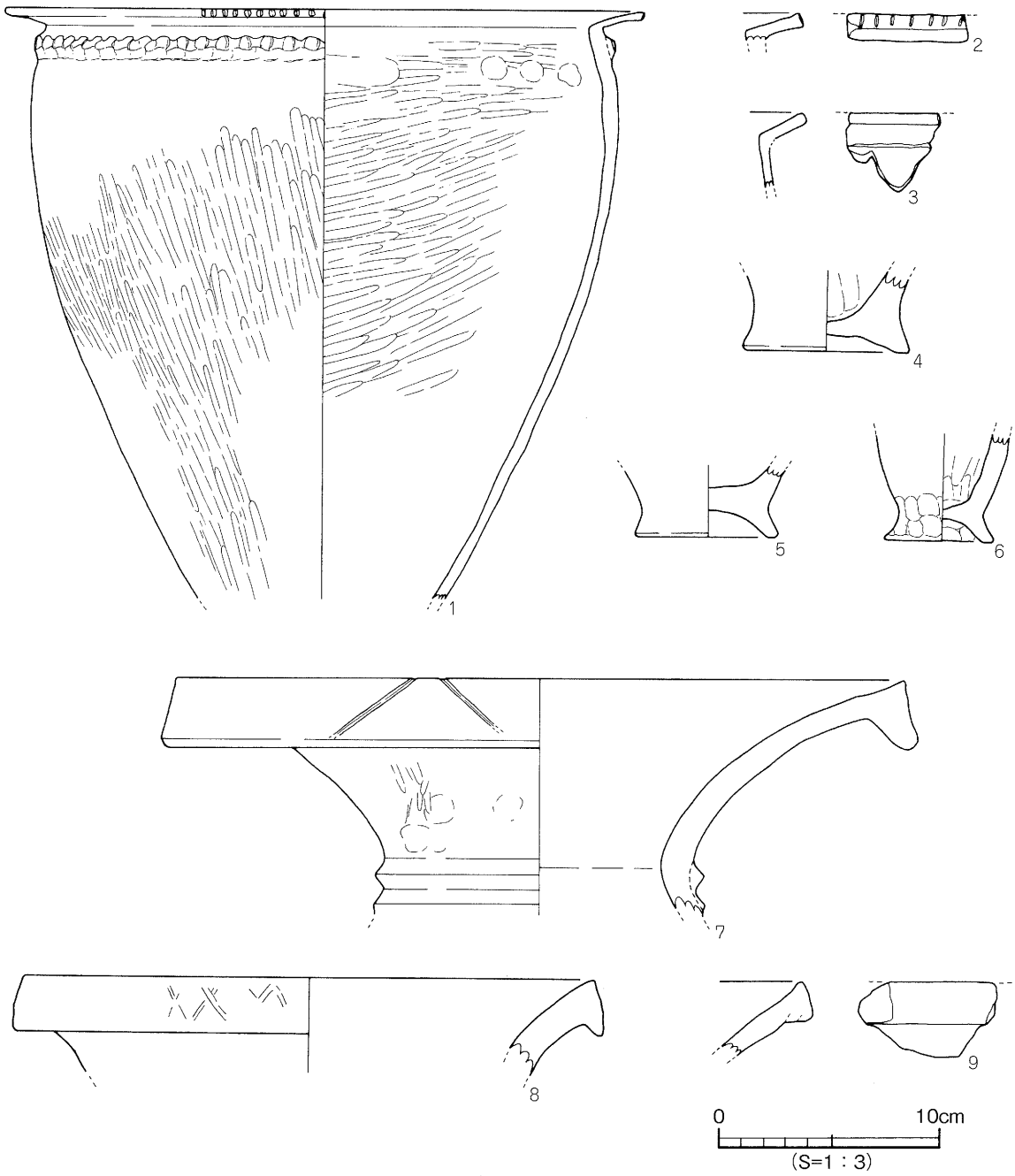


図3　T2出土弥生土器

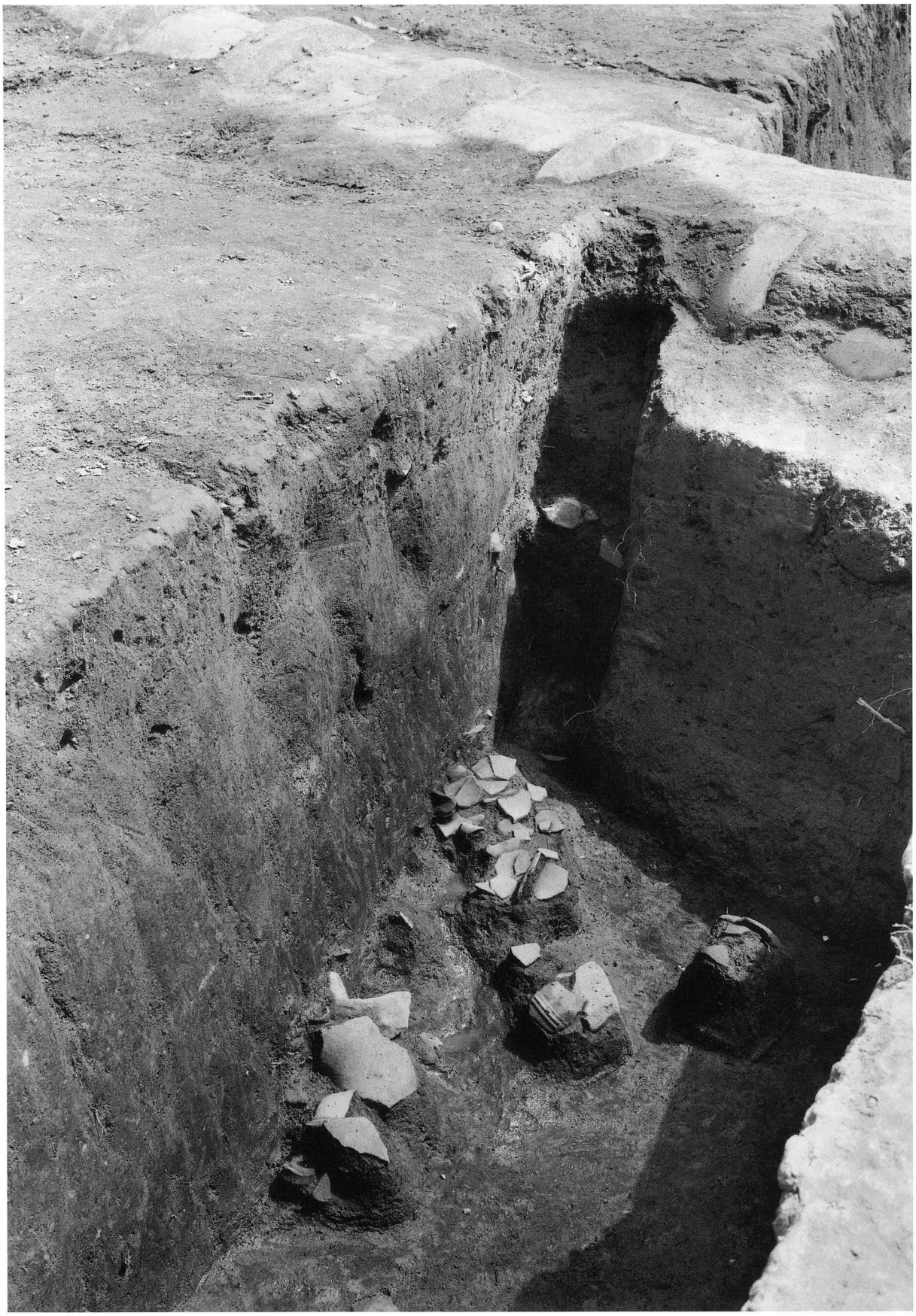


写真 1　T2 第 8 層遺物出土状況（南西より）

東野お茶屋台遺跡７次調査地

所在地　松山市東野５丁目甲898番97の一部
期　間　平成19年１月16日～同年２月28日
面　積　約440㎡
担　当　吉岡和哉

図１　調査地位置図

経　過　本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『№79お茶屋台古墳群』内における、宅地造成に伴う事前の発掘調査である。申請地の周辺では、これまでに東野お茶屋台遺跡として６度の発掘調査が実施されており、県指定史跡東野お茶屋跡に関連する遺構の他、特に５世紀から６世紀にかけての古墳が濃密に分布することが判明している。試掘調査を実施した結果、申請地の高台部より古墳の周溝と考えられる溝状遺構を数条確認し、そのうち特に造成工事の影響を受けると判断された部分に対して、事前の発掘調査を実施する運びとなった。

遺構・遺物　今回、東野お茶屋跡に伴う近世の遺構や遺物を確認することはできなかったが、古墳時代後期に築造された６基の古墳を確認することができた。

【1区】古墳に伴う周溝を４条検出した。他に古墳時代のものと考えられる浅い溝状の土坑を１基検出しているが、古墳に伴うと断定できない。また、方形や円形の土坑および溝を多く確認しているが、これらは全て愛媛県果樹試験場による実験に伴うものと考えられる。

25号墳は調査区北部に検出した古墳で、谷状地形を利用して形成していたと考えられる溝の内部より、多数の埴輪（普通円筒埴輪、盾形埴輪）および、須恵器（広口壺、甕、蓋坏、器台）の破片が出土した。墳丘及び主体部は後世の開発により削平されている。

26号墳は中央部北寄りの位置に検出した古墳で、溝が調査区西側に弧状にのびることより、直径約10ｍ程度の円墳であると考えられる。墳丘及び主体部は、後世の開発によって削平され確認できない。周溝の遺存状態が悪く、出土遺物はほとんどない。

27号墳は１区南西側に検出した古墳で、断続的にのびる溝を検出した。調査区壁面土層の観察作業等により、本来は円形に巡っていた可能性が高い。墳丘及び主体部は後世の開発により削平されており、また遺物の出土はみられなかった。

28号墳は南部にて検出した古墳で、溝が北側から南方にのびて調査区南壁に消えた後、東側に方向を変えて短くのびる。溝の形状より方墳である可能性が高く、出土遺物には古墳時代後期の須恵器片（甕、蓋坏）がある。

【2区】古墳に伴うと考えられる溝を１条検出した。他に古墳時代のものと考えられる１基の浅い溝状の土坑を検出しているが、古墳に伴うと断定できない。また１区と同様に、果樹試験場の実験に伴う土坑や溝などを確認した。

29号墳は調査区北部に検出した古墳で、辛うじて調査区の北東部壁面沿いに古墳の周溝と考えられる溝状の落込みを検出した。出土遺物には古墳時代後期の須恵器（蓋坏）等がある。

【3区】円墳に伴う周溝を１条検出した。また他の調査区と同様に、果樹試験場の実験に伴う土坑や溝などを多数確認した。

30号墳は調査区の西半部にて検出した円墳で、古墳全体の約７割を確認した。直径約８ｍ程度の円墳であると考えられるが、他の古墳同様、墳丘及び主体部は後世の開発により削平されている。出土遺物には６世紀後半の須恵器（蓋坏、無頸壺）、ガラス小玉等があり、特に須恵器に関しては完形の個体が周溝内部に並べられたような状態で出土している。

【4区】果樹試験場の実験に伴う土坑や溝などを多数確認した。調査の結果、中近世以前の遺構を確認することはできなかった。

小　結　今回の調査では、主に古墳時代後期に築造された６基の古墳を確認することができた。後世の削平によって墳丘および主体部、周溝の上層部分が消滅しており、非常に限られた情報しか得られなかったが、調査の結果、お茶屋台古墳群の中に新たに６基の古墳が追加され、古墳群の広がりが確認できたことは大きな成果である。また、30号墳で確認した周溝内に須恵器を並べる事例は、これまでのところ松山平野内では確認されておらず、古墳で執り行われた祭祀行為の中に貴重な事例を追加することができた。

今後は、出土遺物の整理、分析作業を通じてお茶屋台古墳群を形成した集団の実像解明につとめなければならない。

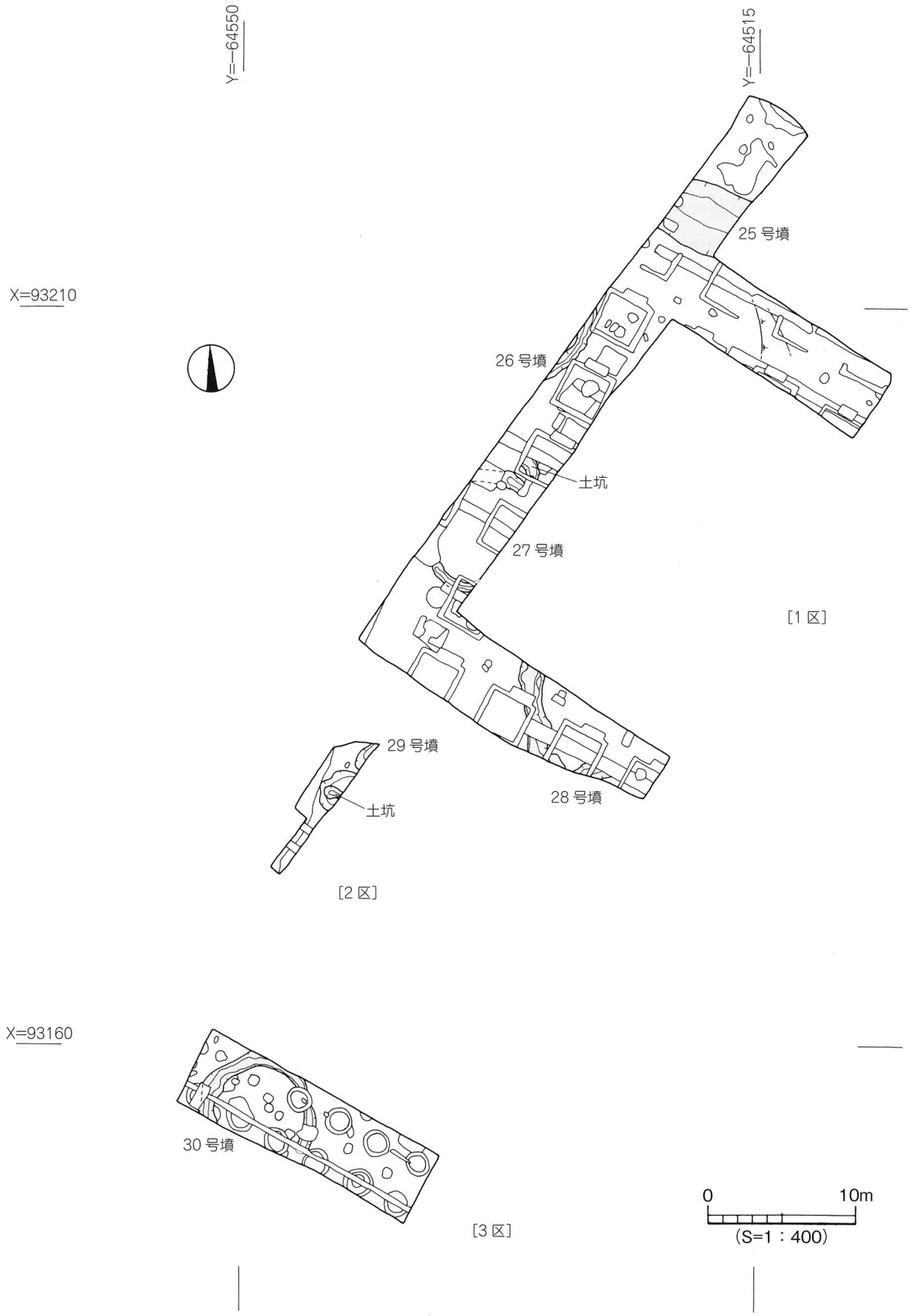

Y=−64550
Y=−64515
X=93210
25 号墳
26 号墳
土坑
27 号墳
[1 区]
29 号墳
土坑
28 号墳
[2 区]
X=93160
30 号墳
[3 区]
0
10m
(S=1：400)

図２　遺構配置図

写真１　３区 30 号墳調査状況　（南西より）

写真２　３区 30 号墳遺物出土状況（南西より）

東野お茶屋台遺跡８次調査地

所在地　松山市東野５丁目甲911－９の一部
期　間　平成19年２月15日～同年２月22日
面　積　約38㎡
担　当　相原秀仁

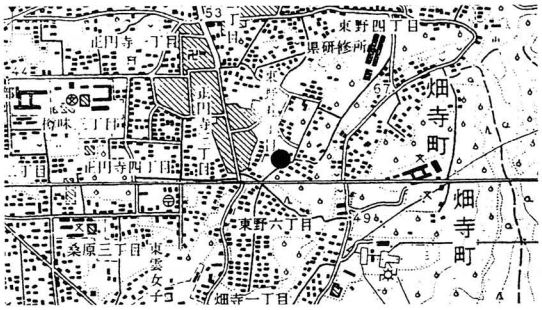


図１　調査地位置図

経　過　本調査は、宅地開発に伴い、国からの補助を受けて実施したものである。調査地は松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『№79 お茶屋台古墳群』内に所在する。調査地は芝が峠からのびる洪積台地上に位置し、標高57.9～58.4ｍに立地する。周辺では、これまでに東野お茶屋台遺跡として６度の発掘調査が実施されており、古墳の周溝が多数確認されている。調査以前は果樹園であった。

遺構・遺物　基本層位は、第Ⅰ層表土、第Ⅱ層灰黄色土、第Ⅲ層明黄色土、第Ⅳ層赤褐色土、第Ⅴ層黄色土である。第Ⅰ層は果樹栽培に伴う土層であり、調査区全域にみられる（層厚10～40㎝）。第Ⅱ層は調査区全域に堆積し、層厚10～48㎝を測る。第Ⅲ層は調査区全域に堆積し、弥生土器片が少量出土した（層厚８～18㎝）。第Ⅳ層は調査区全域に堆積し、層厚10～50㎝を測る。第Ⅴ層は調査区全域に堆積する。検出した遺構は周溝２条である。周溝は第Ⅴ層黄色土上面で検出した。周溝内からは弥生土器、土師器、須恵器が出土した。周溝１は調査区北東部において検出した溝で、全体の約３分の１を確認した。周溝の形状および規模より円墳と判断され、周溝の外側における計測値では、推定直径10.50ｍ、周溝幅0.7～1.1ｍ、深さ48㎝を測る。

遺物は埋土中層から土師器片と須恵器片とが少量出土した。周溝内から出土した遺物の特徴から、５世紀後半から末に構築されたものと考えられる。周溝２は調査区南部において検出した溝で、北東端を確認した。遺物は土師器片が少量出土した。

小　結　今回の調査では、古墳時代中期の古墳に伴う周溝を確認した。主体部は調査区外に位置すると考えられるが、近現代の開発による削平で消失している可能性がある。狭小範囲の調査ではあるが、周溝２条を確認することができたことで、周辺の調査に追加する資料を得ることができた。

写真１　遺構完掘状況（北西より）

写真２　周溝１土層（南東より）

樽味立添遺跡（たるみたちぞえ）4次調査地

所在地　松山市樽味2丁目18番の一部
期　間　平成19年1月9日～同年2月8日
面　積　174㎡
担　当　水本完児・宮内慎一

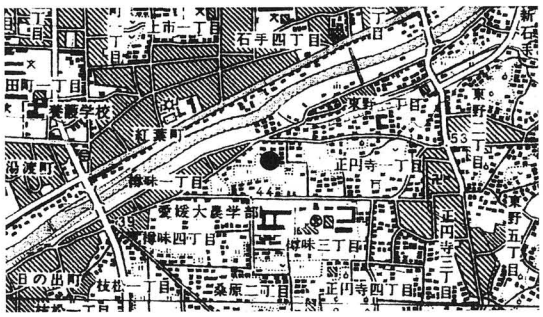


図1　調査地位置図

経　過　本調査は、松山市樽味地区における民間の宅地造成工事に伴う事前調査である。調査地は松山平野南東部、石手川中流域左岸に位置し、標高42.96～43.16ｍに立地する。周辺では、申請地の南西側170ｍには、樽味立添遺跡1次・2次調査地があり、弥生時代から中世までの集落関連遺構や遺物が多数確認されている。また、申請地の北東側200ｍには、樽味立添遺跡3次調査地があり、縄文時代晩期から古墳時代までの集落関連遺構や遺物が確認されている。調査以前は水田であった。

遺構・遺物　基本層位は、第Ⅰ層水田耕作土、第Ⅱ層水田床土、第Ⅲ層明茶灰色土、第Ⅳ層暗褐色土、第Ⅴ層黒褐色土、第Ⅵ層地山である。検出した遺構は、竪穴式住居址2棟、掘立柱建物址2棟、溝2条、土坑6基、柱穴20基である。遺物は遺構内から弥生土器、須恵器、土師器、瓦、石器が出土した。以下、時期別に主な遺構の概略を説明する。

【古墳時代】古墳時代の遺構は竪穴式住居址（SB）2棟、掘立柱建物址2棟、溝（SD）1条、土坑（SK）6基がある。SB1は、隅丸方形を呈する住居址で、埋土は下層には黒色土に黄色土がブロック状に混じる。検出状況から、下層は住居床面の改築に伴う貼床土と考えられる。住居址壁体に沿って幅10～20cm程度のテラス状の高まりをもつ。時期は、古墳時代中期後半とする。

SK3は、楕円形を呈する土坑で、遺物は土師器、須恵器、石器が出土した。時期は、古墳時代後期とする。

【古代】古代の遺構は溝（SD）1条がある。SD1は調査区西部で検出した北東－南西方向の溝で、調査区外に続く。規模は検出長4.34m、検出幅8.75ｍ、深さ46cmを測る。遺物は弥生土器、土師器、須恵器、瓦、石器が出土した。時期は、8～11世紀代とする。

小　結　今回の調査では、古墳時代から中世までの遺構と、弥生時代から中世までの遺物を確認した。古墳時代では中期後半と後期後半に時期比定される2棟の竪穴式住居址と、掘立柱建物址が検出されたことから、1次・2次調査地で検出された古墳時代集落が、立添地域東側へも続いていることが判明した。また、古代では奈良時代から平安時代までの遺物を含む溝SD1が検出された。樽味地区においては、調査地南方にある樽味四反地遺跡1次・5次調査地などでも該期の溝や自然流路が検出されており、古代の樽味地区には広範囲にわたり溝や流路が存在していたものと思われる。樽味地区北側に展開する古墳時代集落の存在や、古代集落に関連する溝の検出は、今後の樽味地区における古墳時代から古代集落を考えるうえで貴重な資料を得たものと評価される。（水本）

写真１　遺構完掘状況（南西より）

写真２　SK3 遺物出土状況（北東より）

樽味高木遺跡（たるみたかぎ）13次調査地

所在地　松山市樽味4丁目238番1
期　間　平成18年4月17日～同年6月30日
面　積　232㎡
担　当　宮内慎一

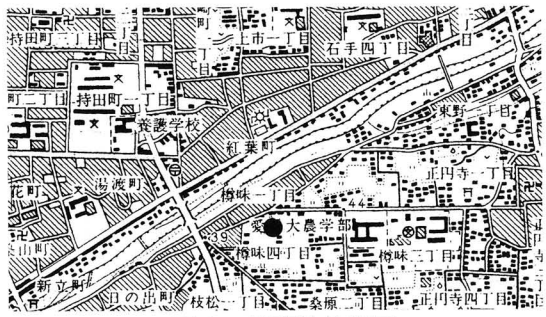


図1　調査地位置図

経　過　本調査は、樽味地区における重要遺跡確認調査として、国からの補助を受けて実施したものである。調査地は松山平野北東部、石手川の氾濫に起因する扇状地上、標高40mに立地し、調査以前は既存宅地であった。調査地周辺では、樽味遺跡（愛媛大学農学部構内）をはじめ、樽味四反地遺跡や、樽味立添遺跡、樽味高木遺跡など数多くの発掘調査が実施され、縄文時代晩期から中世までの集落関連遺構や遺物が多数確認されている。調査地は、弥生時代終末から古墳時代初頭に時期比定される大型建物址が検出された樽味四反地遺跡6次調査地の北東部、約20m離れた地点に位置する。

遺構・遺物　基本層序は、第Ⅰ層造成土・耕作土（層厚25～30cm）、第Ⅱ層床土（層厚5～8cm）、第Ⅲ層灰色土（層厚5～10cm）、第Ⅳ層灰褐色土（層厚5～10cm）、第Ⅴ層暗灰褐色土（層厚10～20cm）、第Ⅵ層暗褐色土（層厚5～10cm）、第Ⅶ層黒褐色土（層厚5～8cm）、第Ⅷ層黄褐色土である。このうち、第Ⅲ層は中世、第Ⅳ層は古代から中世、第Ⅴ層は古代、第Ⅵ層は古墳時代、第Ⅶ層は弥生時代の遺物を含む包含層である。検出した遺構は弥生時代から中世までのもので、竪穴式住居址3棟〔古墳〕、掘立柱建物址1棟〔古墳〕、溝2条〔中世〕、自然流路1条〔古代〕、土坑9基〔弥生：6基、古墳：1基、古代：1基、中世：1基〕、ピット275基である。なお、これらの遺構は第Ⅷ層上面にて検出したものであるが、調査壁の土層観察により、第Ⅶ層以上の土層面から構築されていたことを確認した。遺物は遺構や包含層中より、弥生土器（中期中葉～末）、土師器（古墳中期～中世）、須恵器（古墳中期～中世）、石器（石鏃、石斧、砥石）のほか、分銅形土製品、有孔円板、装飾品（ガラス玉、臼玉）が出土した。以下、主な遺構について概要を説明する。

【弥生時代】SK1・SK2は長さ1.6～1.7m、幅1.0～1.1mを測る長方形土坑である。断面形態は逆台形状を呈するが、一部壁体が袋状となる。遺物は埋土上位と下位にて弥生時代中期後半の土器片や石斧が出土した。断面形態や堆積状況などから、両土坑は貯蔵穴として利用された可能性がある。

【古墳時代】古墳時代の遺構は、竪穴式住居址3棟、掘立柱建物址1棟、土坑1基である。SB1～3は一辺4～6mを測る方形住居址で、すべて床面修復のための貼床が施されている。出土遺物と切り合いより、SB3は古墳時代中期後半、SB2は中期末、SB1は後期後半に時期比定される。SB3では、炉址のほか床面にて数条の溝を検出した。溝の形状から、住居内を区分する間仕切り溝と推測される。遺物ではSB3内より、土師器、須恵器のほか滑石製の臼玉が53点出土している。

【古　代】古代の遺構は、土坑1基と自然流路1条である。SK8は長径1m、短径0.8mを測る楕円形土坑で、埋土中より土師器や須恵器が出土した。出土遺物より、SK8は平安時代中期、10世紀に時期比定される。SR1は調査区南部で検出した流路で、調査壁の土層観察により第Ⅵ層上面から掘り

込まれ、第Ⅴ層が覆っている。埋土は灰色土に灰白色の微砂が混入するものである。流路内からの遺物は僅少で時期特定は難しいが、検出状況から SR1 は概ね古代の遺構とする。

【中　世】中世の遺構は溝 2 条と土坑 1 基である。SD1・2 は検出長の短い溝であるが、溝内より 14 世紀代の土師器片が出土した。また、SK3 は直径 1 m を測る円形土坑で、埋土中より土師器片と炭化物が出土した。出土遺物より、SK3 は 14 世紀代の遺構とする。

小　結　本調査では、弥生時代から中世まで様々な時期の遺構や遺物を確認した。稀少範囲の調査ではあるが、樽味地区における集落様相や変遷を考えるうえで貴重な成果が得られたものと思われる。今後、詳細な研究を重ね、樽味地区における時代ごとの集落構造や分布及び変遷を解明していく必要がある。

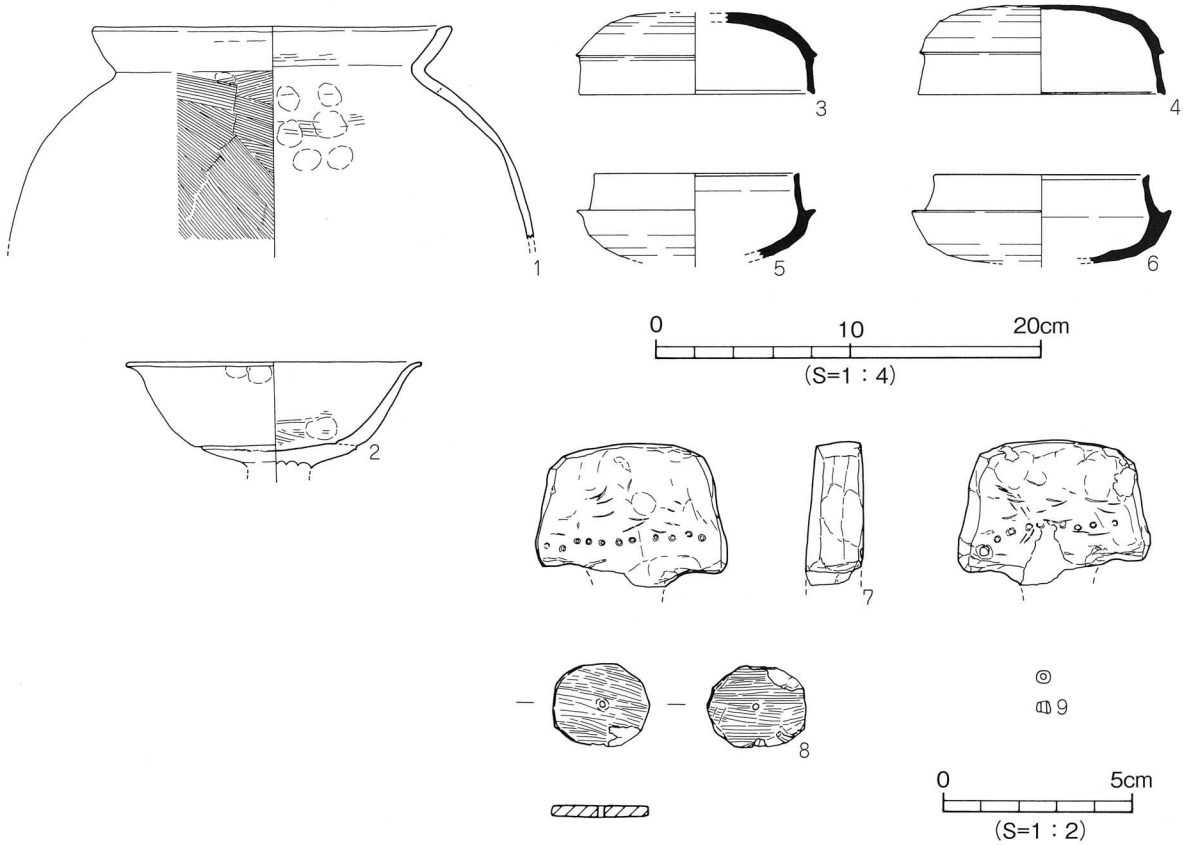


図２　SB2 出土遺物実測図

Y=—65826
SB2
SB1
SD1
SK8
SK9
SB3
X=93258
SD2
SK3
SK6
SK7
SK2
掘立 1
SK5
SK1
SK4
X=93248
0
5m
(S=1：100)

図３　遺構配置図

写真１　南半部完掘状況（北より）

写真２　北半部完掘状況（南より）

樽味四反地遺跡（たるみしたんじ）14 次調査地

所在地　松山市樽味 4 丁目 219 番 1
期　間　平成 18 年 7 月 3 日～同年 8 月 31 日
面　積　64 ㎡
担　当　水本完児・宮内慎一

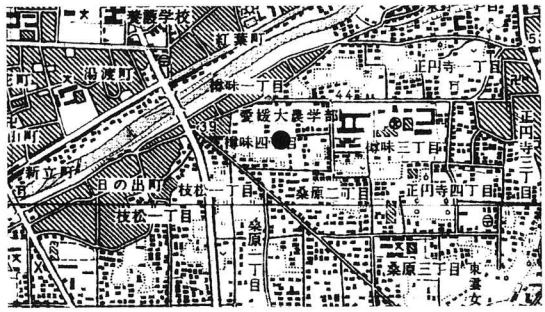


図 1　調査地位置図

経　過　本調査は、松山市樽味地区における重要遺跡確認調査である。調査地は松山平野南東部、石手川中流域左岸に位置し、標高 39.20 m に立地する。周辺では、樽味遺跡（愛媛大学農学部構内）をはじめ、樽味四反地遺跡（1 ～ 13 次調査）、樽味高木遺跡（1 ～ 13 次調査）、樽味立添遺跡（1 ～ 3 次調査）などがあり、周知の遺跡地帯として知られ、弥生時代から古墳時代までの集落関連遺構や遺物が多数確認されている。調査以前は水田であった。

遺構・遺物　基本層位は、第Ⅰ層水田耕作土、第Ⅱ層水田床土、第Ⅲ層灰褐色土、第Ⅳ層黒褐色土、第Ⅴ層黄褐色土、第Ⅵ層灰黄色粘質砂、第Ⅶ層灰黄色砂、第Ⅷ層灰褐色砂礫層である。検出した遺構は、溝 3 条、土坑 3 基、柱穴 16 基である。遺物は遺構内から弥生土器、須恵器、土師器、石器が出土した。以下、時期別に主な遺構の概略を説明する。

【弥生時代】弥生時代の遺構は溝（SD）1 条、土坑（SK）3 基がある。SK1 は調査区南西隅で検出し、北東部以外は調査区外にある為、平面形態はわからない。規模は東西検出長 1.65 m、南北検出長 1.38 m、深さ 23.9cm を測る。断面形態は皿状を呈し、埋土は黒褐色土に黄色土のブロックが混じるものである。遺物は弥生土器片が数点出土した。時期は出土遺物の特徴から、弥生時代中期後半とする。

【古代～中世】古代から中世では、溝 2 条（SD1・3）がある。SD3 は調査区西部で検出した北東－南西方向の溝である。調査区北西部で L 字状に折れ曲がり、ほぼ真北に方位をとる。両端は調査区外に続く。規模は東西検出長 15.49 m、南北検出長 7 m、深さ 6 ～ 21cm を測る。断面形態はレンズ状を呈し、埋土は暗褐色土である。遺物は土師器と須恵器片とが出土した。出土した遺物の特徴から、古代から中世とする。

小　結　今回の調査では、弥生時代中期から中世までの遺構や遺物を確認した。3 基の土坑のうち SK1 からは、弥生時代中期後半（1 世紀）の土器片が出土した。弥生時代では、中期後半の土坑が樽味地区に点在しており、その分布が調査地及び近隣地域に存在することが判明した。また、L 字状に折れ曲がる 2 本の溝（SD1）は、ほぼ真北に方位をとり、第Ⅳ層（古墳時代～古代の包含層）上面から掘り込まれた遺構であり、第Ⅲ層（中世の包含層）が覆う。溝内からは、土師器と須恵器片とが出土したほか、SD3 からは、径 5 ～ 20cm 大の河原石が出土した。時期を特定しうる遺物が少なく断定はできないが、検出状況などから古代から中世（7 世紀～ 14 世紀）までの間に存在した溝と判断される。樽味地区における古代遺構の検出例は少なく、古代集落の様相を解明する貴重な手がかりとなる。今後は、樽味地区における古代集落の解明が急務となる。（水本）

写真１　遺構完掘状況（東より）

写真２　SD1 石列検出状況（北より）

樽味四反地遺跡15次調査地

たるみしたんじ

所在地　松山市樽味四丁目196番の一部、205番
期　間　平成18年7月10日～同年8月9日
面　積　220㎡
担　当　山之内志郎

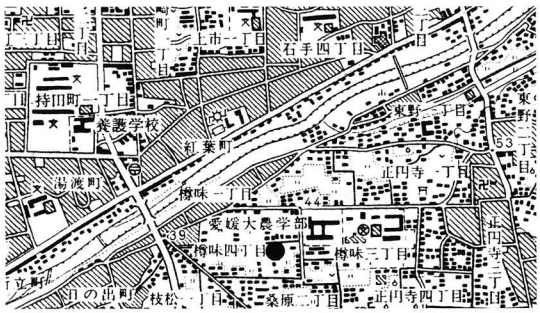


図1　調査地位置図

経　過　本調査は、分譲住宅建設工事に伴う事前発掘調査である。調査地は、松山平野東部、標高約40mに立地し、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『№81樽味遺物包含地』内にある。調査地周辺ではこれまでに樽味四反地遺跡や樽味高木遺跡をはじめとして弥生時代や古墳時代を中心とした集落関連遺構が数多く確認されている。本調査地は樽味四反地遺跡の北側に隣接する。

遺構・遺物　調査前の現況は水田耕作地である。基本層位は、第Ⅰ層灰色土(耕作土)、第Ⅱ層灰橙色土、第Ⅲ層橙色土（床土)、第Ⅳ層灰橙色土、第Ⅴ層灰色土（褐色混じり)、第Ⅵ層褐色土（上層にチョコチップ状に硬化土が混じる)、第Ⅶ層灰褐色土、第Ⅷ層暗灰色土、第Ⅸ層黄色微砂質土、第Ⅹ－①層黄褐色微砂質土、第Ⅹ－②層黄色微砂質土、第Ⅹ－③層明褐色微砂質土、第Ⅺ層黄色砂礫である。なお、第Ⅵ層から土師器と瓦器の小片が出土していることから中世の包含層、第Ⅶ層から土師器の小片が出土していることから古代の包含層と考えられる。第Ⅸ層以下は、いわゆる地山と呼ばれる層である。第Ⅹ－①～③層はAT火山灰の堆積層と考えられる。調査の結果、主に古代末と中世の遺構・遺物を検出した。検出した遺構は、溝5条、土坑5基、柱穴28基である。そのほか、調査区東半部で旧河川を確認した。全ての遺構は第Ⅸ層上面で検出した。

古代末の主な遺構は、SD1のほかSD3・4などがある。SD1は南壁に沿って東西方向に長く伸び、東部及び西部は調査区外へ続く。規模は検出長25.30m、上場幅1.40～3.40m、深さ25cmを測る。断面形態は南半部を検出していないため不明であるが、レンズ状を呈すると考えられる。埋土は灰褐色土の単一層である。遺物は土師器や須恵器・瓦器・陶磁器・石製品（磨石)・鉄製品（鉄鏃）が出土している。これらの出土遺物から11世紀に埋没した遺構と考えられる。

中世の主な遺構はSK3などがある。平面形態は南北方向に長い楕円形、断面形態は「U」字状を呈し、北部が若干深くなる。規模は長軸1.37m、短軸0.91m、深さ28cmを測る。埋土は黄色混じりの灰色土の単一層である。遺物は土師器や須恵器・瓦器が出土しており、これらから13世紀と考えられる。

小　結　今回の調査では、主に古代末と中世の遺構・遺物を確認することができた。SD1は調査区の都合により南半部を確認できなかったが、検出した北半部から推定復元すると上場幅2.5～3.0m程度の溝ではないかと推定される。その用途については今後解明を進めていかなくてはならないが、地域を区画するための溝である可能性が高い。今回調査を行った樽味地区は近年松山市道樽味溝辺線道路工事に伴う調査などにより、新しい発見が相次いでおり、今後も周辺域における調査を進めることにより、更に古代～中世集落の構造とその変遷の解明を進めていきたい。

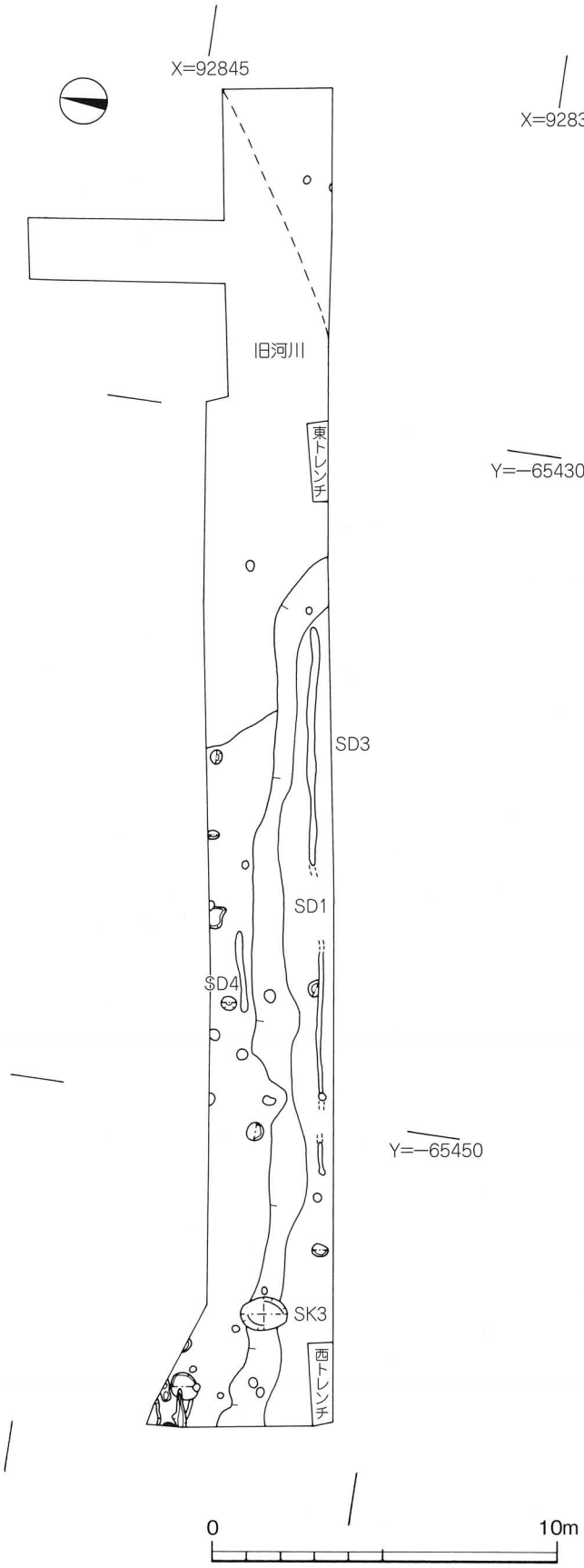


図２　遺構配置図　(S=1：200)

写真１　遺構完掘状況（西より）

樽味四反地遺跡16次調査地（たるみしたんじ）

所在地　松山市樽味4丁目222番1
期　間　平成18年11月1日～平成19年3月30日
面　積　523㎡
担　当　宮内慎一

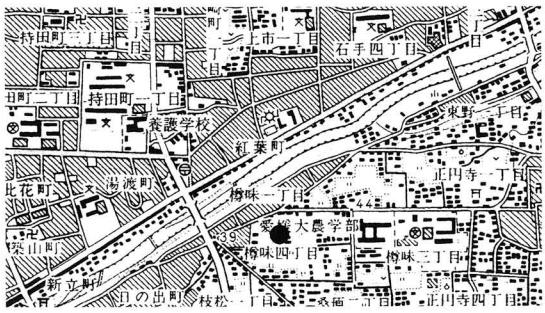


図1　調査地位置図

経　過　本調査は、樽味地区における重要遺跡確認調査として、国からの補助を受けて実施したものである。調査地は、松山平野北東部、石手川の氾濫に起因する扇状地上、標高39.2ｍに立地し、調査以前は水田である。調査地周辺では樽味四反地遺跡6次調査地〔平成10年度〕、同8次調査地〔平成15年度〕、同13次調査地〔平成17年度〕において、弥生時代末から古墳時代初頭に時期比定される大型建物址が検出されたほか、既往の発掘調査において縄文時代から中世までの集落関連遺構や遺物が多数確認されている。本調査地は樽味四反地遺跡6次調査地の東側に隣接する位置にある。

遺構・遺物　基本層序は、第Ⅰ層耕作土（層厚15㎝）、第Ⅱ層床土（層厚6～10㎝）、第Ⅲ層灰褐色土（層厚10～15㎝）、第Ⅳ層褐色土（層厚15～25㎝）、第Ⅴ層黒褐色土（層厚5～8㎝）、第Ⅵ層黄褐色土（層厚10～15㎝）である。このうち、第Ⅲ層は古代から中世、第Ⅳ層は古墳時代から古代、第Ⅴ層は弥生時代から古墳時代までの遺物を含む包含層である。検出遺構は弥生時代から中世までのもので、竪穴式住居址12棟〔弥生：1棟、古墳：11棟〕、掘立柱建物址6棟〔古墳：5棟、中世：1棟〕、土坑1基〔弥生〕、ピット302基である。遺構は第Ⅵ層上面で検出したものであるが、調査壁の土層観察により古墳時代以降の遺構は第Ⅴ層上面から構築されていたことを確認した。遺物は遺構及び包含層中より弥生土器（前期前半～末）、土師器（古墳前期～中世）、須恵器（古墳～中世）、陶磁器（中世）、石器のほか装飾品（ガラス玉、臼玉、管玉）、種子等が出土した。以下、主な遺構について時代ごとに概略を説明する。

【弥生時代】SB4は周壁体のみを検出した円形住居址で、出土遺物より弥生時代後期に時期比定される。SK1は直径3.9ｍ、深さ1.2ｍを測る円形土坑で、土坑壁体上位には幅15㎝程度のテラス部分があり、壁体下位はすり鉢状を呈する。土坑中位付近には径10～20㎝大の河原石がレンズ状に堆積し（厚さ20㎝）、土坑下部は径2～5㎝大の小礫と砂が互層堆積をなす。遺物は土坑上位付近から、弥生時代中期後半の甕形土器や壺形土器の破片が少量出土した。性格は断定しえないが、土坑下部は滞水状態にあったものと考えられることから、ため池もしくは井戸の可能性がある。

【古墳時代】11棟の竪穴式住居址は、時期別にみると古墳時代中期初頭1棟（SB1）、中期前半4棟（SB2・10～12）、中期後半2棟（SB3・5）、後期前半4棟（SB6～9）となる。平面形態はすべて方形を呈し、規模は一辺5ｍ前後のものと、6ｍを超えるものとがある。すべての住居址には床面修復のための貼床が施されており、4棟の住居址（SB5・8・10・11）には造り付けのカマドが付設されていた。遺物は住居址埋土中及びカマド内より、土師器、須恵器のほか装飾品（ガラス玉、臼玉）が出土した。特に、SB1・2からは貼床上面、つまり住居廃絶時の床面から完形の小型丸底壺が1点ずつ出土し、SB10で

はカマド内に高坏が倒立した状態で出土したほか、埋土中より臼玉17点とガラス玉1点とが出土した。掘立柱建物址（掘立１～5）は２～３間×３間規模のもので、竪穴式住居埋没後に構築されたものが大半を占める。出土遺物と第Ⅳ層が建物柱穴を覆うことから、概ね古墳時代後期以降の建物址と考えられる。

【中　世】掘立６は１×２間の小規模な建物址で、倉庫的な性格をもつものと考えられる。柱穴出土遺物から、中世、14 世紀代の遺構と考えられる。

小　結　調査では、弥生時代から中世までの遺構や遺物を確認した。特に、古墳時代では中期初頭から後期にかけて住居の重複や建て替え等がみられることから、樽味地区における古墳時代の集落経営が継続的かつ活発におこなわれていたことがわかる。また、カマド内や貼床上面から出土した完形品や装飾品は、住居廃絶に伴う祭祀行為に使用された可能性が高い。今後、樽味地区における古墳時代住居の構造や廃絶方法を考えるうえで今回の調査成果は貴重な資料といえよう。

写真１　現地説明会　（北より）

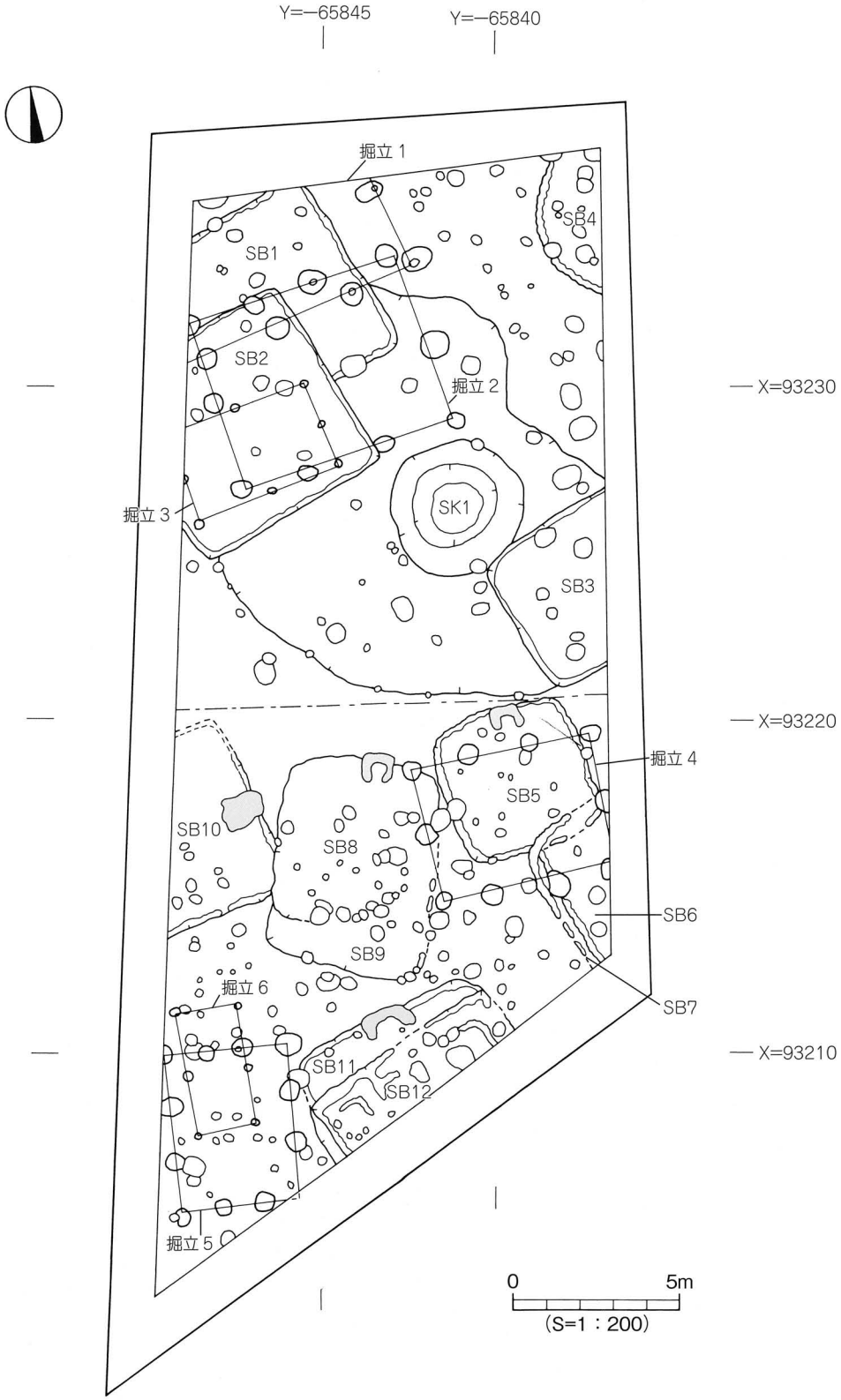

Y=−65845
Y=−65840
掘立 1
SB4
SB1
SB2
掘立 2
X=93230
掘立 3
SK1
SB3
X=93220
掘立 4
SB5
SB10
SB8
SB6
SB9
掘立 6
SB7
SB11
X=93210
SB12
掘立 5
0
5m
(S=1：200)

図２　遺構配置図

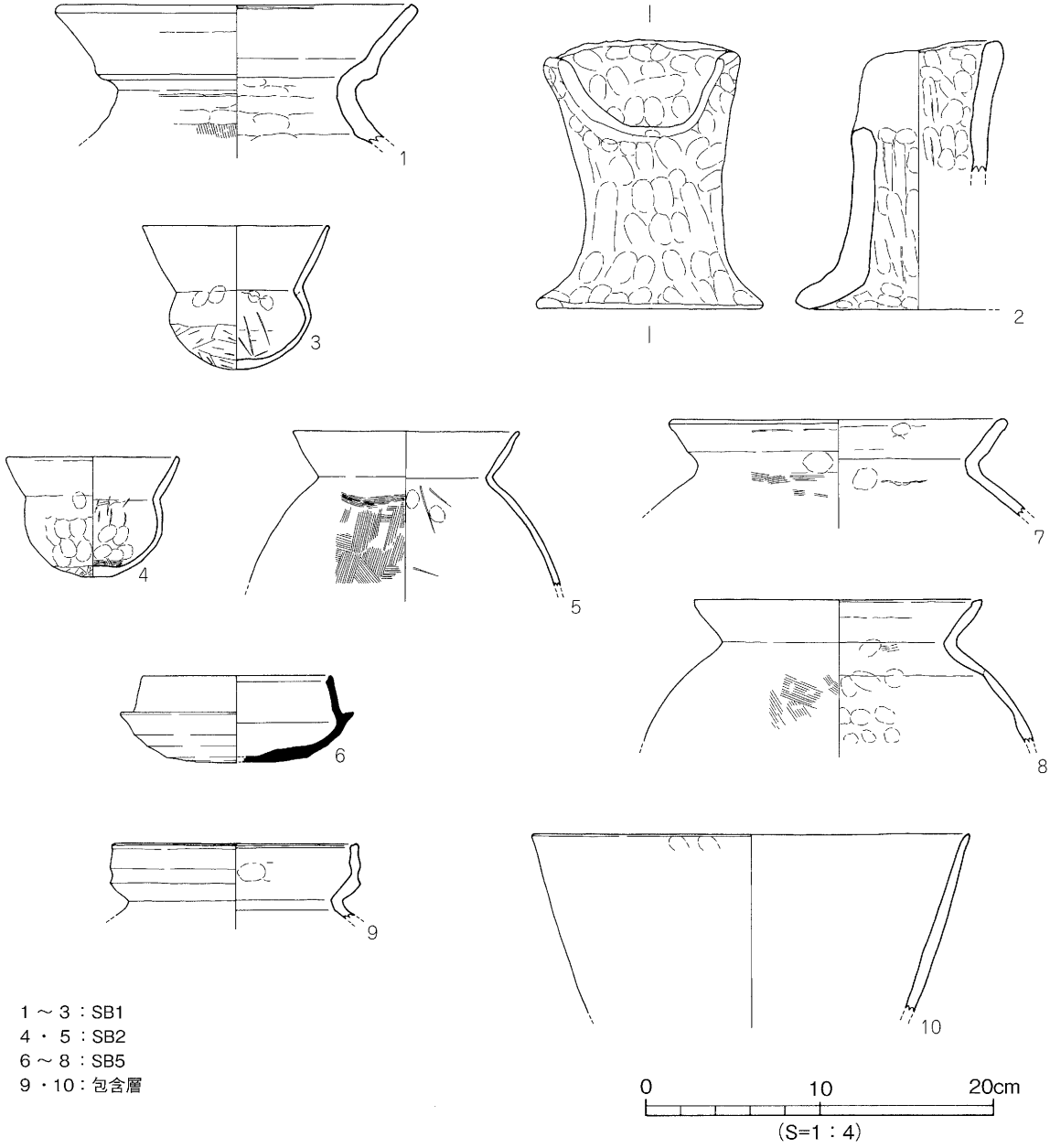


図３　出土遺物実測図

写真 2　北半部完掘状況　（北東より）

写真 3　南半部完掘状況　（北より）

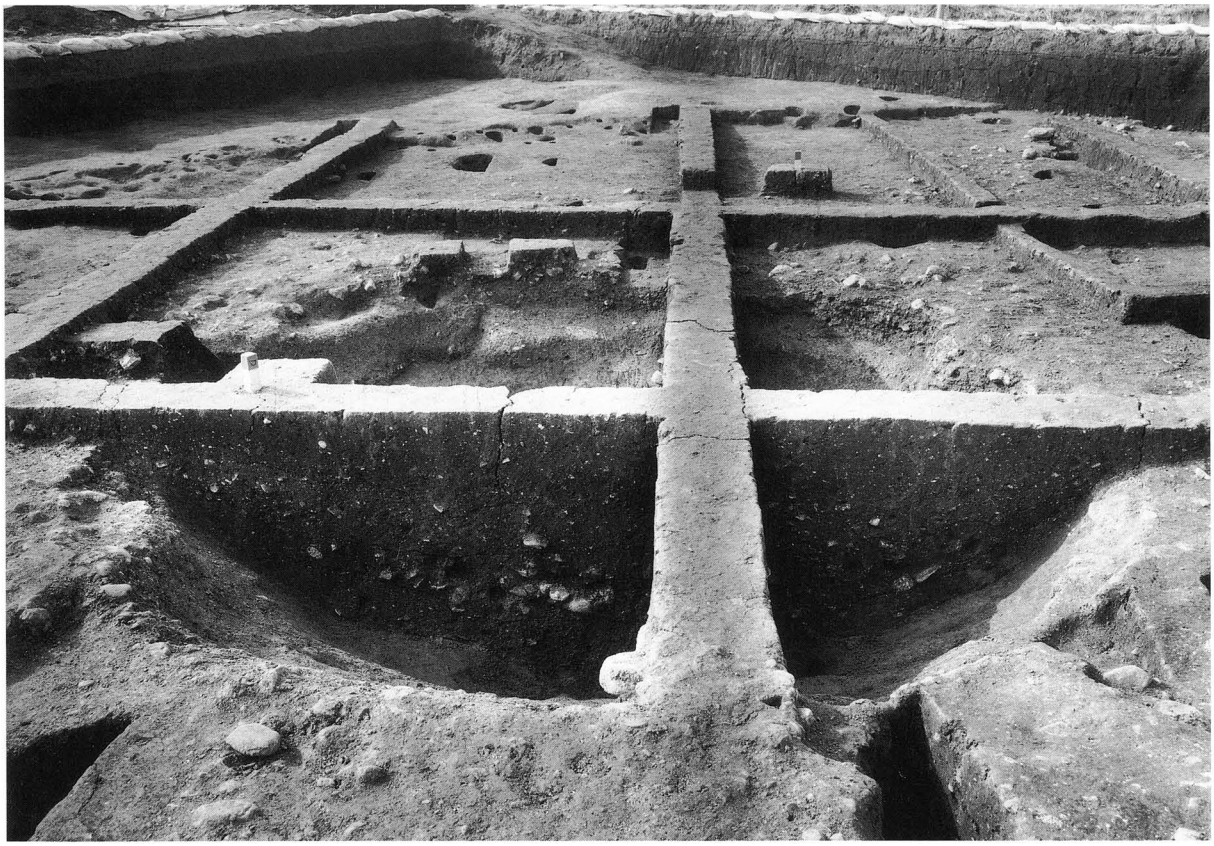


写真 4　SK1 検出状況　（北東より）

写真 5　SB11 カマド検出状況　（南東より）

東本（つかもと）遺跡８次調査地

所在地　松山市東本１丁目116番６
期　間　平成18年10月２日～同年10月31日
面　積　176.05㎡
担　当　宮内慎一

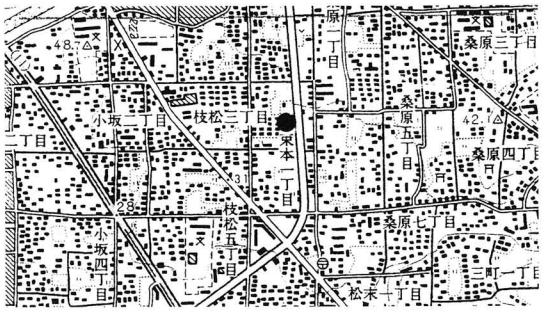


図１　調査地位置図

経　過　本調査は、松山市が指定する埋蔵文化財包蔵地『№83枝松遺物包含地』内において、個人住宅建設にあたり国からの補助を受けて実施したものである。調査地は、松山平野北東部、標高34.4ｍに立地し、調査以前は既存宅地である。調査地周辺では東本遺跡４次調査地や、市道中村桑原線建設工事に伴う数多くの発掘調査が実施され、弥生時代から中世までの集落関連遺構や遺物が多数確認されている。

遺構・遺物　基本層序は、第Ⅰ層造成土（層厚15～20㎝）、第Ⅱ層耕作土（層厚15～30㎝）、第Ⅲ層黄褐色土（層厚３～10㎝）、第Ⅳ層暗灰黄色土（層厚２～５㎝）、第Ⅴ層黒灰色砂質土（層厚10～15㎝）、第Ⅵ層黒色粘質土（層厚10～15㎝）、第Ⅶ層暗褐色粘質土（層厚５～20㎝）、第Ⅷ層茶褐色粘質土（層厚10～15㎝）、第Ⅸ層褐色粘質土（層厚５～10㎝）、第Ⅹ層暗褐色土〔AT火山灰混入〕（層厚10～15㎝）、第XI層AT火山灰層（層厚20㎝以上）である。このうち、第Ⅳ層・Ⅴ層は弥生時代から古墳時代までの遺物を含む包含層である。検出した遺構は弥生時代のもので、竪穴式住居址１棟、溝３条、土坑２基、ピット７基である。遺構は第Ⅵ層及び第Ⅶ層上面で検出したものである。遺物は弥生土器（中期後半～末）、土師器（古墳～中世）、須恵器（古墳～古代）、石器が出土した。以下、主な遺構について概略を説明する。

SB1：検出長3.5ｍを測る方形住居址で、住居壁体に沿って幅１ｍ、高さ15㎝のベッド状遺構（地山削出）を付設している。また、住居床面及びベッド上面には貼床（AT火山灰を含む黒色土を使用）が施されている。遺物は住居床面及び埋土上位から、甕形土器や鉢形土器（復元完形品）、砥石が出土した。遺物より、SB1の時期は弥生時代末とする。

SD1：SB1に先行する南北方向の溝で、深さ15㎝を測り、断面形態は浅い逆台形状を呈する。第Ⅵ層掘削時にSD1上面付近から比較的まとまって弥生土器が出土した。出土遺物と切り合いより、SD1の時期は弥生時代後期後半とする。

小　結　稀少範囲の調査ではあるが、弥生時代集落の広がりやAT火山灰の検出など、大きな成果が得られた。特に、第Ⅵ層黒色粘質土上面での遺構検出が今回の調査成果の大きな要因となっている。今後、調査地周辺の発掘調査において、調査方法に関するひとつの指標を与えたものといえよう。

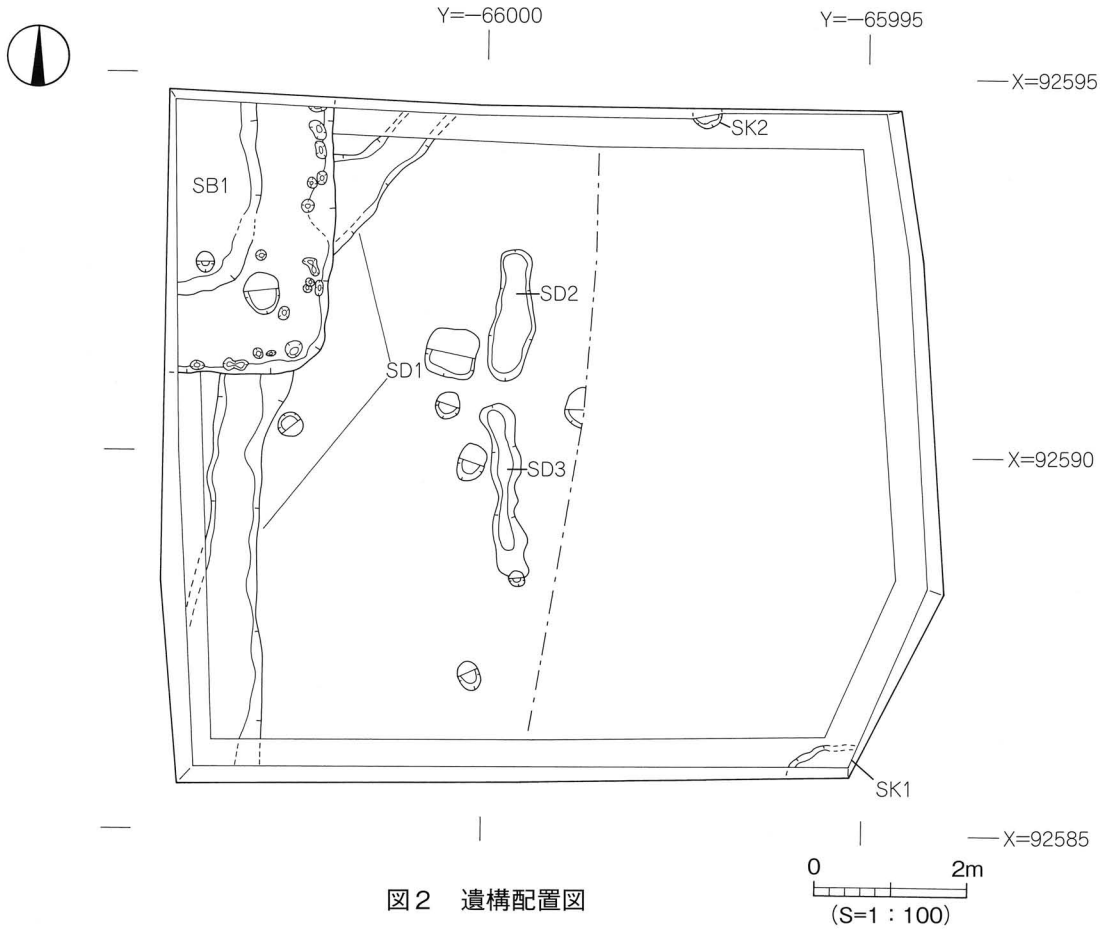


図２　遺構配置図

写真１　SB1 検出状況　（北東より）

小坂七ノ坪（こさかななのつぼ）遺跡４次調査地

所在地　松山市小坂２丁目465番３
期　間　平成18年４月17日～同年４月28日
面　積　52.125㎡
担　当　小笠原善治・橋本雄一・栗田正芳（文化財課）

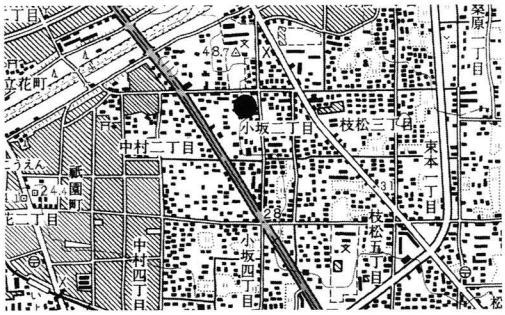


図１　調査地位置図

経　過　本調査は、松山市小坂２丁目465番３における宅地造成に先立ち、国庫補助事業として調査を行った。当地は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『№110釜ノロ遺跡』内にあたる。

調査地周辺では、これまで数多くの発掘調査が行われており、西には中村松田遺跡１・２次調査地、北に近接する素鷲小学校構内遺跡を初めとする小坂七ノ坪１～３次、小坂遺跡、そのほか中村遺跡、小坂釜ノロ遺跡、枝松遺跡７～10次調査地など、各時代にまたがる数多くの遺跡が報告されており、石手川左岸流域でも比較的遺跡密度の高い重要な地域である。発掘調査は主に弥生時代から古代までの当該地および周辺地城の集落構造解明を主目的として開始した。

遺構・遺物　基本調査地は松山平野を西流する石手川の左岸約300mの扇状地に立地し、標高約29.2m（地表面）を測る。調査は行程の都合上排土を場内で処理するため二度にわたって掘削し、排土を移動しながら調査を行った。また調査区は５区に分かれ各々「Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ」区と呼称した。基本層位は、第Ⅰ層造成土、第Ⅱ層耕作土－灰褐色土（やや砂質）、第Ⅲ層床土－明黄褐色砂質土、第Ⅳ層にぶい黄橙色土（やや砂質）＋黄灰色を帯びる、第Ⅴ層にぶい黄橙色土（細砂）、第Ⅵ層にぶい黄橙色土（やや砂質）、第Ⅶ層にぶい黄橙色土＋褐灰色土（やや砂質）＋にぶい黄褐色土＋明赤褐色土粒含む（粘質強い）、第Ⅷ層黒色土、第Ⅸ層にぶい褐色土（やや砂質）、第Ⅹ層灰褐色土（暗褐色土粒混じる）である。遺物は第Ⅷ層黒色土より弥生土器・須恵器の小片が出土している（図４）。検出遺構は、Ｂ区より小柱穴１基で第Ⅸ層より検出した。この小柱穴はＢ区東壁にわずかにかかる位置で検出した。柱穴の規模は直径23cm前後のほぼ円形を呈し、深さ15cmを測る。埋土は、灰黄褐色土（砂質含む）である。遺物の出土はない。柱穴の時期は、遺構からの出土遺物もなく特定は困難であるが、層位的には中世以前のものと考えられる。

小　結　本調査地の近隣遺跡には、中村松田遺跡、素鷲小学校構内遺跡および小坂七ノ坪遺跡１～３次調査地、また南方には釜ノロ遺跡、東に枝松遺跡があげられる。これらの調査では、本調査地周辺において弥生時代中・後期の遺物分布が東に向かって徐々に希薄になって行く事が確認されている。また、田崎［1997］によれば、石手川南岸での弥生時代中期後葉～後期の遺跡の動向は、小規模な集落が数百ｍ離れて点在するという景観が想定されている。以上の周辺の遺跡状況を踏まえ、今回の調査結果から本遺跡は、中村松田遺跡から小坂七ノ坪遺跡を含む集落の南限部に相当するものと考えられる。ただし、調査前の試掘結果によれば、検出された土坑（住居址？）は申請地の中央に位置し、今回の調査に於いては建物基礎埋設部分が対象範囲であり、当該部分は調査対象範囲外であることから調査は行えず未確認である。今後、周辺地域のさらなるデータの積み重ねによって、弥生期の遺跡

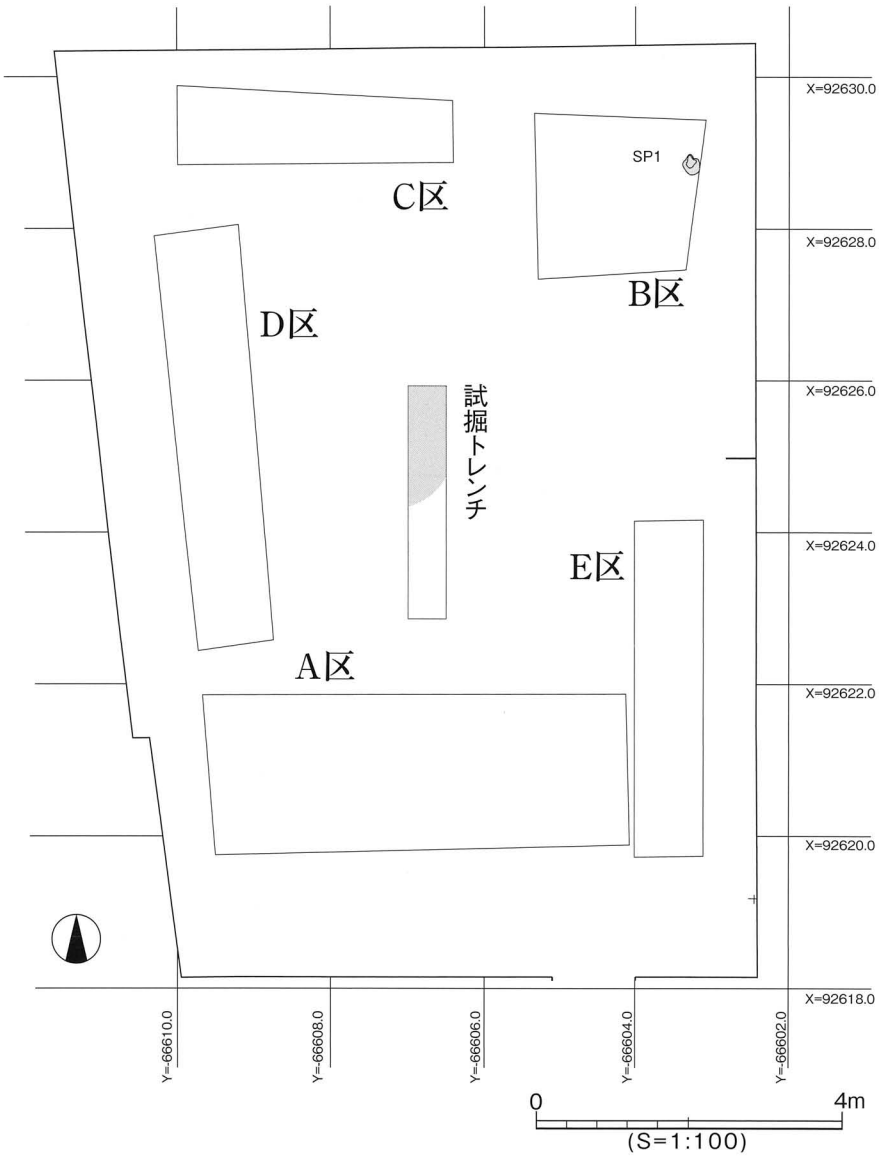


図２　調査区配置図

の動態、旧地形等より詳細な事実が明らかになるものと思われる。また、今回は明確な古代の遺構・遺物の検出が無く、以前より指摘される奈良～平安時代に盛期を持つ集落および白鳳寺院址中村廃寺関連を示唆するには至らなかった。今後の周辺地域の調査に期待したい。（小笠原）

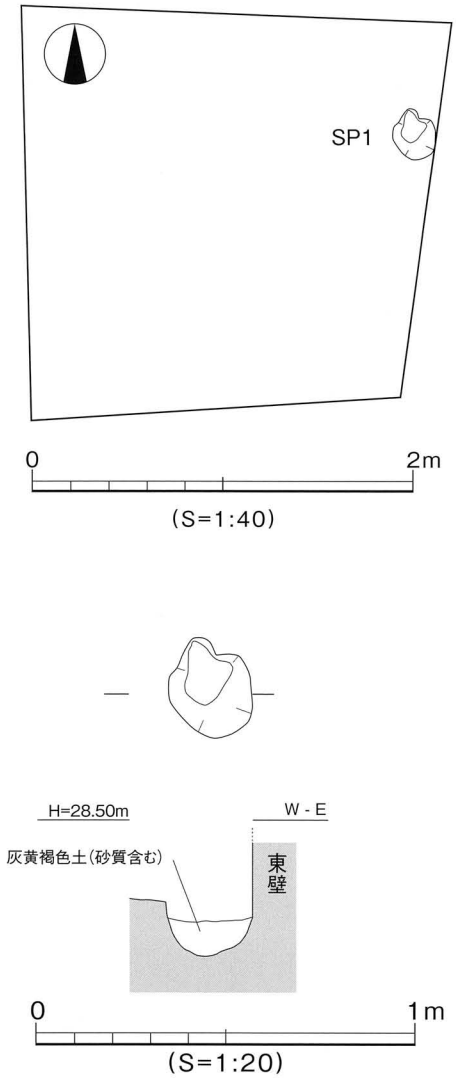


図３　Ｂ区遺構配置図・ＳＰ１測量図

図４　第Ⅷ層出土遺物実測図

写真１　調査前風景　（西より）

写真２　Ｂ区 SP1 半掘状況　（南より）

小坂（こさか）遺跡

所在地　松山市小坂二丁目210番1
期　間　平成18年2月1日～同年4月28日
面　積　549㎡
担　当　相原浩二・山之内志郎

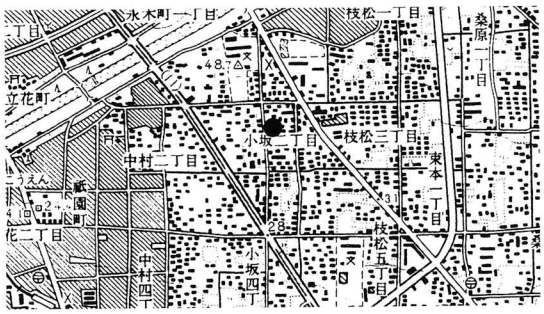


図1　調査地位置図

経　過　本調査は、松山市道中村桑原線道路改良工事に伴う事前発掘調査である。調査地は、松山平野東部、標高約29mに立地し、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『№110釜ノ口遺跡』内にある。調査地の北には素鵞小学校構内遺跡のほか小坂七ノ坪遺跡、北西には中村松田遺跡などがあり、弥生時代後～終末期、古墳時代中～後期を中心とした集落関連遺構が確認されている。

遺構・遺物　調査前の現況は駐車場用地として利用されていたため、約60～100cmの造成土が調査地全域を覆っていた。基本層位は、第Ⅰ-①層造成土、第Ⅰ-②層真砂土、第Ⅱ層灰色土（耕作土）、第Ⅲ-①層明灰色土（旧耕作土）、第Ⅲ-②層黄色ブロック土が混じる明灰色土、第Ⅳ層黒色土、第Ⅴ層褐色粘質土、第Ⅵ-①層黄褐色土、第Ⅵ-②層黄色微砂質土、第Ⅵ-③層黄灰色微砂質土、第Ⅶ層灰色微砂質土である。第Ⅴ層以下は、いわゆる地山と呼ばれる層である。周辺調査の結果より、第Ⅳ層はアカホヤ火山灰の堆積層、第Ⅵ-①～③層はAT火山灰の堆積層と考えられる。遺構の検出は第Ⅲ-②層上面及び第Ⅳ層上面で行った。調査の結果、中世と近世の遺構・遺物を検出した。検出した遺構は、掘立柱建物址3棟、畠3枚、土坑8基、溝39条、柱穴135基である。なお、調査は東より1～3区に3区分して行った。

中世の主な遺構は、掘立1・2のほかSK1などがある。掘立1は規模1間×1間以上で、現在長2.30×1.50m以上を測る建物と考えられる。柱穴の埋土は灰色土である。出土遺物には陶磁器と土師器があり、P2内部からは青磁碗が1点出土している。13世紀後葉～14世紀前葉に埋没したものと推定される。掘立2は掘立1とほぼ同規模の建物で、柱穴埋土も同一であることから推定して、掘立1と同時期に埋没したものと推定される。SK1は平面形態が隅丸方形、断面形態が舟底状を呈する。規模は長軸1.00m、短軸0.80m、深さ21.7cmを測る。埋土は2層に分かれ、第1層黄灰色微砂質土、第2層灰色粘質土である。土坑内より土師器皿が出土している。出土遺物から13世紀と考えられる。

近世の主な遺構は、畠1～3のほか掘立3・SD2などがある。畠1～3はいずれも調査区中央部～西部に位置し、東西方向に伸びて西側調査区外へ続く。畝列は上位を後世に削平されていたため溝列のみを検出した。溝の平面形態は隅丸長方形を呈し、長軸平均1.60～1.70m、短軸0.20～0.40mを測る。断面形態はレンズ状又は皿状を呈している。埋土は褐色土混じりの暗灰色土である。出土遺物は溝内から陶磁器や土師器、土師質土釜が出土したほか、畠1から滑石製将棋駒が1点出土している。遺構の時期は出土遺物より江戸期以降に埋没したものと推定される。掘立3は規模2間×6間以上で、桁行長12.90m、梁行長4.20m以上を測る東西棟の建物と考えられる。柱穴の埋土は灰色土である。出土遺物には陶磁器や土師器坏、土師質土釜がある。

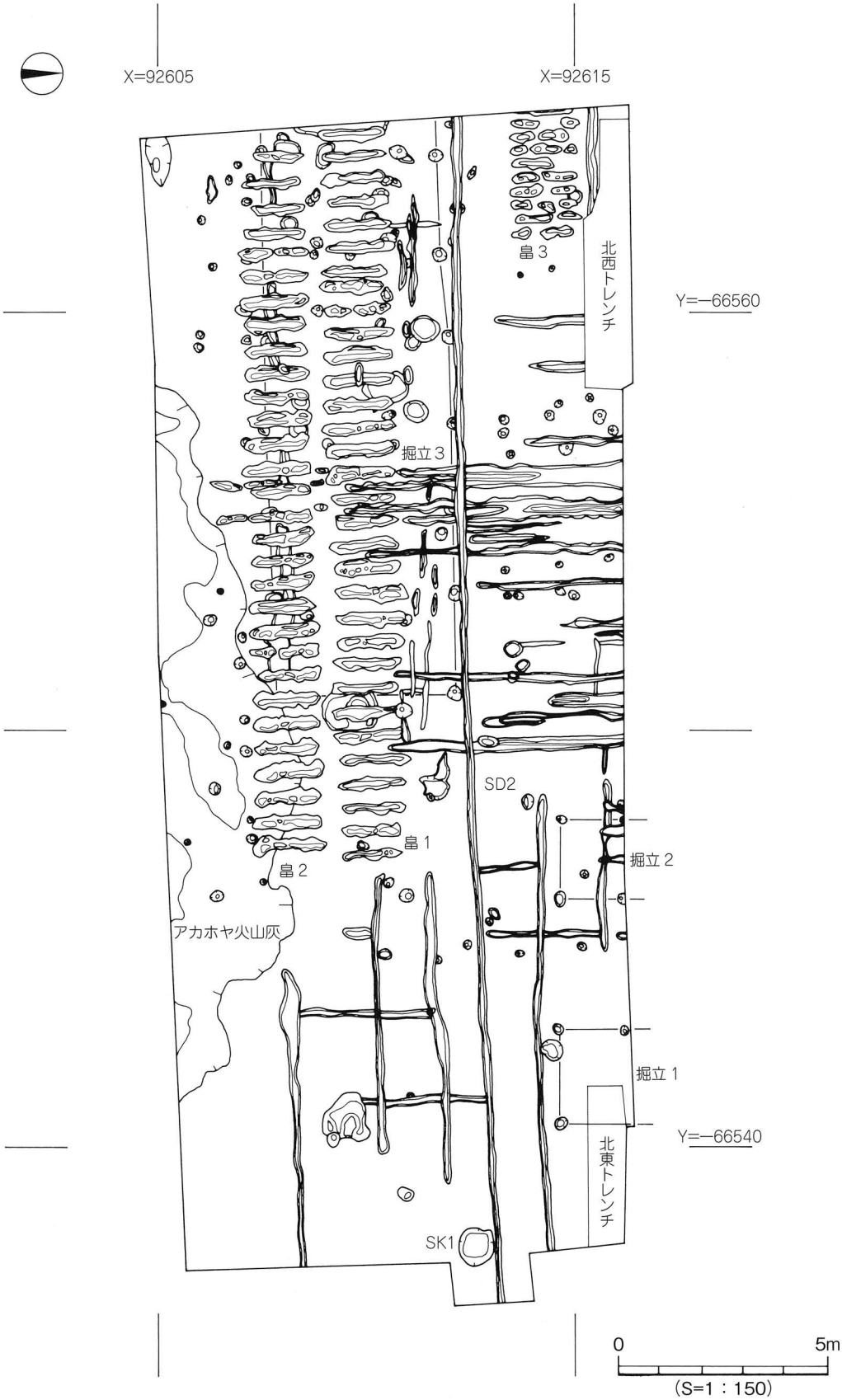

X=92605
X=92615
Y=−66560
Y=−66540
北西トレンチ
北東トレンチ
畠3
畠1
畠2
掘立3
掘立2
掘立1
SD2
SK1
アカホヤ火山灰
0
5m
(S=1：150)

図2　遺構配置図

小　結　今回の調査では、中世や近世の遺構と遺物を確認することができた。中世においては掘立1・2のように整然と建て並べられた建物配置の状況から、中世集落の一端を垣間見ることができる。また近世では、江戸期以降の畠を確認したことで、従来未確認であった周辺地域における生産域を特定できた点で評価されるものであろう。また畠1・2と畠3の間隙に東西に伸びるSD2は配置状況から水路的な役割を持っていたと推定される。今後は周辺域における調査によって更に中世～近世集落の構造とその変遷の解明を進めていきたい。(山之内)

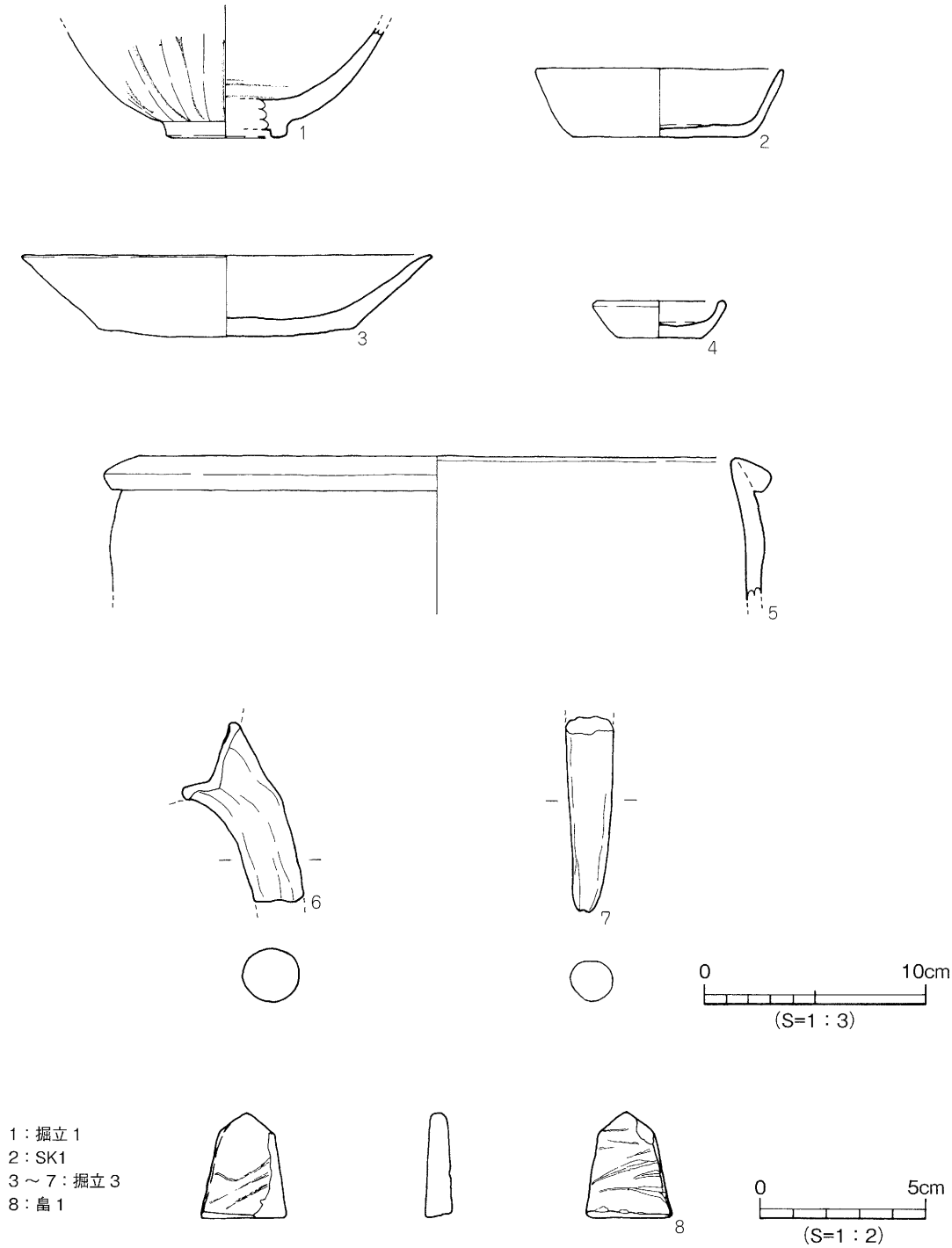


図3　出土遺物実測図

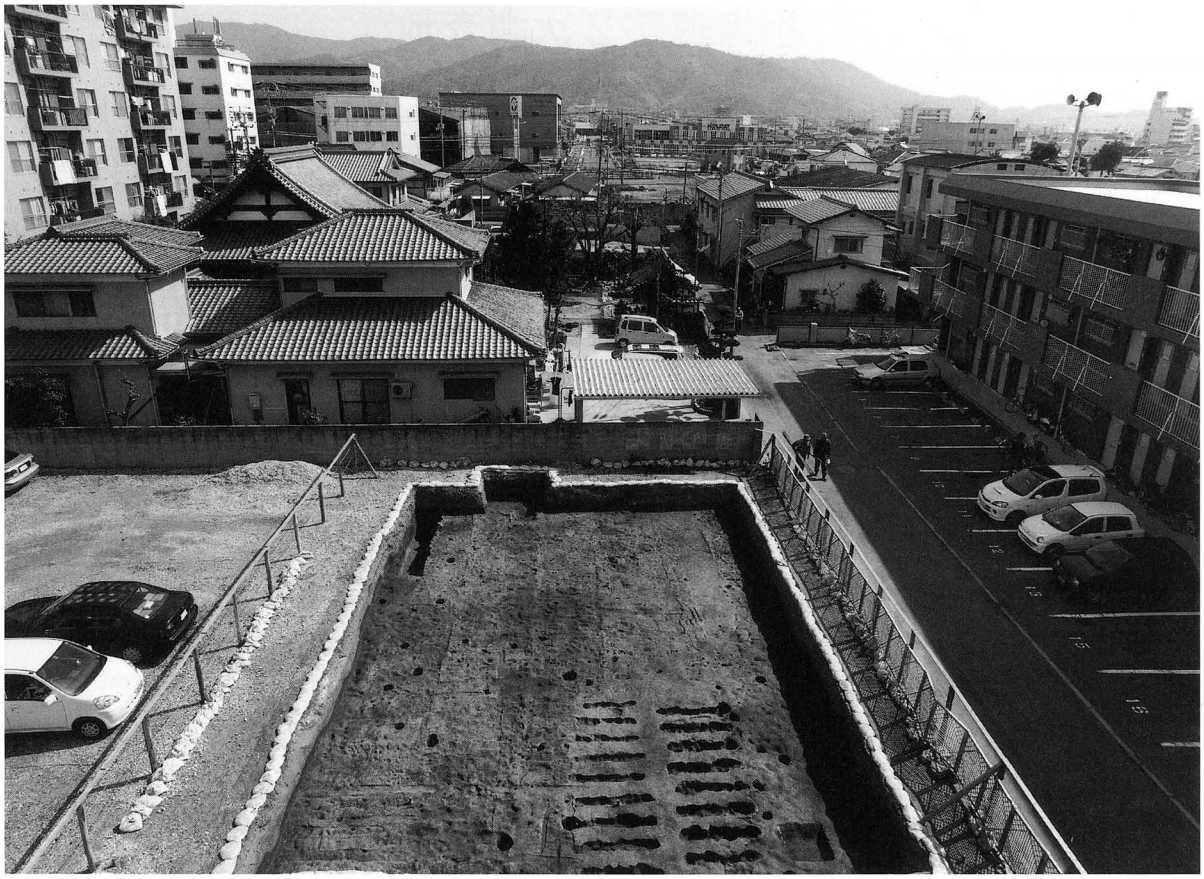


写真１　１区完掘状況　（西より）

写真２　畠１・畠２完掘状況（北西より）

小坂（こさか）遺跡２次調査地

所在地　松山市小坂二丁目 208 番１外
期　間　平成 18 年６月１日～同年７月 31 日
面　積　600 ㎡
担　当　相原浩二・山之内志郎

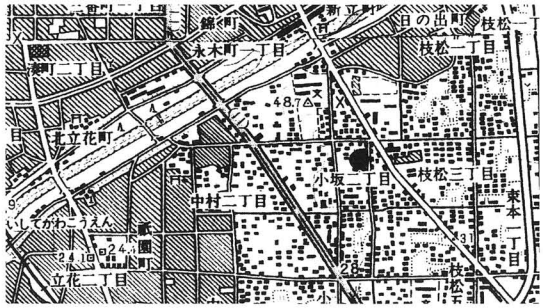


図１　調査地位置図

経　過　調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『№110 釜ノ口遺跡』内における松山市道中村桑原線道路改良工事に伴う事前発掘調査である。調査地は、石手川の氾濫によって形成された扇状地上の標高 30.30 m に立地する。調査地周辺は中村松田遺跡、七ノ坪遺跡、素鵞小学校構内遺跡などこれまでに数多くの調査が行われ、弥生時代～古墳時代にかけての集落関連遺構が確認されている地域である。また、調査地西の隣地には多聞院があり、寺内には地蔵尊が祀られている。地蔵尊には文中３（1374）年の銘があり、在銘の石地蔵尊では松山市でいちばん古く、松山市指定の有形文化財となっている。

試掘調査によって、弥生時代と中世の遺構･遺物が確認されたため本格調査を実施する事となった。調査にあたっては、掘削した土砂置き場の確保と調査地内の地割り状況から調査地を東から１区、２区とし二区画に分けて調査を行った。

遺構・遺物　調査地の基本層序は１区、２区とも上から第Ⅰ層造成土、第Ⅱ層青灰色土、第Ⅲ層赤黄色土、第Ⅳ層黒褐色土、第Ⅴ層茶褐色土である。第Ⅱ層は、現代の耕作土である。第Ⅲ層中には、土師器の小片が混在する。第Ⅳ層は、現代の耕作等により北側では失われている。第Ⅳ層中からは遺物は出土していない。第Ⅴ層以下は、地山と呼ばれる層である。遺構の検出は、第Ⅴ層上面で行った。

１区は調査地の東側に位置し、調査前の現況は宅地である。検出した主な遺構は溝（SD）２条、土坑（SK）３基、柱穴（SP）11 基、倒木跡１基である。出土遺物は弥生土器、土師器、須恵器が出土している。このうち弥生時代の遺構には、溝 SD101 と土坑 SK102 がある。SD101 は、調査区の東側で検出した南北方向に流れる溝である。埋土は赤灰色砂である。検出規模は長さ 11.60 m、幅 0.40 m～1.00 m、深さ 0.06 m～0.11 m を測る。出土遺物は、複合口縁壺が出土している。SK102 は調査区の中央部で検出した土坑である。西側は、現代坑に切られるため全容は不明である。埋土は暗褐色土である。検出規模は長軸 1.04 m、短軸 0.40 m、深さ 0.04 m～0.08 m を測る。出土遺物は、土器片のみであった。時期は、出土遺物より両遺構とも弥生時代後期後半～終末と考えられる。他の遺構については、遺構の埋土色が灰色を呈する事から中世以降の遺構と考えられる。

２区は調査地の西に位置し、調査前の現況は宅地である。検出した主な遺構は柱穴(SP)29 基である。遺構の埋土色はすべて灰色を呈する。遺物は土師器、青磁、硯が出土している。硯は、SP219 の埋土中からの出土である。SP219 は、調査区の西側で検出した。遺構の一部が調査区外となるため全容は不明である。検出規模は長軸 30 ㎝、短軸 12 ㎝、深さ 30 ㎝を測る。硯のほか出土した遺物は、土師器、青磁が出土した。時期は出土遺物から 14 世紀と考えられる。

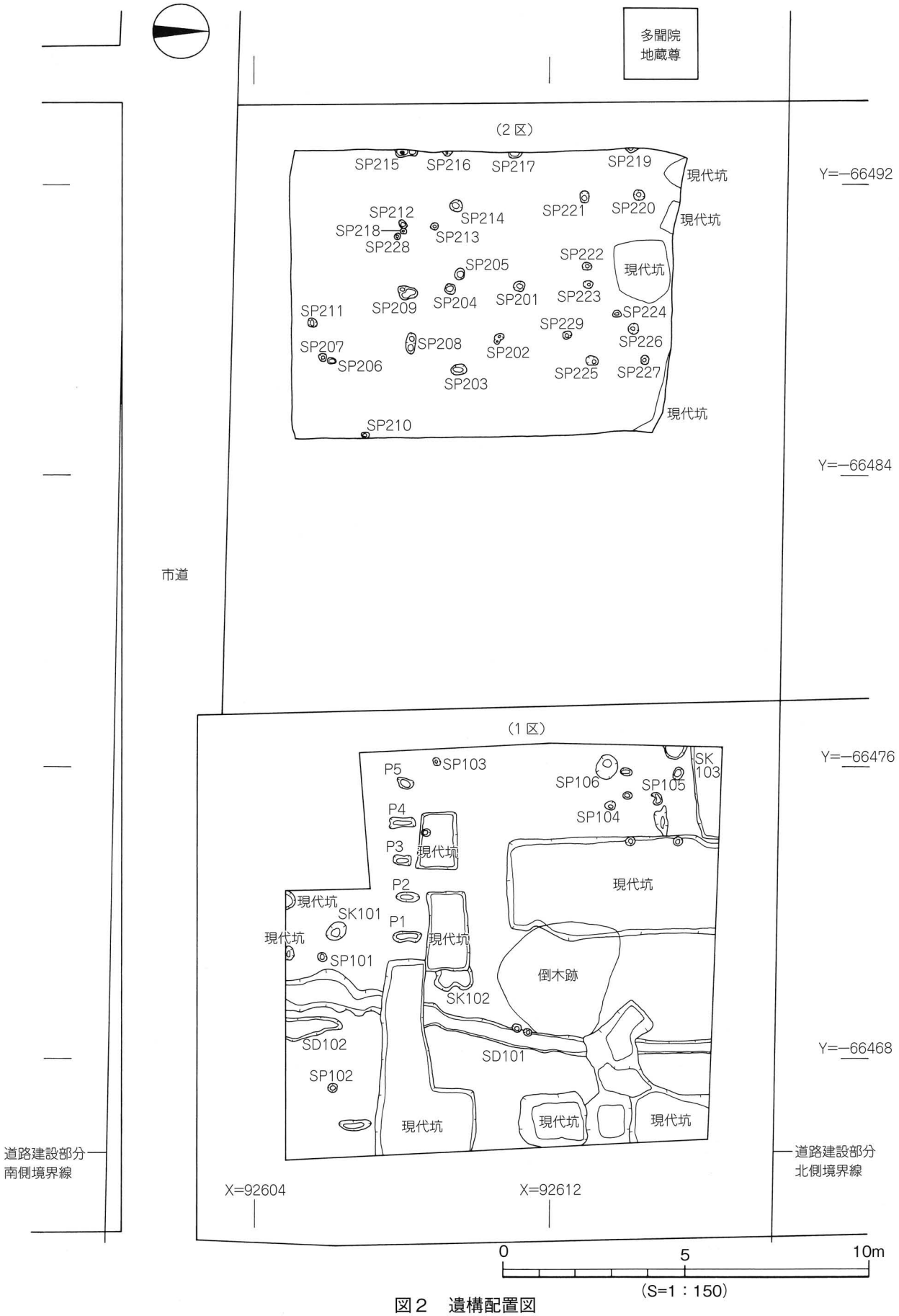
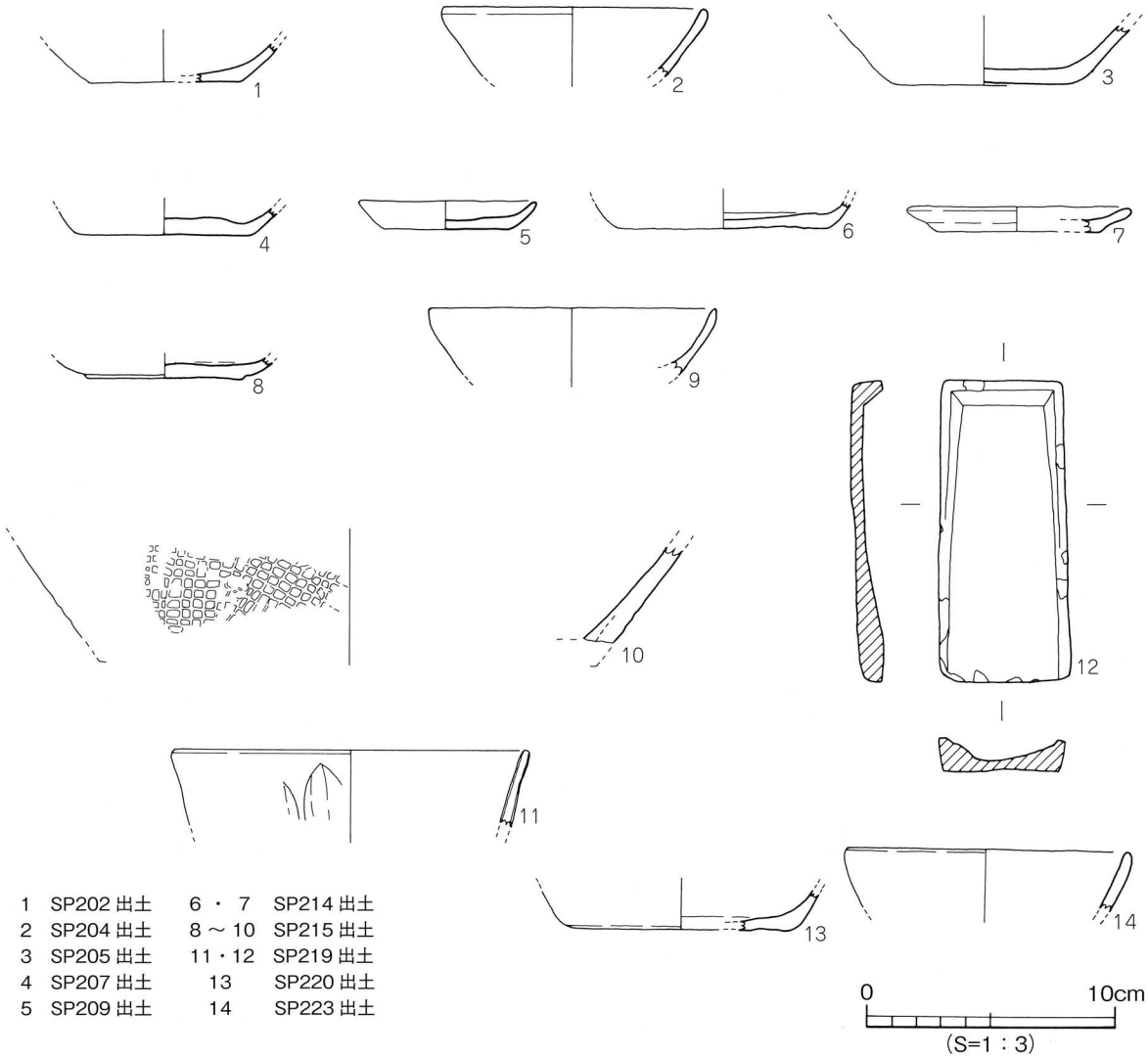

多聞院
地蔵尊
(2区)
SP215
SP216
SP217
SP219
現代坑
SP212
SP214
SP221
SP220
現代坑
SP218
SP213
SP228
SP222
SP205
現代坑
SP209
SP204
SP201
SP223
SP211
SP224
SP229
SP226
SP207
SP208
SP202
SP206
SP225
SP227
SP203
現代坑
SP210
Y=−66492
Y=−66484
市道
(1区)
P5
SP103
SP106
SP105
SK
103
Y=−66476
P4
SP104
P3
現代坑
現代坑
P2
現代坑
SK101
P1
現代坑
現代坑
SP101
倒木跡
SK102
SD102
SD101
Y=−66468
SP102
現代坑
現代坑
現代坑
道路建設部分
南側境界線
道路建設部分
北側境界線
X=92604
X=92612
0
5
10m
(S=1：150)

図２　遺構配置図

小　結　今回の調査では、弥生時代と中世の遺構・遺物を確認した。弥生時代では、１区において後期後半～終末にあたる溝と土坑を確認したのみで弥生時代の遺構は希薄であった。弥生時代後期においては、当調査地を挟んだ東側には束本遺跡を中心とする集落域があり、西側には中村松田遺跡を中心とする集落域がある。当調査地はこの二つの集落の境に立地していることを示すものといえる。

中世では、土坑や柱穴を多数検出した。これらの遺構は、出土遺物から14世紀と考えられるもので調査地周辺には、中世集落が展開するものと考えられる。（相原）



1	SP202 出土	6・7	SP214 出土
2	SP204 出土	8～10	SP215 出土
3	SP205 出土	11・12	SP219 出土
4	SP207 出土	13	SP220 出土
5	SP209 出土	14	SP223 出土

図３　２区出土遺物実測図

写真１　２区完掘状況（南より）

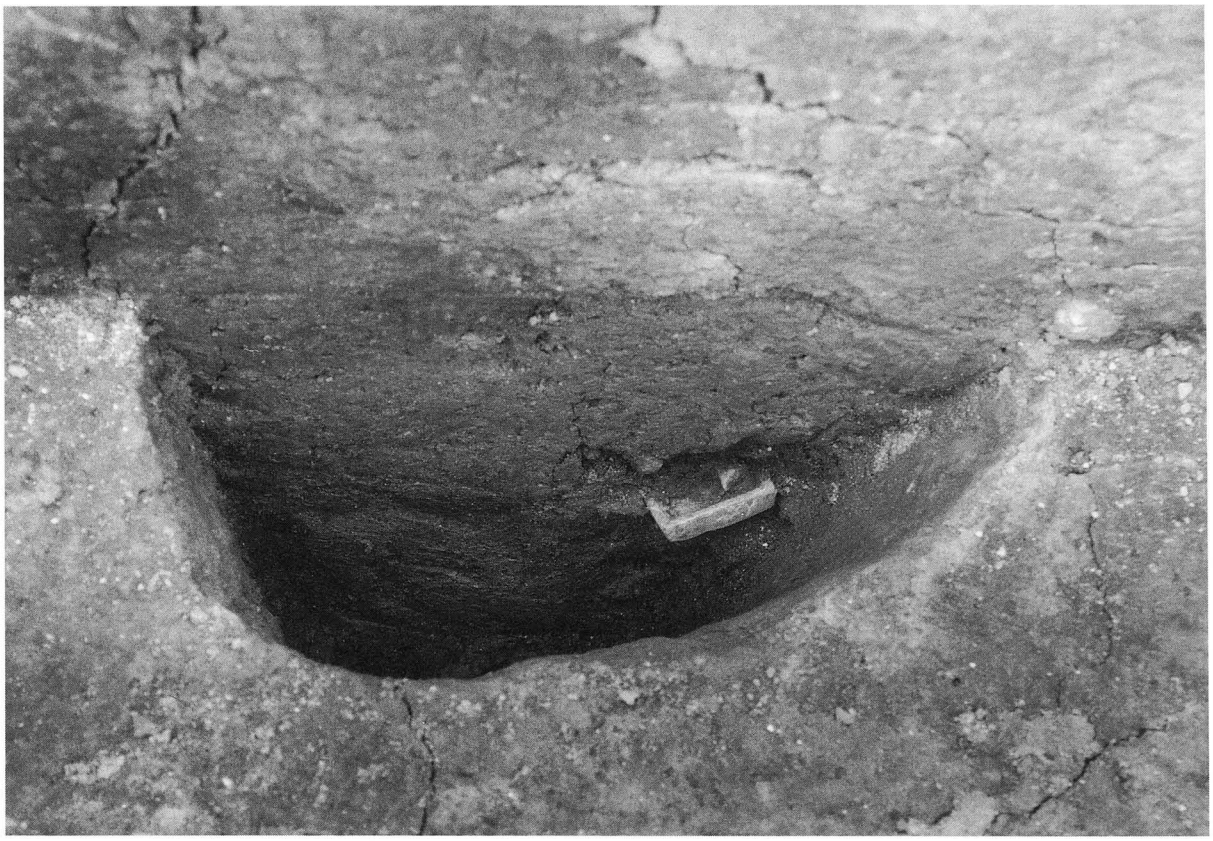


写真２　２区 SP219 遺物出土状況（東より）

小坂（こさか）遺跡３次調査地

所在地　松山市小坂二丁目468番2、467番1
期　間　平成18年10月2日～同年12月27日
面　積　700㎡
担　当　相原浩二

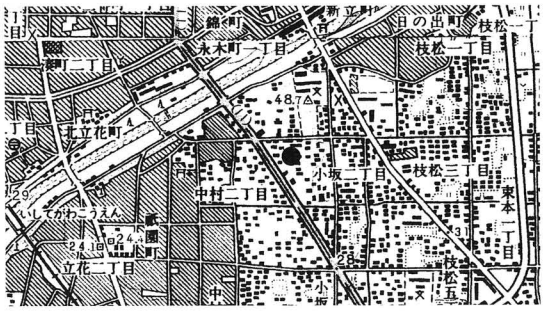


図１　調査地位置図

経　過　調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『№110釜ノ口遺跡』内における松山市道中村桑原線道路改良工事に伴う事前発掘調査である。調査地は、石手川の氾濫によって形成された扇状地上の標高28.20ｍに立地する。調査前の現状は、耕作地である。調査地の北西150ｍには弥生時代後期の竪穴式住居を検出した中村松田遺跡、北西50ｍには弥生時代後期の遺物が多量に出土した小坂七ノ坪遺跡３次調査地がある。小坂遺跡２次調査地からは西150ｍに位置する。

試掘調査によって古代の遺構・遺物が確認されたため本格調査を実施する事となった。調査にあたっては、掘削した土砂置き場の確保のため３回にわけて調査を行った。

遺構・遺物　調査区の基本層序は上から第Ⅰ層灰色土（耕作土）、第Ⅱ層明黄灰色土、第Ⅲ層灰褐色土、第Ⅳ層黒灰色土、第Ⅴ層暗茶褐色土である。第Ⅰ層は、現代の耕作土である。第Ⅱ層と第Ⅲ層中には、土師器の小片が混在する。第Ⅳ層は、調査地の北西部に層厚５㎝～11㎝が遺存する。遺物は出土していない。第Ⅴ層以下は、地山と呼ばれる層である。調査地の北西部を深堀した結果、AT火山灰の１次堆積層と２次堆積層を検出した。遺構の検出は、第Ⅳ層と第Ⅴ層上面で行った。

検出した主な遺構は溝（SD）２条、自然流路（SR）４条、土坑（SK）１基、柱穴（SP）１基、倒木跡４基である。出土遺物は弥生土器、土師器、須恵器、緑釉陶器などが出土している。以下、主な遺構について記述する。

SD1は、調査区の東側で検出した。南北方向と東西方向に数条に分岐する溝である。埋土は、暗灰色土、灰色砂である。検出規模は最長13.10ｍ、幅0.88ｍ～1.95ｍ、深さ0.14ｍ～0.36ｍを測る。遺物は須恵器が出土している。

SR1は、調査区の中央部で検出した。南北方向に流れる流路でSD1の一部と合流する。検出規模は長さ12.60ｍ、幅5.62ｍ～6.05ｍ、深さ0.38ｍ～0.72ｍを測る。遺物は弥生土器、土師器、須恵器、銅製品などが出土している。時期はSD1、SR1とも出土遺物より10世紀には埋没したものと考える。

小　結　今回の調査では、古代の溝や自然流路を検出した。溝SD1は調査区の東側で検出され、数条に分岐する。溝底には砂層の堆積がみられ、水が流れていたことを示す。自然流路SR1は、調査地の中央部を南北に流れる。砂層の堆積が厚くみられ、水量は多かったものと推測される。このSR1とSD1は、一部が合流しているが平面精査からは切り合いを確認することができず同時期に埋没したものと思われる。今回検出した溝は、どのような役割を果たしたかは明確にはできなかった。今後は、遺構の性格究明が課題である。

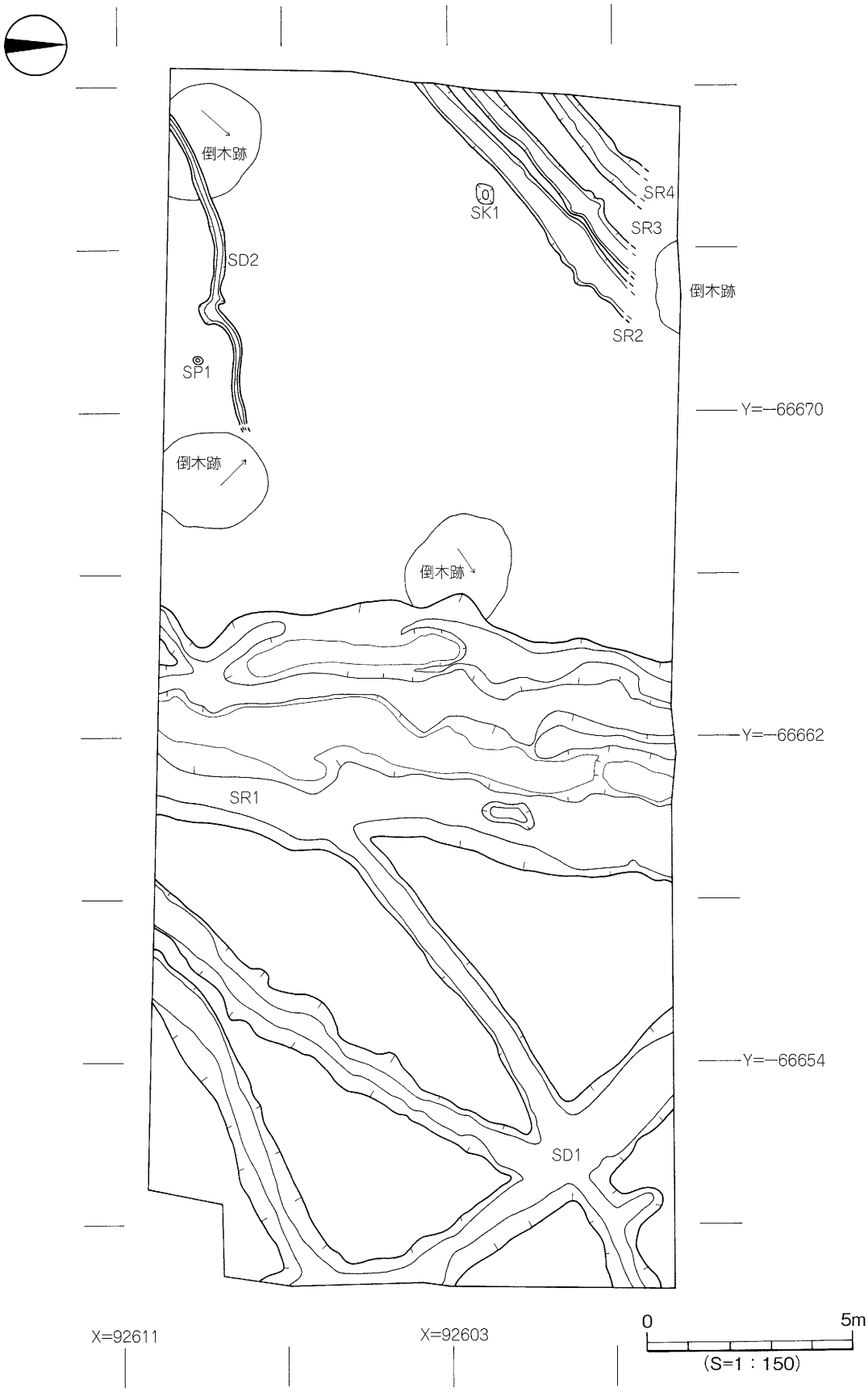

倒木跡
SK1
SR4
SR3
SD2
倒木跡
SR2
SP1
Y=−66670
倒木跡
倒木跡
Y=−66662
SR1
Y=−66654
SD1
X=92611
X=92603
0
5m
(S=1：150)

図２　遺構配置図

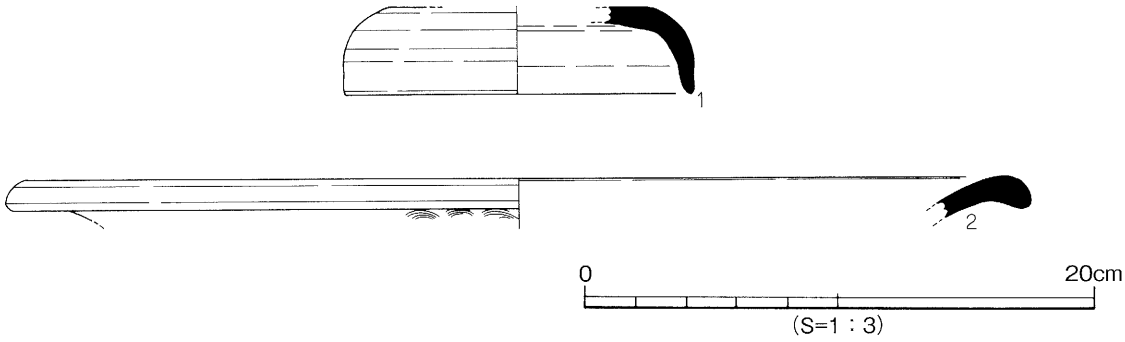


図３　SD1 出土遺物実測図

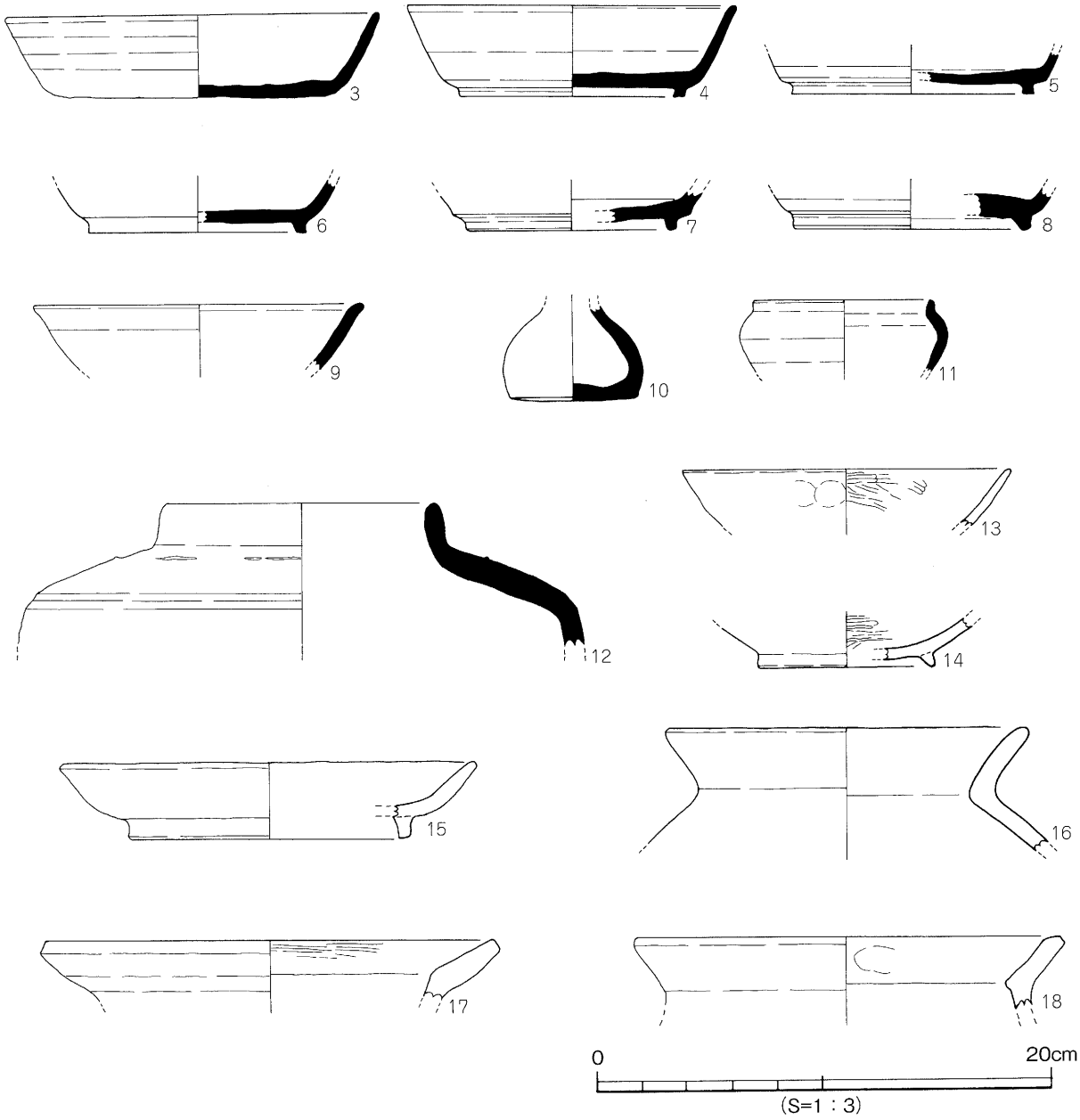


図４　SR1 出土遺物実測図

写真１　北側完掘状況（東より）

写真２　南側完掘状況（東より）

小坂（こさか）遺跡４次調査地

所在地　松山市小坂二丁目96番１の一部外
期　間　平成18年12月１日～平成19年１月31日
面　積　約780㎡
担　当　栗田茂敏・吉岡和哉

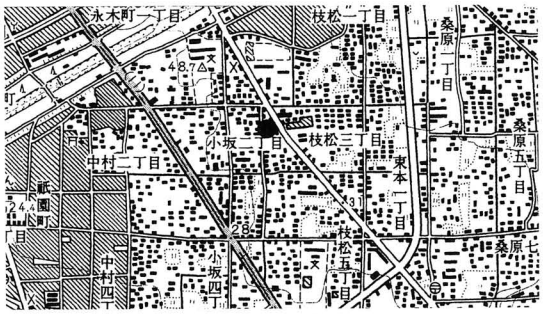


図１　調査地位置図

経　過　松山市道中村桑原線３工区道路改良工事に伴う調査である。この工区のほとんどの部分は松山市の指定する包蔵地『№110釜ノ口遺跡』内に位置しており、今回の対象地はこの包蔵地に隣接する部分にあたる。釜ノ口遺跡は、弥生時代後期を主体とした集落で、石手川左岸に展開する弥生遺跡群「久米遺跡群」の主要な一角をなす集落である。また、東方約0.5㎞にも束本遺跡といった、平野を代表する弥生後期～古墳初頭の集落遺跡が存在している。

遺構・遺物　調査地は、全面にわたって客土造成がなされ、現地表面から約１ｍはコンクリート片など廃棄物を多量に含んだ造成土である。この、造成土直下に旧水田耕土、床土があり、その下位に薄く淡褐色シルトの中世包含層、さらにその下位に暗褐色シルトの弥生遺物を含んだ包含層があるが、これらも部分的に散見される程度にまで削平されていた。この下面に遺構検出面となる明褐色シルト層（地山）が存在する。この遺構面も上層からの攪乱によって破壊されている部分が少なからずあった。検出された遺構の大部分は弥生時代後期のもので、これらに混在して中世以降の小柱穴が数基検出された。柱穴は総数44基の検出をみたが、弥生時代、中世以降ともに建物を復元できる配置での検出はなかった。

弥生時代の遺構の主なものには、竪穴住居SB1の１棟とSD1～３の３条の溝、円形土坑２基、不整形の窪みSX2がある。このうちSB1は、調査区東北部での検出、直径4.9～5.0ｍの円形住居で、中央やや南寄りに炉を持つ。壁体の立ち上がりは、遺存の良好な北東から東の部分でも３～４㎝程度と、ほとんど削平されている。周壁溝は検出されなかった。炉は、0.8×1.0ｍの東西に長い楕円形状を呈し、深さは最深部で25㎝のボウル状の掘り方である。主柱穴は４本、直径15～20㎝の柱痕跡が確認された。深さは80㎝程度ある。柱間は1.8～2.2ｍとバラツキがあり、精美な方形配置にはならない。出土した主な遺物には、弥生時代後期後半の壺、高坏、鉢などがある。溝のうち、最もまとまった遺物の出土をみたのはSD3、調査地東北隅で直線的に長さ５ｍ分が検出された。幅1.8ｍ、深さは20～30㎝程度ある。

小　結　今回の調査では、著しい削平や攪乱にもかかわらず、弥生時代の各遺構が検出された。出土遺物からすると、これらの遺構は弥生時代後期でも後半のものである。調査地東の県道松山・川内線を挟んで隣接する既往の調査地「枝松遺跡７次調査地」では、さほど多くはないが、それでも該期の溝や土坑が数基調査されており、これらの遺構が同じひとつの集落を形成していたものであろう。本調査で検出された溝は、人工的に掘削された区画溝のようなものと思われ、これらの区画の南あるいは東にSB1にみられるような居住域が展開していたものと考えられる。状況からすると、もとも

とそれほど密集度の高い集落ではなかったのかもしれない。あるいは、SB1の遺存状況にみられるように、削平により消滅した遺構が多かったのかもしれない。枝松遺跡７次調査地で多くみられた中世あるいはそれ以降の遺構がほとんど検出されなかったところからみると、後者の可能性が高い。いずれにしてもこの調査地が、やはり釜ノ口後期弥生遺跡群の一角をなす部分であったことは間違いない。（栗田）

写真１　調査地東部完掘状況（西上方より）

古川遺跡（ふるかわ）

所在地　松山市古川北二丁目277番3の一部
期　間　平成18年7月3日～同年9月29日
面　積　307.28㎡
担　当　相原秀仁

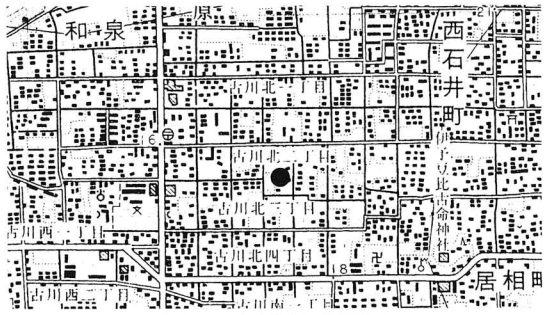


図1　調査地位置図

経　過　本調査は、松山市道北久米和泉線道路改良工事に伴う事前発掘調査である。調査地は松山平野南部、小野川と内川とに挟まれた沖積低地に位置し、標高16.20～16.80 mに立地する。周辺では、西石井荒神堂遺跡（1～3次調査）、石井幼稚園遺跡（1･2次調査）、南中学校構内遺跡などが存在し、西石井遺跡では、弥生時代から中世にかけての集落関連の遺構や遺物が多数確認されている。調査以前は既存宅地であった。

遺構・遺物　基本層位は、第Ⅰ層表土、第Ⅱ層灰色土、第Ⅲ層黒褐色土、第Ⅳ層黄色土、第Ⅴ層灰色砂、第Ⅵ層灰色砂礫である。第Ⅰ層は近現代の造成に伴う客土、第Ⅱ層は耕作土である。第Ⅲ層は調査区北西部に堆積し、弥生土器、須恵器、土師器、瓦が出土した。土層観察より、古墳時代後期から古代の堆積層と考えられる。第Ⅳ層は調査区中央部から西部に堆積する。第Ⅴ層は灰色砂で、調査区中央部から西部に堆積する。第Ⅵ層は旧河川の氾濫に伴う砂礫層で、調査区東部に堆積する。検出した遺構は、溝5条、土器棺2基、土坑墓2基、土坑3基、柱穴19基である。遺物は遺構内から弥生土器、須恵器、土師器、陶器、石器が出土した。以下、時期別に主な遺構の概略を説明する。

【弥生時代】弥生時代の遺構は溝SD5（後期末）、土坑SK1（後期後半）、土器棺1（後期後半）である。土器棺1は調査区北西部で検出した。墓坑の平面形態は楕円形を呈し、規模は長径0.63 m、短径0.45 m、深さ11 cmを測る。棺蓋には鉢を用い、棺身には壺を使用する。

【古墳時代】古墳時代の遺構は溝SD2がある。SD2は調査区西部で検出した。南西から北西に曲がる溝である。溝の南西端と北西端は調査区外に続く。規模は検出長7.2 m、幅0.6～1.05 m、深さ12～22 cmを測る。断面形態は皿状を呈し、溝基底面は南西から北西に傾斜する（比高差5 cm）。遺物は溝底から土師器壺の完形品が出土した。

【古代】古代では、土坑SK2と溝SD3がある。SK2は調査区北西部で検出した。SD4を切り、北側は調査区外に続く。平面形態は楕円形を呈するものと考えられ、規模は長径1.5 m、短径1.15 m、深さ18 cmを測る。断面形態は皿状を呈し、遺物は土師器の坏、皿、椀と砥石が出土した。出土した遺物の特徴から、平安時代10～11世紀の土坑とする。

小　結　今回の調査では、弥生時代から古代までの遺構や遺物を確認した。弥生時代と古墳時代では竪穴式住居址は未検出であるが、土坑や溝を検出したことから周辺に該期の集落が存在する可能性が高い。調査地東方にある西石井遺跡（1～3次）では、弥生時代から古墳時代にかけての集落址が調査により解明されている。本調査で検出した溝（SD3・5）は調査地西方に延びることから、調査地西側には集落遺構が存在している可能性があり、集落が調査地西方に広がっている可能性が高い。

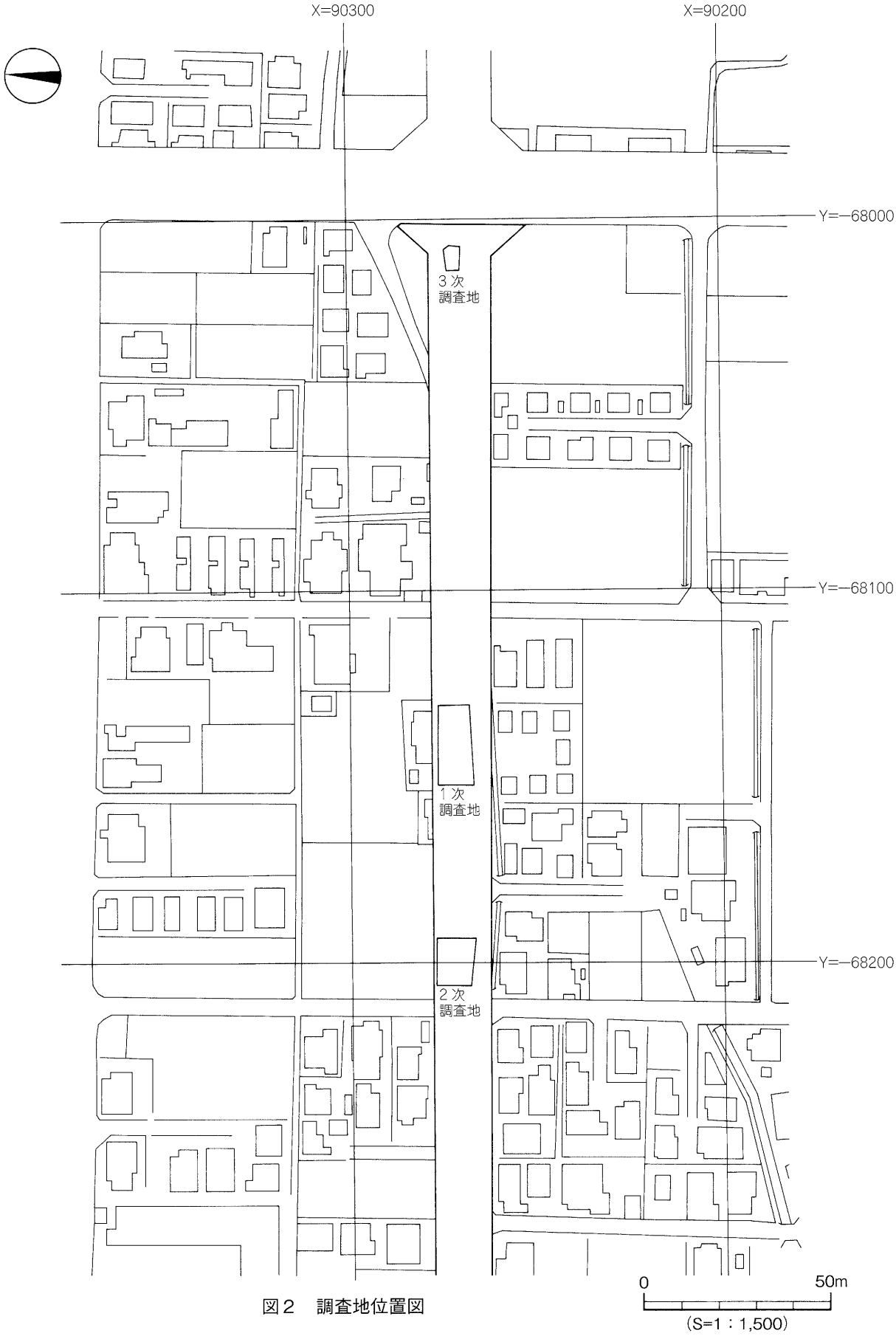

X=90300
X=90200
Y=−68000
Y=−68100
Y=−68200
3次
調査地
1次
調査地
2次
調査地
0
50m
(S=1：1,500)

図２　調査地位置図

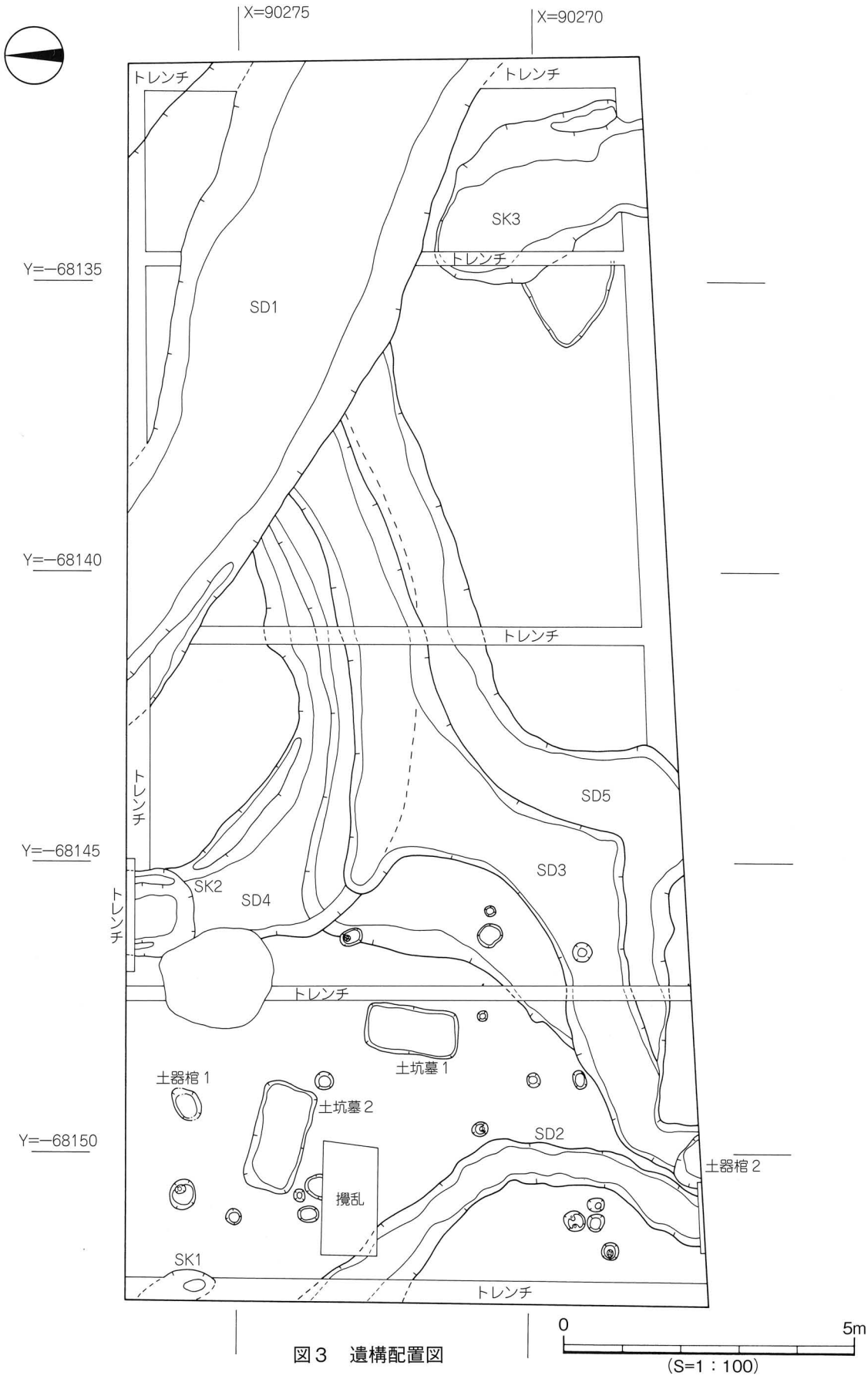

X=90275
X=90270
トレンチ
トレンチ
SK3
トレンチ
Y=−68135
SD1
Y=−68140
トレンチ
トレンチ
SD5
Y=−68145
SD3
SK2
SD4
トレンチ
トレンチ
土坑墓1
土器棺1
土坑墓2
Y=−68150
SD2
土器棺2
攪乱
SK1
トレンチ
0
5m
(S=1：100)

図3　遺構配置図

写真１　遺構完掘状況（東より）

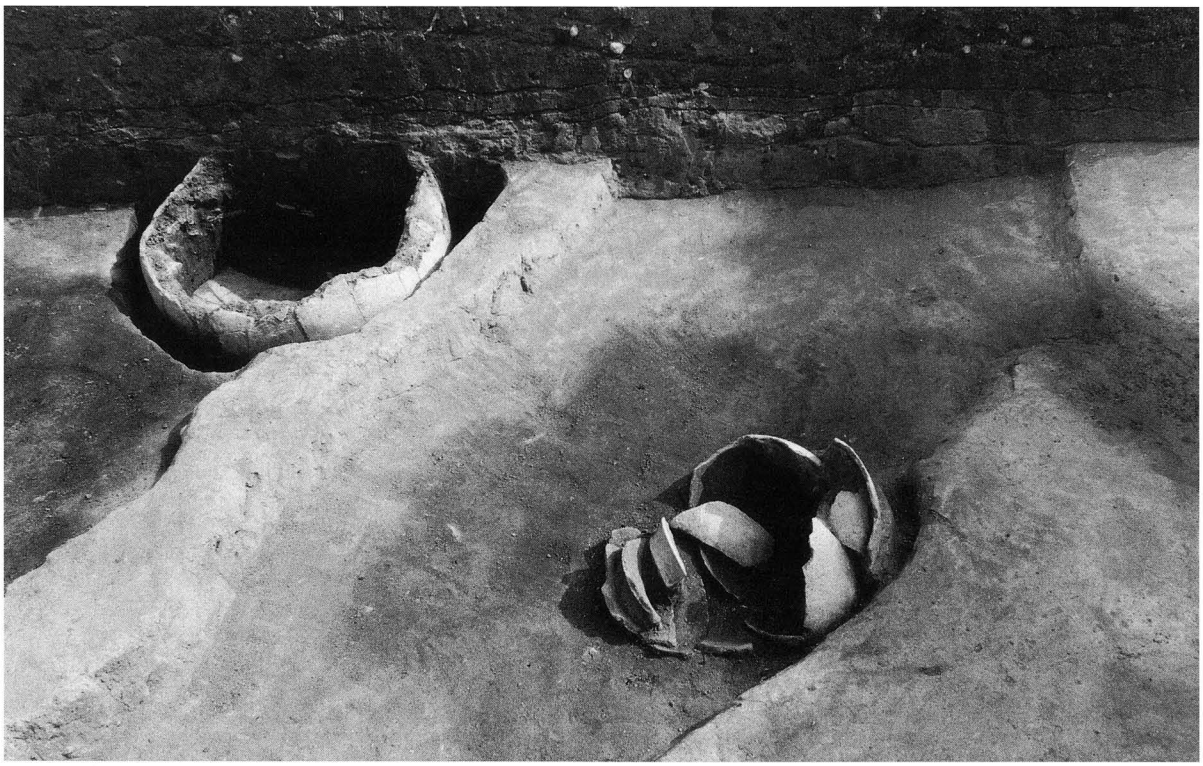


写真２　SD2 遺物出土状況（北より）

古川（ふるかわ）遺跡２次調査地

所在地　松山市古川北二丁目274番１の一部
期　間　平成18年12月15日～平成19年２月14日
面　積　202.43㎡
担　当　相原秀仁

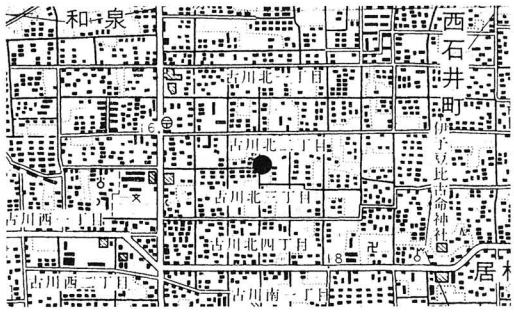


図１　調査地位置図

経　過　本調査は、松山市道北久米和泉線道路改良工事に伴う事前発掘調査である。調査地は松山平野南部、小野川と内川とに挟まれた沖積低地に位置し、標高16.20ｍに立地する。周辺では、西石井荒神堂遺跡（１～３次調査）、石井幼稚園遺跡（１・２次調査）、南中学校構内遺跡などの調査が実施されている。調査以前は水田であった。

遺構・遺物　基本層位は、第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層灰色土（小礫混じる）、第Ⅲ層灰色土、第Ⅳ層灰黄色土、第Ⅴ層黄色土、第Ⅵ層灰色砂礫である。第Ⅰ層は調査区全域にみられ、層厚12～28㎝を測る。第Ⅱ層は調査区北東部を除く範囲に堆積する（層厚４～10㎝）。第Ⅲ層は調査区北西部を除く範囲に堆積する（層厚６～16㎝）。第Ⅳ層は調査区南東部を除く範囲に堆積する（層厚４～８㎝）。第Ⅴ層は調査区東部に堆積し、層厚12～30㎝を測る。第Ⅵ層は調査区全域に堆積し、径５～10㎝の円礫を含む。旧河川の氾濫に伴う砂礫層である。検出した遺構は溝３条、土坑２基、柱穴12基である。遺物は遺構内から弥生土器、須恵器、土師器が出土した。以下、主な遺構の概略を説明する。弥生時代の遺構は溝SD1（弥生時代末）がある。SD1は調査区西部で検出した南北方向の溝である。SD2・３を切り、溝北端と南端は調査区外に続く。規模は検出長8.6ｍ、幅1.7～2.3ｍ、深さ25～35cmを測る。断面形態は皿状を呈し、遺物は弥生土器が出土した。SK1は調査区北東部で検出した。平面形態は楕円形を呈し、規模は長径1.65ｍ、短径0.85ｍ、深さ10㎝を測る。断面形態は逆台形状を呈する。遺物は弥生土器片が出土した。中世では柱穴がある。柱穴内から土師器片が少量出土した。

小　結　今回の調査では、主に弥生時代の遺構や遺物を確認した。弥生時代の遺構はSD1（弥生時代末）、SD2（弥生時代後期後半）、SD3（弥生時代前期）とSK1・２（弥生時代）がある。溝は埋土から水流がなかったものと考えられ、西側の古川遺跡でも溝がみつかっていることから、集落に関係する溝の可能性が考えられる。竪穴式住居址は見つかっていないが、土坑や溝が検出されたことから調査地西方には弥生時代集落が展開している可能性がある。

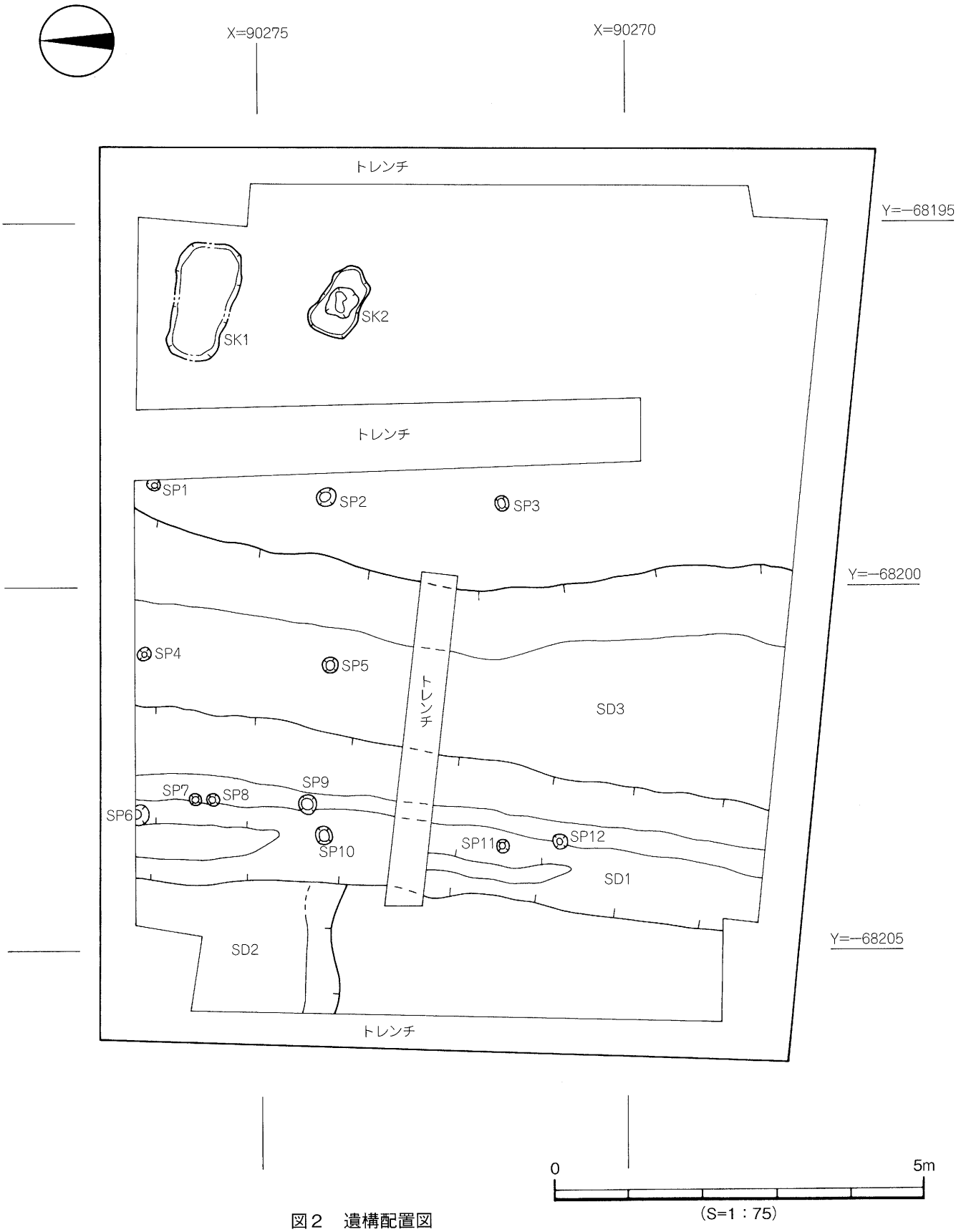

X=90275
X=90270
トレンチ
Y=−68195
SK1
SK2
トレンチ
SP1
SP2
SP3
Y=−68200
SP4
SP5
トレンチ
SD3
SP7
SP8
SP9
SP6
SP10
SP11
SP12
SD1
SD2
Y=−68205
トレンチ
0
5m
(S=1：75)

図２　遺構配置図

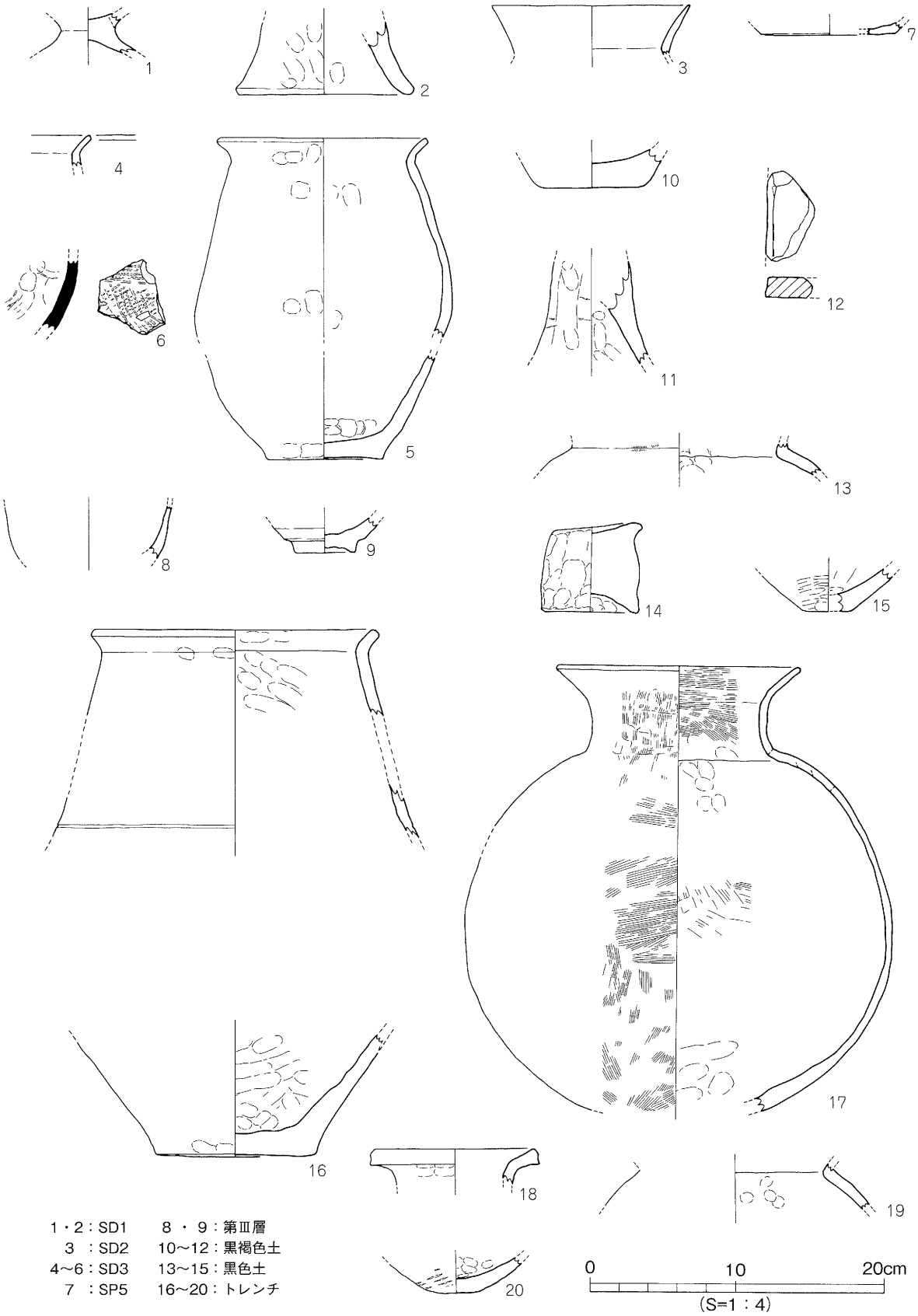

1・2：SD1　8・9：第Ⅲ層
3　：SD2　10～12：黒褐色土
4～6：SD3　13～15：黒色土
7　：SP5　16～20：トレンチ
0　10　20cm
(S=1：4)

図３　出土遺物実測図

写真１　遺構検出状況（東より）

写真２　トレンチ遺物出土状況（南東より）

古川遺跡（ふるかわ）３次調査地

所在地　松山市古川北二丁目284番10、284番11の各一部
期　間　平成18年12月15日～平成19年1月31日
面　積　55㎡
担　当　相原秀仁

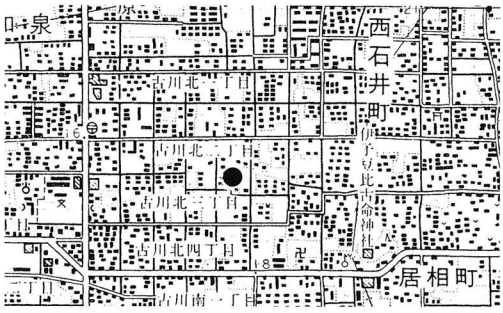


図１　調査地位置図

経　過　本調査は、松山市道北久米和泉線道路改良工事に伴う事前発掘調査である。調査地は松山平野南部、小野川と内川とに挟まれた沖積低地に位置し、標高15.90～16.50ｍに立地する。周辺では、西石井荒神堂遺跡（1～3次調査）、石井幼稚園遺跡（1・2次調査）、南中学校構内遺跡などの調査が実施され、弥生時代から中世にかけての集落関連の遺構や遺物が多数確認されている。調査以前は既存宅地であった。

遺構・遺物　基本層位は、第Ⅰ層表土、第Ⅱ層灰色土、第Ⅲ層灰黄色土、第Ⅳ層暗灰黄色土、第Ⅴ層暗褐色粘質土、第Ⅵ層黒色土、第Ⅶ層青灰色粘質土、第Ⅷ青灰色砂質土である。第Ⅰ層は近現代の造成に伴う客土である（層厚42～100㎝）。第Ⅱ層は調査区全域にみられ、層厚10～28㎝を測る。第Ⅲ層は調査区全域に堆積する（層厚25～36㎝）。第Ⅳ層は調査区全域に堆積する（層厚4～12㎝）。第Ⅴ層は粘性の強い土壌で調査区全域に堆積する（層厚20～34㎝）。第Ⅵ層は調査区全域に堆積し、本層中からは弥生時代後期の土器が出土する（層厚5～14㎝）。第Ⅶ層は調査区全域に堆積し、層厚4～8㎝を測る。第Ⅷ層は調査区全域に堆積する。検出した遺構は河川1条である。調査区全体が河川の内部と考えられ、河川内からは樹木の枝と種子が出土した。第Ⅵ層が覆うことから、弥生時代後期以前に埋まったものと考えられる。

小　結　今回の調査では、弥生時代後期以前の河川1条を検出した。河川内からは木杭や木片、種子類が出土し、河川を覆う包含層中からは弥生時代後期の土器片が出土した。調査地東側に位置する西石井遺跡と西側の古川遺跡では黄色土が安定して堆積しており、上面で弥生時代から古代までの遺構がみつかっている。本調査地は、2つの調査地の間を北東から南西方向に流れる河川の内部と思われる。調査地内には水の影響を受けたと思われる土壌が確認されており、淀みあるいは池の可能性も考えられ、さらには試掘調査で木杭が出土していることから、護岸施設などが存在した可能性もある。

写真１　調査地から遠景（西より）

写真２　木片出土状況（東より）

北久米（きたくめ）遺跡４次調査地

所在地　松山市北久米町 664－11 番地先～
608－1 番地先
期　間　平成 18 年 6 月 19 日～同年 7 月 5 日
面　積　229 ㎡
担　当　髙尾和長・山之内志郎

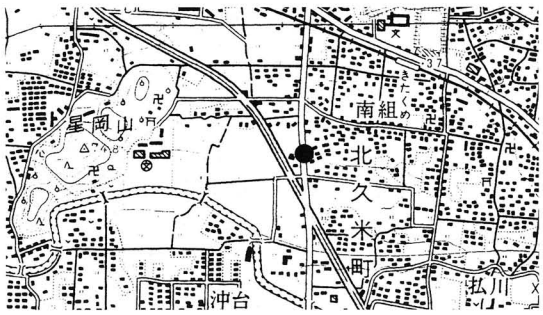


図１　調査地位置図

経　過　本調査は、松山市公共下水道管布設工事に伴う事前発掘調査である。調査地は、松山平野東部、標高約 34 mに立地し、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『№.126 高畑遺物包含地』内にある。調査地の東には児童公園があり、その一角には円形の墳丘が存在しており以前より「二つ塚古墳」として知られている。過去に、隣接する水路の改修工事で多数の埴輪片が出土しているとともに、愛媛大学歴史学研究会による墳丘測量調査によって当墳は、墳丘（後円部）と児童公園を前方部とする 6 世紀前半の前方後円墳と推定されている。発掘調査は、2 路線にまたがることから 2 度に分けて調査を実施した。それは児童公園の西側を南北に延びる市道と同公園の南側を東西に延びる市道の 2 か所である。南北線を北久米遺跡 4 次調査、東西線を同遺跡 6 次調査として本格調査を実施した。

遺構・遺物　調査地の現状は松山市道で、長さ約 104 m、幅 2.2 mを測る。調査地が市道であるため 21 時から 6 時までの夜間、車両通行止めにして調査を行った。

基本層位は、①層アスファルト、②層造成土、③層灰色土、④層黄灰色土、⑤層暗灰色土（少量遺物含む）、⑥層灰褐色粘質土（多量に遺物含む）、⑥′層褐色粘質土（多量に遺物含む）⑦層黄色礫（多量に遺物含む）、⑧層赤黄褐色土（地山）である。⑥層、⑥′層、⑦層は周溝内埋土である。

調査の結果、古墳時代と中世の遺構・遺物を検出した。検出した主な遺構は、二つ塚古墳の墳丘裾部、古墳周溝、土坑 1 基、溝 4 条である。遺物は、弥生土器、須恵器（甕形土器）、土師器（皿）、埴輪（円筒埴輪、朝顔形埴輪、形象埴輪）、陶器（天目茶碗）、人骨、炭化材がある。

古墳時代の主な遺構は、古墳墳丘裾部と周溝を検出した。墳丘裾部は、調査区の東壁に地山の赤黄色土を南北方向に長さ 3 m、東西方向に 0.5 m検出し、北側は北東方向に、南側は南東方向に伸びる状況を確認した。この地点が古墳の前方部北西隅に該当すると考えられる。周溝は前方部北西隅の地点から北に 8 mの地点で高さ 20 ㎝の外堤を確認した。またマンホール設置工事の立会調査においても、前方部周溝の外堤を確認している。遺物は、周溝内から埴輪片が大量に出土した。出土した埴輪の形状から 6 世紀初頭とする。

中世の主な遺構は、土坑 1 基と溝 2 条を検出した。SK1 は炭化材を「コ」の字状に検出した。規模は長軸 0.85 m、短軸 0.5 m、深さ 7 ㎝を測る。埋土は灰色土である。出土遺物は天目茶碗、炭化材、人骨がある。これらの出土状況から墓であったと思われる。出土遺物から 16 世紀後半とする。SD2 は平面形態が円形周溝状を呈する。規模は南北内径 2.3 m、溝幅 50 ～ 90 ㎝、深さ 20 ㎝を測る。断面形態は「U」字状である。埋土は 2 層に分かれ 1 層は黄色粘質土、2 層は灰褐色粘質土である。出土遺物は土師器のほぼ完形品の皿が床面から 3 点出土した。出土遺物から 10 世紀とする。

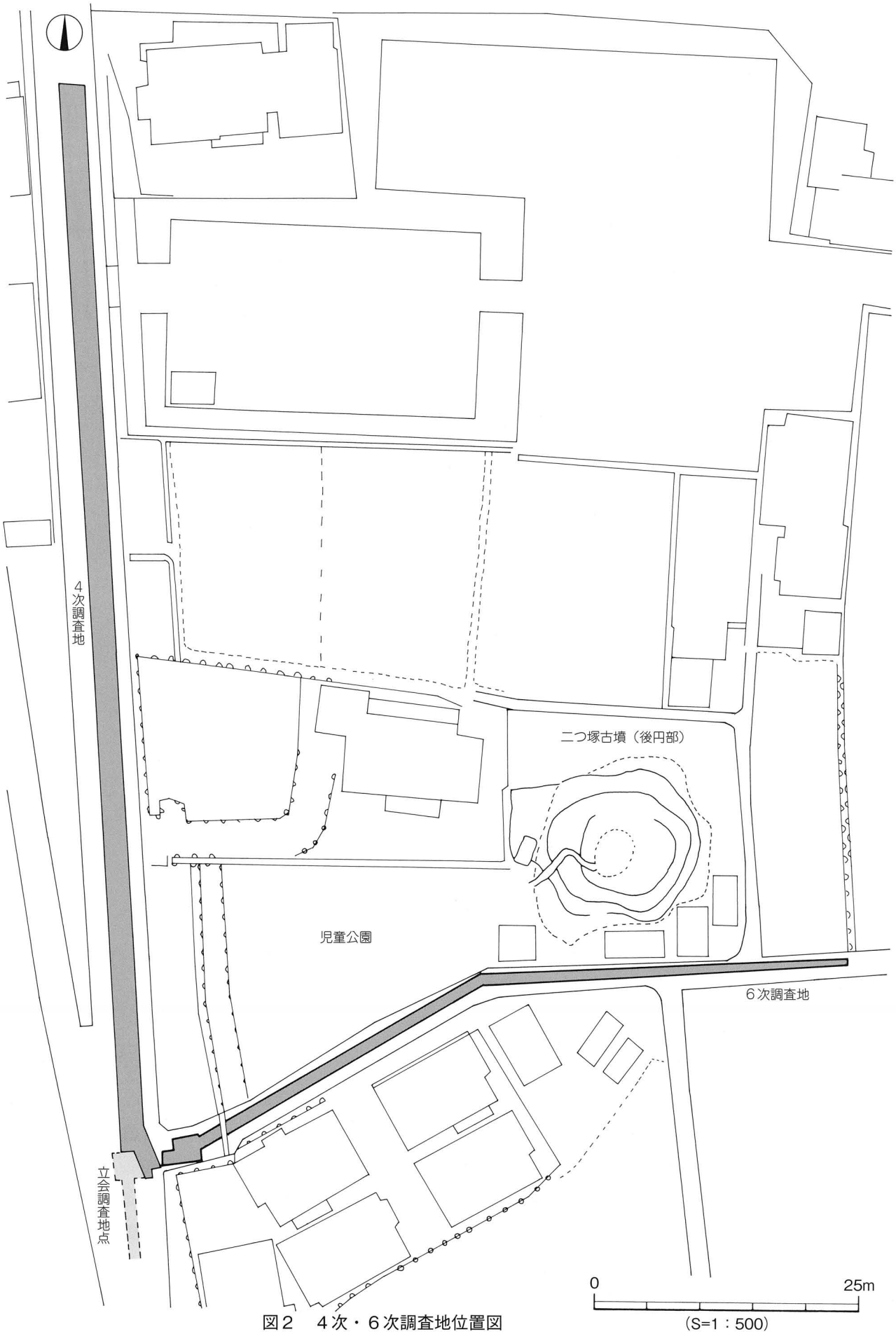


図２　４次・６次調査地位置図

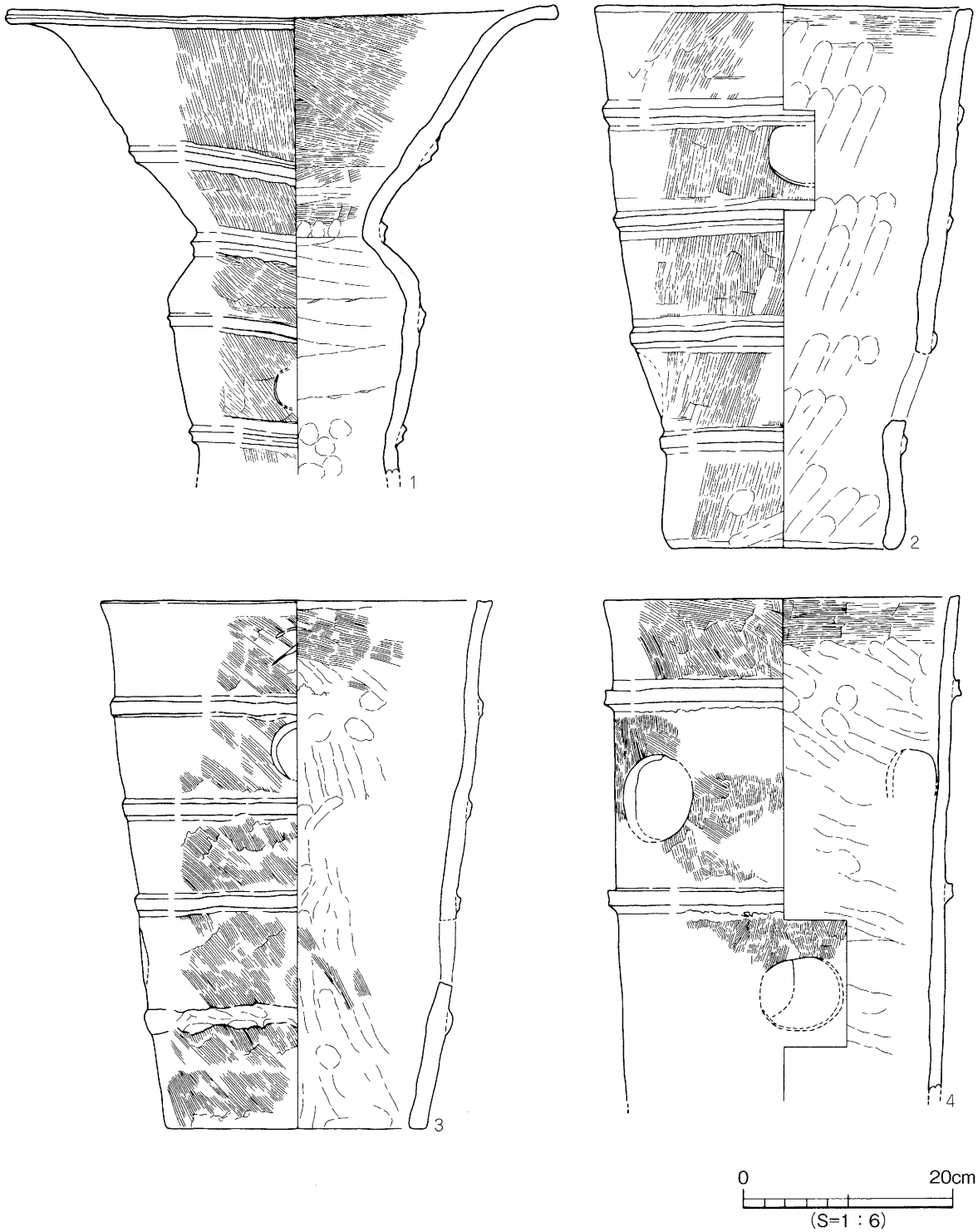


図３　出土遺物実測図

小　結　今回の調査では、古墳時代と中世の遺構・遺物を検出した。これまで二つ塚古墳の本格的な発掘調査は行われていなかったため、今回の調査成果は古墳の規模や築造方法などを知る上で多くの情報を得ることができた。また、中世の遺構・遺物を検出したことも古墳時代以降における土地利用の様相を知る上でも貴重な資料である。なお、古墳の調査成果については６次調査地の成果を含めて６次調査地の項に掲載している。（山之内）

写真１　二つ塚古墳墳丘現況（北東より）

写真２　周溝外堤検出状況（南東より）

北久米（きたくめ）遺跡５次調査地

所在地　松山市北久米町892番1、891番1の各一部
期　間　平成18年9月21日～同年10月4日
面　積　124.085㎡
担　当　相原浩二

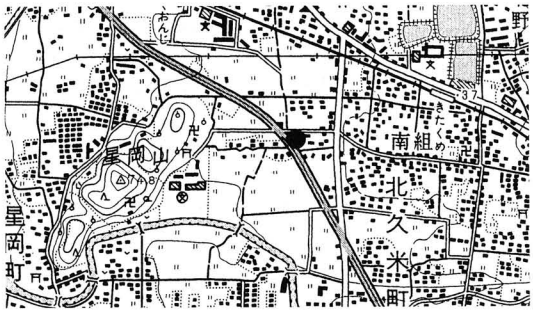


図１　調査地位置図

経　過　本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地の『№124北久米遺物包含地』内における店舗建設に伴う事前調査である。本調査地は、来住から福音寺にかけての台地上標高約32ｍに立地する。調査地の現況は、造成地である。調査地北側の隣接地には、北久米浄蓮寺遺跡がある。北久米浄蓮寺遺跡は、１次～６次までの調査が行われ古墳時代から中世にかけての集落関連遺構や遺物が検出されている。そのほか北方向300ｍに弥生時代～古墳時代にかけての大集落遺跡である福音小学校構内遺跡、西には天山・星岡・東山古墳群がある。また、南東方向には前方後円墳である二つ塚古墳、その後方の来住台地上には国指定史跡「来住廃寺跡」や久米高畑遺跡群が展開しており、それらの遺跡群とのつながりを考える上でも重要な地域となっている。

調査は、開発される部分に限っての調査のため、１区～４区の４区画に分けて調査を行った。以下、区ごとに概略を記述する。

遺構・遺物　１区は、調査地の北西部に位置する。基本土層は第Ⅰ層造成土、第Ⅱ層青灰色土（現代耕作土）、第Ⅲ層橙灰色土（床土）、第Ⅳ層黄色土（地山）である。遺物包含層は、削平されており遺存していない。遺構の検出は第Ⅳ層上面で行った。地表面から遺構検出面の比高差は約１ｍを測る。

検出した遺構は掘立柱建物址３棟（掘立１～3）、柱穴４基である。検出した掘立柱建物址は、３棟とも調査区外となり全容は不明である。遺物は土師器、須恵器が出土している。

２区は、調査地の南東部に位置する。調査区の北西部には、コンクリートの塊がみられた。調査区の基本土層は第Ⅰ層造成土、第Ⅱ層青灰色土（現代耕作土）、第Ⅲ層灰褐色粘質土、第Ⅳ層黄色土に砂・礫含む（地山）である。遺構の検出は第Ⅳ層上面で行った。地表面から遺構確認面までの比高差は1.6ｍを測る。検出した遺構は柱穴５基、土坑２基である。遺構埋土は柱穴と土坑SK201は暗灰色土、SK202は灰褐色土である。遺物は、どの遺構からも出土していない。

３区は、調査地の南側に位置し東西に細長い調査区である。調査区のすぐ南には外側に傾いたコンクリート擁壁があることから、安全のため調査区の幅を狭くした。基本土層は第Ⅰ層造成土、第Ⅱ層青灰色土（現代耕作土）、第Ⅲ層橙灰色土（床土）、第Ⅳ層灰褐色土、第Ⅴ層橙灰色土、第Ⅵ層灰褐色土、第Ⅶ層黄色土（地山）である。遺構の検出は第Ⅶ層上面で行った。地表面から遺構確認面までの比高差は1.6ｍを測る。検出した遺構は、柱穴２基である。いずれも調査区外となり、全容は不明である。柱穴埋土は２基とも暗灰色土である。遺物は、出土していない。

４区は、調査地の西中央部に位置する。基本土層は第Ⅰ層造成土、第Ⅱ層青灰色土（現代耕作土）、第Ⅲ層橙灰色土（床土）、第Ⅳ層灰褐色土、第Ⅴ層黄色土（地山）である。遺構の検出は第Ⅴ層上面

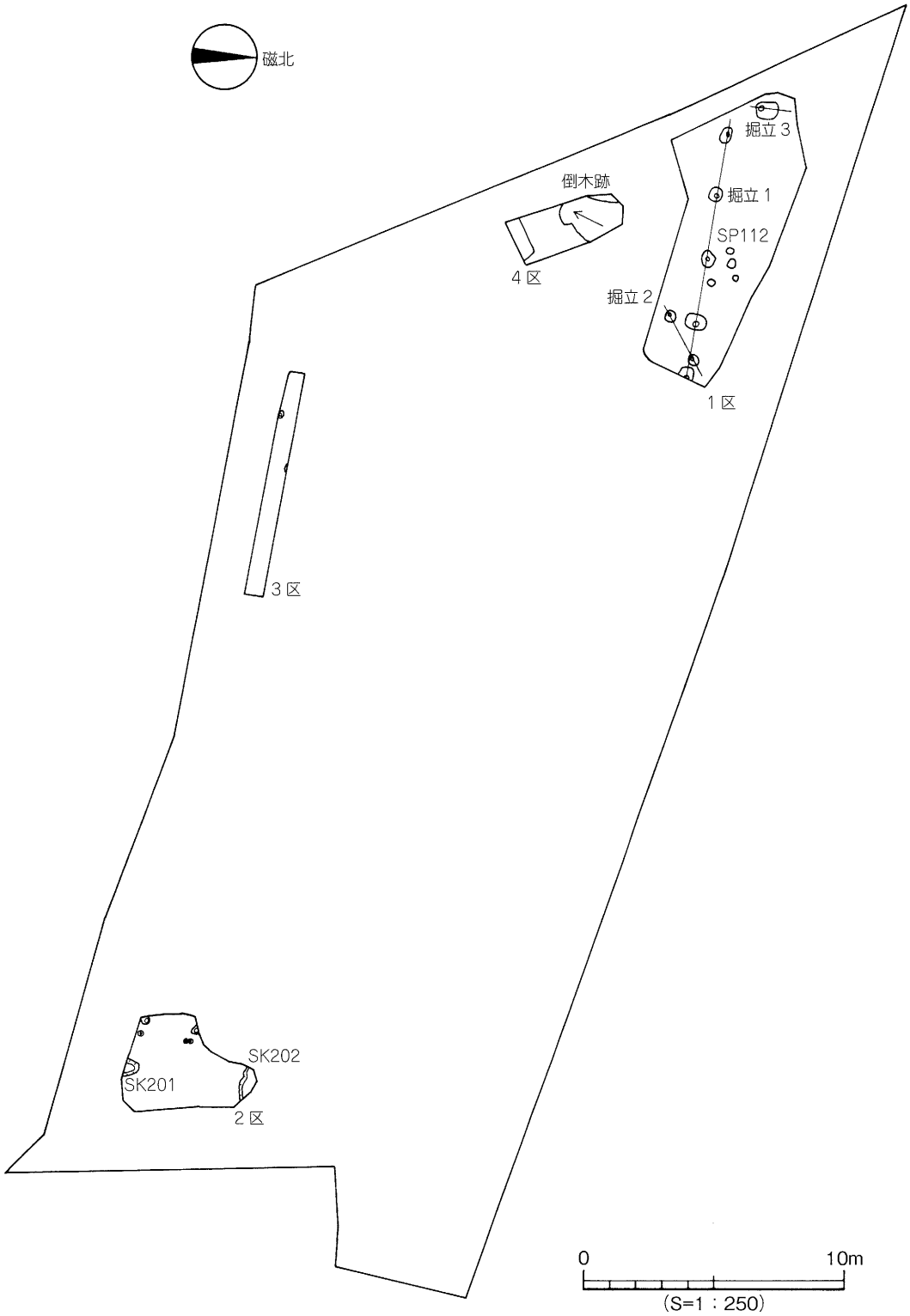
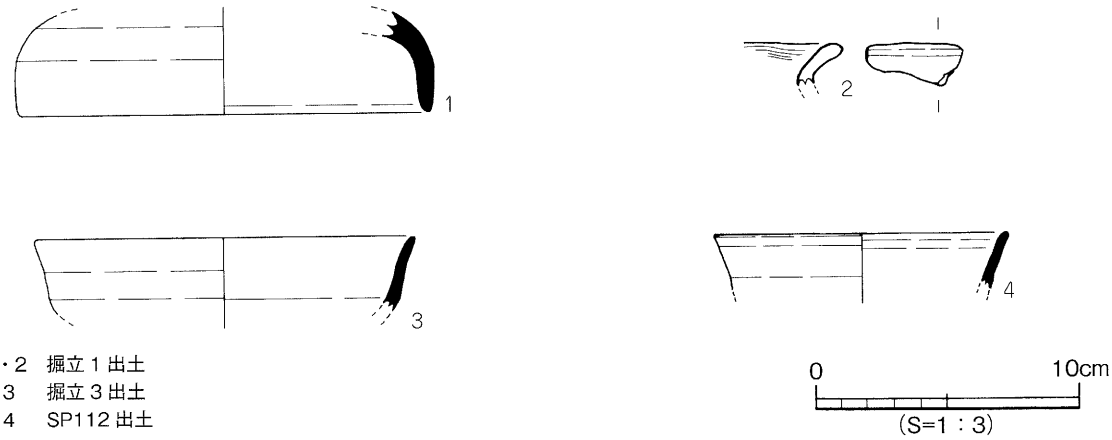


図２　調査区と遺構配置図

で行った。地表面から遺構確認面までの比高差は1.08 mを測る。4区では、遺構は検出しなかった。検出したものは、倒木跡1基のみである。遺物は、第Ⅳ層灰褐色土より土師器片が出土したのみである。

小　結　今回の調査では掘立柱建物址、土坑、柱穴などを検出した。掘立柱建物址は、調査区の制限があり全容は解明できなかったが、北久米浄蓮寺遺跡で見つかった掘立柱建物址群が、さらに南に広がる事を確認した。また、調査地の北側と南側の地山面のレベルは50 cm程南側が低くなっており、南側では規模の大きな柱穴跡を検出しなかった。このことは、地形的に北久米浄蓮寺遺跡の集落南端部の様相を示しているものと考えられる。

検出した遺構の時期は、出土遺物が少なく明確ではない。しかしながら、調査地の北側に隣接する北久米浄蓮寺遺跡の調査成果から考えれば古墳時代後期～古代にかけての遺構と考えられる。



1・2　掘立１出土
3　掘立３出土
4　SP112出土

図３　出土遺物実測図

写真１　調査前全景（西より）

写真２　１区遺構検出状況（東より）

北久米遺跡６次調査地

所在地　松山市北久米町605番地先～586番地先の一部
期　間　平成18年10月19日～同年10月30日
面　積　163㎡
担　当　山之内志郎

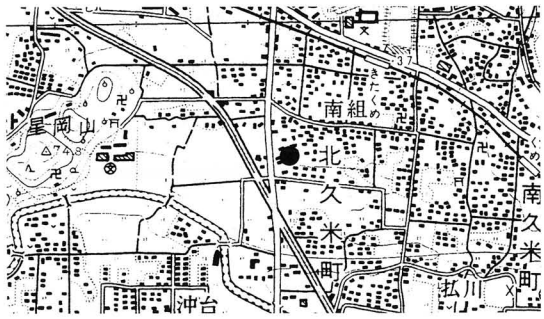


図１　調査地位置図

経　過　本調査は、松山市公共下水道管布設工事に伴う事前発掘調査である。調査地は、松山平野東部、標高約33ｍに立地し、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『№126高畑遺物包含地』内にある。北久米遺跡４次調査地の項で前述したとおり、本調査は児童公園の南側を東西に延びる市道部分を６次調査として本格調査を実施した。

遺構・遺物　調査地の現状は松山市道で、長さ約65.3ｍ、幅1.1ｍを測る。

基本層位は、Ⅰ層アスファルト、Ⅱ層造成土、Ⅲ層黒色土（炭混じり）、Ⅳ層灰色土（旧耕作土）、Ⅴ層黄灰色土（旧床土）、Ⅵ層灰褐色粘質土（多量に遺物含む）、Ⅵ－②層褐色粘質土（多量に遺物含む）、Ⅶ層黄色礫（遺物含む）、Ⅷ層黒色粘質土、Ⅸ層黄褐色土（地山）である。Ⅵ層、Ⅵ－②層、Ⅶ層は周溝内埋土である。

調査の結果、弥生時代と古墳時代の遺構・遺物を検出した。検出した遺構は、二つ塚古墳の墳丘裾部及び周溝、竪穴式住居址１棟である。遺物は遺構内及び周溝内から弥生土器、須恵器、埴輪が出土している。

弥生時代の遺構は、竪穴式住居址１棟を検出した。平面形態は南側が調査区外となるため、全容は明らかではないが、残存部分の状況から円形を呈するものと推定される。規模は、残存長約4.3ｍ×0.9ｍ、残存高約0.4ｍを測る。埋土は２層あり、上層（Ａ層）は褐色土、下層（Ｂ層）は灰褐色土である。検出したうち大部分を攪乱やⅢ層により削平されている。主柱穴は確認できなかった。内部施設は、周壁溝を３か所で検出した。規模は幅20～25cm、深さ６～8cmを測る。埋土は明灰褐色土である。遺物は住居埋土内から弥生土器片が出土した。出土遺物から弥生時代後期に埋没したものと考えられる。

古墳時代の遺構は、古墳墳丘裾部及び周溝を検出した。裾部は調査区に対して北東から南西方向にやや弧を描く幅約１ｍ分を検出した。この地点が後円部の裾部にあたり、西方向が後円部墳丘、東方向へ周溝が続いている。墳丘盛土は削平を受けているが、現状で周溝最下層との高低差は約70cm以上ある。周溝は約6.8ｍ分を検出したが、周溝外堤は調査区外のため確認できなかった。

遺物は、周溝内から出土した。埴輪片はⅥ層及びⅥ－②層で多量に出土しており、そのうちⅥ－②層中でも最下層では４地点でまとまった状況で出土した。埴輪は円筒埴輪及び朝顔形埴輪・形象植輪がある。出土した埴輪の形状から６世紀初頭と考えられる。

小　結　本調査は、二つ塚古墳の規模や築造時期の解明を主目的として調査を実施した。その結果、古墳に関する多くの情報を得ることができたほか、弥生時代の遺構と遺物を検出した。

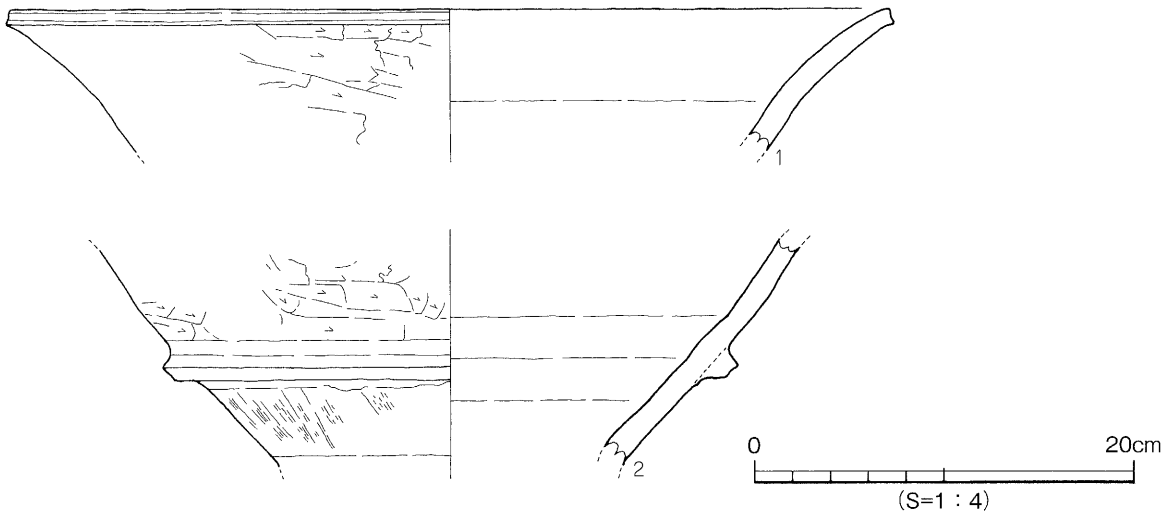


図２　出土遺物実測図

弥生時代では後期の竪穴式住居址１棟を検出した。住居は古墳埋土に覆われていることから、住居廃絶後に古墳が築造されたものと考えられる。周辺地域における当該時期の集落の変遷を知るうえで貴重な資料である。

古墳時代は、二つ塚古墳の後円部裾部を検出した。これにより、現在残存している墳丘の中心地点から円を描くと後円部直径は38.5ｍと推定されることから、墳丘は大幅に削平されていることが判明した。次に前方部であるが、本調査区内では前方部西側の墳端を確認できなかった。そのため、４次調査地と６次調査地の間のマンホール設置工事の立会調査（平成18年７月１日実施）において確認した前方部外堤検出地点から、４次調査で確認した周溝幅を考慮すると、市道南側の民家付近が墳端と考えられ、更にその外側に周溝が巡るものと推定される。

以上の点から、４次調査において検出した前方部北西隅から左右対称に前方部を描くと、前方部墳端の幅は47ｍと推定される。また、くびれ部は本調査区内に位置する。しかし、Ⅸ層地山の盛り上がりを後円部にあたるとみられる地点で確認したが削平が著しく確証は得られなかった。墳丘盛土（やや締まりのない暗褐色土）は前方部側で一部検出している。主軸方向はＮ－102°－Ｗである。

以上の成果により、二つ塚古墳は全長63ｍ、後円部径38.5ｍ、前方部墳端幅47ｍを測る松山平野最大級の前方後円墳である。

本調査及び４次調査は狭小な調査区であったにもかかわらず多大な成果を挙げることができた。今後もこれらの成果をもとに古墳時代後期における首長墓の変遷や弥生時代・中世集落の構造とその解明を進めていきたい。

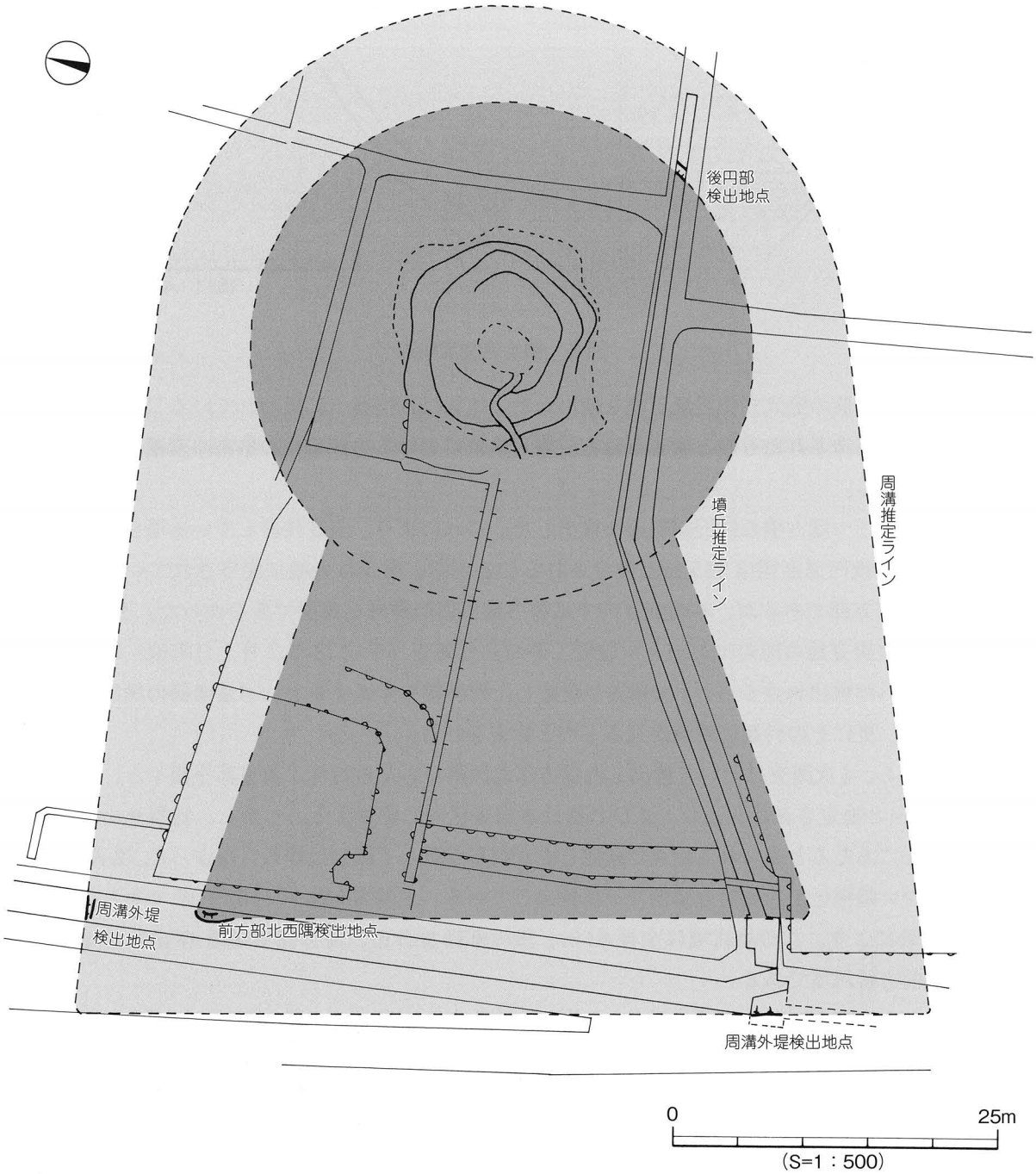


図３　二つ塚古墳復元想定図

写真１　作業風景（西より）

写真２　後円部検出状況（東より）

平井（ひらい）遺跡３次調査地

所在地　松山市平井町甲 3071－1 の一部
期　間　平成 18 年 3 月 1 日～同年 5 月 31 日
面　積　903 ㎡
担　当　河野史知

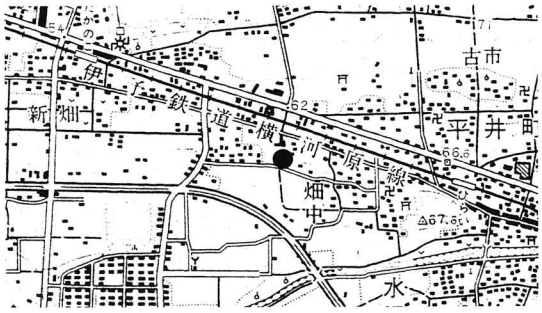


図１　調査地位置図

経　過　本遺跡は、松山市道小野 160 号線道路改良工事に伴う事前の発掘調査である。本調査地は松山平野東部を西流する小野川と堀越川によって形成された扇状地上の標高 58 m前後に立地する。周辺には北の丘陵部に 6 世紀後半に築造されたと推定される平井谷 1 号墳などの古墳群、北東の丘陵麓部では 7 世紀初頭の茨谷 1 号窯をはじめとする松山平野南東部古窯址群など、古墳や窯址が数多く存在している。また、平野部では古市遺跡から下苅屋遺跡にかけて、弥生時代前期から古代頃まで機能していた大規模な自然流路を検出し、その両岸付近では古墳時代後期を中心とした竪穴式住居や掘立柱建物などから構成される集落遺構の存在が確認されている。

遺構・遺物　調査地は、微高地が南側に下がる緩傾斜地上であり、基本土層は第Ⅰ層から第Ⅶ層を検出した。第Ⅰ層は農耕にかかわる客土、第Ⅱ層整地土で、第Ⅶ層と黒褐色土の混合層。第Ⅲ層灰色土、第Ⅳ層は土師器を含む遺物包含層（古代）、第Ⅴ層褐灰色土、第Ⅵ層は土師器、須恵器を含む遺物包含層（古墳時代）、第Ⅶ層地山土で遺構の検出面、第Ⅶ層以下は粘土層が約 1 m堆積しており、その下には水分を多く含んだ砂層の堆積を確認した。

今回の調査では弥生時代から中近世にかけての遺構や遺物を検出した。遺構は掘立柱建物址 2 棟、溝 14 条、土坑 6 基、柱穴 26 基、倒木跡 3 基、性格不明遺構 4 基がある。遺物は弥生土器（甕･壺･鉢）、土師器（甕・甑・椀・皿）、須恵器（蓋坏・坏身・甕）、石器（鏃）、鉄器（鏃）が出土した。

【弥生時代】SD11 は遺構の形状や土層の堆積状況などから、自然地形の凹みが溝状に延びることが考えられ、埋土の色調や質などから縄文時代晩期頃から弥生時代前期頃の堆積と考える。SD12・13 は人為的に掘られた溝であり、SX3 は形状から自然の凹みが考えられ、弥生土器片が密集した状態で出土し、人為的に廃棄されたものと推測される。出土した土器は中期から後期にかけてのもので、その時期に継続して調査地周辺に集落が展開することを示すものである。

【古墳時代】掘立柱建物址や溝・土坑を検出した。SD2 と SD5 は平行な位置で東西に延びており、その北側の微高地上に掘立 1 と掘立 2 を検出した。この溝は集落に伴う施設と考えられ、最も低い位置に設けられた溝であり、排水施設の用途が考えられる。

【古代】SD6 や SD9 は緩傾斜面の等高線に沿うように東西に延びる人為的な溝で、埋土中からローリングを受けていない椀や皿などの土器が出土したことから、周辺に古代集落の存在が窺える。

【中世～近世】SD1 は一直線に南北に延びる人為的な小溝で、埋土から水利に伴う施設ではない。SX1 や SX2 は、埋土が SD1 と同一ではあるが、SD11 の黒色粘質土の塊が混入しており、短期間に埋没したことが窺える。

小　結　今回の調査では、弥生時代後期から中近世にかけての集落を形成する遺構や遺物など集落を構成する資料が得られた。調査地の旧地形は南端において南へ傾斜をもち下がっており、浅い谷となることから、平井遺跡４次や５次調査地とは異なる小さな微高地上の集落であることが想定できた。

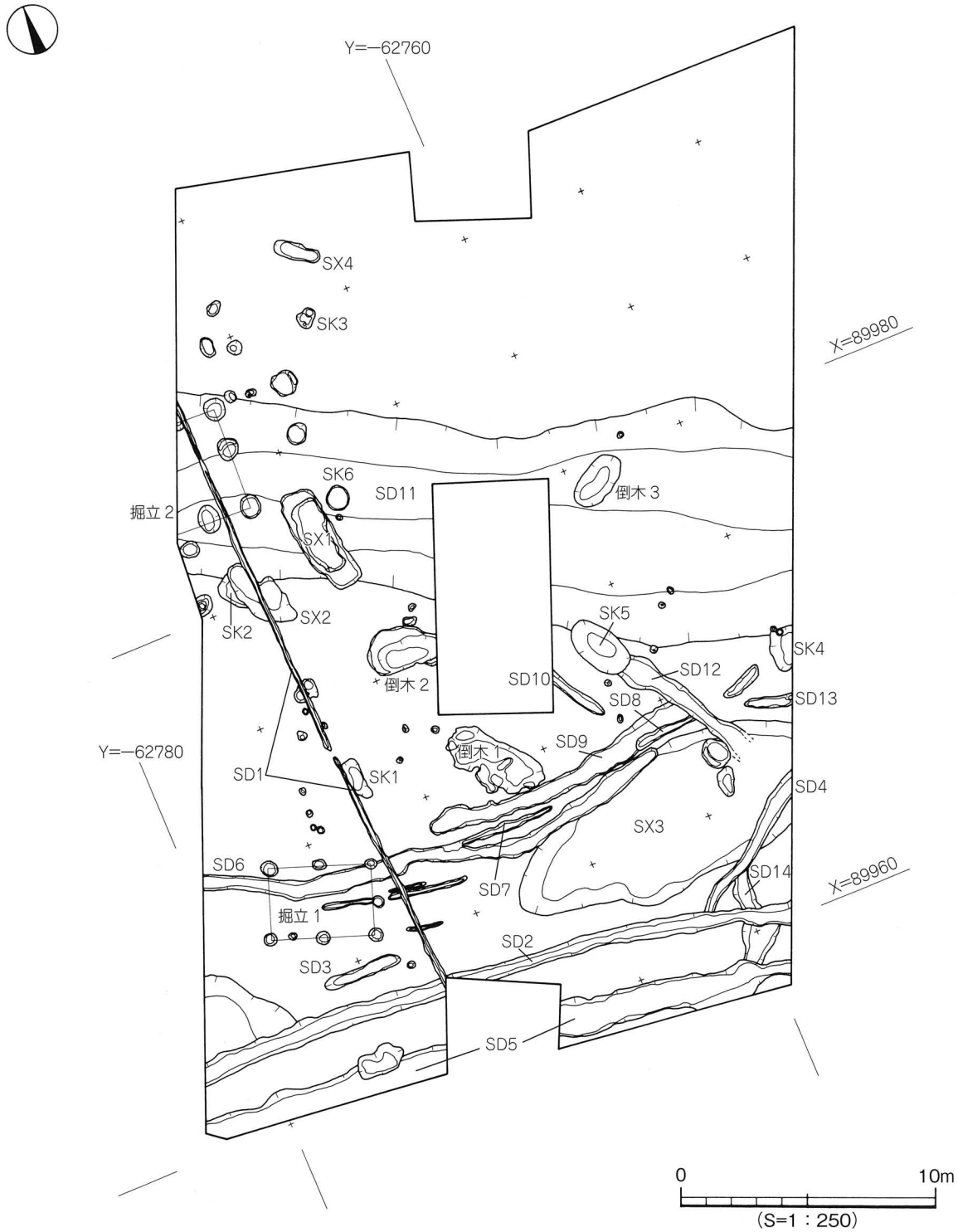


図２　遺構配置図

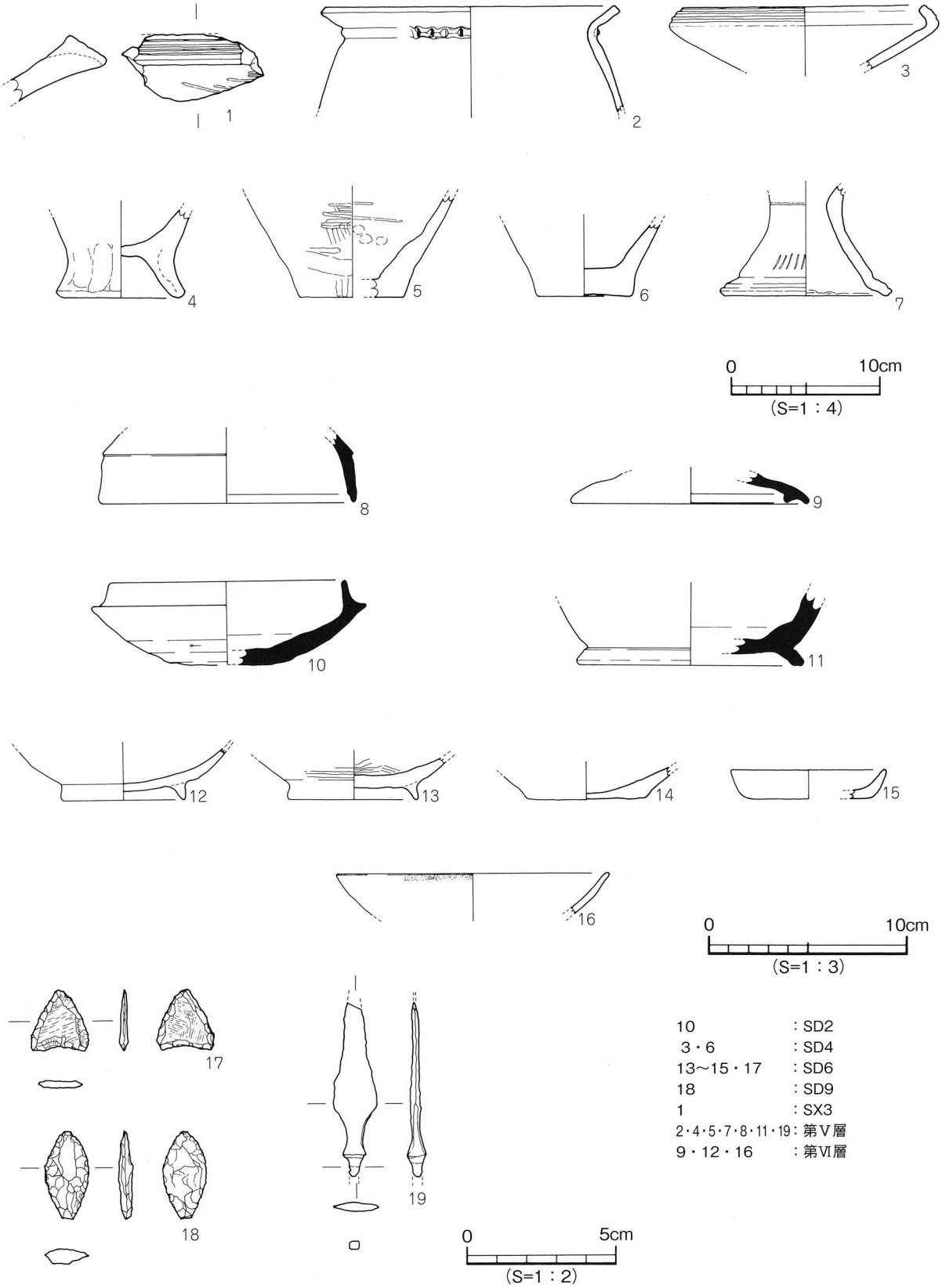

1
2
3
4
5
6
7
0
10cm
(S=1：4)
8
9
10
11
12
13
14
15
16
0
10cm
(S=1：3)
17
18
19
0
5cm
(S=1：2)
10 ：SD2
3・6 ：SD4
13～15・17 ：SD6
18 ：SD9
1 ：SX3
2・4・5・7・8・11・19：第Ⅴ層
9・12・16 ：第Ⅵ層

図３　出土遺物実測図

写真１　遺構完掘状況（南東より）

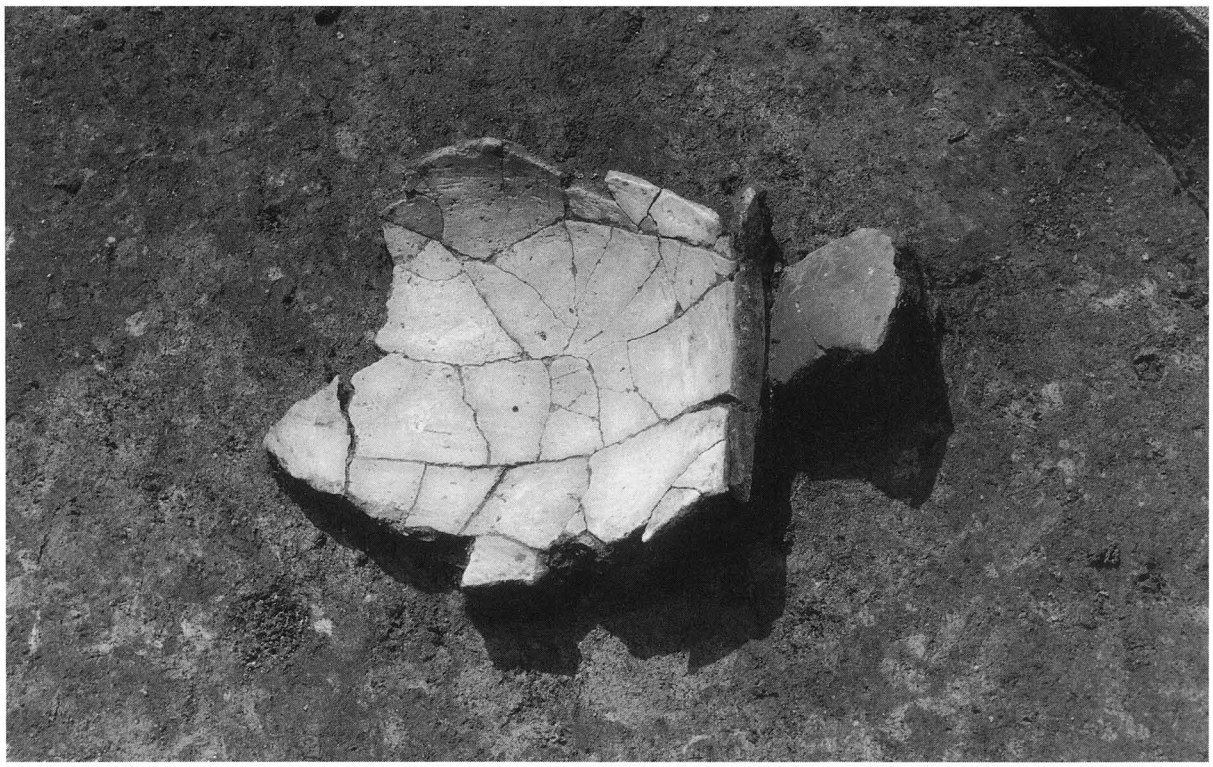


写真２　SK6 遺物出土状況（東より）

平井（ひらい）遺跡４次調査地

所在地　松山市平井町甲 2349－1 外
期　間　平成 18 年 7 月 3 日～同年 9 月 30 日
面　積　約 706 ㎡
担　当　河野史知

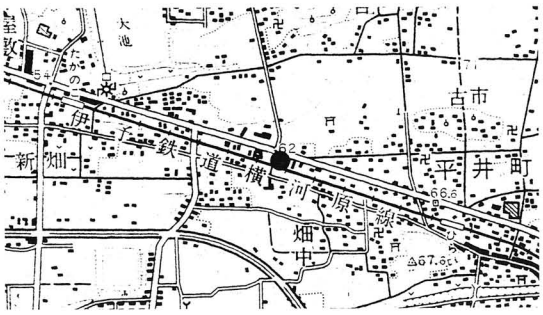


図１　調査地位置図

経　過　本遺跡は、松山市道小野 160 号線道路改良工事に伴う事前の発掘調査である。本調査地は平井遺跡３次調査地の北方約 100 ｍで、小野川の現流路の北約 1km 付近の小野川扇状地上、北方扇側部付近にあり、調査地北隣の下苅屋遺跡２・３次調査や古市遺跡で検出した弥生時代から中世にかけての大規模な自然流路の南岸にあたる。流路南岸には古墳時代後期頃の集落の中心が存在しており、当調査地は同じ等高線上の標高 59 ｍに立地する。

遺構・遺物　調査地は、微高地が南側に下がる緩傾斜地上であり、基本土層は第Ⅰ層から第Ⅵ層を検出した。第Ⅰ層は農耕にかかわる客土、第Ⅱ層旧耕作土、第Ⅲ層床土、第Ⅳ層は地山土で遺構の検出面、第Ⅴ層は旧河川の砂礫層、第Ⅵ層は旧河川の砂層である。

本調査では古墳時代から中世にかけての遺構や遺物を検出した。遺構は第Ⅳ層上面から、掘立柱建物址２棟、溝７条、土坑５基、柱穴 14 基、性格不明遺構２基を検出した。遺物は主に遺構内から土師器（甕・甑・椀・皿）、須恵器（蓋坏・坏身・甕）、瓦器（椀）、石器（鏃）、鉄器（鏃）、ガラス製品（小玉）が出土した。

【古墳時代】掘立柱建物址や溝・土坑など遺構の殆どを検出した。北隣の下苅屋遺跡１～４次調査地は古墳時代後期の集落址で、位置関係や下苅屋遺跡の集落内で出土した焼成不良や焼き歪んだ須恵器なども遺構内から出土しており、遺構の密度や南に傾斜する地形なども含め下苅屋遺跡で検出された集落の南端付近と考える。とくに掘立２は北西角部だけの検出で全容は不明であるが柱穴の規模が１ｍ程あり、掘り方もしっかりしている。SD2～6 は堆積土から水利に伴う施設とは考えられない。

【中世】SD1・7 は南北に延びる人為的な小溝で、埋土から水利に伴う施設ではない。SK2 は砂質土層まで深く掘られ、基底面が窄む状況から井戸の可能性をもち、埋土の堆積状況から短期間に埋め戻されている。北隣の自然流路が埋没した後、流路上に農耕に伴う生産域が展開しており、今回検出した溝や土坑は農耕にかかわる生産域か居住域に伴うものか検討を要する。

小　結　今回の調査では、古墳時代後期から中世にかけての集落を形成する遺構や遺物などの資料が得られた。とくに北隣に位置する下苅屋遺跡の古墳時代後期の集落は自然流路の南岸において窯業生産と流通にかかわる集落として位置づけられており、この集落の広がりを探るうえで貴重な資料を得ることができた。

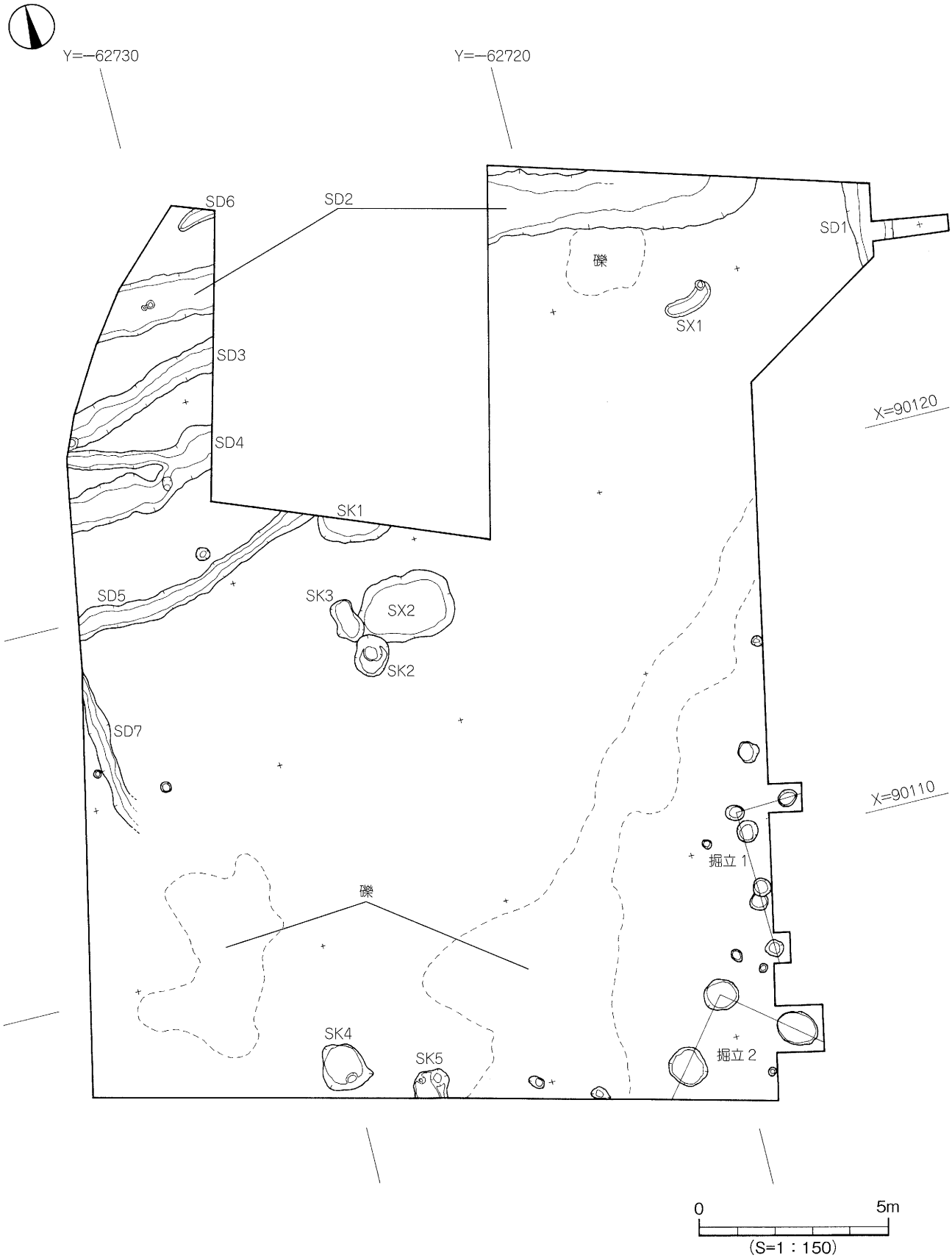

Y=−62730
Y=−62720
SD6
SD2
SD1
礫
SX1
SD3
SD4
X=90120
SK1
SD5
SK3
SX2
SK2
SD7
X=90110
掘立１
礫
SK4
SK5
掘立２
0
5m
(S=1：150)

図２　遺構配置図

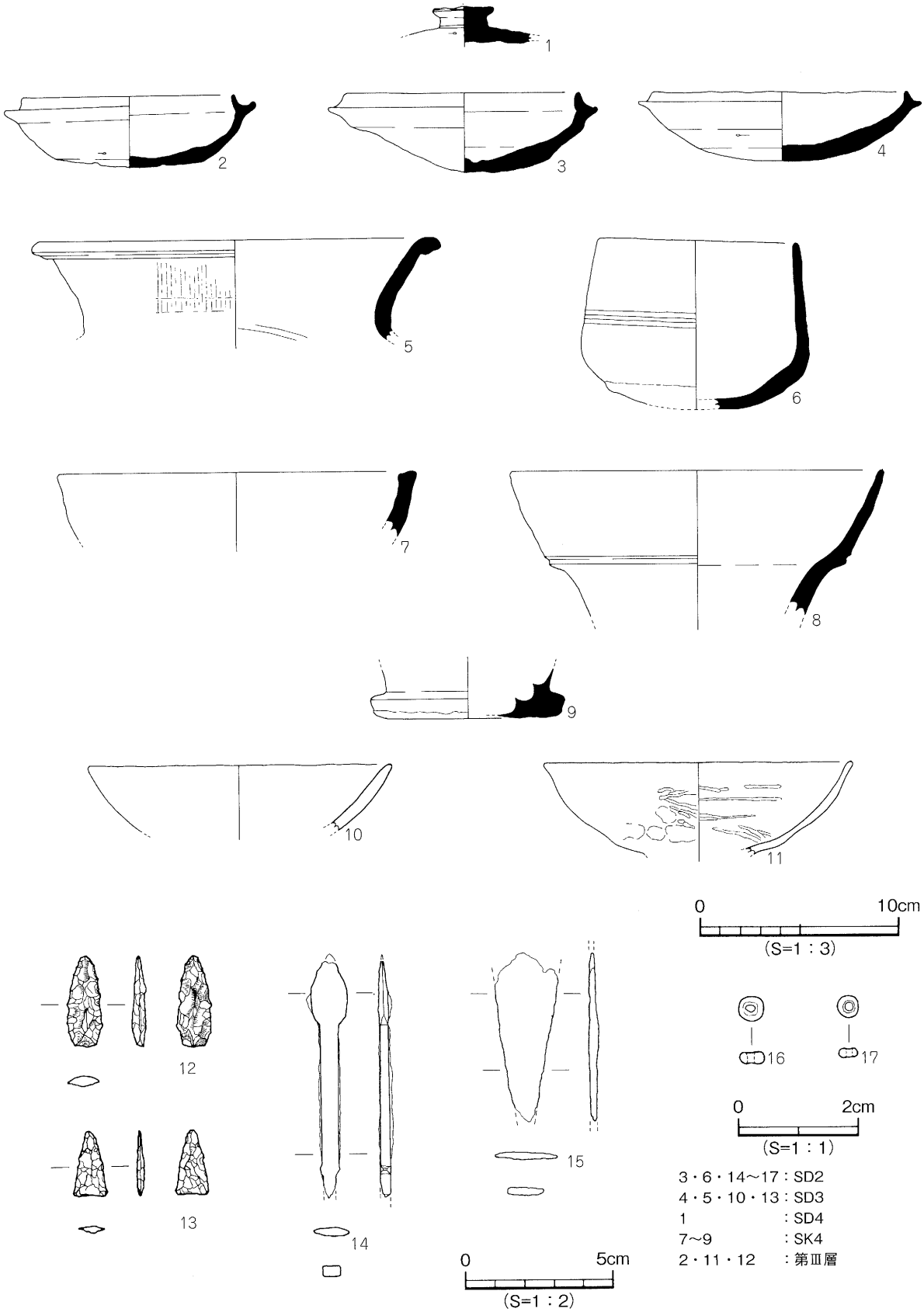

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
0
10cm
(S=1：3)
12
13
14
15
16
17
0
2cm
(S=1：1)
3・6・14～17：SD2
4・5・10・13：SD3
1　：SD4
7～9　：SK4
2・11・12　：第Ⅲ層
0
5cm
(S=1：2)

図３　出土遺物実測図

写真１　遺構完掘状況（南より）

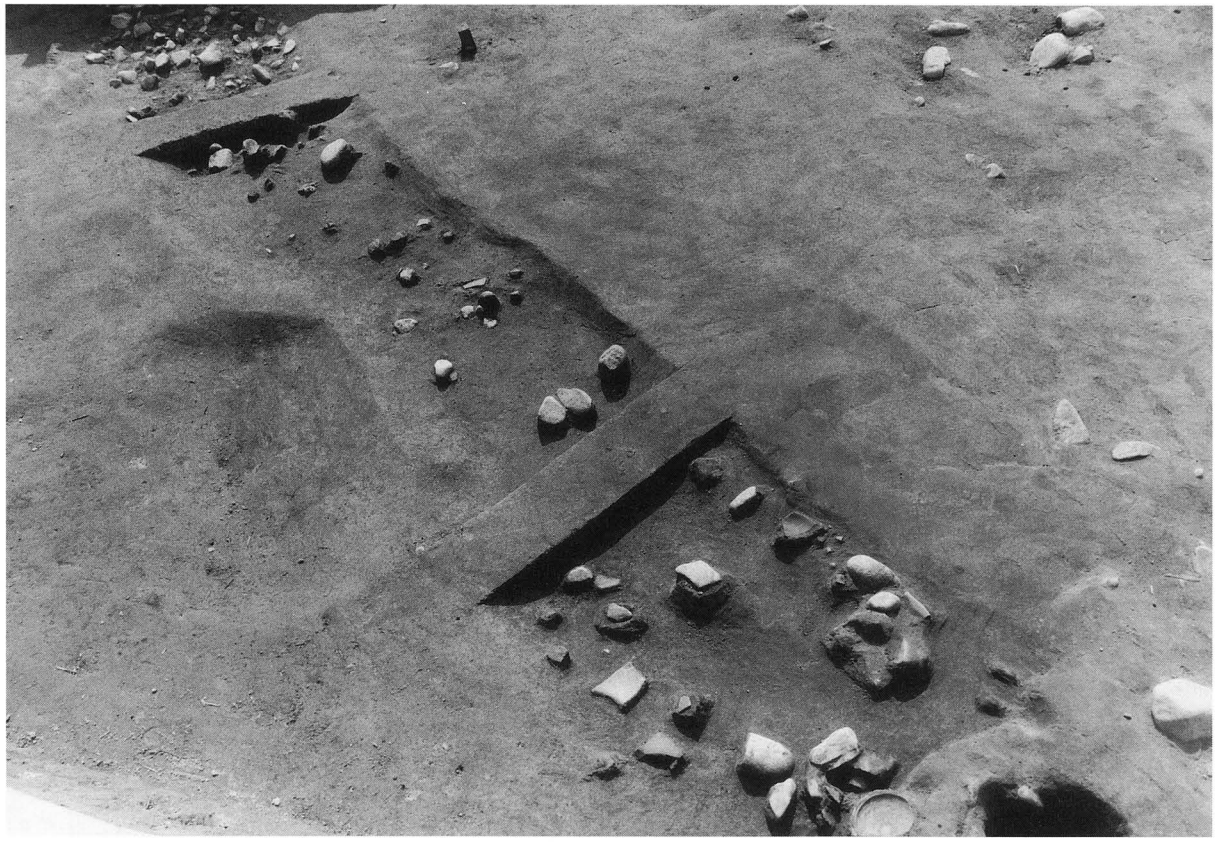


写真２　SD3 遺物出土状況（西より）

平井（ひらい）遺跡５次調査地

所在地　松山市平井町甲 3120、3122、3126 の各一部
期　間　平成 18 年 10 月 2 日～同年 12 月 27 日
面　積　806.02 ㎡
担　当　河野史知

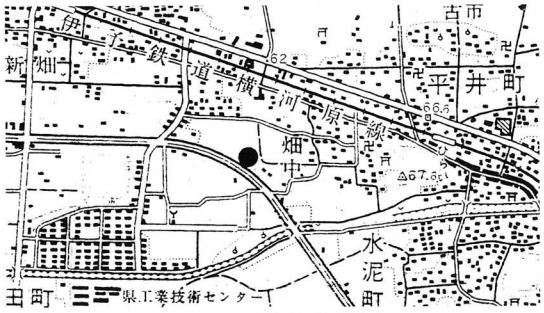


図１　調査地位置図

経　過　本遺跡は、松山市道小野 160 号線道路改良工事に伴う事前の発掘調査である。本調査地は平井遺跡３次調査地の南方約 100 ｍの標高約 55 ｍに位置する。南隣りの平井遺跡では、古墳時代後期の掘立柱建物址や井戸、溝などで構成される集落址が確認されている。

遺構・遺物　調査地は、微高地が南側に下がる緩傾斜地上であり、基本土層は第Ⅰ層から第Ⅸ層を検出した。第Ⅰ・Ⅱ層農耕にかかわる客土、第Ⅲ層床土、第Ⅳ層灰オリーブ色～灰黄褐色砂質土、第Ⅴ層明褐灰色砂質土、第Ⅵ層は黒褐色土で弥生土器・土師器・須恵器を包含する遺物包含層、第Ⅶ層地山土で遺構の検出面、第Ⅷ層灰白色～褐灰色粘土、第Ⅸ層にぶい黄褐色～褐灰色砂層である。検出遺構は竪穴式住居址４棟、掘立柱建物址 11 棟、溝 11 条、土坑６基、柱穴 109 基、倒木跡２基、性格不明遺構５基がある。遺物は第Ⅵ層や遺構内から弥生土器（甕・壺）、土師器（甕・甑・椀・皿）、須恵器（蓋坏・坏身・甕）、石器（石庖丁・石鏃）が出土した。

【弥生時代】SK4 と SK5 からは前期の土器が出土した。SK4 は遺物が散乱した状態で比較的多く出土しており、廃棄されたものと考えられる。柱穴や性格不明遺構なども検出したことから、周辺には前期頃の集落が展開することを窺わせる。

【古墳時代】SB2 は北壁に造り付けカマドを伴う構造で、カマド上部に残存する甕や甑の破片の上に須恵器の坏身が出土した。この坏身は、建物の廃絶に伴う祭祀的な目的で置かれたことも考えられる。SB3 も北壁に突出部をもち、その部分から焼土・炭を検出し、カマドの残存の可能性が強い。掘立柱建物は南端において６棟が切り合っており、後期頃に継続的に集落が形成されていたことが窺える。また、周辺の調査では遺構の密度が低く、本調査地周囲に集落の中心が存在していたことを示唆する。また、焼成不良の須恵器が出土しており、下苅屋遺跡の集落と共通性をもつ。

【中世以降】SK2 は南北方向を長軸とした方形の土坑で、基底面北側に土師器の坏や皿が並べられた状態で出土しており、遺構の規模や土師器の出土状況から土坑墓と考えられ、残存する遺物の配置状況から頭部が西向きで北枕の屈葬を想定する。溝は形状や埋土から農耕に伴うもので、現在の地割りより軸が 13 ～ 20°程東西方向に振れるが SD1 ～ 5・8 ～ 11 は平行する位置関係であり、当時の地割りが現在の地割に影響を及ぼしたものと考える。暗渠は直線的に南北方向に延びており、途中で西方向に分岐する。溝内に礫が詰められた状態で隙間を水が流れる構造である。

小　結　今回の調査では、弥生時代前期から中近世にかけての集落関連遺構を確認することができた。調査地の南側は旧地形が浅い谷状の低地となることから、とくに古墳時代後期頃では本遺跡は集落の南端付近であることが確認できた。

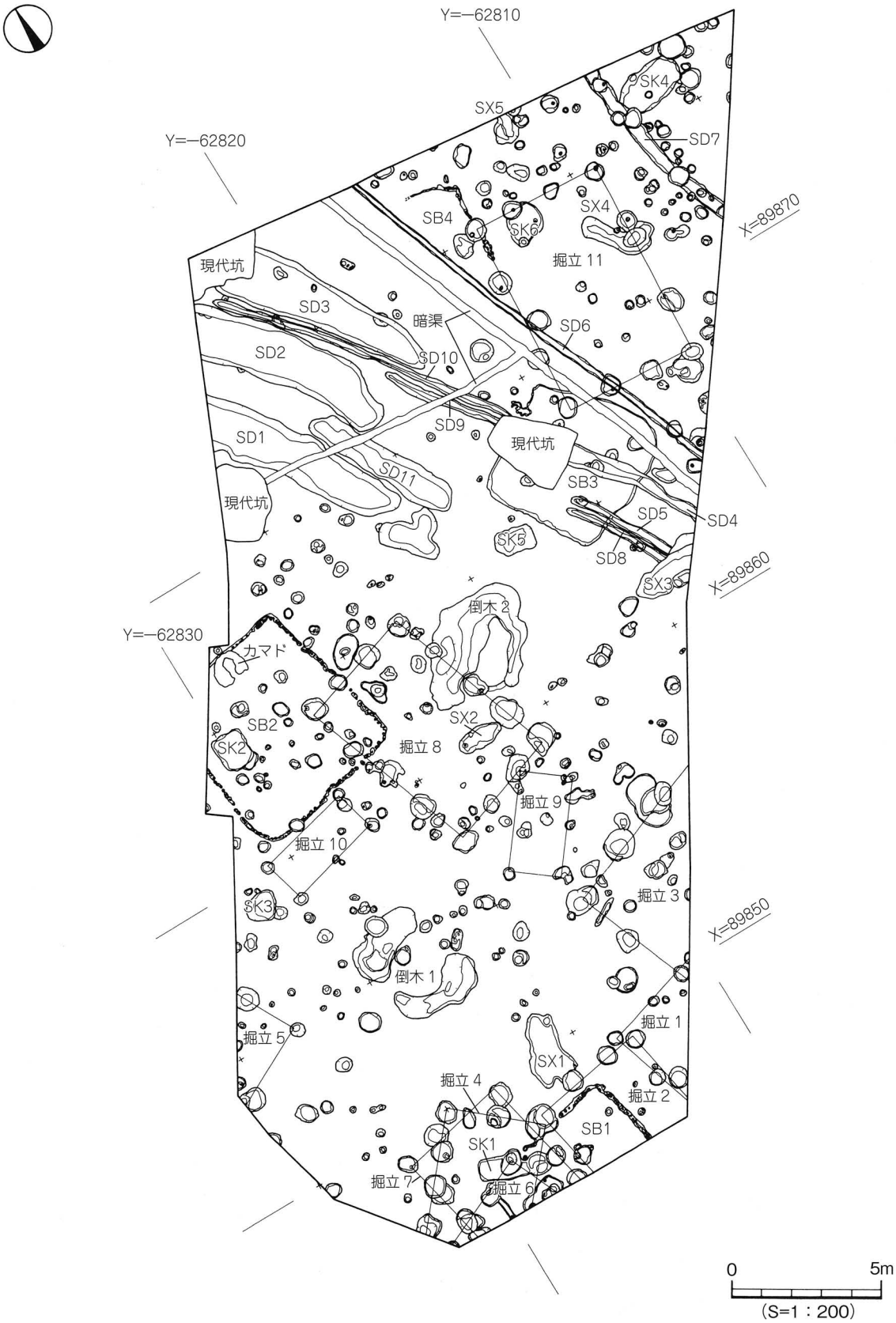

Y=−62810
Y=−62820
Y=−62830
X=89870
X=89860
X=89850
SX5
SK4
SD7
SB4
SK6
SX4
掘立 11
現代坑
SD3
暗渠
SD6
SD2
SD10
SD9
SD1
現代坑
SD11
現代坑
SB3
SD5
SD4
SK5
SD8
SX3
倒木 2
カマド
SB2
SX2
SK2
掘立 8
掘立 9
掘立 10
掘立 3
SK3
倒木 1
掘立 1
掘立 5
SX1
掘立 4
掘立 2
SB1
SK1
掘立 7
掘立 6
0
5m
(S=1：200)

図２　遺構配置図

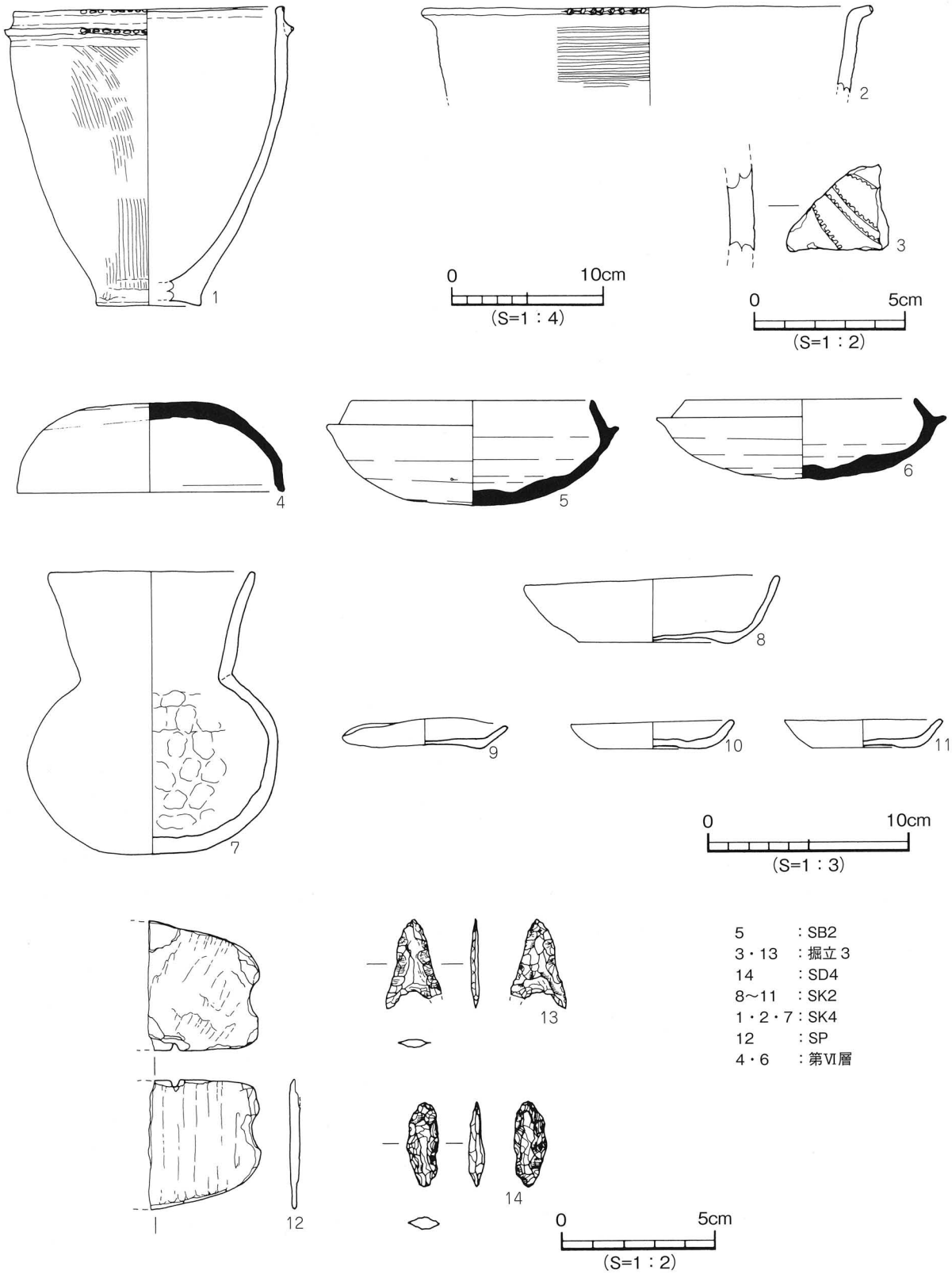

1
2
3
0
10cm
(S=1：4)
0
5cm
(S=1：2)
4
5
6
7
8
9
10
11
0
10cm
(S=1：3)
12
13
14
0
5cm
(S=1：2)
5　：SB2
3・13　：掘立３
14　：SD4
8～11　：SK2
1・2・7：SK4
12　：SP
4・6　：第Ⅵ層

図３　出土遺物実測図

写真１　調査区南側遺構完掘状況（北より）

写真２　調査区北側遺構完掘状況（北より）

葉佐池古墳（はざいけ）4次調査

所在地　松山市北梅本町甲2455番地の一部 外
期　間　平成18年4月17日～同年5月31日
面　積　2,500㎡のうち250㎡
担　当　栗田茂敏

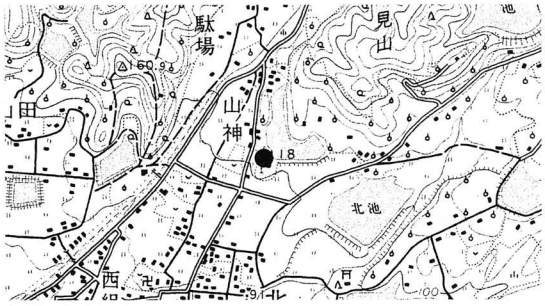


図1　調査地位置図

経　過　葉佐池古墳では、従来、推定の域を出なかった墳形・規模をより確度の高いものにすることを目的に、断続的に墳丘調査を実施している。平成17年度には、3次調査として、地区の協力を得ながら墓地内にトレンチを掘削し（1次調査T28の南延長掘削）、推定前方部の南へのひろがりを追究するとともに、あらためて松山市有地内前方部側の精査を行った。しかし、この調査では、墳丘が松山市有地を越えて、南の墓地のエリアまでひろがっていると積極的に言えるだけの証左を得ることはできず、墳形はともかく、墳丘の範囲は市有地内でおさまる可能性も出てきた。そこで、18年度は、1次調査で墳丘範囲が市有地を越えて南へ延びるとの判断の大きな根拠となった推定くびれ部、Z調査区の追試と、既掘のトレンチの土層の再精査を主とした調査を実施し、残存盛土端の再確認を行うこととなった。

遺構・遺物　4次調査でも地区の協力を得て、墓地内にさらに1箇所南北トレンチを設定することとした。設定位置は、1次調査で前方部端と想定したラインにかかる部分で、これをT36として掘削した。現地表下約1mで検出された地山は、緩やかな南下がりの傾斜で、その直上に風化土、その上層に橙褐色のシルトが20㎝程度載っており、この層を含めて、人為的な整地の痕跡は認められず、また盛土も確認できなかった。さらに、今回の調査では、Z調査区の精査、およびこの調査区の可能な範囲での拡張掘削も行った。1次調査の際、この部分にはくびれ状の地山整形痕や、地山の岩盤を積み上げた列石状の施設が検出されている。また、この調査区の南東コーナー付近の、地山の痩せた部分には人為的に積まれたと考えられる盛土状の土層が存在している。従来、これらを古墳に伴うものと考え、古墳は盛土と地山整形によって形成された前方後円墳であり、それぞれのトレンチで観察された現存する盛土端や、さらに、この地山整形されたくびれ状の部分を巡るコンターを拾って、南側の墓地までの墳丘域を推定したのであった。これらの遺構のうち、列石については、その使用されている石材が地山の岩盤と同質のものであると同時に、比較的雑然とした状態であること、局部的にしか存在しないことなどから、人工的なものではなく、自然の岩盤の脆くなった箇所に植物の根などが入り込んで割れ目を生じさせた状態ではないのかなどという意見も一部に聞かれた。そこで今次の調査では、この列石状の遺構について、地質の側からの判断を得るべく専門家の現地指導を仰いだところ、人為的な構築物に間違いないとの意見を得た。教示されたところによると、たとえ砂岩質の石であろうとも、それぞれの石には目があり、この目の通り方がこの石列の場合、それぞれ不揃いであること、また地山面の傾斜に倣うことなく、全体的に面を持って立ち上がっていること、さらに、地山面との間には空間があって、その空間には裏込めと考えられる土があること等がその内容である。

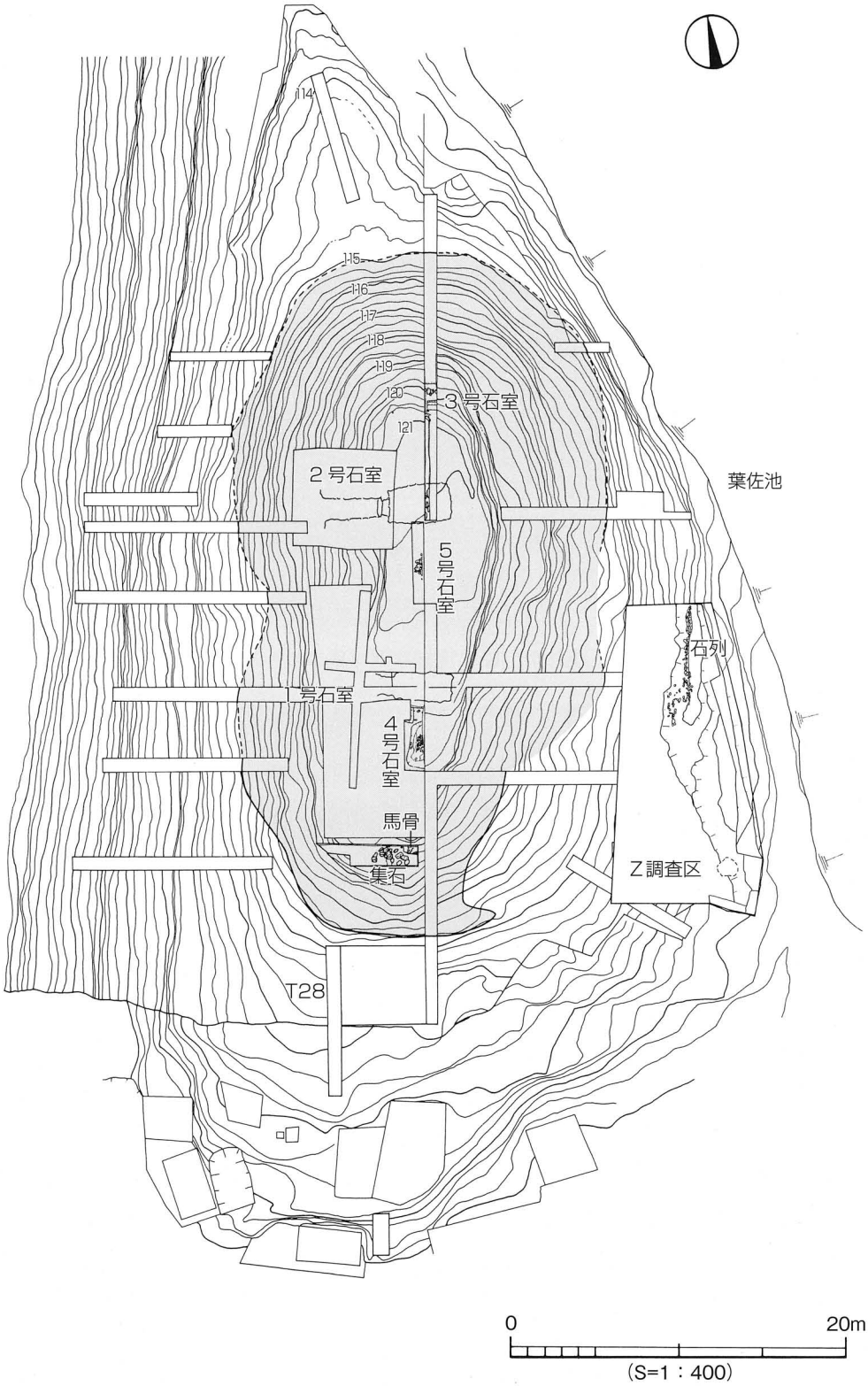


図２　墳丘盛土残存想定範囲

写真１　T36 完掘状況（東より）

写真２　Z 調査区列石近景（東より）

これらの作業を行う一方、今回の調査でも引き続き既存のトレンチの再精査を行い、遺存盛土端の再確認を試みた。１次調査での掘削範囲が十分ではなく、いまだに判断に曖昧さが残るトレンチについては、延長掘削も実施してあらためて確認した。それぞれのトレンチの土層については、より確実に遺存端と考えられる部分を拾い、曖昧・不確実な部分については切り捨てた結果、現況の盛土端想定ラインは図２に示された範囲ということになった。

小　結　今回の調査をまとめておく。墓地内に設けられたトレンチ T36 では、墳端や墳丘の痕跡を確認することはできなかった。

Ｚ調査区での列石の検討の結果では、人為的に積まれた施設であることがあらためて確認された。しかしながら、この施設がいつの段階での人工物であるのかは明確になっておらず、確実に古墳に伴う施設であるのかどうかは未だ不詳である。今回、あらためてその積みを詳細に観察してみると、谷積みのような比較的新しそうに見える積みの部分がみられる。丘陵西斜面には、果樹園段階の段畑施設としての石垣が３段ほど残っているが、これと比較してみると、材質や石材の大きさ、積み等、似通った部分があるようにも見うけられる。さて、この調査区では、南東隅周辺の地山レベルが下がる部分に盛土と考えられる土を置いている。これも再精査の結果、人工的な盛土であることは間違いないことが再確認された。しかし、ここでも遺物の出土はなく、古墳に伴うものかどうかは不詳である。殊に、この位置は溜め池「葉佐池」の南堤の取りつきに近い部分にあたるので、これとの関連も考えておかなければならない。１次調査では、こういったくびれ状の地山の削り、列石、部分的な盛土と、この調査区で検出された施設を一連の墳丘施設と判断したが、再考の余地があることは事実として今後の調査の課題としておかなければならない。

さて、今回トレンチを再精査したところ、特に墳丘西側において、１次調査に比べて盛土遺存端がやや狭くとられる結果となった。これは、この古墳の墳丘に用いられている封土が、流土や地山風化土との判別がつきにくいことが大きな理由で、今回、曖昧な部分を捨て、確実と思われる部分だけを拾った結果である。あくまで遺存端ではあるが、コンターでいえば 115 m のライン付近を回ること、また、現況墳丘における南北の大きな傾斜変換点が、やはりこのレベルに近いところにあることを加味すると、墳丘はこれに近い範囲でおさまる可能性も考えておく必要がある。Ｚ調査区での、いくつかの確認を必要とする課題の結果如何、つまり、これらの施設が墳丘に伴うものではなく、墳端がこのレベルまで下がることはないということが確定できるようであれば、松山市有地内におさまる 115 m ラインの付近の墳丘精査による墳形・規模の絞り込みも可能か、という見通しを持てたのが今回の調査の主な成果といえよう。

久米高畑遺跡67次調査地

所在地　松山市来住町902－1
期　間　平成18年11月1日～平成19年1月16日
面　積　170㎡
担　当　小笠原善治・橋本雄一・栗田正芳（文化財課）

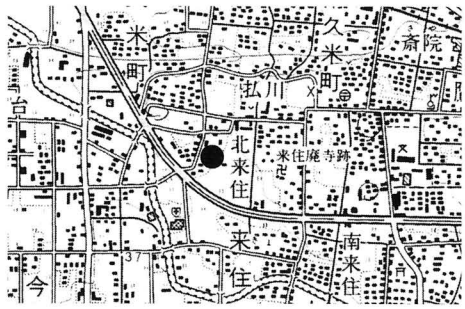


図1　調査地位置図

経　過　近年調査された、久米高畑遺跡61次調査地検出の溝SD002は、その北に展開する正倉院東濠南の延長線上にあたり、正倉院の東辺を南北に通る道路の側溝、または同時期の区割り溝の可能性が検討されている。この61次調査の結果から、このSD002の西部域には有力な官衙関連施設の存在が予想されている。調査地は、久米高畑遺跡61次調査地で検出された溝の南部延長線上にあたり、延長が予想される溝の存在と官衙関連施設の有無、および当地における古代の土地利用を明らかにする事を目的に、重要遺跡の確認調査として国からの補助を受け調査を実施した。

遺構・遺物　本調査では、官衙関連の掘立柱建物址２棟、弥生時代末～古墳時代の竪穴住居址１棟、そのほか溝、土抗および柱穴多数を検出した。調査地周辺は、北東から南西に向かって緩やかに傾斜し、調査地は台地上の南西端部付近に位置する。検出された掘立柱建物址２棟はかなり近接しており、両建物の造営時期は異なるものと考えられる。調査区中央に展開する掘立１は、３間×３間の南北にやや長く、柱間は南北約1.95ｍ、東西約1.69ｍ、やや南北に間延びする。柱穴平面形態はやや不整形だが、ほぼ方形といえる。深さは0.35～0.44ｍを測り。埋土は暗褐色土で、掘立２に比べやや明るい埋土である。建物の方位はほぼ真北を示し、61次調査で検出されたSD002の方位にほぼ一致する。このことから正倉院およびSD002（8世紀後半）と時期的に近いものと考える。次に調査区南に展開する掘立２は、桁行５間×梁行４間の比較的大型の掘立柱建物である。柱穴の平面形態はほぼ方形で、いくつかは明確に方形を呈する（SP10・SP11等）。規模は大きいもので１ｍ×1.3ｍ、深さは0.5ｍにも達するものもあり、官衙関連施設のなかでも比較的大きい。埋土は黒褐色土中心で黄色の小ブロックがまばらに混入する。また、いくつかの柱穴では柱の抜取り痕を確認し、SP1などは、柱穴の外側から掘り込み柱を除去した状況が観察できた。柱穴の多くは断面形状が逆台形で直線的に立ち上がり規格的である。方位は北方の正倉院付近の区割りに比較して10度前後東に振る。このように規模が８ｍを超えるような比較的大型建物で、柱穴の平面形状が明確に方形、断面形状が逆台形状を呈し規格的な堀方であるという特徴は、官衙関連施設とする要素の強い部分である。ただし、埋土が黒褐色土中心で掘立２に比して黒いなど、古い時期の官衙施設埋土の特徴が見られ、正倉院等の官衙関連施設の区割りには一致しない建物である。これらのことから掘立２は、一般集落としての建物ではなく、官衙出現直前ないし官衙出現期の建物（７世紀前半）と考えられる。

小　結　今回の調査での成果は、台地上の南西辺縁部における官衙関連施設と官衙出現期前後の遺構の検出は、今後の久米官衙遺跡群の調査にとって官衙関連施設の範囲拡大と官衙成立前後の様相を考える上で、貴重な資料となるものである。（小笠原）

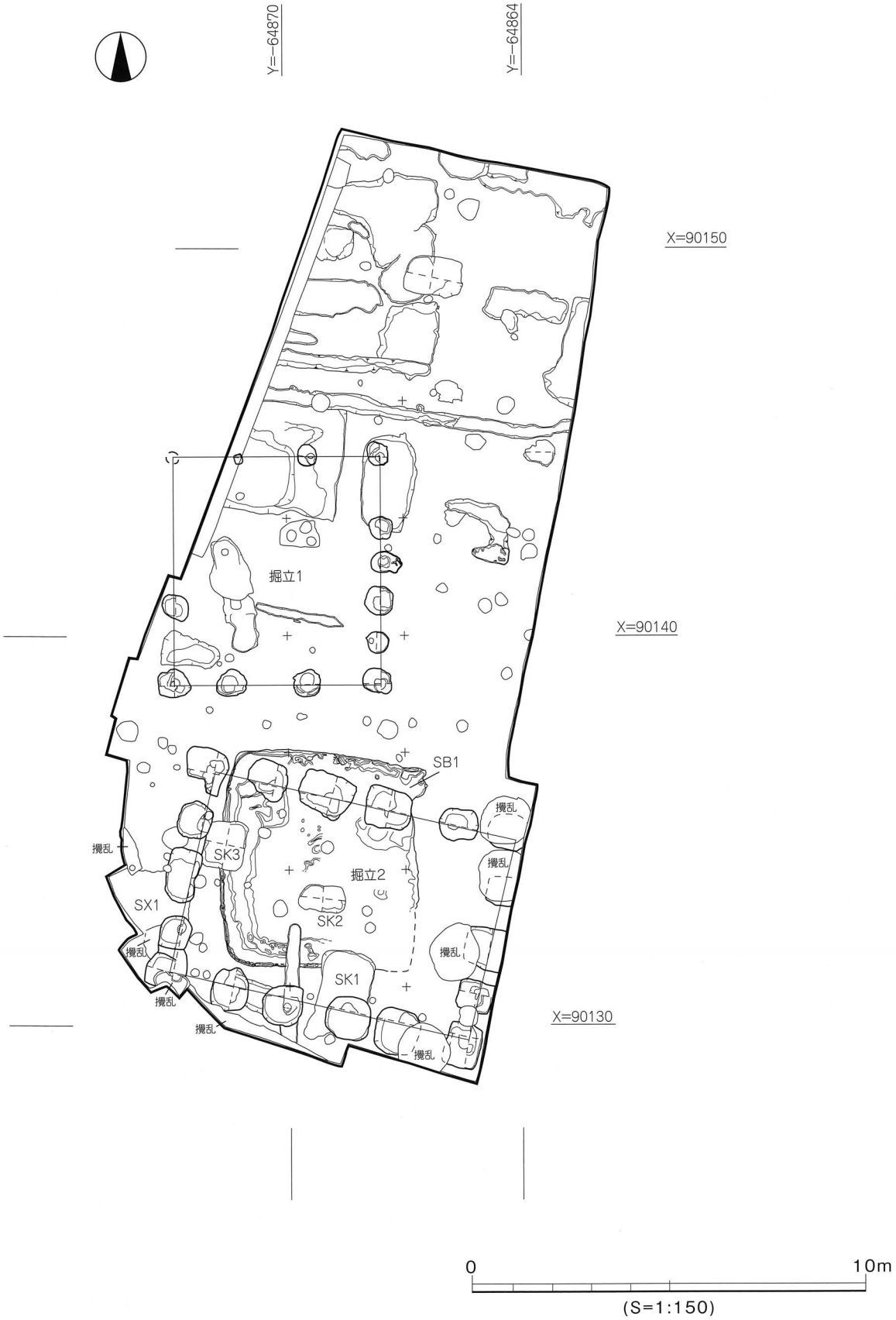

Y=−64870
Y=−64864
X=90150
X=90140
X=90130
掘立1
掘立2
SB1
SK1
SK2
SK3
SX1
撹乱
0
10m
(S=1:150)

図２　遺構配置図

写真１　調査区遺構検出状況（北より）

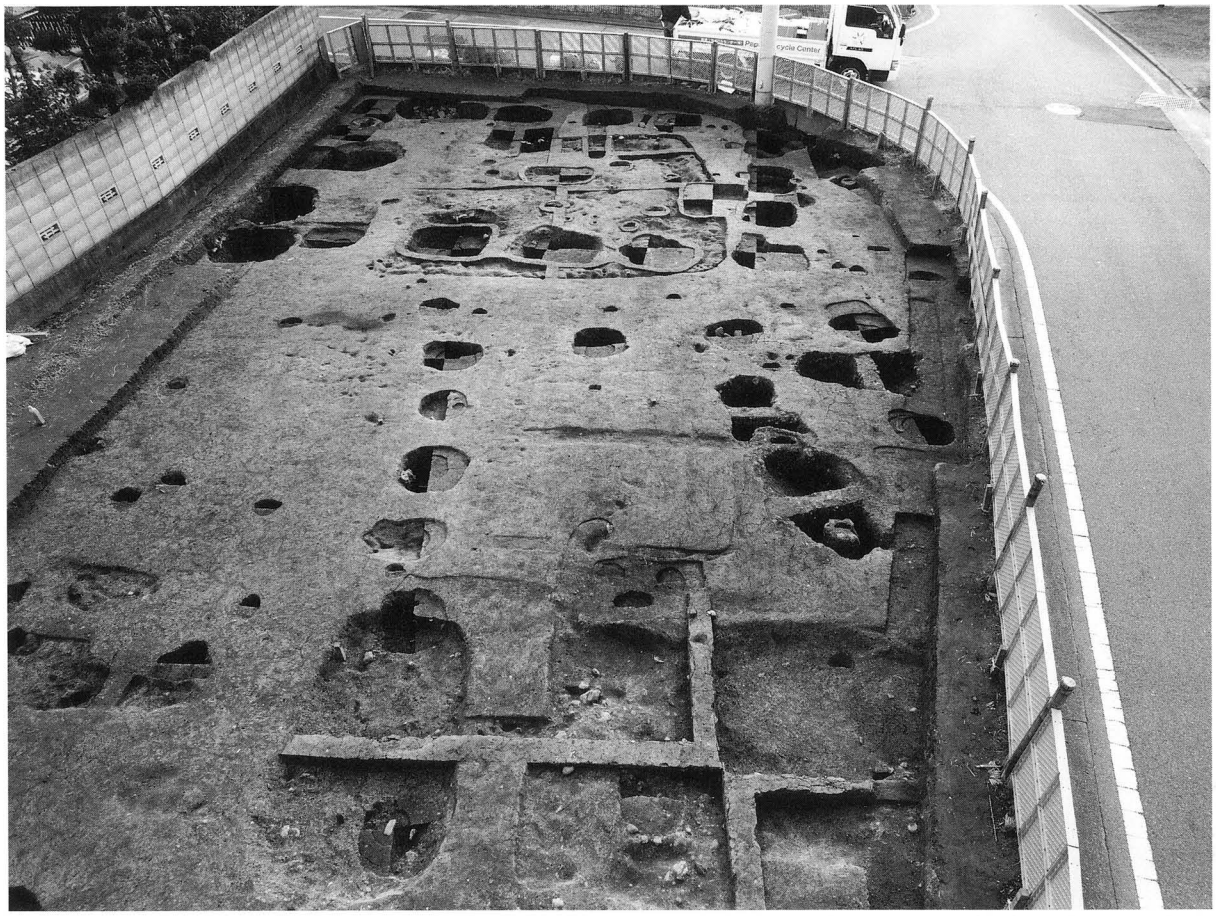


写真２　遺構半掘状況　（北より）

写真３　掘立２・SP12 断面状況（西より）

久米高畑遺跡68次調査地

所在地　松山市来住町903
期　間　平成19年1月9日～同年3月30日
面　積　261㎡
担　当　橋本雄一・小笠原善治・栗田正芳（文化財課）

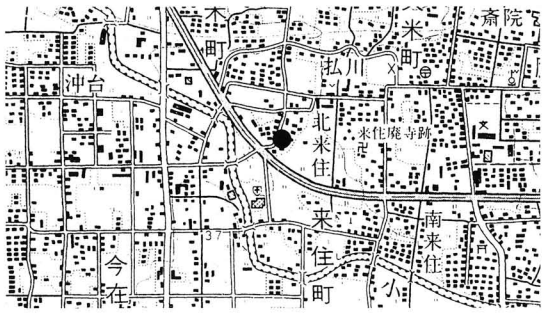


図1　調査地位置図

経　過　調査地は史跡久米官衙遺跡群における中心的な施設のひとつである回廊状遺構の北西角から西に約100ｍの地点に位置している。この調査は、遺跡群南西部における官衙の広がりを把握する目的で近年継続的におこなわれてきた国庫補助による重要遺跡確認調査として実施された。調査は市教委から委託を受けた財団の埋文センターが担当し、西隣に接する67次調査地における調査の終了にあわせて着手された。

遺構・遺物　67次調査地で検出された大型の掘立柱建物（掘立2）の付属施設である、やや小型の建物を1棟検出した。この掘立001は、67次の掘立2と同様、官衙施設の出現直前ころの建物であると想定している。両建物は柱筋をそろえた配置であることから、一連の建物群を構成するものと考えられる。

掘立001の規模は、桁行4間（6.20ｍ）、梁行3間（4.82ｍ）、方位はN－12°－Eを測る。柱穴は大きなものでは一辺1.2×1.5ｍの隅丸長方形に掘り込まれているが、いずれも深さは浅い。深いものでも30cmほどしか遺存していないが、これは、水田の造成に伴う削平が地山面にまで及んでいることに原因があると考えられる。埋土は褐灰色土が主体で、総じて掘立2のものと比べて明るい色調を呈している。西辺の柱穴のうち、北西角の1基は67次側の水田に伴う段落ちによって完全に失われているほか、底がかろうじて遺された程度の柱穴もある。これらの柱穴を除く12基すべてにおいて、礎盤石と考えられる石が確認された。67次掘立2においては、礎盤石は使用されていないことと対照的である。1から10個の礫を面的に配置したもので、礫の下面が柱穴の底に設置されたものもある一方、厚さ5～10cmほど土を敷いてから置かれたものもある。柱穴の抜き取り穴であると認識した部分を数センチ掘り下げたところ、礎盤石を確認することができた柱穴が2基あることから、柱材がこれらの礫の上面に設置され、抜き取られたものと考えられる。

このほか、西部にて検出された小穴群に関しては、竪穴式住居址の主柱穴が遺存したものと考えている。このうち4本柱については、SK016とともに、方形の竪穴式住居址を形成するものである。同65次、66次等において、弥生時代後期末ころの同じ形態の住居址が検出されていることから、SB001についても同様の評価をしておく。柱穴は東西2.37ｍ、南北2.67ｍ規模に配置されている。柱痕もしくは柱の抜き取り穴に炭化物と焼土が含まれる柱穴があることから、『年報18』にて指摘したとおり、この時期の住居の廃絶のあり方を示す現象として注目している。

小　結　礎盤石の役割としては、柱材の高さ調節を第一の目的とした可能性を想定している。柱穴を深く掘りすぎたか、用意した柱が少し短すぎたため、全体的にかさ上げを行ったものと考えられる。

ただし、すべての柱に対して用いられていることから、隣接する 67 次の掘立 2 に対して、棟や軒の位置を一定の高さにそろえることが意識されたことの表れかもしれない。

建物の性格としては、67 次の掘立 2 と同様、正方形に近い平面形状であることから、官衙出現直前の収納施設か、あるいは、有力者の居宅の一部を構成する可能性を想定している。なお、柱穴埋土の土色が掘立 2 に比べて色調が淡いことは、掘立 001 の建設時期が若干遅れたことを示す可能性がある。

当調査地の周辺、遺跡群の中央から南西部では、過去の調査の結果、同 13 次、36 次、49 次、52 次等において、地割に伴わない斜め方向を向いて建てられた掘立柱建物がいくつか確認されている。これらの中にも、土色は古い時期の特徴である黒褐色土でありながら、方形の柱穴で構成されたものが存在している。これまでは、官衙施設の特徴のひとつとして方形柱穴の採用を認識してきたが、今次の調査によって、地割の施工以前に方形柱穴が採り入れられた可能性が高まったものと評価しておきたい。(橋本)

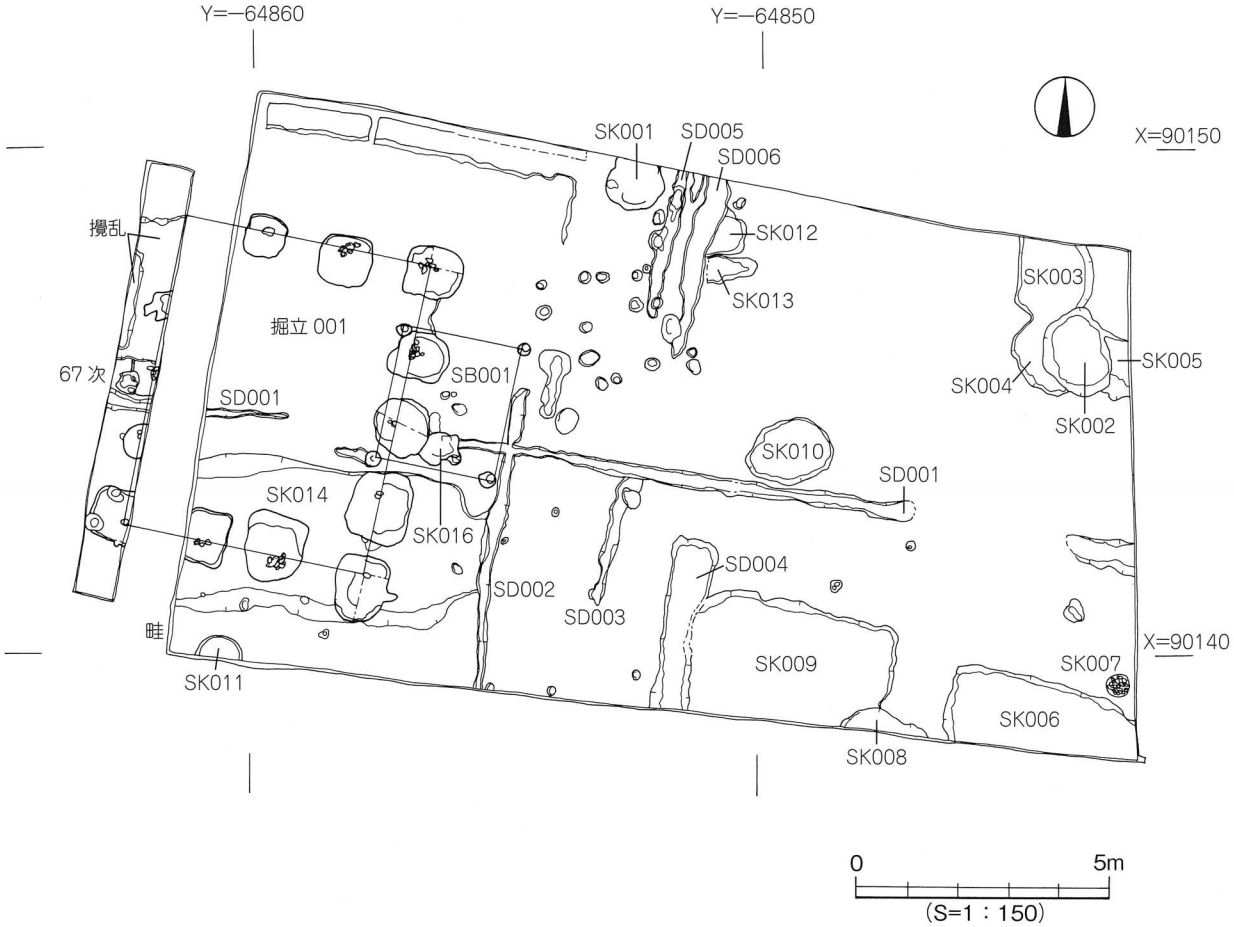


図２　遺構配置図

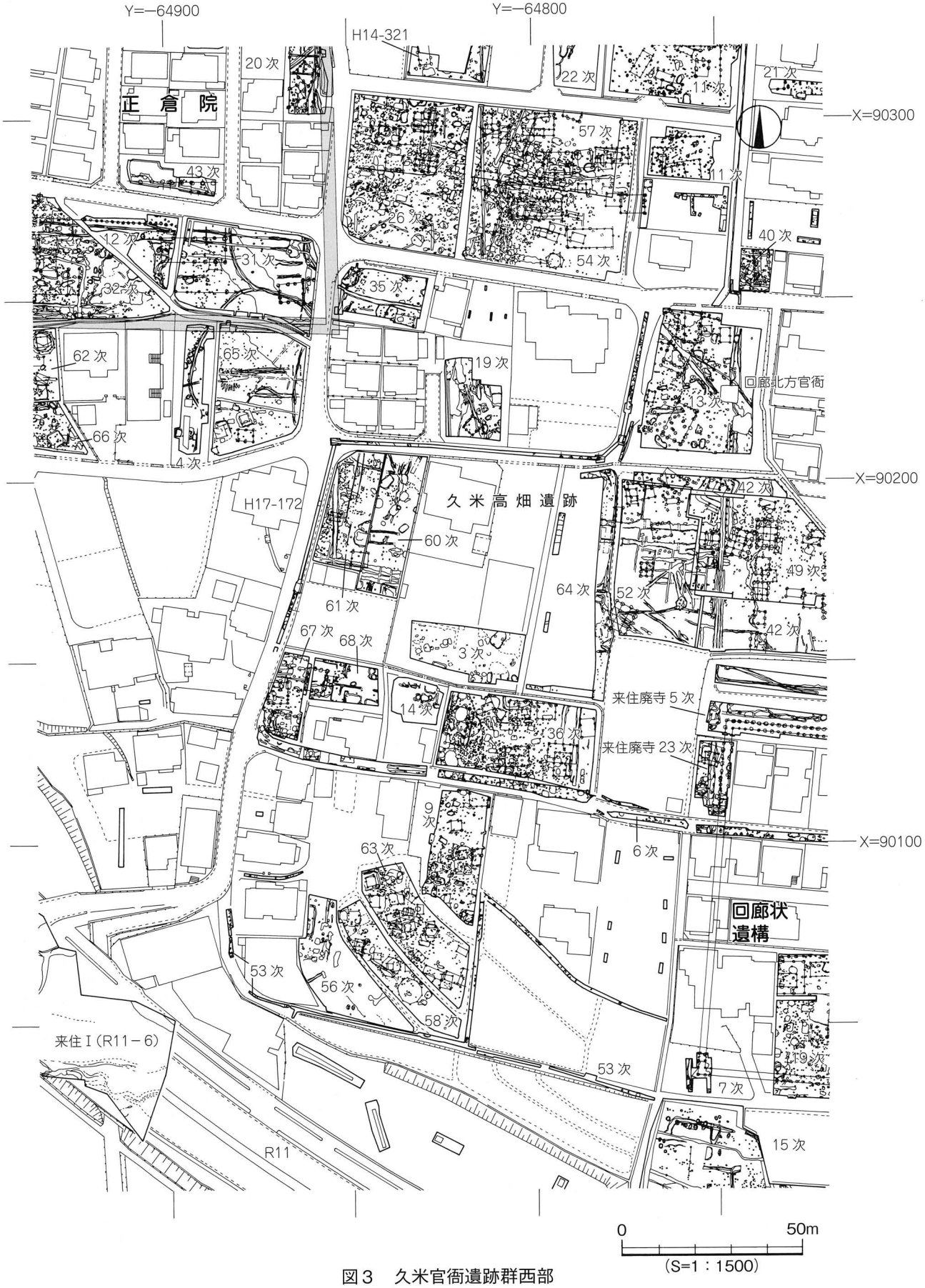


図３　久米官衙遺跡群西部

写真 1　掘立 001（東北東より）

来住廃寺（きしはいじ）33次調査地

所在地　松山市来住町850の一部
期　間　平成18年5月8日～同年7月31日
面　積　約131㎡
担　当　岸見泰宏（文化財課）

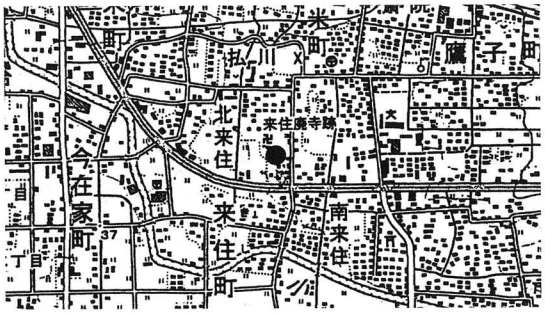


図1　調査地位置図

経　過　本調査は、史跡久米官衙遺跡群の整備・公開・活用に向けた計画策定にあたっての基礎資料を得るため実施した。調査地は、金堂基壇の東側に隣接しており、来住廃寺が法起寺式伽藍配置を採った場合、塔跡が配置される場所にあたる。

遺　構　本調査では、掘立柱建物2棟、柵1条が確認されたほか、竪穴住居や土坑、溝など、多数の遺構が確認された。また、19世紀代の遺物を包含する近世遺構も多数確認されている。近世以降の遺構については、下層の確認のため完掘したが、明確に古代以前のものと考えられる遺構については、史跡保護の観点から検出のみにとどめ、掘削は行っていない。

【掘立柱建物1】調査区北部で確認した。東西6m（4間）南北1.5m（1間）を検出したが、さらに北側へ広がるものと考えられる。方位は約1°西に傾く。時期の特定が可能な遺物は確認されなかったが、埋土は濃い黒色であり周辺の他の遺構から判断すると、弥生時代から古墳時代のものである可能性が高い。

【掘立柱建物2】掘立柱建物1の内側に重複し検出された。東西5.3m（3間）南北1.6m（1間）を検出したがさらに北側に広がると考えられる。柱間は東西が1.8m、南北が1.6mと変則的である。建物内からは、束柱穴と考えられる楕円形の小土坑が2基確認された。柱穴は、側柱穴が直径70cm前後であるのに対し、束柱穴は長辺35cm短辺25cmと小型であり、側柱に対して柱筋が通っていない。建物の方位は約1°東へ傾いている。弥生時代から古墳時代のものである可能性が高い。

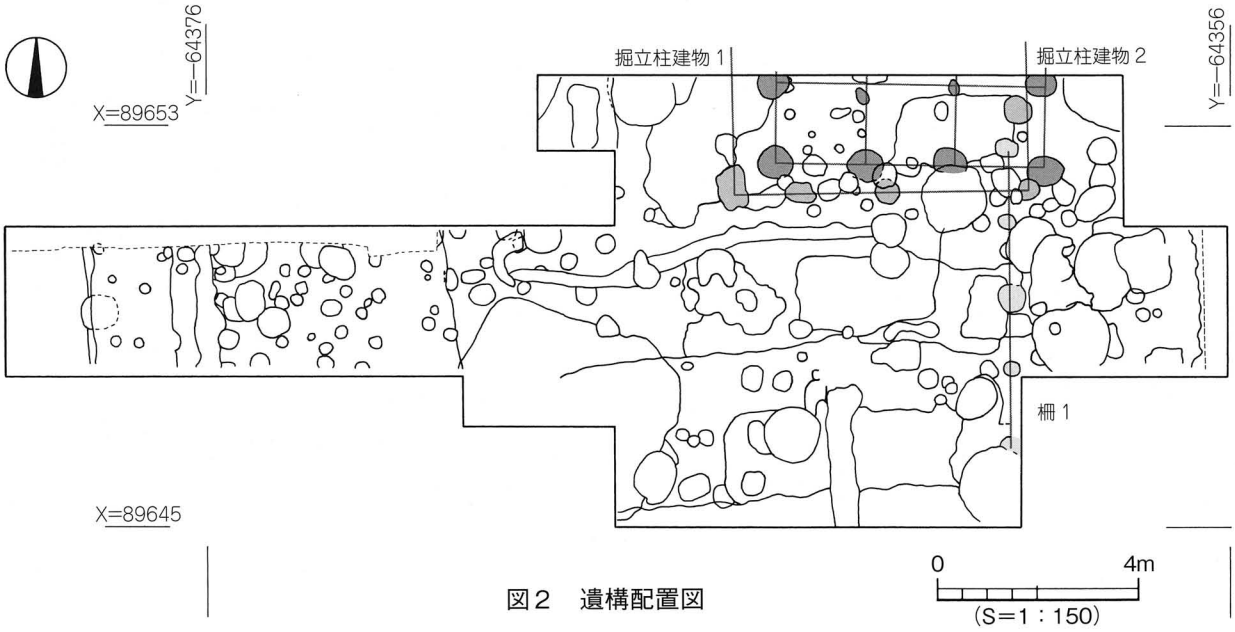


図2　遺構配置図

【柵1】南北6m（4間）分を確認した。一部柱痕が残されていたが、この埋土から来住廃寺で使用された平瓦片が確認されたことから、来住廃寺造営後に廃絶されたと考えられる。しかし、柱痕の埋土は褐灰色を呈しており、古代の遺構に特有の埋土ではないことから、古代のものであるかどうかを断定することは難しい。方位は真北を採る。

小　結　調査地は江戸中期に造営された長隆寺の旧境内であり、近世の造成土を除去すると、すぐに弥生時代以降の遺構面が検出された。このため、古代の包含層及び遺構面が残されておらず、明瞭な官衙あるいは寺院関連遺構が確認できなかった。遺物についても金堂に隣接しているにもかかわらず、瓦の出土が非常に少なく、後世の改変の激しさを示していると考えられる。ただし、柵1については、方位が真北を採り、瓦を包含しているため、来住廃寺関連遺構である可能性がある。南方はすでに深く攪乱されているため延長部の確認はできないが、北方については今後調査を行い、時期や構造の解明に努めたい。

写真1　調査区全景（東から）

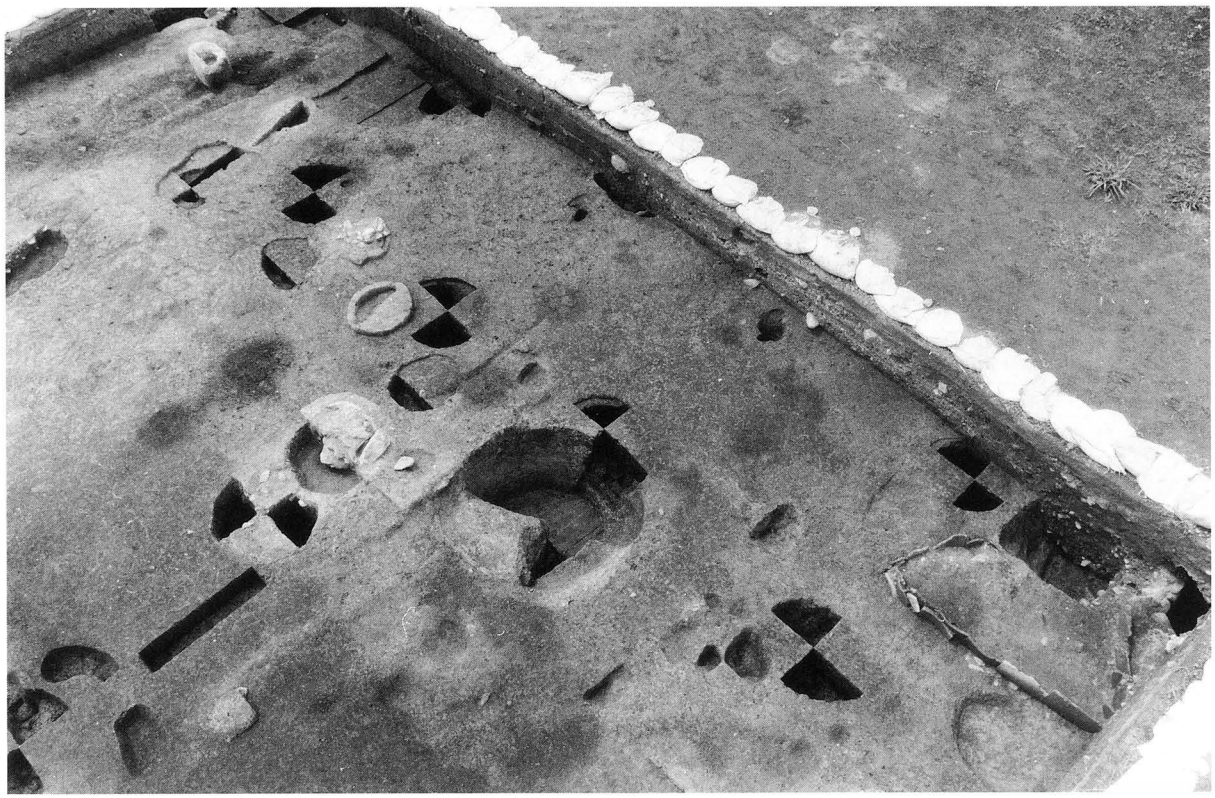


写真2　掘立柱建物1・2検出状況（南東より）

四国がんセンター解体工事に伴う事前調査

所在地　松山市堀之内13番1
期　間　平成18年8月17日～同年11月16日
面　積　725㎡
担　当　吉岡和哉

図1　調査地位置図

経　過　本調査は、国立病院機構四国がんセンター堀之内建物等解体工事に伴うもので、申請地は史跡松山城跡内に位置し、特に解体工事の対象となる建造物は、三之丸邸があったとされる場所を中心とした範囲に建築されている。解体工事の事前に史跡内における埋蔵文化財の現状を確認し、工事に際して工事が史跡に与える影響を最小限に抑える為に実施したものである。

これまでに史跡松山城跡では、二之丸跡保存整備事業に伴う事前の発掘調査及び、愛媛県美術館の建設に伴う発掘調査などが実施されおり、それまで古絵図から推測するのみであった二之丸邸及び幹線道路の位置が確定している。また近年では、平成13年3月に発生した芸予地震に伴う被害の確認調査を実施しており、本丸跡では排水施設の確認調査、二之丸跡では巽櫓跡石垣、南石垣、槻門跡石垣の解体復旧工事に先立つ事前の確認調査を行っている。さらにそれに加えて平成13年度からは、松山市の「城山公園(堀之内地区)整備事業」に伴う確認調査を実施しており、申請地の東側に位置する県営ラグビー場跡地では井戸、石垣、石組溝および塀、辻番所と考えられる礎石建物等を確認し、市営庭球場跡地および市営野球場跡地では堀之内の内部を区画する幹線道路遺構を確認している。また、史跡松山城跡内には近世の城郭遺跡以外にも群集墳が存在することが知られ、登城道の整備に伴い調査した県庁裏登城道では、登城道に面する3基の古墳を確認している。その他、松山城に関連した遺跡としては、松山市総合福祉センター建設に伴い調査した若草町遺跡、坂の上の雲ミュージアムの建設に伴い調査した番町遺跡、学校法人東雲学園の校舎建て替えに伴い調査した松山城東郭跡などが知られ、特に番町遺跡では松山藩の武士が居住していた家臣屋敷地を検出し、敷地内からは17世紀後半頃に造られた園池遺構が見つかっている。

遺構・遺物　事前に松山市職員指導のもと調査地を確認し、調査地内に23本(箇所)のトレンチを設定・掘削し、土層観察と遺物および遺構の確認作業をおこなった。その結果、T1～T8、T10～T13、T15、T17、T21において明治期あるいはそれ以前の遺構、あるいはそれらの遺構が存在する可能性が高いと考えられる造成面を確認した。

[T1]明治期のごみ穴(主に瓦片が出土)及び、四国がんセンターが昔使用していた受水槽を確認した。[T2]地山(基盤面)の落込みと、内部に堆積する池底堆積層を確認した。また、この他に医療廃棄物土坑を2基検出している。[T3]三之丸北門跡に伴う石組の一部を確認した。北側から南側に向かって西面を揃えて積み上げた石組が続き、それと直交した状態で北面を揃えた巨大な石組が西側に張り出す。石組の裏込として使用された栗石の残存する範囲より、内側に張出す巨大な石組上部に築かれた櫓門の北側および南側に虎口様の空間が存在した可能性が高い。[T4]堀之内地区北側土塁の南法面を

確認した。[T5] 北側土塁の南法面と南端、池状の落込み、土塁の北法面を確認した。[T6] T5より続く池底堆積層を確認した。

[T7] 遺物の出土はないが、明治期以前と考えられる造成面を確認した。[T8] 明治期以前の造成面と造成面に掘り込まれた溝状遺構を確認した。また、上層部分より注射針を含む焼却灰層を検出している。[T10～T13] 明治期以前の造成面を確認した。[T16] 池底堆積層を確認したが、時期の確定には至らなかった。[T17]T6より続くと考えられる池底堆積層を確認した。[T21] 東西方向にのびる石組溝を確認した。明治期の土管が接続していること等により、比較的新しい時期まで使用されていたことが窺える。トレンチの中央付近の石組が大きく乱れるが、検出長約11m、幅約1mを測り、また溝の床面に切石が敷き詰められていることを確認した。[T22] 明治期以前の造成面を確認した。また、医療廃棄物を伴う焼土層および大型の排水会所の存在を確認している。

小　結　三之丸邸内部の構造については未だ不明なところが多いが、遺構が存在する可能性が高い造成面を確認したことで、今後史跡整備に向け確認調査を実施する際の参考になると考えられる。特にT3で確認した北門跡、T4およびT5で確認した土塁、T21で検出した石組溝等は今後、三之丸邸を本格的に調査していくにあたり、貴重な基礎資料となるものである。

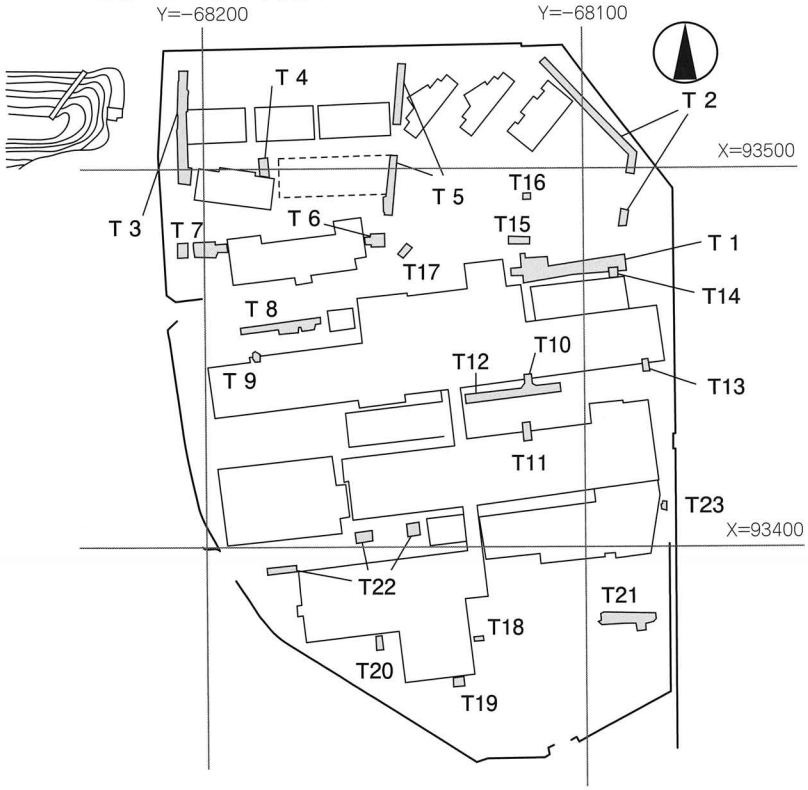


図2　調査地トレンチ配置図(S=1：2,000)

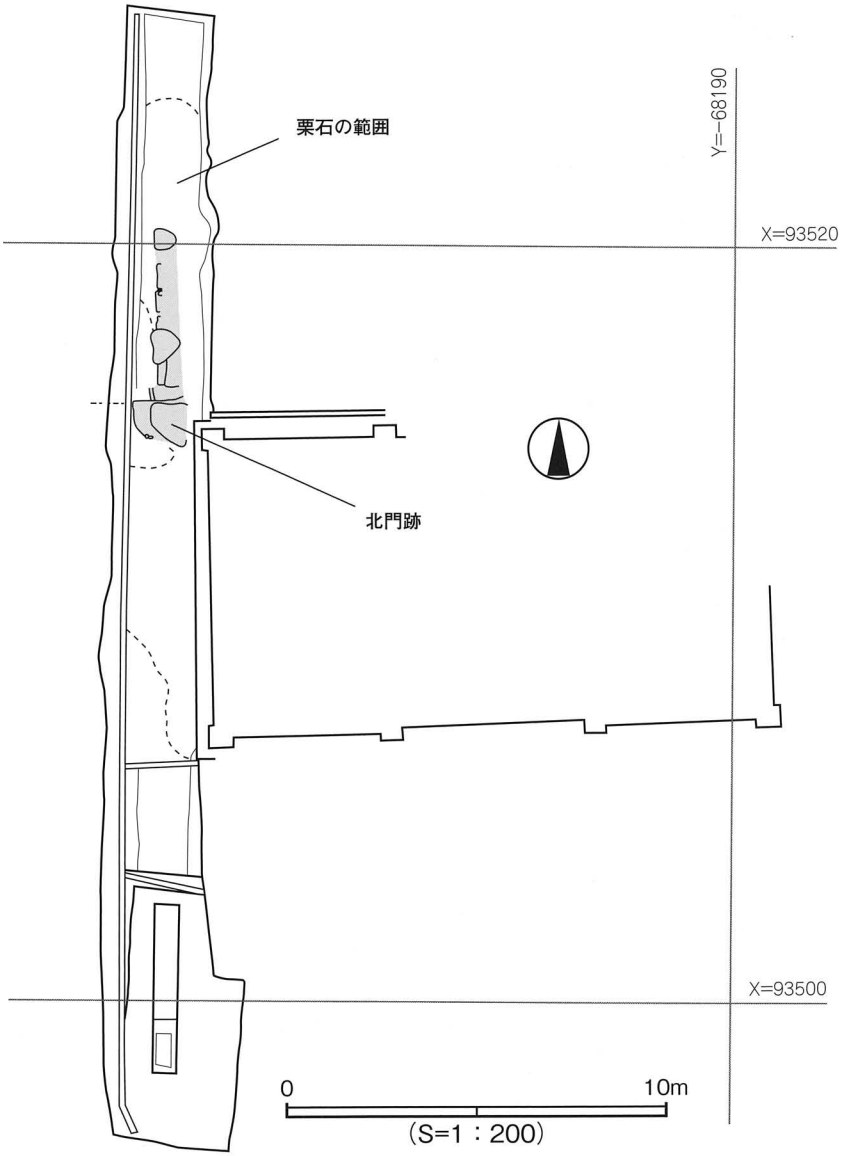


図3　T3遺構確認状況

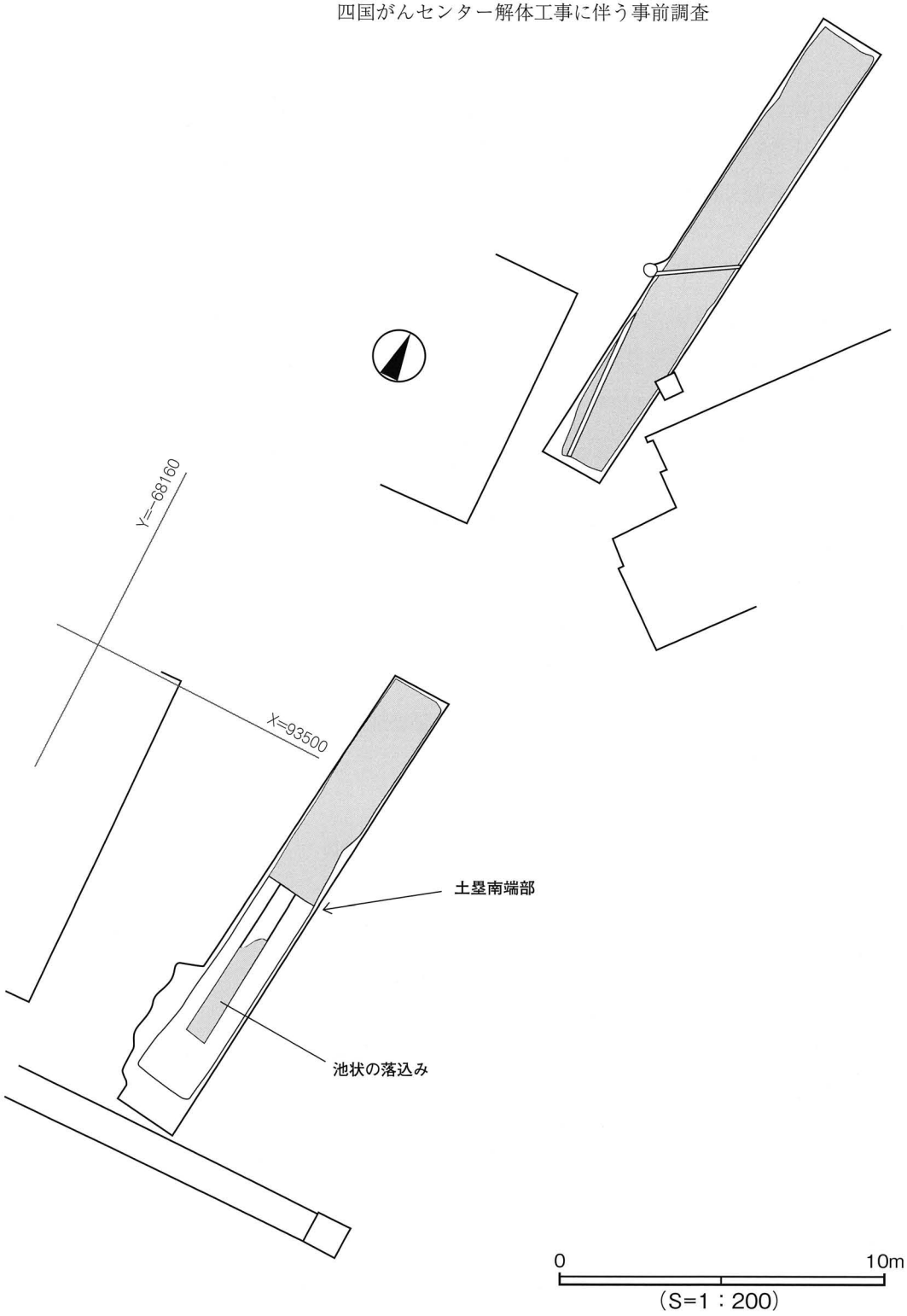


図4　T5遺構確認状況

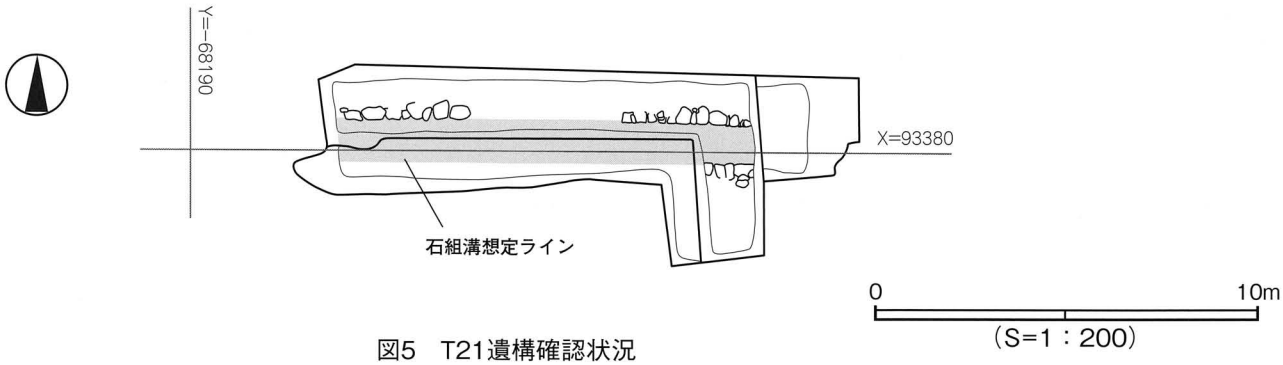


図5　T21遺構確認状況

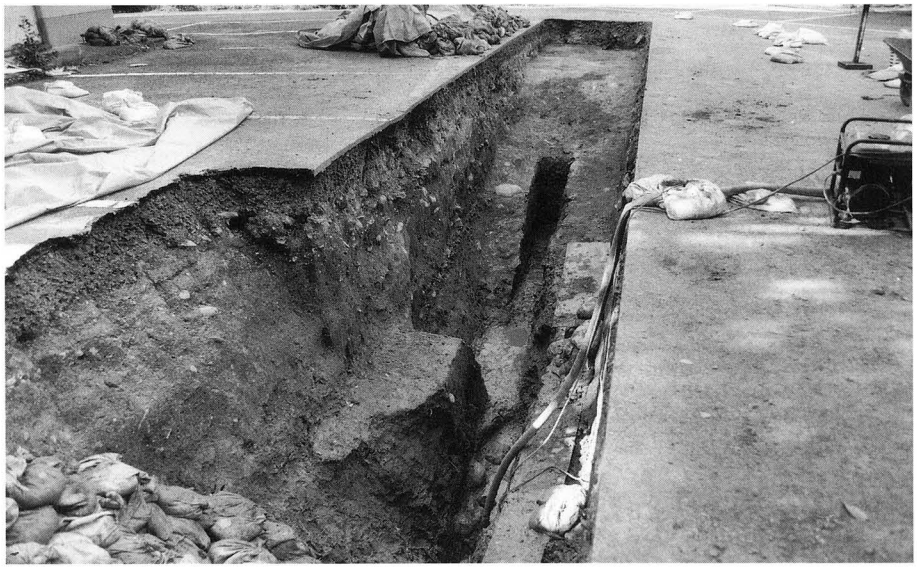


写真１
T5 南区調査状況
（南より）

写真２
T21 石組溝検出状況
（南より）

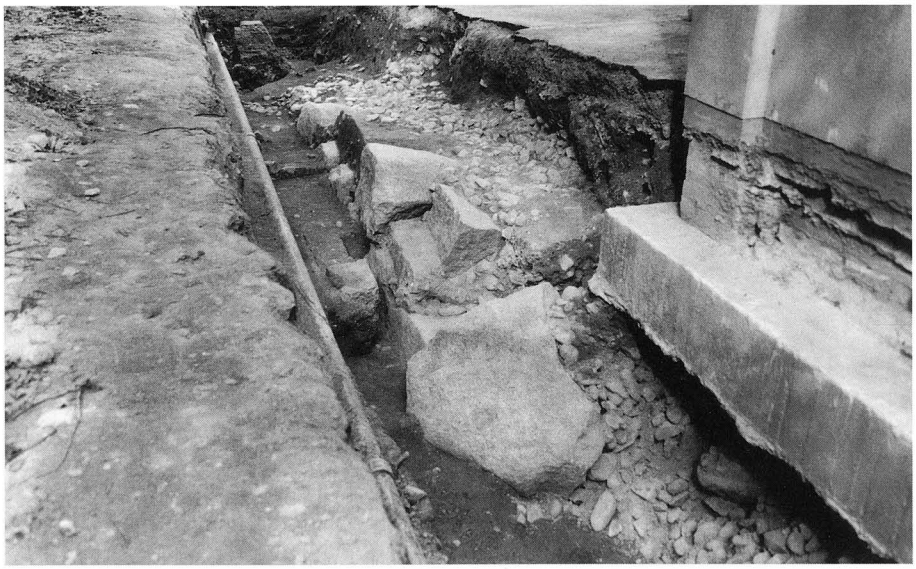


写真３
T3 北門跡検出状況
（南より）

Ⅱ　平成18年度
松山市埋蔵文化財調査関係資料

松山市埋蔵文化財調査関係資料

例言

1. 本編は、松山市教育委員会文化財課・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが実施した 埋蔵文化財確認調査及び本発掘調査資料である。
2. 埋蔵文化財確認調査は平成18年度（申請番号1～331号)、平成18年4月1日～平成19年3月31日受付迄の資料を取り扱う。なお、平成17年度以前の資料については、『埋蔵文化財調査年報Ⅰ～Ⅹ（昭和60～平成9年度)、同年報11～18（平成10～17年度)』を参照されたい。
3. 資料作成（一覧表・付録図）は、田城武志、高尾和長、河野史知、武正良浩、國田克彦、堀眞也、戸川安子、大庭美鈴、浅井茂之が行った。
4. 表中の番号は、埋蔵文化財確認願いの申請番号に順するものである。また、本発掘調査については、平成18年度に行った調査を取り扱う。
5. 付録図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図（伊予北条・三津浜・松山北部・郡中・松山南部）を使用し、8万分の1の縮尺で記載した。
6. 一覧の略記について
   ①標高：地表面、(　) は調査地内平均値。②調査目的：公＝施主公共団体、私＝施主一般。
   ③調査方法：空白は未調査等。④緊急：記録保存を目的とした調査。国補：国庫補助事業調査。

埋蔵文化財の保護について

文化財は、わが国の歴史・文化等を正しく理解するために欠くことのできないものであり、かつ将来の文化の向上、発展の基礎をなすものです。それら文化財の保存・活用による国民の文化的向上を目的として昭和25年に制定された文化財保護法には、国民の心構えとして、「政府及び地方公共団体がこの目的を達成するために行う措置に誠実に協力しなければならない」こと、「文化財が貴重な国民的財産であることを自覚し、これを公共のために大切に保存するとともに、その文化的活用に努めなければならない」ことが記されています。また同時に政府及び地方公共団体は、関係者の所有権その他の財産権を尊重しなければならないこととなっています。

●周知の埋蔵文化財包蔵地内における土木工事等届出および確認調査について

埋蔵文化財包蔵地とは、貝塚、古墳、城跡等はもとより、土師片等の地表面での散布が認められる場所（散布地)、並びに土中での包含が認められる場所（包含地）をいいます。

埋蔵文化財は、建造物等の他の文化財と違って主に地下に存在するため、土木工事等による破壊を免れない場合があります。そのため、地図（註1）に示された「周知の埋蔵文化財包蔵地」内で土木工事等を行う場合は、60日前までに愛媛県教育委員会への届出が義務付けられています。また、その届出に伴い埋蔵文化財の有無を確認するための調査（踏査、試掘等）を行いますので、土木工事等の計画がある場合は事前に松山市教育委員会文化財課へご相談ください。

註1．地図（松山市埋蔵文化財包蔵地図）は、市教委文化財課にて配布しております。

松山市埋蔵文化財包蔵地（松山地区）

1　お稲荷さん古墳　2　天の神様古墳　3　じんうわ古墳　4　大池古墳
5　御手洗遺跡　6　赤子谷山古墳　7　坂波古墳　8　せいじ坊古墳
9　のぼりを山古墳　10　片廻遺跡(弥生時代)太山寺古墳群　片廻古墳群　素鷺神社
11　石風呂町遺物包含地・古墳群　岩木山古墳群　12　和気支所遺物包含地　13　高山遺跡
14　梅津寺古墳群　15　三光団地遺跡　16　船ヶ谷古墳群 北山古墳群　17　東山町古墳群
18　久万ノ台古墳群・遺物包含地　19　衣山遺跡　衣山古墳群Ｂ　東仙寺古墳群
20　永塚古墳　21　衣山古墳群 うまや古墳・遺物包含地　22　山西遺物包含地
23　忽那山古墳群　24　弁天山古墳群・鯛崎遺物包含地　25　生石八幡神社古墳群

26 南斎院遺跡　27 津田古墳群・遺物包含地　28 八反地遺跡
29 北斎院遺物包含地　30－①御産所古墳群①　30－②御産所古墳群②　31 岩子山弥生遺跡・古墳群
32 大峰ヶ台弥生遺跡Ａ　大峰ヶ台古墳群Ａ　33 大峰ヶ台弥生遺跡Ｂ　大峰ヶ台古墳群Ｂ
34 朝美町遺跡　35 古照遺跡　36 正水遺跡　37 南江戸町遺跡
38 北谷・権現山弥生遺物包含地・古墳群　39 ろうそく山古墳　40 堂ヶ谷古墳
41 潮見古墳群・遺物包含地　42 大久保山古墳　43 池ノ谷古墳　44 みのこし遺跡
45 姫原古墳群　46 長建寺古墳　47 横谷丸塚古墳　48 御幸寺山古墳
49 長谷遺跡　50 祝谷古墳群　51 山田池（祝谷）遺物包含地
52 瀬戸風峠古墳群　53 土居の段遺物包含地　54 常信寺山古墳群　55 北代遺物包含地
56 緑台遺物包含地　57 土居窪遺物包含地　58 桜谷古墳群　59 桜谷本尊古墳
60 冠山遺跡　61 義安寺遺物包含地　62 石手寺古墳群　63 石手寺古墳第１号
64 石手寺古墳第２号　65 氷室谷古墳群　66 溝辺古墳群　67 文京遺跡（樋又遺跡・元練兵場遺跡物包含地）
68 今市遺物包含地　69 水口遺跡　70 通町遺物包含地　71 土器堀（ｶﾜﾗｹﾎﾞﾘ）遺物包含地
72 持田町遺物包含地　73 掘之内遺物包含地　74 松山城跡城ノ内古墳　75 寺山古墳
76 勝山古墳　77 鎧塚古墳　78 東野古墳群　79 お茶屋台古墳群
80 東野池古墳群　81 樽味遺物包含地　82 東本遺物包含地　83 枝松遺物包含地
84 経石山古墳　85 三島神社古墳跡　86 赤坂古墳　87 畑寺古墳群
88 桑原古墳群　89 芝ヶ峠古墳群　90 権現山古墳群　91 久米山田池遺物包含地・古墳群
92 たんち山古墳　93 鷹ノ子古墳　五郎兵衛谷古墳　94 大池古墳群
95 大門遺物包含地・古墳群　96 桧山峠古墳群　97 今吉古墳群　98 かいなご古墳群
99 平井谷古墳群　100 牛馬塚古墳　101 観音山古墳群・観音山丘陵地遺物包含地・廃寺跡
102 駄馬窯跡群　103 鳥越古墳　104 土居溜池古墳群
105 潮見山古墳群・愛宕山古墳・山越古墳　106 明神ヶ鼻古墳群　107 播磨塚古墳群
108 中村町遺跡　109 朝生田遺物包含地　110 釜ノ口遺跡　111 小坂五丁目遺物包含地
112 天山町遺物包含地　113 枝松五丁目遺物包含地　114 松末遺物包含地　115 土亀山弥生墳墓群
116 川付遺物包含地　117 天山古墳群・遺物包含地　118 東山古墳群・遺物包含地
119 西石井遺物包含地　120 居相遺物包含地　121 井門遺物包含地　122 星ノ岡古墳群・遺物包含地
123 武勇神社古墳　124 北久米遺物包含地　125 今在家遺物包含地　126 高畑遺物包含地
127 来住廃寺跡　128 鷹ノ子遺物包含地①　129 鷹ノ子遺物包含地②　130 軍ヶ森千人塚古墳
131 久米窪田遺物包含地　132 中ノ子廃寺・遺物包含地　133 波賀部古墳
134 浮穴小学校遺物包含地　135 高尾田古墳群・遺物包含地　136 ドンダ原坂古墳群・遺物包含地
137 南ヶ丘遺跡・古墳群　138 八塚古墳群　139 西野古墳群・遺物包含地
140 松ヶ谷古墳群・遺物包含地　141 荏原城跡　142 水泥遺物包含地
143 町組遺物包含地　144 矢谷古墳群・遺物包含地　145 長生池の上遺物包含地
146 夫婦池の上遺物包含地　147 津吉遺物包含地　148 津吉古墳群　149 津吉上古墳群
150 北谷窯跡　151 北谷遺物包含地　152 平井遺物包含地　153 道後公園遺物包含地
154 久枝遺物包含地　155 安城寺遺物包含地　156 北斎院遺物包含地（弥生古墳）
157 桑原遺物包含地　158 北土居墳墓　159 宮田町遺物包含地　160 山越遺物包含地
161 中村二丁目遺物包含地　162 素鷲神社遺物包含地　163 南中学校遺物包含地
164 土用部池の上包含地（縄文・弥生）　新張池の上包含地　165 関屋遺物包含地　166 北梅本包含地
167 久万ノ台包含地（弥生後期・古墳）　168 姫原包含地　169 大畑遺跡
170－①権現遺物包含地①　170－②権現遺物包含地②　170－③権現遺物包含地③　171 上関屋遺物包含地
172 竹が谷遺跡　173 大渕遺跡　174 明沢城跡　175 葛籠葛城跡
176 土居城跡　177 花見山（福角）城跡　178 湊山（港山）城跡　179 医座山（白山）城跡
180 大友（大砥）城跡　181 奥の城（城山さん）　182 形山城跡　183 勝山（片山）城跡
184 菊ヶ森城跡　185 葛掛城跡（城ヶ台）　186 重松城跡　187 勝賀山（梅子山）城跡
188 新（真）城跡　189 高井城跡　190 高山城跡　191 縦渕（立渕）城跡
192 尉の（除の）城跡　193 新張（縫針）城跡　194 西之谷城跡　195 福角城跡
196 松船城跡　197 森の城（吉野森城）跡　198 義安寺砦跡　199 鳥津木城跡
200 鏡山城跡　201 観音山　202 松末館跡　203 二之森（ふたつ森）城跡
204 賀生（加名山）城跡　205 仙波館跡　206 横山城跡

松山市埋蔵文化財包蔵地（北条地区）

1 名石古墳　2 丸山古墳　3 高山古墳　4 家の谷古墳　5 打越Ａ古墳　6 打越Ｂ古墳
7 難波奥谷古墳〈県指定文化財〉　8 小坂古墳　9 小原古墳　10 岡の上古墳　11 萩尾古墳群
12 宮内馬場古墳　13 辻の内古墳群　14 才の谷古墳　15 櫛玉比売命神社古墳　16 新城古墳群　17 龍徳寺山古墳群
18 稗佐古遺跡　19 女夫池遺跡　20 柳が内遺跡　21 夏狩遺跡　22 池の奥遺跡　23 安養寺遺跡
24 垣の内遺跡　25 常竹大谷古墳群　26 蓮台寺経塚　27 天狗谷古墳群　28 南宮の戸貝塚（市指定文化財）
29 大遊寺古墳群　30 波田神田古墳群　31 地蔵堂古墳群　32 別府遺物包蔵地　33 夏目古墳群　34 椋之原古墳群
35 明見神社古墳群　36 センボ山古墳群　37 宇佐八幡神社古墳　38 上難波古墳群　39 上難波箱式石棺墓
40 下難波古墳群　41 小山田古墳群　42 小山田遺跡　43 波田箱式石棺群　44 波田（烏谷池）遺跡
45 善応寺経塚　46 日浦経塚　47 マス池遺跡　48 前田池遺跡　49 恵良山遺跡　50 菖蒲谷遺跡
51 椋之原山遺跡　52 高山遺跡　53 片山池遺跡　54 常竹遺跡　55 老僧奥遺跡　56 西久保遺跡
57 平山池遺跡　58 三島ケ谷遺跡　59 大成遺跡　60 陣屋遺跡　61 平原遺跡　62 土居遺跡
63 観音堂遺跡　64 上竹遺跡　65 神田遺跡　66 八竹山遺跡　67 善応寺遺跡　68 東禅寺遺跡
69 河野館跡　70 来島一族宝篋印塔　71 福性寺跡　72～77「欠」　78 山の神古戦場跡（市指定文化財）
79 鎌大師境内〔十八人塚〕（市指定文化財）　80「欠」　81 茶臼権現遺跡（市指定文化財）
82 河原池遺跡　83 和田池遺跡　84 サオ池遺跡　85 阿部ケ谷池遺跡　86 萩原遺跡　87 鹿島遺跡
88 腰折山東遺跡　89 上難波奥遺跡　90 上難波奥弥生墳墓　91 安養寺谷（辻新池）遺跡
92「欠」　93 恵良城跡〈県指定文化財〉　94 鹿島城跡　95 十二台（神途）城跡
96 高穴城跡　97 宅並城跡　98 日高山城跡　99 横山城跡〈県指定文化財〉　100 浅海城跡
101 雄甲城　102 勝根山城跡　103 須保木城跡　104 十九地山城跡　105 萩尾城跡　106 雌甲城跡
107 丸山城跡　108 長正寺遺跡　109 新日高城跡　110 高手山城跡　111 能楽遺跡　112 高縄城跡
113 腰折山城跡　114 新城山城跡　115 神途城跡　116 新高手山城跡　117 萩ノ森城跡　118 名石城跡
119 柴尾城跡　120 兎ケ城跡　121 波妻城跡　122 小新城砦跡　123 八竹山城跡　124 粟井坂遺跡
125 古日高城跡　126 鹿島神社前遺跡　127 俵原池遺跡　128 エギ谷古墳　129 善応寺畦地遺跡

松山市埋蔵文化財包蔵地（中島地区）

1 城の台砦跡　2 河野様積石遺構　3 野忽那立場墳墓群　4 丸山古墳（市指定文化財）
5 梅の子島砦跡（市指定文化財）　6 梅の子遺跡　7 梅の子本城跡（市指定文化財）　8 中島粟井坂遺跡
9 吉木遺跡　10 神浦神社遺跡　11 宮野神社遺跡　12 宮野権現山古墳　13 小長師古墳　14 大串遺跡
15 大浦油田遺跡　16 大浦さこの奥遺跡　17 泰山堂山遺跡　18 泰山城跡（市指定文化財）　19 むかい山遺跡
20 泊古墳跡　21 熊田城の山遺跡　22 大串古墳群　23 瀬木戸古墳　24 かがり山１号墳　25 かがり山２号墳
26 中山古墳（市指定文化財）　27 五本松遺跡　28 宮浦西遺跡　29 宮浦遺跡　30 竹の浦遺跡
31 竹の浦西遺跡　32 泊遺跡　33 二神家墓地遺跡　34 二神城の山砦跡　35 由利島遺跡　36 由利島大谷遺跡
37 由利島長者屋敷遺跡　38 御場ヶ嶽城跡　39 長師遺跡　40 九多児城跡（市指定文化財）
41 本山城跡（市指定文化財）　42 竹の上城跡　43 黒岩城跡　44 高木佐渡守館跡　45 旗山城跡
46 泊城跡　47 能磯砦跡　48 元怒和寺の下遺跡

表１　平成 18 年度松山市埋蔵文化財確認調査一覧　(1)

No.	所在地	面積（㎡）	標高（ｍ）	包蔵地名	調査目的	調査方法	包含層・遺構	遺物	備考
1	東石井６丁目	477.14	23.0	No. 119	私	試掘			
2	一番町３丁目	56.33	38.0	No. 74	公				H 6-210 試掘済 意見書
3	来住町	286.69	35.0	No. 127	私	試掘	柱穴		
4	高砂町２丁目	1,960.76	22.3	No. 67	私	試掘			
5	来住町	165.29	40.9	No. 127	私				H 17-127・H 17-164 試掘済・意見書
6	北久米町	965.56		No. 124	私				申請取り下げ
7	南久米町	197.31	37.8	No. 127	私				H 15-31 試掘済 意見書
8	北久米町	716.00	30.5	No. 126	私	試掘	竪穴住居・土坑 柱穴・溝	弥生 土師	
9	小坂２丁目	164.23	29.2	No. 110	私	試掘			
10	小坂２丁目	125.03	29.2	No. 110	私	試掘			
11	祝谷東町	271.87	102.3	No. 58	私	試掘			
12	谷町甲	370.38	12.1	No. 41	私	試掘			
13	安城寺町	305.71	3.0	No. 12	私				H 17-245 試掘済 意見書
14	西石井６丁目	165.29	20.7	No. 119	私	試掘			
15	道後鷺谷町	526.19	64.5	No. 53	私	試掘			
16	北斎院町	187.00	10.3	No. 156	私	試掘			
17	北久米町	100.00	27.7	No. 124	私	試掘			
18	南江戸３丁目	883.37	13.1	No. 35	私	試掘			
19	北井門町	230.45	21.3	No. 121	私	試掘			
20	鷹子町	368.33	47.5	No. 129	私	試掘			
21	山越２丁目	152.13	17.7	No. 160	私	試掘			
22	畑寺町	25.00	47.5	No. 91	私	試掘			
23	東方町甲	500.00	55.1	包蔵地外	公	試掘			
24	高田甲	4,328.58	72.95	包蔵地外	公	試掘 踏査	石材露出		
25	東方甲	477.89	55.7	No. 143	公	試掘			
26	古川北２丁目	5,200.00		包蔵地外	公	試掘		土師	契
27	北条辻	4,500.00		包蔵地外	公	踏査			
28	畑寺２丁目	1,561.07	39.8	No. 85	私				H 17-195 試掘済 意見書
29	桑原４丁目	44.39	33.9	No. 85	私	試掘			
30	南江戸３丁目	232.57	13.1	No. 35	私	試掘			
31	谷町甲	885.95	14.3	No. 41	私	試掘			
32	東石井６丁目	1,401.00	21.9	No. 119	私	試掘			
33	東野２丁目甲	252.62	49.7	No. 77	私	試掘			
34	内宮町	236.91	6.2	No. 40	公	試掘			
35	平井町甲	397.67	73.9	No. 90	私	試掘			

表１　平成 18 年度松山市埋蔵文化財確認調査一覧　(2)

No.	所在地	面積（㎡）	標高（m）	包蔵地名	調査目的	調査方法	包含層・遺構	遺物	備考
36-① 36-②	大浦	1,745.00		包蔵地外	公	踏査			
37	樽味２丁目	1,130.00	42.9	No. 81	私	試掘	竪穴住居・土坑 柱穴・溝	弥生 土師	
38	久谷町甲	269.62	107.3	No. 171	私	試掘			
39	久万ノ台乙	10,227.66		No. 18	私				H 16-18・37、H 17-258 試掘済意見書
40	東石井５丁目	154.89	20.9	No. 119	私				H 17-193 意見書
41	樽味２丁目	528.67	42.3	No. 81	私	試掘	竪穴住居・柱穴 溝	弥生 土師	
42	星岡町	198.00	26.7	No. 122	私	試掘			
43	北久米町	1,089.90	30.5	No. 124	私	試掘	土坑・柱穴・溝	弥生・土師 須恵	
44	鷹子町	632.00	45.7	No. 129	私	試掘			
45	清水町３丁目	730.20	24.7	No. 67	私	試掘	柱穴・溝	弥生・土師 須恵・陶磁	
46	桑原５丁目	405.23	36.1	No. 82	私	試掘			
47	来住町	1.36		No. 127	私				西隣、久米高畑 64 次 意見書
48	樽味２丁目	1,516.90	42.8	No. 81	私	試掘	竪穴住居・柱穴 土坑	弥生・土師 須恵	
49	北土居町 今在家３丁目	408.10		No. 125	公				意見書
50	北久米町	762.00		No. 126	公				意見書
51	東方町甲	314.00	60.1	No. 143	私	試掘			
52	桑原６丁目	199.16	33.7	No. 83	私	試掘			
53	佐古甲・本谷乙	3,382.00	140（本） 29.9（佐）	包蔵地外	公	踏査 試掘	包含・竪穴住居 柱穴	弥生 土師	
54	来住町	161.59	49.7	No. 127	私	試掘			
55	天山町	3,420.95	37.46	No. 117	私	踏査 試掘	溝	土師 須恵	
56	道後湯月町甲	93.70	45.15	包蔵地外	公				意見書
57	下難波乙	184.85		包蔵地外	私	踏査			
58	北久米町	362.00		No. 122	私	踏査			
59	西長戸町	400.16	10.0	No. 17	私	試掘			
60	今在家３丁目	175.38	32.0	No. 125	私				H 17-284 試掘済 意見書
61	道後北代	815.34	32.5	No. 68	私	試掘	土坑・柱穴	土師質	
62	東石井５丁目	126.05	21.25	No. 119	私				H 17-193 試掘済 意見書
63	西石井６丁目	281.64	20.7	No. 119	私	試掘			
64	東石井６丁目	471.74	22.5	No. 119	私	試掘			
65	西石井６丁目	386.32	21.2	No. 119	私	試掘			
66	鷹子町	236.14	48.2	No. 129	私				H 17-78・82 試掘済 意見書
67	文京町	21.56		No. 67	私				意見書
68	文京町	139.70		No. 67	私				意見書
69	樽味４丁目	171.15		No. 81	私				意見書
70	樽味２丁目	145.66		No. 81	私				意見書

表１　平成 18 年度松山市埋蔵文化財確認調査一覧　(3)

No.	所在地	面積（㎡）	標高（m）	包蔵地名	調査目的	調査方法	包含層・遺構	遺物	備考
71	鉄砲町	907.81		No. 67	私				県教委試掘済 意見書
72	水泥町	688.27	59.5	No. 142	私	試掘			
73	樽味２丁目	75.67	42.8	No. 81	私				H 17-267 試掘済 意見書
74	星岡町	893.76	28.4	No. 116	私	試掘	包含層・柱穴	弥生・土師 須恵	
75	南久米町	316.00	38.9	No. 127	私	試掘	土坑・柱穴	土師 石器	
76	南久米町	1,238.00	34.4	No. 126	私	試掘	柱穴・溝	土師	
77	鷹子町	116.12	43.3	No. 128	私	試掘			
78	鷹子町	221.57	55.8	No. 152	私	試掘			
79	鷹子町	70.82	56.9	No. 152	私	試掘			
80	西長戸町	233.00	10.0	No. 17	私	試掘			
81	北斎院町	121.53	9.9	No. 156	私	試掘			
82	天山１丁目	275.86	24.2	No. 117	私	試掘			
83	北井門３丁目	1,304.00	22.3	No. 121	私	試掘			
84	東方町甲	25.00	112.1	No. 165	私	試掘			
85	畑寺１丁目	329.098	45.4	No. 87	私	試掘			
86	北久米町	727.09	30.9	No. 124	私	試掘	柱穴	土師	
87	樽味４丁目	829.00	40.2	No. 81	私				H 17-249 試掘済 意見書
88	清水町１丁目	117.04	24.9	No. 67	私	試掘	柱穴	土師	
89	北久米町	267.74	31.8	No. 124	私	試掘			
90	南久米町	549.63	31.2	No. 126	私	試掘			
91	平井町甲	271.00	68.4	No. 90	私	試掘			
92	北条辻 土手内 中西内	9,000.00		包蔵地外	公	試掘			契×３回
93	南江戸４丁目	751.01	10.9	No. 35	私	試掘			
94	南江戸４丁目	309.28	10.9	No. 35	私	試掘			
95	樽味４丁目	2.80		No. 81	公				意見書
96	鷹子町	177.13	42.8	No. 128	私	試掘			
97	鷹子町	245.54	44.5	No. 129	私	試掘			
98	道後北代	308.68	32.3	No. 68	私	試掘			
99	清水町１丁目	204.22	24.7	No. 67	私	試掘			
100	北久米町	320.00	31.6	No. 124	私	試掘			
101	今在家２丁目	127.46	31.1	No. 125	私	試掘			
102	畑寺４丁目	7,054.58		No. 88	公				意見書
103	高砂町２丁目	682.44	21.9	No. 67	私	試掘			
104	北斎院町	780.57	9.2	No. 29	私	試掘			
105	窪野町乙	542.17	111.0	No. 165	私	試掘			

表１　平成 18 年度松山市埋蔵文化財確認調査一覧　(4)

No.	所在地	面積（㎡）	標高（m）	包蔵地名	調査目的	調査方法	包含層・遺構	遺物	備考
106	東野５丁目甲	9,233.48	64.34	No. 79	私	試掘	包含層・溝	埴輪・須恵石器	
107	東野５丁目甲	347.00	64.5	No. 79	私	試掘			
108	鷹子町	121.65	43.3	No. 128	私				H 18-77 試掘済 意見書
109	道後一万	157.13	32.1	No. 68	私	試掘			
110	東石井２丁目	167.92		No. 118	私				意見書
111	南江戸５丁目	84.08	14.9	No. 35	私	試掘			
112	山越２丁目甲	857.00	16.5	No. 160	私	試掘			
113	北斎院町	114.37	9.3	No. 29	私	試掘			
114	東本１丁目	176.05	34.3	No. 83	私	試掘	包含層・土坑 柱穴	弥生	
115	東方町甲	25.00	112.1	No. 165	私				H 18-84 試掘済 意見書
116	南江戸４丁目	1,266.01	11.2	No. 35	私	試掘			
117	清水町３丁目	152.06	25.0	No. 67	私	試掘			
118	清水町３丁目	730.20	24.7	No. 67	私				H 18-45 試掘済 意見書
119	中村２丁目	294.87	27.3	No. 161	私	試掘			
120	中村５丁目	143.20	22.4	No. 112	私	試掘			
121	清水町３丁目	17.73	24.7	No. 67	私				H 18-45 試掘済 意見書
122	山越２丁目	99.51	17.9	No. 160	私	試掘			
123	朝生田町２丁目	140.40	18.6	No. 109	私	試掘			
124	平井町	294.00		No. 95	公				意見書
125	辻町	140.60	15.4	No. 34	私				H 17-289 試掘済 意見書
126	久万ノ台	429.42	16.2	No. 167	私	試掘	竪穴住居・土坑 柱穴	弥生	
127	高砂町	452.30		No. 67	公				意見書
128	水泥町	3,400.00	53.2	No. 142	公	試掘	柱穴・水田	土師 陶磁	契×２回
129	北梅本町	339.00	77.1	No. 107	公	試掘			
130	平井町	872.00	89.93	No. 90 No. 106	公	試掘			
131	辻町	148.77	15.2	No. 34	私				H 17-289 試掘済 意見書
132	谷町甲	268.03	14.0	No. 41	私	試掘			
133	樽味４丁目	132.23	40.2	No. 81	私				H 17-249 試掘済 意見書
134	東本１丁目	280.50	49.7	No. 83	私	試掘			
135	南久米町	1,001.46	35.2	No. 126	私	試掘	土坑・柱穴	土師	
136	小坂５丁目	420.00	23.8	No. 111 No. 112	私	試掘			
137	北久米町	797.65	32.1	No. 124	私				H 5-72・H 8-157 試掘済 意見書
138	久米窪田町	1,815.02		No. 129	私				S 63-67 試掘済 意見書
139	北斎院町	508.95	8.6	No. 29	私	試掘			
140	北斎院町	127.89	13.7	No. 31	私	試掘			

表１　平成 18 年度松山市埋蔵文化財確認調査一覧　(5)

No.	所在地	面積（㎡）	標高（ｍ）	包蔵地名	調査目的	調査方法	包含層・遺構	遺物	備考
141	樽味２丁目	154.60	42.2	No. 81	私				H 16-9 試掘済 意見書
142	東石井５丁目	1,217.51	21.1	No. 119	私	試掘	土坑・柱穴・溝	弥生	
143	北井門３丁目	5.30	22.3	No. 121	公				H 18-83 試掘済 意見書
144	衣山３丁目	1,219.76	23.3	No. 20	私	試掘			
145	水泥町	1,255.29	61.2	No. 142	私				H 12-424 試掘済 意見書
146	樽味４丁目	181.97	40.2	No. 81	私				H 17-249 試掘済 意見書
147	来住町	753.78	36.1	No. 127	私	試掘			
148	南土居町	1,187.00	40.2	No. 132	私	試掘	竪穴住居・柱穴	土師 須恵	
149	久米窪田町	668.00	46.9	No. 131	私	試掘			
150	鷹子町	293.88	45.5	No. 129	私	試掘			
151	西石井１丁目	162.70	20.1	No. 119	私	試掘			
152	北久米町	684.00	36.1	No. 126	私	試掘			
153	桑原２丁目	169.78	36.7	No. 82	私	試掘			
154	北梅本町乙	692.33	99.2	No. 166	私	試掘			
155	別府町	155.97	8.5	No. 30-2	私	試掘			
156	畑寺２丁目	230.16	38.5	No. 85	私	試掘			
157	東石井町６丁目	113.62	22.5	No. 119	私				H 18-64 試掘済 意見書
158	山越２丁目甲	558.70	18.0	No. 160	私	試掘			
159	来住町	208.62	36.3	No. 127	私	試掘	土坑・柱穴・溝	弥生 土師	
160	一番町３丁目	62.00		包蔵地外	公				意見書
161	水泥町	181.95	49.3	No. 131	私				H 16-138 試掘済 意見書
162	朝日ヶ丘２丁目	142.33	39.15	No. 33	私				H 17-5 試掘済 意見書
163	南久米町	216.75		No. 126	私				意見書
164	北条	986.00	3.53	包蔵地外	公	試掘			H 17-21 近接（北条片町遺跡）契
165	平井町甲	306.29	70.6	No. 90	私	試掘			
166	平井町甲	467.66	74.5	No. 90	私	試掘			
167	水泥町	2,237.00	57.3	No. 142	私	試掘			
168	辻町	183.50	15.4	No. 34	私	試掘			
169	鷹子町	146.29	45.5	No. 129	私	試掘			
170	西石井６丁目	578.03	21.1	No. 119	私				H 16-260 試掘済 意見書
171	大街道３丁目	73.40	37.8	No. 74	私				H 17-219 試掘済 意見書
172	道後湯月町	28.40		包蔵地外	公				意見書
173	今在家１丁目	402.00	30.1	No. 125	私	試掘			
174	畑寺３丁目	367.52	33.5	No. 85	私	試掘			
175	小坂３丁目	849.72	28.3	No. 110	私	試掘			

表１　平成 18 年度松山市埋蔵文化財確認調査一覧　(6)

No.	所在地	面積（㎡）	標高（m）	包蔵地名	調査目的	調査方法	包含層・遺構	遺物	備考
176	西石井６丁目	728.34	21.0	No. 119	私	試掘			
177	谷町	379.00		No. 41	公	踏査			
178	清水町２丁目	264.68	23.5	No. 67	私	試掘			
179	東石井６丁目	184.72	22.5	No. 119	私				H 16-274 試掘済 意見書
180	樽味２丁目	859.00	42.8	No. 81	私	試掘	竪穴住居・土坑 柱穴	弥生・土師 須恵	
181	樽味２丁目	912.00	42.8	No. 81	私	試掘	竪穴住居・溝	弥生・土師 須恵	
182	南江戸４丁目	104.76		No. 35	公				意見書
183	今在家１丁目	624.00	30.1	No. 125	私	試掘			
184	北梅本町甲	232.96	76.2	No. 107	私				H 17-172 試掘済 意見書
185	中村２丁目	115.90	26.4	No. 161	私	試掘			
186	西石井６丁目	72.78	21.7	No. 119	私	試掘			
187	樽味２丁目	554.56	39.8	No. 81	私	試掘	土坑・柱穴・溝	弥生 土師	
188	畑寺３丁目	984.33	33.8	No. 85	私	試掘			
189	南江戸４丁目	2,089.32	10.7	No. 35	私				H 16-303 試掘済 意見書
190	西石井６丁目	1,554.10	20.6	No. 119	私	試掘			
191	東野４丁目乙	347.88	67.71	No. 79	私				H 15-294 試掘済 （お茶屋台遺跡６次）
192	道後湯之町	869.74		包蔵地外	公				意見書
193	吉藤５丁目	4,309.00	26.3	No. 41	私	試掘			
194	北井門４丁目	300.00	22.8	No. 121	私	試掘			
195	朝生田町３丁目	861.37	19.0	No. 109	私	試掘			
196	東方町甲	1,283.05	57.3	No. 143	私	試掘			
197	道後今市	200.92	32.8	No. 68	私	試掘			
198	朝生田町３丁目	1,596.67	18.9	No. 109	私	試掘			
199	桑原２丁目	213.10	37.0	No. 82	私	試掘			
200	衣山２丁目	867.94	27.3	No. 20	私	試掘			
201	衣山５丁目	13.27		No. 32	私				意見書
202	樽味４丁目	1,113.20	39.2	No. 81	私	試掘	溝	弥生・土師 須恵	
203	権現町甲	1,565.18	31.2	No. 170-3	私	試掘			
204	南久米町	268.98	40.5	No. 127	私	試掘			
205	樽味４丁目	531.00		No. 81	私				申請取り下げ
206	辻町	180.63	15.5	No. 34	私	試掘			
207	才之原甲	34.70		北条No. 41	公	踏査			
208	祝谷２丁目	165.63	43.0	No. 55・56・57	私				H 13-185 試掘済 意見書
209	祝谷町１丁目	109.54	57.9	No. 53	私	試掘			
210	久米窪田町	769.74	44.3	No. 131	私				H 16-130 試掘済 意見書

表１　平成 18 年度松山市埋蔵文化財確認調査一覧　(7)

No.	所在地	面積（㎡）	標高（m）	包蔵地名	調査目的	調査方法	包含層・遺構	遺物	備考
211	北久米町	235.58	34.7	No. 126	私	試掘			
212	山越２丁目甲	148.72	18.0	No. 160	私				H 18-158 試掘済 意見書
213	樽味３丁目	120.00		No. 81	公				意見書
214	南江戸２丁目	716.57	14.0	No. 37	私	試掘			
215	北斎院町	337.19	8.2	No. 29	私	試掘			
216	平井町甲	206.25	70.7	No. 90	私	試掘			
217	東野５丁目甲	87.08	62.3	No. 79	私	試掘			
218	東野５丁目甲	187.83	62.4	No. 79	私	試掘			
219	北斎院町	111.79	9.34	No. 29	私				H 11-412 試掘済 意見書
220	樽味４丁目	145.05	44.2	No. 81	私				H 17-249 試掘済 意見書
221	桑原１丁目	127.14	35.7	No. 157	私	試掘			
222	桑原１丁目	168.88	37.1	No. 157	私	試掘			
223	朝生田町３丁目	1,612.84	18.9	No. 109	私				H 18-198 試掘済 意見書
224	久万ノ台	1,211.38	11.31	No. 18	私				H 17-258 試掘済 H 18-39 意見書
225	平井町甲	544.58	69.2	No. 90	私	試掘			
226	樽味４丁目	179.80		No. 81	私				意見書
227	祝谷２丁目	1,912.11	45.6	No. 55・56・57	私	試掘	包含層・土坑	弥生土師	
228	畑寺２丁目	452.17	46.6	No. 87	私	試掘			
229	東垣生町	13.52	4.0	包蔵地外	公	試掘			
230	畑寺町丙	333.52	70.3	No. 172	私	試掘			
231	一番町３丁目	151.98	31.31	No. 74	公	試掘			契
232	中村３丁目	816.52	25.0	No. 110	私	試掘			
233	祝谷５丁目	1,161.00	46.57	No. 55・56・57	私	試掘			
234	平井町甲	330.30	69.2	No. 90	私				H 2-42・H 16-262 H 18-225 試掘済 意見書
235	東本１丁目	12.00		No. 83	公				意見書
236	南江戸６丁目	15,493.55	13.5	No. 32	私	試掘			
237	太山寺町甲	225.28	3.2	No. 15	私	試掘			
238	古川南１丁目	10,000.00		包蔵地外	公	試掘			契
239	中西外	467.97		包蔵地外	私				申請取り下げ
240	来住町	1,499.07	38.8	No. 127	私				H 17-199 試掘済 意見書
241	古三津３丁目	182.15	7.2	No. 19	私	試掘			
242	立花６丁目	388.32	20.0	No. 109	私	試掘			
243	今在家２丁目	978.00	31.1	No. 125	私	試掘			
244	西石井６丁目	662.00	21.0	No. 119	私	試掘			
245	来住町	793.13	36.1	No. 127	私				H 18-147 試掘済 意見書

表１　平成 18 年度松山市埋蔵文化財確認調査一覧　(8)

No.	所在地	面積（㎡）	標高（m）	包蔵地名	調査目的	調査方法	包含層・遺構	遺物	備考
246	鷹子町	570.00		No. 94	公	踏査			
247	樽味４丁目	161.18	44.2	No. 81	私				H 17-249 試掘済 意見書
248	南久米町	132.24	33.2	No. 126	私	試掘			
249	小坂２丁目	319.21	28.3	No. 110	私	試掘			
250	朝美２丁目	988.40	15.0	No. 34	私	試掘			
251	小坂４丁目	106.42	25.1	No. 110	私	試掘			
252	樽味２丁目	915.83	43.4	包蔵地外	私	試掘	竪穴住居・柱穴	弥生 土師	
253	南江戸３丁目	749.27	14.15	No. 35・36	私	試掘			
254	南土居町	676.60		No. 132	公	踏査			
255-① 255-②	文京町	24.50		No. 67	公				意見書
256	善応寺甲	1,118.00	43.85	包蔵地外	公	試掘	包含層・土坑	土師 須恵	
257	南江戸５丁目	282.93	13.2	No. 35	私	試掘			
258	樽味４丁目	502.00		No. 81	私				H 16-E 区 試掘済 意見書
259	和田門田口池	210.00		北条No. 83	公	踏査			
260	東野１丁目甲	929.77	47.4	包蔵地外	私	試掘	竪穴住居・土坑 柱穴	弥生	
261	山越２丁目甲	1,197.61	16.5	No. 160	私				H 18-112 試掘済 意見書
262	姫原２丁目甲	815.41	19.5	No. 168	私	試掘			
263	天山町１丁目	1,095.04	23.1	No. 112	私	試掘			
264	鷹子町	990.80	49.48	No. 129	私	試掘			
265	久万ノ台	155.52	19.6	No. 167	私	試掘			
266	権現町甲	350.76	49.7	No. 170-3	私	試掘			
267	東野５丁目甲	518.91		包蔵地外	私				意見書
268	久万ノ台	527.49	15.45	No. 167	私	試掘	土坑・柱穴	弥生	
269	高砂町１丁目	49.20	22.55	No. 67	私				H 17-94 試掘済 意見書
270	桑原２丁目	135.14	37.0	No. 82	私				H 18-199 試掘済 意見書
271	祝谷５丁目	155.31	45.58	No. 55・56・57	私				H 17-125 試掘済 意見書
272	小坂３丁目	847.11	28.3	No. 110	私				H 18-175 試掘済 意見書
273	北井門４丁目	416.62	23.5	No. 121	私	試掘			
274	南江戸４丁目	515.04	11.6	No. 35	私	試掘	土坑・柱穴・溝	土師質	
275	岩崎町２丁目	9.24		包蔵地外	公				県教委・意見書
276	東石井５丁目	742.37	21.0	No. 119	私				H 17-216 試掘済 意見書
277	福音寺町	264.28	28.1	No. 116	私	試掘	包含層・土坑 柱穴	弥生・土師 須恵	
278	来住町	114.16	37.6	No. 127	私				H 16-251 試掘済 意見書
279	東野５丁目甲 東野４丁目乙	135.72	66.0	No. 79	私	試掘			
280	山越２丁目甲	132.30	49.7	No. 160	私				H 17-92 試掘済 意見書

表１　平成 18 年度松山市埋蔵文化財確認調査一覧　(9)

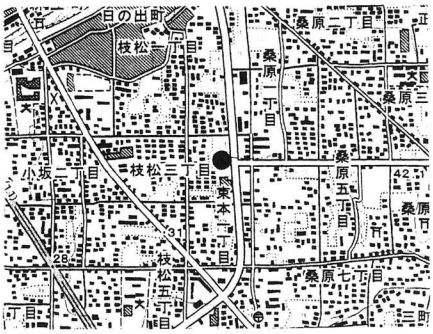
No.	所在地	面積（㎡）	標高（m）	包蔵地名	調査目的	調査方法	包含層・遺構	遺物	備考
281	谷町甲	885.95	14.3	No.41	私				H 18-31 試掘済 意見書
282	北斎院町	543.30	8.6	No.29	私				H 18-139 試掘済 意見書
283	平井町甲	595.40	103.1	No.104	私	試掘			
284	北久米町	3,025.00	33.7	No.126	私	試掘			H 16-6 試掘済 本申請により再試掘
285	上伊台町	1,354.44	246.2	包蔵地外	公	試掘			
286	祝谷６丁目	274.02	44.2	No.55・56・57	私	試掘			
287	北久米町	1,325.00	28.5	No.124	公	試掘			
288	星岡町	40.00		No.122	公				意見書
289	南梅本町甲	7.50	75.4	No.107	私	試掘			
290	平井町	1,130.00	79.1	No.90	公	試掘			
291	山西町	810.95	3.1	No.22	私	試掘			
292	畑寺町丙	141.25	52.2	No.172	私				H 13-256 試掘済 意見書
293	平井町甲	266.78	75.9	No.90	私	試掘			
294	南江戸２丁目	462.00	15.4	No.37	私	試掘			
295	山越３丁目	276.00	24.7	包蔵地外	公	試掘			
296	中村１丁目	120.00	28.9	No.108	私	試掘	柱穴	土師	
297	今在家１丁目	730.26	30.5	No.125	私	試掘			
298	北斎院町	168.96	9.0	No.29	私	試掘			
299	平井町甲	549.67	70.2	No.90	私	試掘			
300	中村３丁目	702.26	26.7	No.110	私	試掘			
301	朝生田町３丁目	1,487.00	18.7	No.109	私	試掘			
302	辻町	1,726.72	14.7	No.34	私	試掘			
303	西石井１丁目	1,498.00	21.07	No.119	私	試掘	土坑・柱穴・溝	弥生 土師	
304	姫原１丁目	223.84	24.8	No.168	私	試掘			
305	北井門町	419.82	24.5	No.121	私	試掘			
306	立花６丁目	230.49	20.9	No.109	私	試掘			
307	南久米町	117.03	36.0	No.127	私	試掘			
308	谷町	279.20	15.8	No.41	私	試掘			
309	平井町甲	406.00	84.4	No.90	私	試掘			
310	道後今市	174.80	32.2	No.68	私	試掘			
311	北久米町・鷹ノ子町	2,327.00		No.93	公				未調査
312	西石井１丁目	151.22	20.5	No.119	私				H 16-134 試掘済 意見書
313	畑寺２丁目・３丁目	315.00		No.87	公	踏査			
314	畑寺３丁目・畑寺町	317.00		No.87	公	踏査			
315	南梅本町甲	504.00	66.5	包蔵地外	公	試掘			

表１　平成 18 年度松山市埋蔵文化財確認調査一覧　(10)

No.	所在地	面積（㎡）	標高（ｍ）	包蔵地名	調査目的	調査方法	包含層・遺構	遺物	備考
316	祝谷６丁目	274.02	44.2	No.55・56・57	私				H 18-286 試掘済意見書
317	祝谷東町乙	171.94		No.58	私				意見書
318	小坂３丁目	3.50		No.110	公				意見書
319	祝谷２丁目	165.29	34.8	No.55・56・57	私				H 17-105 試掘済意見書
320	立花６丁目	99.00	20.1	No.109	私	試掘			
321	東野５丁目甲	254.00	63.9	No.79	私	試掘			
322	東垣生町	354.18	4.3	No.28	私	試掘			
323	平井町甲	624.47	61.75	No.152	私	試掘			
324	小坂４丁目	106.42	25.1	No.110	私				H 18-251 試掘済意見書
325	津吉町	518.83	74.0	No.148	私	試掘			
326	道後鷺谷町	4,529.41	52.65	No.53	私				H 14-336 試掘済意見書
327	天山２丁目	256.90		No.117	公				意見書
328	祝谷２丁目	939.00	36.9	No.55・56・57	私	試掘			
329	北井門４丁目	311.00	22.8	No.121	私				H 18-194 試掘済意見書
330	鷹子町	2,173.67	44.95	No.129	私	試掘			
331	東石井６丁目	1,560.64	21.9	No.119	私				H 18-32 試掘済意見書

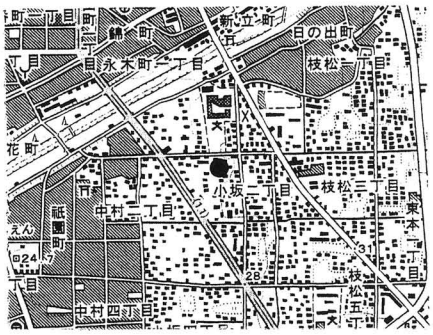
埋蔵文化財が存在した確認調査地（1）

申請番号　H15-86
所在地　東本1丁目117番1外
包蔵地名　№83 枝松遺物包含地
調査日　平成18年11月1～2日
開発面積　5,600.00㎡のうち541.07㎡
調査費　原因者負担
検出遺構　溝・土坑・柱穴
出土遺物　弥生土器・土師器
遺跡の時代　弥生時代～中世
遺跡の種類　集落関連
処置　発掘調査（東本遺跡9次調査）
担当者　相原　浩二
最寄の遺跡　東本遺跡4次調査



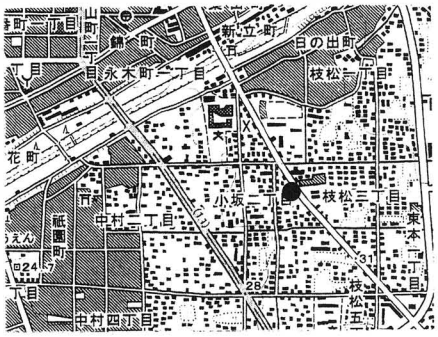
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H17-34
所在地　小坂2丁目468番2外
包蔵地名　№110 釜ノ口遺跡
調査日　平成18年8月8～9日
開発面積　6,000.00㎡のうち700.00㎡
調査費　原因者負担
検出遺構　溝・土坑・柱穴
出土遺物　弥生土器・土師器・須恵器
遺跡の時代　弥生時代～中世
遺跡の種類　集落関連
処置　発掘調査（小坂遺跡3次調査）
担当者　相原　浩二
最寄の遺跡　中村松田遺跡



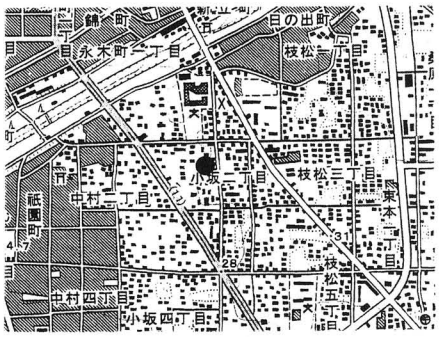
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H17-34
所在地　小坂2丁目96番1外
包蔵地名　№110 釜ノ口遺跡
調査日　平成18年10月19～20日
開発面積　6,000.00㎡のうち818.13㎡
調査費　原因者負担
検出遺構　溝・土坑・柱穴
出土遺物　弥生土器・土師器
遺跡の時代　弥生時代～中世
遺跡の種類　集落関連
処置　発掘調査（小坂遺跡4次調査）
担当者　相原　浩二
最寄の遺跡　中村松田遺跡



遺跡位置図（S=1/25,000）

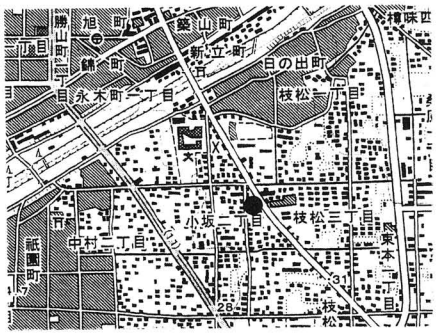
申請番号　H17-34
所在地　小坂2丁目466番1外
包蔵地名　№110 釜ノ口遺跡
調査日　平成19年1月24～25日
開発面積　6,000.00㎡のうち867.72㎡
調査費　原因者負担
検出遺構　溝・土坑
出土遺物　弥生土器（後期）
遺跡の時代　弥生時代
遺跡の種類　集落関連
処置　発掘調査（小坂遺跡5次調査）
担当者　相原　浩二
最寄の遺跡　中村松田遺跡



遺跡位置図（S=1/25,000）

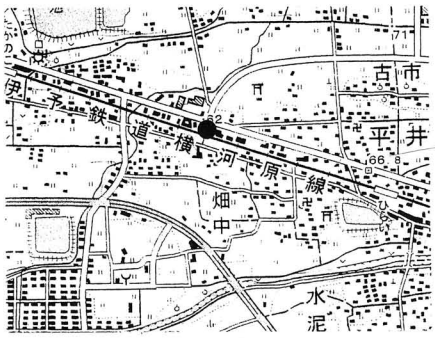
埋蔵文化財が存在した確認調査地（2）

申請番号　H17-34
所在地　小坂２丁目95番１外
包蔵地名　№110 釜ノ口遺跡
調査日　平成19年３月13～14日
開発面積　6,000.00㎡のうち511.61㎡
調査費　原因者負担
検出遺構　溝・土坑・柱穴
出土遺物　弥生土器（後期）
遺跡の時代　弥生時代
遺跡の種類　集落関連
処置　発掘調査予定
担当者　相原　浩二
最寄の遺跡　中村松田遺跡



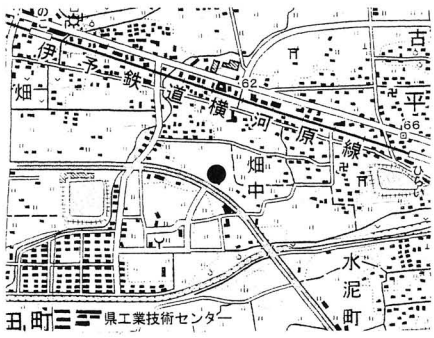
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H17-239
所在地　平井町甲2349番１外
包蔵地名　包蔵地外
調査日　平成18年６月１～２日
開発面積　7,274.00㎡のうち918.27㎡
調査費　原因者負担
検出遺構　竪穴住居址・溝・土坑・柱穴・鋤跡
出土遺物　土師器・須恵器・陶磁器
遺跡の時代　古墳時代～中近世
遺跡の種類　集落関連
処置　発掘調査（平井遺跡４次調査）
担当者　河野　史知
最寄の遺跡　下苅屋遺跡



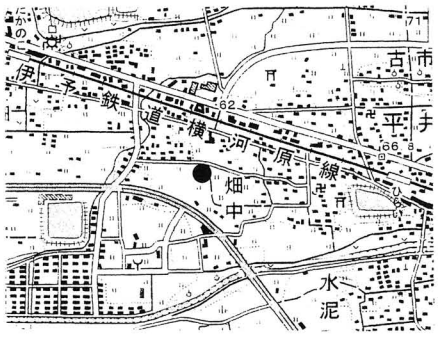
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H17-239
所在地　平井町甲3120番外
包蔵地名　包蔵地外
調査日　平成18年６月13～14日
開発面積　7,274.00㎡のうち855.02㎡
調査費　原因者負担
検出遺構　竪穴住居址・溝・土坑・柱穴
出土遺物　土師器・須恵器
遺跡の時代　古墳時代
遺跡の種類　集落関連
処置　発掘調査（平井遺跡５次調査）
担当者　河野　史知
最寄の遺跡　下苅屋遺跡



遺跡位置図（S=1/25,000）

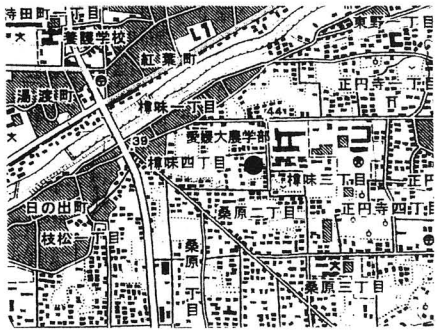
申請番号　H17-239
所在地　平井町甲3074番１外
包蔵地名　包蔵地外
調査日　平成19年２月19～22日
開発面積　7,274.00㎡のうち2,028.64㎡
調査費　原因者負担
検出遺構　溝・土坑・柱穴
出土遺物　弥生土器・土師器・須恵器
遺跡の時代　古墳時代
遺跡の種類　集落関連
処置　発掘調査予定
担当者　河野　史知
最寄の遺跡　下苅屋遺跡



遺跡位置図（S=1/25,000）

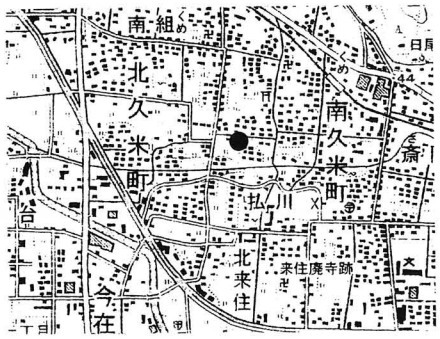
埋蔵文化財が存在した確認調査地（3）

申請番号　H17-249
所在地　樽味４丁目
包蔵地名　No.81 樽味遺物包含地
調査日　平成18年５月26日
開発面積　829.00㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　竪穴住居址・溝・土坑・柱穴
出土遺物　弥生土器・土師器
遺跡の時代　弥生時代～中世
遺跡の種類　集落関連
処置　一部発掘調査（樽味四反地遺跡15次調査）
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　樽味高木遺跡



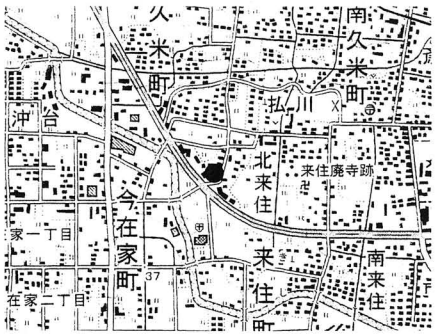
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H17-281
所在地　南久米町
包蔵地名　No.126 高畑遺物包含地
調査日　平成18年４月13日
開発面積　1,061.00㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　溝・土坑・柱穴
出土遺物　土師器・須恵器
遺跡の時代　古代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　南久米町遺跡１～４次調査



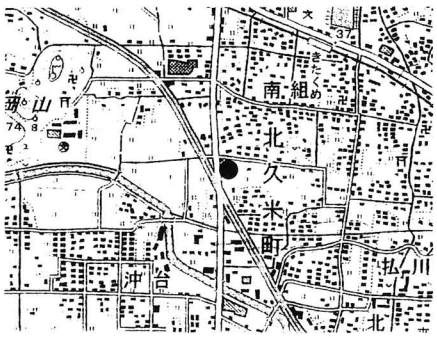
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H18-3
所在地　来住町
包蔵地名　No.127 来住廃寺跡
調査日　平成18年４月10日
開発面積　286.69㎡
調査費　原因者負担
検出遺構　柱穴
出土遺物　－
遺跡の時代　弥生時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　楠　寛輝・西村　直人
最寄の遺跡　久米高畑遺跡53次調査



遺跡位置図（S=1/25,000）

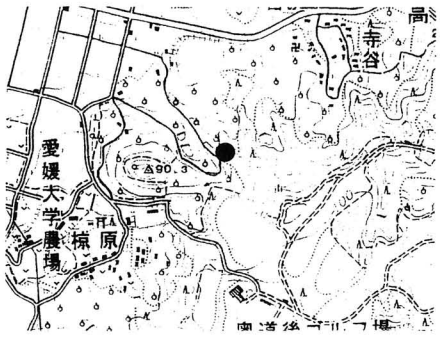
申請番号　H18-8
所在地　北久米町
包蔵地名　No.126 高畑遺物包含地
調査日　平成18年４月14日
開発面積　716.00㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　竪穴住居址・溝・土坑・柱穴
出土遺物　弥生土器・土師器・陶磁器
遺跡の時代　弥生時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　南久米才歩行遺跡



遺跡位置図（S=1/25,000）

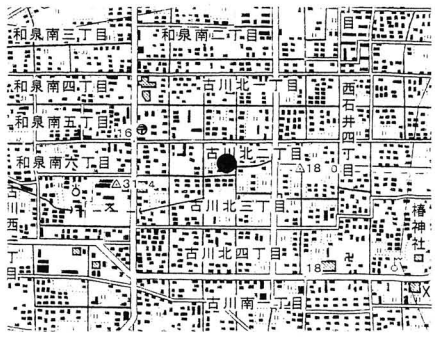
埋蔵文化財が存在した確認調査地（4）

申請番号　H18-24
所在地　高田甲 736 番 2 外
包蔵地名　包蔵地外
調査日　平成 18 年 5 月 12・16 日
開発面積　4,328.58 ㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　－
出土遺物　－
遺跡の時代　古墳時代以降
遺跡の種類　古墳
処置　発掘調査（高田遺跡）
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　－



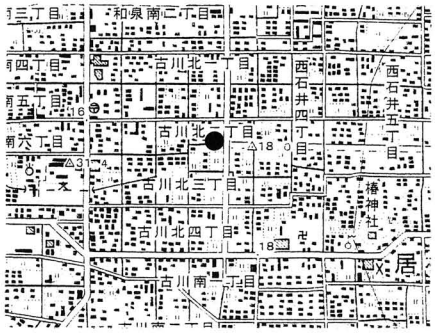
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H18-26
所在地　古川北 2 丁目 277 番 1 外
包蔵地名　包蔵地外
調査日　平成 18 年 5 月 23 ～ 24 日
開発面積　5,200.00 ㎡のうち 906.00 ㎡
調査費　原因者負担
検出遺構　土坑・柱穴
出土遺物　土師器
遺跡の時代　古代～中世
遺跡の種類　集落関連
処置　発掘調査（古川遺跡）
担当者　相原　秀仁・宮内　慎一
最寄の遺跡　西石井遺跡 1 ～ 3 次調査



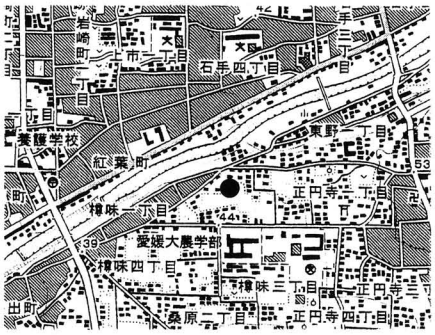
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H18-26
所在地　古川北 2 丁目 284 番 1 外
包蔵地名　包蔵地外
調査日　平成 18 年 10 月 5 ～ 6 日
開発面積　5,200.00 ㎡のうち 340.00 ㎡
調査費　原因者負担
検出遺構　遺物包含層
出土遺物　弥生土器（後期）・木片
遺跡の時代　弥生時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　発掘調査（古川遺跡 2 次調査）
担当者　相原　秀仁・宮内　慎一
最寄の遺跡　西石井遺跡 1 ～ 3 次調査



遺跡位置図（S=1/25,000）

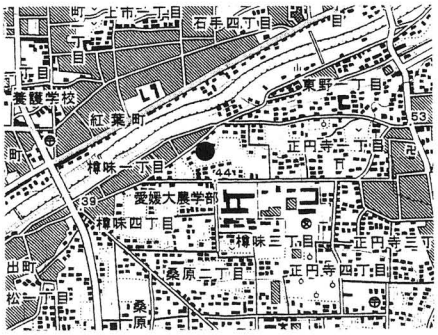
申請番号　H18-37
所在地　樽味 2 丁目
包蔵地名　No.81 樽味遺物包含地
調査日　平成 18 年 5 月 30 日
開発面積　1,130.00 ㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　竪穴住居址・溝・土坑・柱穴
出土遺物　弥生土器・土師器・須恵器
遺跡の時代　弥生時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　一部発掘調査（樽味立添遺跡 4 次調査）
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　樽味立添遺跡



遺跡位置図（S=1/25,000）

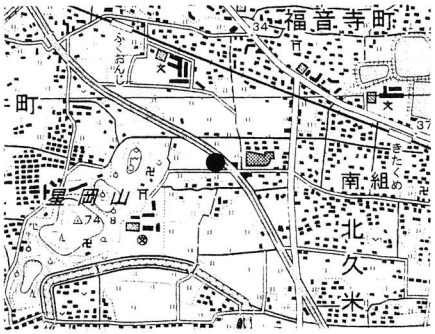
埋蔵文化財が存在した確認調査地（5）

申請番号　H18-41
所在地　樽味２丁目
包蔵地名　No.81 樽味遺物包含地
調査日　平成18年5月19日
開発面積　528.67 ㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　竪穴住居址・溝・柱穴
出土遺物　弥生土器・土師器・須恵器
遺跡の時代　弥生時代～中世
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　樽味立添遺跡



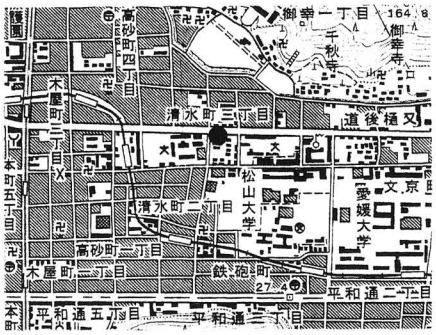
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H18-43
所在地　北久米町
包蔵地名　No.124 北久米遺物包含地
調査日　平成18年5月23日
開発面積　1,089.90 ㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　溝・土坑・柱穴・自然流路
出土遺物　弥生土器・土師器・須恵器
遺跡の時代　弥生時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　北久米浄蓮寺遺跡１～６次調査



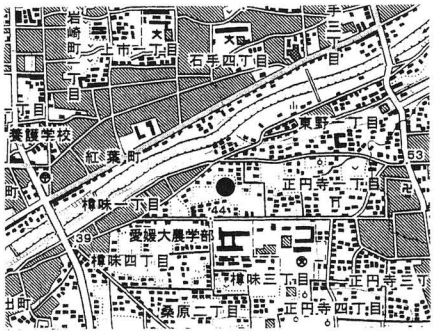
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H18-45
所在地　清水町３丁目
包蔵地名　No.67 文京遺跡（樋又遺跡･元練兵場遺物包含地）
調査日　平成18年6月9日
開発面積　730.20 ㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　溝・柱穴・自然流路
出土遺物　弥生土器・土師器・土師質土器・陶磁器
遺跡の時代　弥生時代以降（中世期）
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　松山大学構内遺跡



遺跡位置図（S=1/25,000）

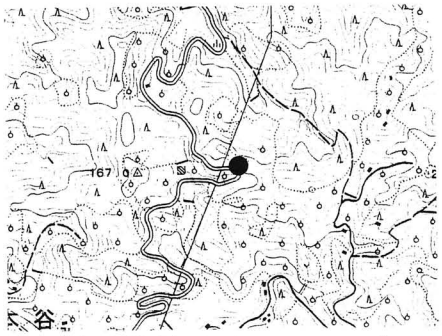
申請番号　H18-48
所在地　樽味２丁目
包蔵地名　No.81 樽味遺物包含地
調査日　平成18年5月31日
開発面積　1,516.90 ㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　竪穴住居址・溝・土坑・柱穴
出土遺物　弥生土器・土師器・須恵器
遺跡の時代　弥生時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　樽味立添遺跡



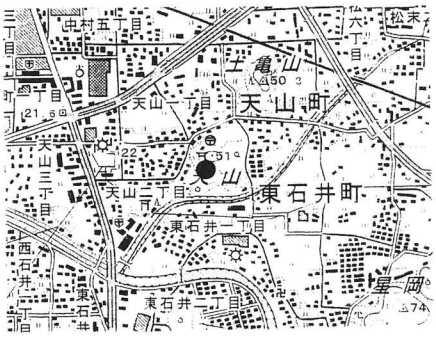
遺跡位置図（S=1/25,000）

埋蔵文化財が存在した確認調査地（6）

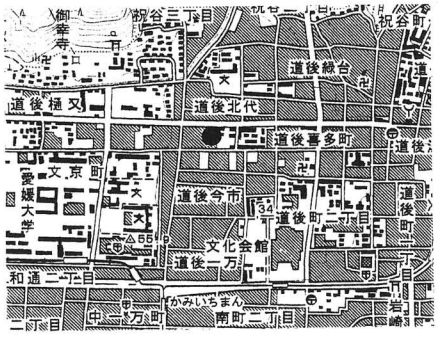
申請番号　H18-53
所在地　本谷乙 170 番 1, 乙 170 番 3
包蔵地名　包蔵地外
調査日　平成 18 年 5 月 22・29 日
開発面積　2,934.00 ㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　竪穴住居址・溝・柱穴
出土遺物　弥生土器・土師器・須恵器
遺跡の時代　弥生時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　発掘調査（本谷遺跡）
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　－


遺跡位置図（S=1/25,000）

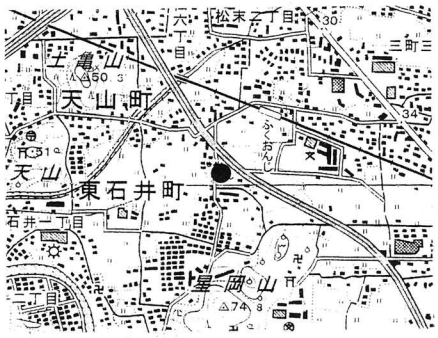
申請番号　H18-55
所在地　天山町
包蔵地名　No. 117 天山古墳群･遺物包含地
調査日　平成 18 年 5 月 23 日
開発面積　3,420.95 ㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　溝
出土遺物　土師器・須恵器
遺跡の時代　古墳時代以降
遺跡の種類　古墳
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　天山北神社古墳


遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H18-61
所在地　道後北代
包蔵地名　No. 68 今市遺物包含地
調査日　平成 18 年 6 月 2 日
開発面積　815.34 ㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　溝・土坑・柱穴
出土遺物　土師質土器（中世）・弥生土器（中期）
遺跡の時代　弥生時代以降（中世期）
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　道後今市遺跡 13 次調査

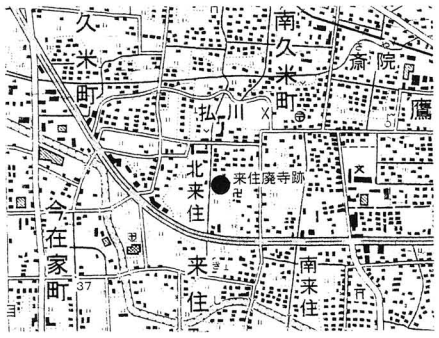

遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H18-74
所在地　星岡町
包蔵地名　No. 116 川付遺物包含地
調査日　平成 18 年 6 月 12 日
開発面積　893.76 ㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　柱穴
出土遺物　弥生土器・土師器・須恵器
遺跡の時代　弥生時代以降（古墳時代中期）
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　星岡登立遺跡


遺跡位置図（S=1/25,000）

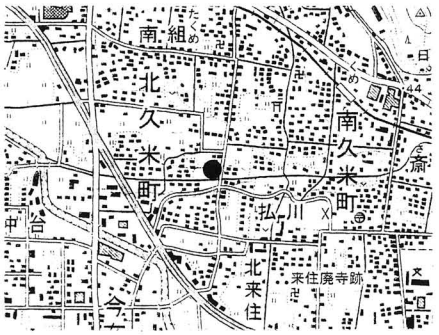
埋蔵文化財が存在した確認調査地（7）

申請番号　H18-75
所在地　南久米町
包蔵地名　№127 来住廃寺跡
調査日　平成18年6月13日
開発面積　316.00㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　土坑・柱穴
出土遺物　土師器・破損石斧
遺跡の時代　古墳時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　来住廃寺16次調査



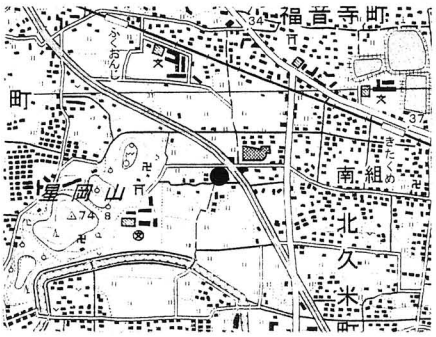
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H18-76
所在地　南久米町
包蔵地名　№126 高畑遺物包含地
調査日　平成18年6月13日
開発面積　1,238.00㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　溝・柱穴
出土遺物　土師器
遺跡の時代　古墳時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　南久米町遺跡1～4次調査



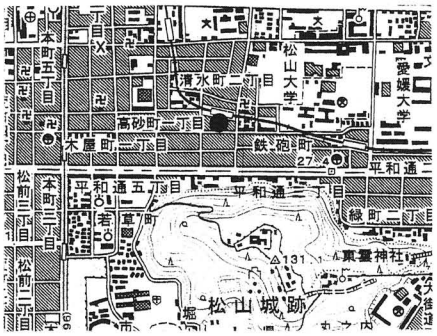
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H18-86
所在地　北久米町
包蔵地名　№124 北久米遺物包含地
調査日　平成18年7月4日
開発面積　727.09㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　柱穴
出土遺物　土師器
遺跡の時代　古墳時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　北久米浄蓮寺遺跡1～6次調査



遺跡位置図（S=1/25,000）

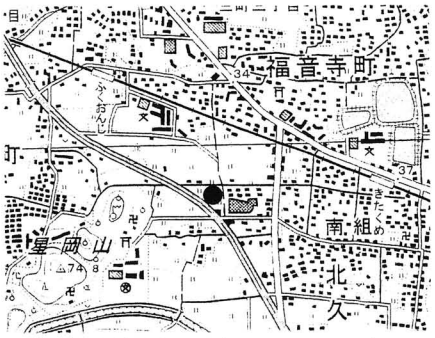
申請番号　H18-88
所在地　清水町1丁目
包蔵地名　№67 文京遺跡（樋又遺跡・元練兵場遺物包含地）
調査日　平成18年6月20日
開発面積　117.04㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　柱穴
出土遺物　土師器
遺跡の時代　古代～中世
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　松山大学構内遺跡



遺跡位置図（S=1/25,000）

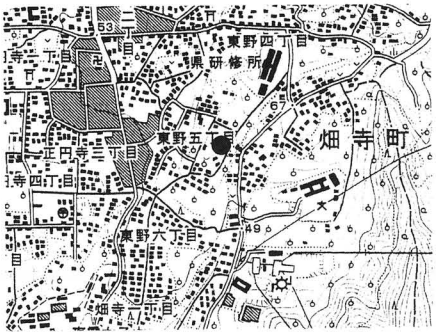
埋蔵文化財が存在した確認調査地（8）

申請番号　H18-100
所在地　北久米町
包蔵地名　No.124 北久米遺物包含地
調査日　平成18年7月6日
開発面積　320.00㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　竪穴住居址・溝・柱穴
出土遺物　土師器・須恵器
遺跡の時代　古墳時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　北久米浄蓮寺遺跡1～6次調査



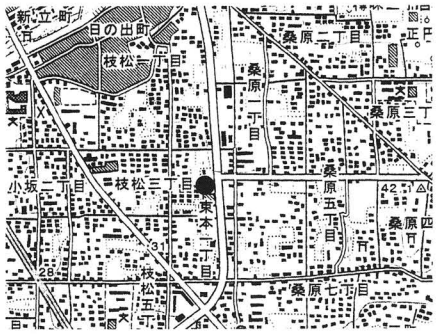
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H18-106
所在地　東野5丁目
包蔵地名　No.79 お茶屋台古墳群
調査日　平成18年7月24～28日
開発面積　9,233.48㎡
調査費　原因者負担（一部国庫補助）
検出遺構　溝・柱穴
出土遺物　須恵器・円筒埴輪片・形象埴輪片・石器
遺跡の時代　古墳時代　（ｻﾇｶｲﾄ）
遺跡の種類　古墳
処置　一部発掘調査（東野お茶屋台遺跡7次調査）
担当者　武正　良浩・吉岡　和哉
最寄の遺跡　東野お茶屋台遺跡2・6次調査



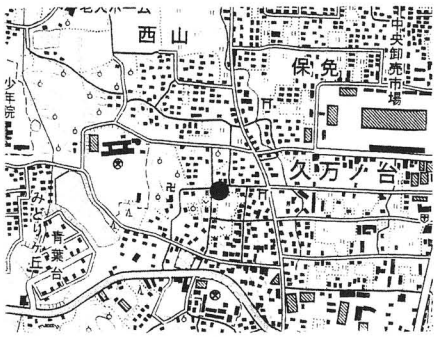
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H18-114
所在地　東本1丁目
包蔵地名　No.83 枝松遺物包含地
調査日　平成18年7月26日
開発面積　176.05㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　土坑・柱穴
出土遺物　弥生土器
遺跡の時代　弥生時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　発掘調査（東本遺跡8次）
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　枝松遺跡4次調査



遺跡位置図（S=1/25,000）

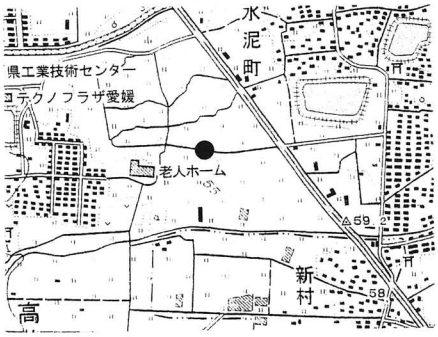
申請番号　H18-126
所在地　久万ノ台
包蔵地名　No.167 久万ノ台遺物包含地
調査日　平成18年9月5・21日
開発面積　429.42㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　竪穴住居址・土坑・柱穴
出土遺物　弥生土器・土師器
遺跡の時代　弥生時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　久万ノ台遺跡



遺跡位置図（S=1/25,000）

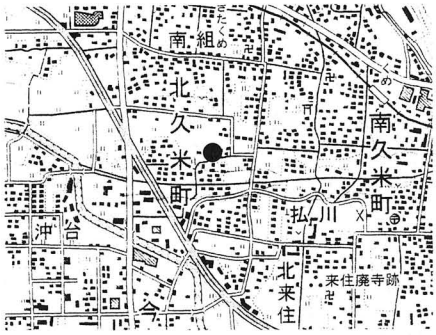
埋蔵文化財が存在した確認調査地（9）

申請番号　H18-128
所在地　水泥町 135 番 1 外
包蔵地名　No. 142 水泥遺物包含地
調査日　平成 18 年 11 月 1 ～ 10 日
開発面積　3,560.28 ㎡
調査費　原因者負担
検出遺構　溝・鋤址・柱穴・自然流路
出土遺物　土師器・須恵器・陶磁器・瓦・石器
遺跡の時代　古代～中世
遺跡の種類　集落関連
処置　発掘調査（水泥遺跡 4 次）
担当者　水本　完児・宮内　慎一
最寄の遺跡　水泥遺跡 1・2 次調査



遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H18-135
所在地　南久米町
包蔵地名　No. 126 高畑遺物包含地
調査日　平成 18 年 8 月 25 日
開発面積　1,001.46 ㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　土坑・柱穴
出土遺物　土師器
遺跡の時代　古代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　北久米町屋敷遺跡 1・2 次調査

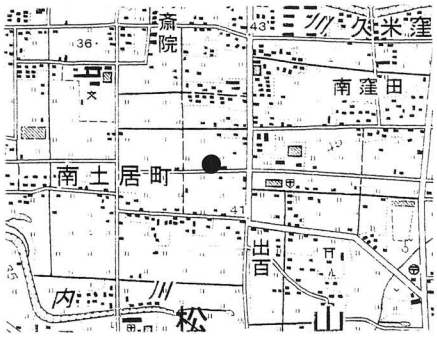


遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H18-142
所在地　東石井 5 丁目
包蔵地名　No. 119 西石井遺物包含地
調査日　平成 18 年 8 月 28 日
開発面積　1,217.51 ㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　溝・土坑・柱穴
出土遺物　弥生土器（後期）・中世期土器
遺跡の時代　弥生時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　西石井遺跡 1 ～ 3 次調査

遺跡位置図（S=1/25,000）

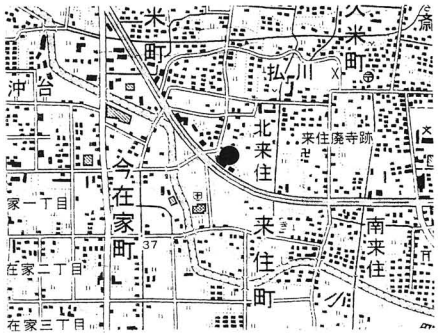
申請番号　H18-148
所在地　南土居町
包蔵地名　No. 132 中ノ子廃寺･遺物包含地
調査日　平成 18 年 9 月 27 日
開発面積　1,187.00 ㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　竪穴住居址・柱穴
出土遺物　土師器・須恵器（6C 後半）
遺跡の時代　古墳時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　開遺跡 1・2 次調査



遺跡位置図（S=1/25,000）

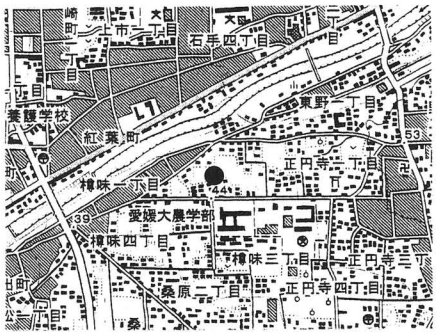
埋蔵文化財が存在した確認調査地（10）

申請番号　H18-159
所在地　来住町
包蔵地名　No.127 来住廃寺跡
調査日　平成18年9月14日
開発面積　208.62㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　溝・土坑・柱穴
出土遺物　弥生土器・土師器・須恵器
遺跡の時代　弥生時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　久米高畑遺跡53次調査



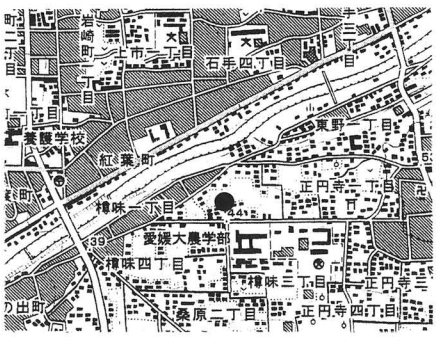
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H18-180
所在地　樽味2丁目
包蔵地名　No.81 樽味遺物包含地
調査日　平成18年10月20日
開発面積　859.00㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　竪穴住居址・土坑・柱穴
出土遺物　弥生土器・土師器・須恵器
遺跡の時代　弥生時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　樽味立添遺跡



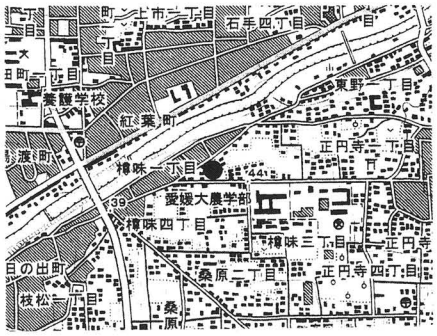
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H18-181
所在地　樽味2丁目
包蔵地名　No.81 樽味遺物包含地
調査日　平成18年10月20日
開発面積　912.00㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　竪穴住居址・溝・柱穴
出土遺物　弥生土器（後期）・土師器・須恵器
遺跡の時代　弥生時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　樽味立添遺跡



遺跡位置図（S=1/25,000）

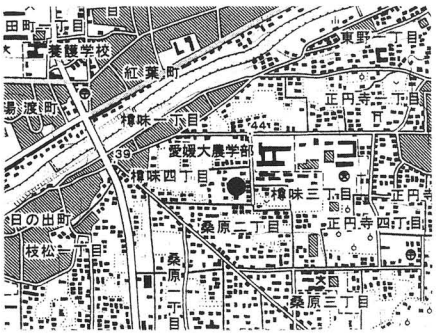
申請番号　H18-187
所在地　樽味2丁目
包蔵地名　No.81 樽味遺物包含地
調査日　平成18年10月17日
開発面積　554.56㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　溝・土坑・柱穴・倒木痕
出土遺物　弥生土器（後期）・土師器
遺跡の時代　弥生時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　樽味高木遺跡4次調査



遺跡位置図（S=1/25,000）

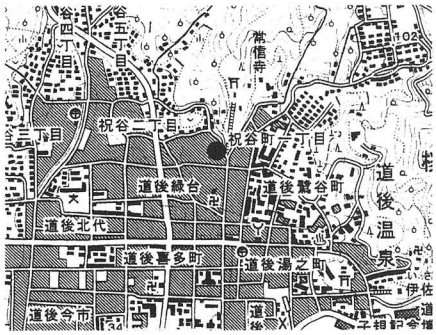
埋蔵文化財が存在した確認調査地（11）

申請番号　H18-202
所在地　樽味４丁目
包蔵地名　№81 樽味遺物包含地
調査日　平成 18 年 10 月 30 日
開発面積　1,113.20 ㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　溝・自然流路
出土遺物　弥生土器・土師器・須恵器
遺跡の時代　弥生時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　樽味四反地遺跡１次調査



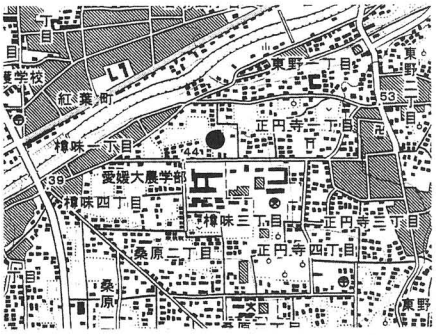
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H18-227
所在地　祝谷２丁目
包蔵地名　№55・56・57 北代･緑台･土居窪遺物包含地
調査日　平成 18 年 12 月 4 日
開発面積　1,912.11 ㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　土坑
出土遺物　弥生土器・土師器・須恵器
遺跡の時代　弥生時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　祝谷畑中遺跡



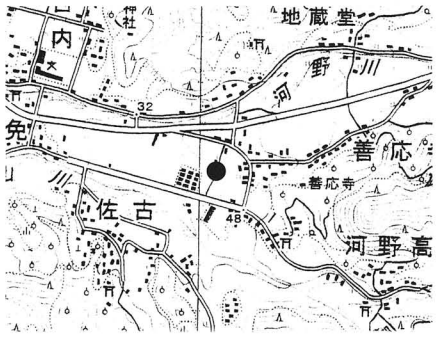
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H18-252
所在地　樽味２丁目
包蔵地名　包蔵地外
調査日　平成 19 年 1 月 11 日
開発面積　915.83 ㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　竪穴住居址・柱穴
出土遺物　弥生土器・土師器
遺跡の時代　弥生時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　樽味立添遺跡３次調査



遺跡位置図（S=1/25,000）

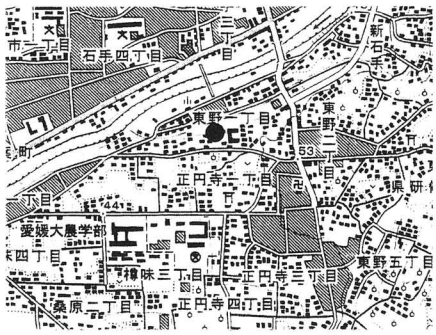
申請番号　H18-256
所在地　善応寺甲 82 番地 外
包蔵地名　包蔵地外
調査日　平成 19 年 1 月 29 日
開発面積　1,118.00 ㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　土坑
出土遺物　土師器・須恵器
遺跡の時代　古代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　善応寺畦地・大相院遺跡



遺跡位置図（S=1/25,000）

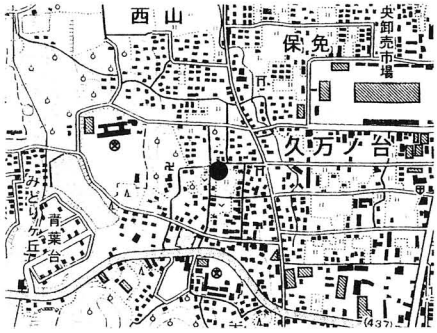
埋蔵文化財が存在した確認調査地（12）

申請番号　H18-260
所在地　東野１丁目
包蔵地名　包蔵地外
調査日　平成19年１月15日
開発面積　929.77㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　竪穴住居址・土坑・柱穴
出土遺物　弥生土器（後期）
遺跡の時代　弥生時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　東野森ノ木遺跡２次調査



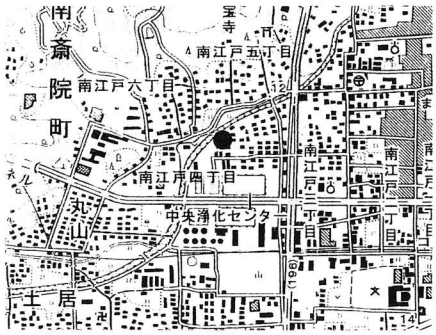
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H18-268
所在地　久万ノ台
包蔵地名　No.167 久万ノ台遺物包含地
調査日　平成19年１月18日
開発面積　527.49㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　性格不明遺構・土坑・柱穴
出土遺物　弥生土器
遺跡の時代　弥生時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　久万ノ台遺跡



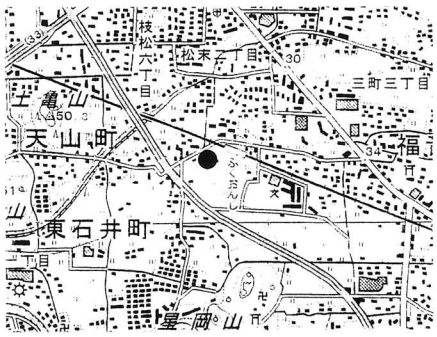
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H18-274
所在地　南江戸４丁目
包蔵地名　No.35 古照遺跡
調査日　平成19年１月24日
開発面積　515.04㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　溝・土坑・柱穴・炭化痕
出土遺物　土師皿・土師質土器
遺跡の時代　中世以前
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　南江戸闘目遺跡１・２次調査



遺跡位置図（S=1/25,000）

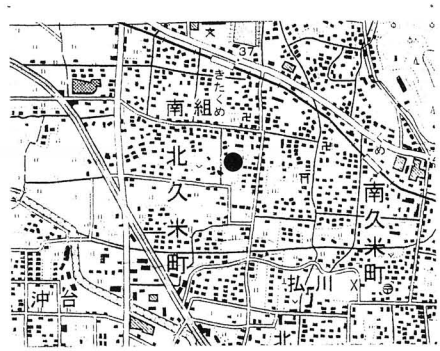
申請番号　H18-277
所在地　福音寺町
包蔵地名　No.116 川付遺物包含地
調査日　平成19年１月26日
開発面積　264.28㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　土坑・柱穴
出土遺物　弥生土器・土師器・須恵器
遺跡の時代　中世期以前
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　福音小学校構内遺跡



遺跡位置図（S=1/25,000）

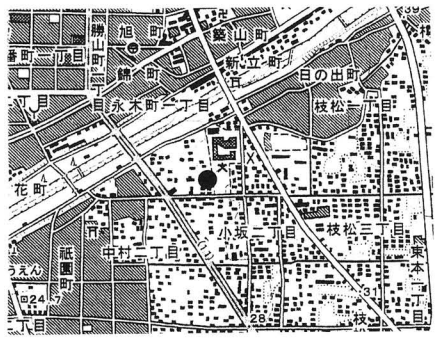
埋蔵文化財が存在した確認調査地（13）

申請番号　H18-284
所在地　北久米町
包蔵地名　No.126 高畑遺物包含地
調査日　平成19年2月14日
開発面積　3,025.00㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　溝・土坑・柱穴
出土遺物　土師器・須恵器・土師質土器
遺跡の時代　中世以降
遺跡の種類　集落関連
処置　一部発掘調査（北久米遺跡7次調査）
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　南久米町遺跡1～4次調査



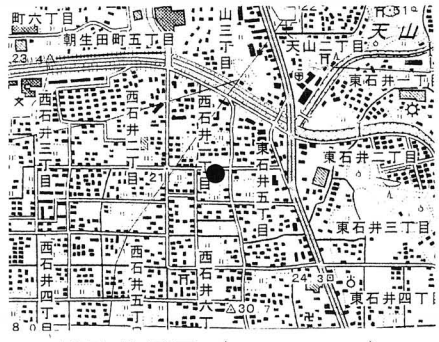
遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H18-296
所在地　中村1丁目
包蔵地名　No.108 中村町遺跡
調査日　平成19年2月27日
開発面積　約120.00㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　柱穴・倒木痕
出土遺物　土師器
遺跡の時代　古墳時代
遺跡の種類　集落関連
処置　遺跡保護中
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　素鵞小学校構内遺跡



遺跡位置図（S=1/25,000）

申請番号　H18-303
所在地　西石井1丁目
包蔵地名　No.119 西石井遺物包含地
調査日　平成19年3月6日
開発面積　1,498.00㎡
調査費　国庫補助
検出遺構　性格不明遺構・溝・土坑・柱穴
出土遺物　弥生土器・土師器・土師質土器（鍋脚部）
遺跡の時代　弥生時代以降
遺跡の種類　集落関連
処置
担当者　武正　良浩
最寄の遺跡　東石井遺跡3次調査



遺跡位置図（S=1/25,000）

表２　平成 18 年度本格調査一覧

遺跡番号	遺　跡　名	所　在　地	調査目的	時　代	主な遺構・遺物等	本格対象面積（㎡）	屋外調査期間	遺跡番号
395 4-A	「松山市道北久米和泉線関連遺跡」古川遺跡	古川北２丁目 277 番３の一部	緊急	弥生・古代	掘立柱建物址・溝・土器棺墓・土壙墓・土坑・弥生土器・土師器・須恵器	307.28	H18.7.3 ～ H18.9.29	395 4-A
395 4-B	「松山市道北久米和泉線関連遺跡」古川遺跡２次調査地	古川北２丁目 274 番１の一部	緊急	弥生・中世	掘立柱建物址・溝・土坑・柱穴・弥生土器・土師器・須恵器	202.43	H18.12.15 ～ H19.2.14	395 4-B
395 4-C	「松山市道北久米和泉線関連遺跡」古川遺跡３次調査地	古川北２丁目 284 番 10、284 番 11 の各一部	緊急	弥生	自然流路・弥生土器・木片	55	H18.12.15 ～ H19.1.31	395 4-C
405-4	「松山市道中村桑原線関連遺跡」小坂遺跡	小坂二丁目 210 番１	緊急	中世・近世	掘立柱建物址・畠遺構・土坑・溝・柱穴・土師器・須恵器・陶磁器・石器・将棋の駒	549	H18.2.1 ～ H18.4.28	405-4
405 5-A	「松山市道中村桑原線関連遺跡」小坂遺跡２次調査地	小坂二丁目 208 番１外	緊急	弥生・中世	溝・土坑・柱穴・弥生土器・土師器・陶磁器・硯	600	H18.6.1 ～ H18.7.31	405 5-A
405 5-B	「松山市道中村桑原線関連遺跡」小坂遺跡３次調査地	小坂二丁目 468 番２、467 番１	緊急	古代	溝・自然流路・柱穴・土師器・須恵器・陶磁器・骨	700	H18.10.2 ～ H18.12.27	405 5-B
405 5-C	「松山市道中村桑原線関連遺跡」小坂遺跡４次調査地	小坂二丁目 96 番１の一部 外	緊急	弥生・中世	竪穴式住居址・土坑・溝・性格不明遺構・柱穴・弥生土器・土師器・石器	約 780	H18.12.1 ～ H19.1.31	405 5-C
460-1	「松山市道小野 160 号線関連遺跡」平井遺跡３次調査地	平井町甲 3071-1 の一部	緊急	古墳～中世	掘立柱建物址・溝・土坑・柱穴・性格不明遺構	903	H18.3.1 ～ H18.5.31	460-1
460 2-A	「松山市道小野 160 号線関連遺跡」平井遺跡４次調査地	平井町甲 2349-1 外	緊急	古墳～中世	掘立柱建物址・溝・土坑・柱穴・性格不明遺構・土師器・須恵器・瓦器・石器・鉄器・装飾品（ガラス小玉）	約 706	H18.7.3 ～ H18.9.30	460 2-A
460 2-B	「松山市道小野 160 号線関連遺跡」平井遺跡５次調査地	平井町甲 3120、3122、3126 の各一部	緊急	古墳～中世	竪穴式住居址・掘立柱建物址・溝・土坑・柱穴・性格不明遺構・弥生土器・土師器・須恵器・石庖丁・石鏃	806.02	H18.10.2 ～ H18.12.27	460 2-B
462	大峰ヶ台遺跡 10 次調査地	南江戸５丁目 1463	緊急	弥生～近世	水田跡・柱穴・弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器	243	H18.3.1 ～ H18.4.14	462
463	松山城東郭跡（東雲遺跡）	大街道３丁目 2-24	緊急	江戸	江戸時代の礎石建物等・松山城東郭造成面	約 263	H18.3.9 ～ H18.4.28	463
464	小坂七ノ坪遺跡４次調査地	小坂２丁目 465 番３	国補	中世以前	柱穴	52.125	H18.4.17 ～ H18.4.28	464
465	樽味高木遺跡 13 次調査地	樽味４丁目 238 番１	国補	弥生～中世	竪穴式住居址・掘立柱建物址・溝・自然流路・土坑・柱穴・弥生土器・土師器・須恵器・石器・鉄器・装飾品・種子	232	H18.4.17 ～ H18.6.30	465
466	葉佐池古墳４次調査	北梅本町甲 2455 の一部	国補	古墳		250	H18.4.17 ～ H18.5.31	466
467	来住廃寺 33 次調査地	来住町 850 番の一部	国補	古墳～古代近世	掘立柱建物址・柵・土坑・井戸・柱穴	約 131	H18.5.8 ～ H18.7.31	467
468	北久米遺跡４次調査地	北久米町 664-11 番地先～ 608-1 番地先	緊急	古墳・近世	二つ塚古墳の前方部と周溝・近世墓・溝・土坑・埴輪・天目茶碗・土師器	229	H18.6.19 ～ H18.7.5	468
469	樽味四反地遺跡 14 次調査地	樽味４丁目 219 番１	国補	弥生・古代～中世	溝・土坑・柱穴・弥生土器・土師器・須恵器・石器	64	H18.7.3 ～ H18.8.31	469
470	樽味四反地遺跡 15 次調査地	樽味４丁目 196 番の一部、205 番	緊急	古代～中世	溝・土坑・柱穴・土師器・須恵器	220	H18.7.10 ～ H18.8.9	470
471	文京遺跡 29 次調査地	鉄砲町 11 番２	緊急	弥生	竪穴式住居址・土坑・溝・柱穴・弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器・石器	480	H18.7.10 ～ H18.8.31	471
472	本谷遺跡	本谷乙 170 番１、乙 170 番３の各一部	緊急	縄文～古墳	溝・柱穴・土坑・自然流路・性格不明遺構・縄文土器・弥生土器・須恵器・土師器・石器・鉄器	353	H18.7.24 ～ H18.9.8	472
473	松山城三之丸跡６次調査地	堀之内（競輪場跡地）	国補	近世	石垣・石組溝・堀・土坑・陶磁器・瓦	約 600	H18.8.1 ～ H19.3.16	473
474	高田遺跡	高田乙 10、乙 11-3、乙 11-4、乙 223-4 の各一部	緊急	弥生前期古墳・近世	土坑・古墳・溝・弥生土器・土師器・須恵器・鉄器（鉈・槍・鏃・鋤先）・管玉・石鏃・赤色顔料・人骨	1,800	H18.9.15 ～ H18.12.5	474
475	北久米遺跡５次調査地	北久米町 892 番１、891 番１の各一部	緊急	古墳～古代	柱穴・弥生土器・土師器	124.085	H18.9.21 ～ H18.10.4	475
476	東本遺跡８次調査地	東本１丁目 116 番６	国補	弥生	竪穴式住居址・溝・土坑・柱穴・弥生土器・土師器	176.05	H18.10.2 ～ H18.10.31	476
477	北久米遺跡６次調査地	北久米町 605 番地先～ 586 番地先の一部	緊急	弥生・古墳	周溝・竪穴式住居址・埴輪・須恵器・弥生土器	163	H18.10.19 ～ H18.10.30	477
478	樽味四反地遺跡 16 次調査地	樽味４丁目 222 番１	国補	弥生・古墳	竪穴式住居址・掘立柱建物址・土坑・柱穴・弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器・石器・瓦・装飾品・種子	523	H18.11.1 ～ H19.3.30	478
479	久米高畑遺跡 67 次調査地	来住町 902 番１	国補	弥生～古墳古代	竪穴式住居址・掘立柱建物址・土坑・溝・柱穴・性格不明遺構・弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器	170	H18.11.1 ～ H19.1.16	479
480	樽味立添遺跡４次調査地	樽味２丁目 18 番の一部	緊急	弥生～中世	竪穴式住居址・掘立柱建物址・溝・土坑・柱穴・弥生土器・土師器・須恵器	174	H19.1.9 ～ H19.2.8	480
481	東野お茶屋台遺跡７次調査地	東野５丁目甲 898 番 97 の一部	緊急	古墳	周溝・弥生土器・須恵器・埴輪・装飾品（ガラス小玉）	約 440	H19.1.16 ～ H19.2.28	481
482	久米高畑遺跡 68 次調査地	来住町 903	国補	弥生・古代	掘立柱建物址・竪穴式住居址・土坑・礎盤石・弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器・石器・瓦	261	H19.1.9 ～ H19.3.30	482
483	松山城黒門跡	堀之内	国補	近世	石垣・瓦・陶磁器	約 130	H19.1.22 ～ H19.3.29	483
485	東野お茶屋台遺跡８次調査地	東野５丁目甲 911-9 の一部	国補	古墳	周溝・土師器・須恵器・陶磁器	約 38	H19.2.15 ～ H19.2.22	485
	四国がんセンター解体工事に伴う事前調査	堀之内 13 番１	緊急	近世	北門跡・土塁・石組溝	725	H18.8.17 ～ H18.11.16	

平成 18 年度　松山市埋蔵文化財本格調査位置図

（S＝1：80,000）

Ⅲ　平成18年度
保存処理及び出土遺物整理

1. 平成18年度出土遺物整理の概要

当埋蔵文化財センターでは、近年の発掘調査の整理作業と並行して、20年間の調査資料の整理作業をも行っている。今年度は昨年度に引き続き、膨大になってきた収蔵品の再整理と、保存処理を必要とする資料への対応を重点項目とした。

1. 遺　物

鉄　製　品：収蔵品目録の作成を重点的に行う。保存処理は基本的に当センターで行うが、特殊な資料やX線撮影は外部委託している。今年度の重要資料の外部委託は鉄刀1点（御産所権現山1号墳出土№1）を株式会社吉田生物研究所、鉄刀1点（御産所権現山1号墳出土№2、大池東4号墳出土）を株式会社京都科学に委託した。

植物性遺物：木製品や種実は自然科学分析を外部委託し、保存処理は当センターで行っている。今年度の木製品の保存処理及び自然科学分析の外部委託は、樹種同定、植物珪酸体、花粉分析を株式会社古環境研究所に依頼した。

動 物 遺 体:洗浄や保護の作業を行い、人骨の鑑定、獣種同定は外部委託している。今年度の鑑定、同定の外部委託は、獣種同定を株式会社古環境研究所に委託した。

土器・石器：収蔵庫整理では、報告書の刊行された遺跡資料を主体に選別作業をし、収納を行う。特に、展示や類例調査等で使用頻度の高い資料については、収蔵一覧を作成し、特別収蔵庫に一括保存した。今年度は匙形土製品の整理を進め、台帳作成後に、特別収蔵庫等に保管をした。

2. 写　真

ネ　　ガ：35㎜判と6×7判は、注記や台帳作成作業が終わり次第、写真整理室の所定の場所に収納する。4×5判は写真担当者が整理をする。

プリント：報告書刊行後に、ファイルをコンテナに収納し、収蔵庫で保管する。

3. 実側図・日誌・報告書原図

遺構測量図、遺物実測図、日誌、報告書原図は収蔵庫の所定の場所に保管する。

（山本・梅木）

2. 保存処理

保存処理室では主に木製品の保存処理（PEG 含浸処理）、金属製品の保存処理（減圧樹脂含浸）を行っており、必要に応じて現場に出向き、遺構・遺物の取り上げ、土層の剥ぎ取り作業も行っている。（山本）

1. 木製品の保存処理

当センターでは、木製品の保存処理は PEG（ポリエチレングリコール）含浸処理を行っている。この PEG 含浸法は、木製品中の水分を PEG に置き換える方法で、20％の水溶液に木製品を浸し、漸次、濃度を高めていき最終段階では 100％濃度の PEG 溶液をしみこませることになる。この処理は 1 ～ 1.5 年位を要する。平成 18 年度は木製品の保管数が少なく保存処理は行っていない。

2. 金属製品の保存処理（写真 1 ～ 5）

前処理（脱水･脱塩･安定化処理）を行っていた金属製品は､順次クリーニング（付着しているゴミ･土壌･サビ等の除去）、減圧樹脂含浸を行っている。また、処理の終了した遺物は、収納システム（三菱ガス科学・RP システム）により収納後、特別収蔵庫に保管している。以下、処理を行った遺跡名と遺物点数を下表に記す。

表 1　平成 18 年度　　金属製品保存処理遺跡名一覧　　(1)

No	遺 跡 名	点数	作業工程	刊 行 物
41	津田中学構内遺跡 1 次調査地	4	含浸処理中	松山市文化財調査報告書第 80 集
59	東山古墳群 1 次調査地	1	処理済・処理室保管	松山市文化財調査報告書第 15 集
308	久米高畑遺跡 30 次調査地	1	含浸処理中	未報告（松山市埋蔵文化財調査年報 9）
334	大渕遺跡 3 次調査地	1	含浸処理中	松山市文化財調査報告書第 78 集
344	北斎院地内遺跡 4 次調査地	17	含浸処理中	松山市文化財調査報告書第 80 集
347	播磨塚天神山古墳	477	処理済・処理室保管	松山市文化財調査報告書第 83 集
366	桑原遺跡 3 次調査地	2	脱塩中	未報告（松山市埋蔵文化財調査年報 13）
376 1-A	桑原遺跡 4 次調査地（2 区）	1	含浸処理中	松山市文化財調査報告書第 105 集
376 1-B	桑原遺跡 4 次調査地（3 区･5 区）	15	含浸処理中	松山市文化財調査報告書第 105 集
376 1-C	桑原遺跡 4 次調査地（4 区）	7	含浸処理中	松山市文化財調査報告書第 105 集
389	東石井遺跡	11	脱塩中	未報告（松山市埋蔵文化財調査年報 14）
390	久米才歩行遺跡 7 次調査地	1	処理済・処理室保管	未報告（松山市埋蔵文化財調査年報 14）
393	南久米町遺跡 4 次調査地	6	含浸処理中	未報告（松山市埋蔵文化財調査年報 14）
395 1-A	西石井遺跡	19	脱塩中	松山市文化財調査報告書第 112 集
395 2-A	西石井遺跡 2 次調査地	2	脱塩中	松山市文化財調査報告書第 112 集
395-3	西石井遺跡 3 次調査地	9	脱塩中	松山市文化財調査報告書第 112 集
401-1	上苅屋遺跡 3 次調査地	14	含浸処理中	松山市文化財調査報告書第 104 集
404 3-B	樽味立添遺跡 3 次調査地	2	脱塩中	未報告（松山市埋蔵文化財調査年報 17）

表1　平成18年度　金属製品保存処理遺跡名一覧　(2)

No	遺 跡 名	点数	作業工程	刊 行 物
404 4-C	樽味高木遺跡11次調査地	8	脱塩中	未報告（松山市埋蔵文化財調査年報18）
405 2-B	枝松遺跡9次調査地	1	含浸処理中	未報告（松山市埋蔵文化財調査年報17）
417	番町遺跡	316	クリーニング中	松山市文化財調査報告書第109集
429	東野お茶屋台遺跡6次調査地	4	脱塩中	未報告（松山市埋蔵文化財調査年報17）
438	道後湯月町遺跡	2	処理済・処理室保管	未報告（松山市埋蔵文化財調査年報17）
443	松山大学構内遺跡6次調査地	4	脱塩中	松山市文化財調査報告書第115集
446	樽味高木遺跡12次調査地	12	処理済・処理室保管	未報告（松山市埋蔵文化財調査年報18）
449	来住町遺跡14次調査地	3	脱塩中	未報告（松山市埋蔵文化財調査年報14）
453	樽味四反地遺跡12次調査地	2	脱塩中	未報告（松山市埋蔵文化財調査年報18）
454	樽味四反地遺跡13次調査地	9	脱塩中	未報告（松山市埋蔵文化財調査年報18）
455	祝谷畑中遺跡2次調査地	2	脱塩中	未報告（松山市埋蔵文化財調査年報18）
462	大峰ヶ台遺跡10次調査地	19	処理中	未報告（松山市埋蔵文化財調査年報16）
463	松山城東郭跡	6	処理済・処理室保管	未報告（松山市埋蔵文化財調査年報16）
513	平井遺跡3次調査地	1	脱塩中	未報告
474	高田遺跡	9	処理中	平成18年度調査
481	東野お茶台遺跡7次調査地	6	処理中	平成18年度調査
460 2-A	平井遺跡4次調査地	2	処理中	平成18年度調査
472	本谷遺跡	8	処理中	平成18年度調査
405 5-B	小坂遺跡3次調査地	18	処理中	平成18年度調査
470	樽味四反地遺跡15次調査地	1	脱塩中	平成18年度調査

3. 人骨・獣骨（動物遺骸体）の保存処理（写真6・7）

処理室へは人骨、獣骨とも大部分のものが、土とともに出土した状態で搬入される。処理室ではこの余分な土を、竹べら・竹串・針先・ピンセットなどを用いて、徐々に取り除いて骨の取り出しを行っている。脆い状態のものはアクリル系合成樹脂を塗布し、乾燥、硬化させてから少しずつ土を取り除き、現れた部分にまた樹脂を塗る。この繰り返しを行って取り出した骨は、最後に樹脂溶液に浸し漬けして全体（内部まで）を強化し保護する。また、収蔵遺物の再整理を行い収蔵台帳の作成も行っている。以下、処理を行った遺跡名と遺物点数を下表に記す。

表2　平成18年度　動物遺骸体保存処理遺跡名一覧

No	遺跡名	種類	点数	刊行物
402	樽味高木遺跡6次調査地	獣骨	14	未報告（報告書作成中）
404 4-C	樽味高木遺跡11次調査地	獣骨	5	松山市埋蔵文化財調査報告書第117集
438	道後湯月町遺跡	獣骨	20	松山市埋蔵文化財調査年報17
405 5-B	小坂遺跡3次調査地	獣骨	1	平成18年度調査

4. 遺構・遺物の取り上げ

発掘調査で検出される遺物には、腐食したり脆弱化しているため、そのまま取り上げることが困難なものがある。また、ほとんどの調査の場合、発掘した遺構を現場で保存できない。このような場合に遺構･遺物の取り上げを行う。遺物が小さい場合は簡易な方法で行い（骨を土ごと取り上げること、年報11,保存処理事業Ⅰ－3参照)、遺物が大きく重量が増す場合は発泡ウレタン樹脂を用いて対象物全体を固めて取り上げる（年報X,保存処理事業Ⅰ－3参照)。この発泡ウレタン樹脂での梱包は従来使用していた石膏やコンクリートでの梱包より軽く仕上がり、搬出、運搬の作業が軽減される。また、室内に搬入した後、時間をかけて精査することによって、発掘期間中に屋外で調査する以上の成果を期待できることも多い。平成18年度は遺構、遺物の取り上げは行っていない。

5. 土層の剥ぎ取り転写

土層の剥ぎ取り転写は、転写面にエポキシ系樹脂を塗り、樹脂の補強のためガーゼなどで裏打ちを行い、樹脂が硬化後転写面より剥ぎ取る。剥ぎ取った土層はパネル仕上げにして展示、保管する。また、この土層の剥ぎ取りは、発掘後も室内で実物をあらゆる角度から精査できる効果的な記録保存法ともなる。平成18年度は土層の剥ぎ取り作業は行っていない。

参考文献　1～5　奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター『埋蔵文化財ニュース16・24・28・31』

6. 出土木製遺物、金属製遺物、動・植物遺体一覧

以下の表に平成18年度調査により出土した遺物種類、点数、遺跡名を記す。

表3　平成18年度　調査出土木製遺物、金属製遺物、動・植物遺体一覧

No	遺　跡　名	種類	点数	内　　訳
465	樽味高木遺跡13次調査地	金属製品	3	鉄製鏃など
		動物遺骸体	1	獣骨（歯など）
		植物遺体	6	種子
460 2-A	平井遺跡4次調査地	金属製品	2	鉄製鏃
395 4-A	古川遺跡	動物遺骸体	1	獣骨（歯）
470	樽味四反地遺跡15次調査地	金属製品	1	鉄製釘
472	本谷遺跡	金属製品	8	鉄製刀子・滓など
405 5-B	小坂遺跡3次調査地	金属製品	20	鉄製釘・滓など
		動物遺骸体	6	獣骨（歯）
		植物遺体	2	種実（桃？）
474	高田遺跡	金属製品	9	鉄製槍・鏃など
481	東野お茶屋台遺跡7次調査地	金属製品	3	鉄製釘・革金具

写真１　上苅屋遺跡３次調査地出土鏃（処理前）

写真２　上苅屋遺跡３次調査地出土鏃（処理前）

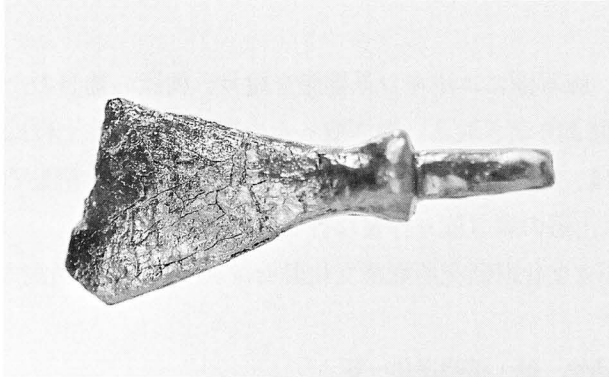


写真３　上苅屋遺跡３次調査地出土鏃（処理後）

写真４　樽味高木遺跡 12 次調査地出土器種不明（処理前）

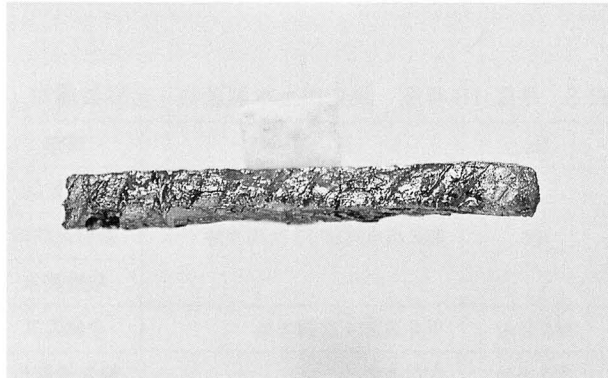


写真５　樽味高木遺跡 12 次調査地出土器種不明（処理後）

写真６　樽味高木遺跡６次調査地出土獣歯　（処理前）

写真７　樽味高木遺跡６次調査地出土獣歯　（処理後）

3. 出土遺物整理

匙形土製品一覧

1．調査の概要

当センターでは、借用や資料調査の希望が多い出土品を年次毎に整理し、迅速に対応可能なように特別収蔵庫で保管している。今年度は、匙形土製品を対象資料とした。

調査は、まず報告書や文献で調べ、つぎに各調査員に対象資料の有無や所属時期の確認等をした。つづいて資料と実測図を一括管理し、未実測品は極力実測を作成し、法量の数量化に努めた。

なお掲載資料は、報告書に掲載している遺物を基本にし、現在整理中の遺物も許される限り取り上げ、未整理の遺物出土資料は除外した。（梅木）

2．掲載文献

西尾幸則・栗田茂敏　1987『宮前川遺跡』松山市文化財調査報告書第 18 集

宮崎泰好　1991『祝谷六丁場遺跡』松山市文化財調査報告書第 24 集

西尾幸則　1993『来住廃寺遺跡－第 15 次調査－』松山市文化財調査報告書第 34 集

梅木謙一・武正良浩　1995『福音小学校構内遺跡－弥生時代編－』松山市文化財調査報告書第 50 集

梅木謙一　1998『石井・浮穴の遺跡』松山市文化財調査報告書第 65 集

高尾和長　2002『船ヶ谷遺跡－ 4 次調査－遺構・遺物編』松山市文化財調査報告書第 88 集

宮内慎一　2006『東石井遺跡・西石井遺跡－ 1・2・3 次調査地－』松山市文化財調査報告書第 112 集

山之内志郎　2007『松山大学構内遺跡Ⅳ－ 6 次調査地－』松山市文化財調査報告書第 115 集

表 1　匙形土製品一覧

番号	遺　跡　名	出　土　地	時　期	文　献	備　考
1	宮前川	津田第Ⅰ地区	古墳初頭	報第 18 集図版 14－141	
2	宮前川	津田第Ⅰ地区 D-13	古墳初頭	報第 18 集図版 14－142	
3	祝谷六丁場	S1E4	弥生中期	報第 24 集未掲載	
4	来住廃寺 15 次	3 区下段Ⅶ層	弥生時代	報第 34 集第 56 図 248	
5	福音小学校構内	土器溜り	弥生後期	報第 50 集第 92 図 405	
6	西石井荒神堂	DK1	弥生終末	報第 65 集第 90 図 146	
7	中村	不明	弥生時代	未報告	
8	影浦	不明	弥生中期	未報告	
9	若草町	SB16	古墳初頭	未報告	
10	船ヶ谷 4 次	SR1－③層 F11 区	弥生時代	報第 88 集第 10 図 49	
11	船ヶ谷 4 次	SR1－②層 D6 区	弥生時代	報第 88 集第 86 図 963	
12	船ヶ谷 4 次	SR1－②層 E3 区	弥生時代	報第 88 集第 86 図 964	
13	東石井	SE103	弥生後期	報第 112 集第 28 図 158	
14	西石井 1 次	2 区包含層	弥生時代	報 112 集第 223 図 2131	
15	西石井 2 次	SE403	弥生後期末	報 112 集第 314 図 633	
16	西石井 2 次	第Ⅲ層	弥生時代	報 112 集第 320 図 732	
17	西石井 3 次	SE103	弥生後期後半	報 112 集第 367 図 337	
18	西石井 3 次	SE103	弥生後期後半	報 112 集第 367 図 338	
19	松山大学構内 6 次	SR1 Ⓐ層	弥生後期後半	報第 115 集第 37 図 195	

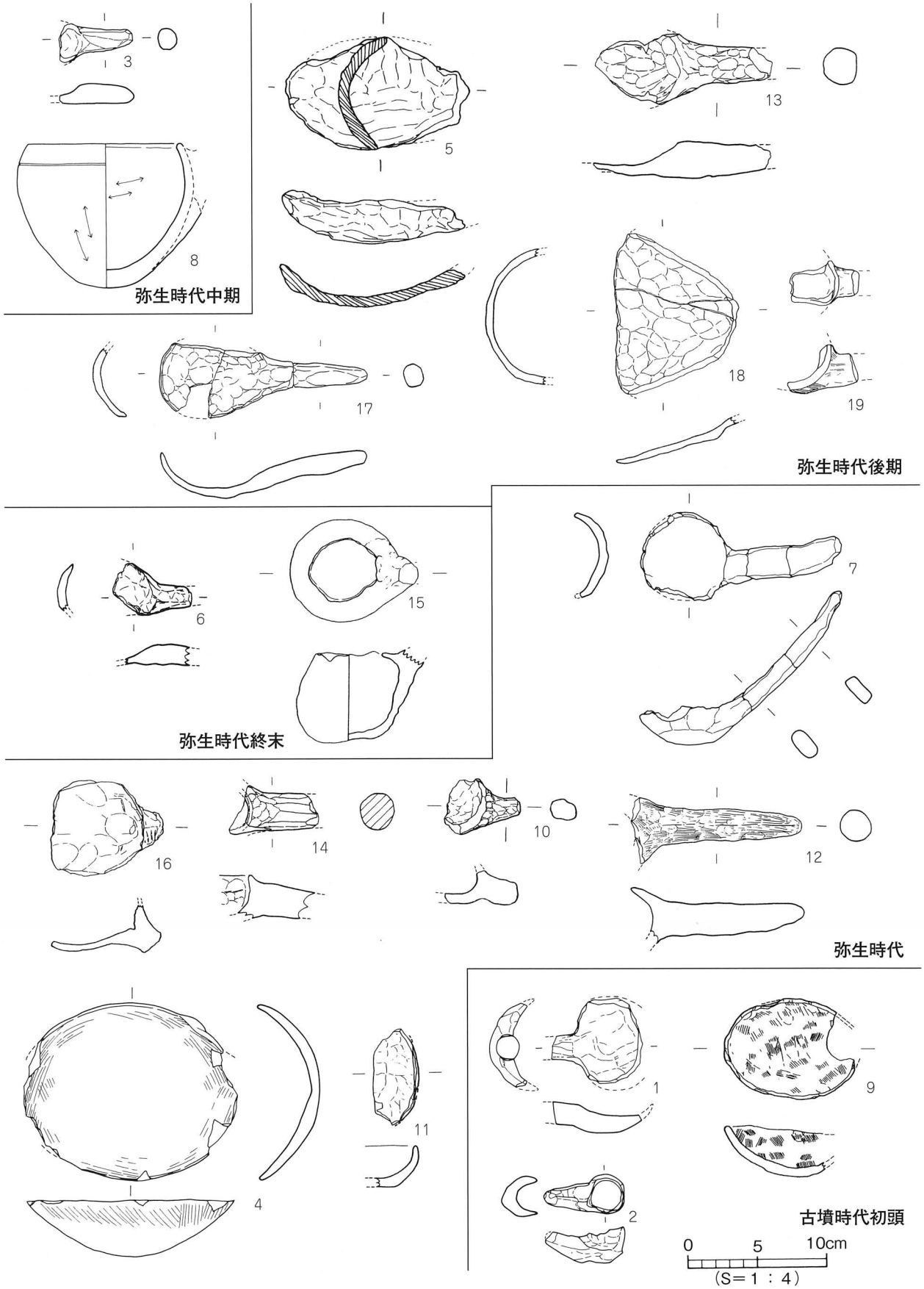

3
8
弥生時代中期
5
13
17
18
19
弥生時代後期
6
15
弥生時代終末
7
16
14
10
12
弥生時代
4
11
1
9
2
古墳時代初頭
0
5
10cm
(S=1：4)

図1　匙形土製品実測図

Ⅳ　平成18年度
普 及 啓 発 事 業

平成18年度普及啓発事業

当埋蔵文化財センターは、松山市内における遺跡の発掘調査を行うとともに、出土遺物や記録資料などを整理・保管している。発掘調査終了後は、随時現地説明会を開催するとともに発掘調査報告書を刊行することにより、広く一般に公開している。

また附属の考古館は、地域文化の発展・向上並びに調査研究活動の振興を図ることを目的として設置されたものであり、展示会、講演会、体験学習セミナーを開催するなど、市民一人ひとりの生涯学習を支援しながら、埋蔵文化財保護思想の普及啓発に努めている。平成18年度は下記の各種事業を実施した。

1. 展示活動　2. 教育普及活動　3. 収集・保管活動　4. 広報・出版活動
5. 施設の利用　6. 資料の貸出・調査　7. 職員研修・会議　8. 考古館月別入館者数調

一方、埋蔵文化財センターに隣接して設置されている文化財情報館は、松山市内で出土した文化財資料を整理・保管し、その活用を図るとともに市民に開かれた歴史学習の場としての充実を図り、埋蔵文化財センター及び考古館と一体となって埋蔵文化財保護施設として有機的な活用を図ることを目的としている。

1．展示活動

常設展示室は、「海を媒介とした文化交流の中継地点としての伊予文化の独自性と、そこに生きた人々の姿」を解明し、「見る」「聞く」「触れる」「考える」を展示の基本コンセプトとした立体的な展示を心がけている。展示品は、松山平野で出土した考古資料約250点である。

また、常設展示室に隣接した特別展示室では、期間を限定し開催する展示会として（1）発掘へんろ展（3）発掘調査速報展（4）特別展（5）企画展を開催するとともに、（2）松山市考古館写真展を松山市役所・いよてつ髙島屋・松山城ロープウェイ新駅舎の3か所で開催した。

（1）第3回 四国・埋蔵文化財センター巡回展「発掘へんろ－遺跡でめぐる伊豫・土佐・讃岐・阿波－」（写真1・表1－1）

この展示会は、四国内の埋蔵文化財センター5団体が合同で開催する巡回展である。5団体が近年、発掘調査して出土した遺物を持ち寄り、今までに蓄積された情報を提供・交換することによって、観覧者の方々に埋蔵文化財の重要性を認識していただこうというものである。

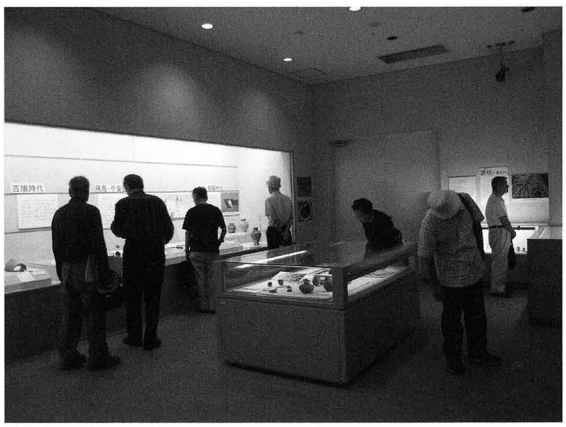


写真1　巡回展「発掘へんろ」風景

（2）松山市考古館写真展（表1－2）

この展示会は、後述する（3）発掘調査速報展「むかし・昔のまつやまを掘る」の案内を兼ねて前年度に発掘調査された遺跡や遺物の写真パネルを速報的に紹介するものである。当年度は松山市役所本館1階ロビー・いよてつ髙島屋ふれあいギャラリー・松山城ロープウェイ新駅舎の3か所において32遺跡の写真パネルと解説パネル計15枚を設置し、PRに努めた。

(3) 発掘調査速報展「むかし・昔のまつやまを掘る」(写真２・表１－３)

この展示会は、前年度に松山市内で相次いで発見された重要な遺跡・遺物を速報的に紹介し、また新たに発掘調査報告書が刊行された遺跡について、写真やイラスト・図面を交えながら紹介するものである。当年度は、前年度に発掘調査された樽味四反地遺跡 13 次調査地や来住廃寺 32 次調査地を含む 29 遺跡を取り上げ、その出土遺物約 100 点を展示した。

(4) 特別展「四国・弥生の宝物－銅剣・銅矛・銅鐸－」(写真３・表１－４)

この展示会は、考古館最大の事業であり、県内外の博物館等から貴重な遺物を借用し、系統的に展示を展開するものである。当年度は、東京国立博物館相互貸借事業を活用し、四国内で出土した弥生時代の青銅器約 90 点を展示した。

(5) 企画展「暮らしと道具～松山の弥生時代～」(表１－５)

この展示会は、住まいと食に関する道具に着目し、市内の遺跡で出土した弥生時代の石器、土器、木製品などを展示した。展示点数は約 100 点である。

表１　展示会一覧

No.	展示会名	会期	会場	観覧者数
1	第３回四国・埋蔵文化財センター巡回展 「発掘へんろ－遺跡でめぐる伊豫・土佐・讃岐・阿波－」	平成 18 年４月 22 日（土）～７月 17 日（月・祝）	特別展示室	2,777 人
2	松山市考古館写真展	①平成 18 年５月 17 日（水）～５月 30 日（火） ②平成 18 年６月 21 日（水）～７月 14 日（金） ③平成 18 年８月 30 日（水）～９月４日（月） ④平成 18 年９月５日（火）～９月 15 日（金） ⑤平成 18 年 10 月 31 日（火）～11 月 14 日（火） ⑥平成 18 年 11 月 14 日（水）～11 月 21 日（月） ⑦平成 19 年１月 31 日（水）～２月５日（月） ⑧平成 19 年２月６日（火）～２月 20 日（火）	①松山市役所本館 ②松山城ロープウェイ新駅舎 ③いよてつ髙島屋 ④松山市役所本館 ⑤松山市役所本館 ⑥いよてつ髙島屋 ⑦いよてつ髙島屋 ⑧松山市役所本館	①・②・④・⑤・⑧ 一般市民対象 ③ 332 人 ⑥ 274 人 ⑦ 198 人
3	発掘調査速報展 「むかし・昔のまつやまを掘る」	平成 18 年７月 29 日（土）～10 月１日（日）	特別展示室	1,712 人
4	特別展 「四国・弥生の宝物－銅剣・銅矛・銅鐸－」	平成 18 年 10 月 14 日（土）～12 月 17 日（日）	特別展示室	2,077 人
5	企画展 「暮らしと道具～松山の弥生時代～」	平成 19 年１月 20 日（土）～３月 18 日（日）	特別展示室	1,776 人

写真２　速報展「むかし・昔のまつやまを掘る」風景

写真３　特別展「四国・弥生の宝物」風景

2. 教育普及活動

教育普及活動としては、職員の資質向上を目的とした調査研究会と、一般市民を対象に埋蔵文化財保護思想の普及啓発を目的とした講演会・体験学習セミナー・考古学講座などがある。

(1) 調査研究会

発掘現場における調査方法や報告書作成のために各分野での第一人者を招聘し、助言をいただき、職員の資質向上をめざしている。

(2) 講演会・展示解説会

当年度は発掘へんろ展示報告会、発掘へんろ展示解説会、発掘調査報告会、特別展解説会、特別展記念講演会Ⅰ・Ⅱ、企画展記念講演会、企画展基礎講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを行った。

①発掘へんろ展示報告会は、発掘へんろ展の開催を記念して当館講堂にて、当埋蔵文化財センター調査員が調査概要と遺物の解説を行い、他の埋蔵文化財センター（愛媛県、高知県、香川県、徳島県）分はビデオ上映で解説を行った（表２－1)。

②発掘へんろ展示解説会は、展示品の解説を当館学芸員が行った。3回実施し、うち1回は親子解説会とし、火おこし体験を同時に行った（表２－2)。

③発掘調査報告会「むかし・昔のまつやまを語る」は、前述の発掘調査速報展の開催初日に統括報告及び調査報告を行った（表２－3)。

④特別展解説会は、当館講堂にてスライドにより展示資料を詳しく解説するものである。松山市文化財審議委員名本二六雄先生には青銅鏡について解説いただき、青銅武器と銅鐸については当館主任学芸員梅木謙一が解説をした。(表２－4)。

⑤特別展記念講演会は、展示資料を深く知るために2回実施した。第1回は愛媛大学教授下條信行先生に「四国の青銅祭祀と弥生社会」と題して、特に四国の青銅器の地域性について語っていただいた。第2回は福岡市埋蔵文化財センター主任文化財主事常松幹雄先生に「銅剣に描かれた鹿と鉤の意味」と題して、松山市道後今市出土銅剣等に描かれた鹿や鉤文様から、松山と北部九州との文化交流について語っていただいた。(写真4・表２－5)。

⑥企画展記念講演会は、企画展を記念して当館講堂にて（財）愛媛県埋蔵文化財センター主任調査員柴田昌児先生に『実験考古学でわかった弥生人の工夫』について講演いただいた（写真5･表２－6)。

⑦企画展基礎講座は、展示資料をより深く理解していただくために2回実施した。第1回は当館学芸員小玉亜紀子がスライドにより展示解説『松山の弥生時代の暮らしと工夫』を行い、第2回は当埋蔵文化財センター調査員加島次郎が『弥生時代に使われた道具』と題して講演した（表２－7)。

写真４　特別展記念講演会風景

写真５　企画展記念講演会風景

表２　講演会等一覧　（敬称略）

No.	事業名	日時	会場	講師・報告者	聴講者数
1	第３回四国・埋蔵文化財センター巡回展 「発掘へんろ」展示報告会	平成18年４月22日（土）	講堂	当センター主任調査員 山之内志郎 他各センターはビデオで解説	39人
2	第３回四国・埋蔵文化財センター巡回展 「発掘へんろ」展示解説会	①平成18年５月３日（水） ②平成18年６月３日（土） ③平成18年７月１日（土）	特別展示室	①当館主任学芸員　梅木謙一 ②当館主任学芸員　〃 ③当館主任学芸員　〃	58人 15人 14人
3	発掘調査報告会 「むかし・昔のまつやまを語る」	①平成18年８月５日（土） ②平成18年９月２日（土）	講堂	①当センター次長兼調査係長　田城武志 当センター主任調査員 山之内志郎 当センター調査員　相原秀仁 ②松山市教育委員会文化財課 主事　岸見泰宏 当センター調査員　水本完児	①74人 ②75人
4	特別展解説会	平成18年10月14日（土）	講堂	松山文化財審議委員　名本二六雄 当館主任学芸員　梅木謙一	42人
5	特別展記念講演会 第１回「四国の青銅祭祀と弥生社会」 第２回「銅剣に描かれた鹿と鉤（カギ）の意味」	①平成18年11月11日（土） ②平成18年12月２日（土）	講堂	①愛媛大学教授　下條信行 ②福岡市埋蔵文化財センター 主任文化財主事　常松幹雄	①73人 ②64人
6	企画展記念講演会 「実験考古学でわかった弥生人の工夫」	平成19年２月３日（土）	講堂	（財）愛媛県埋文センター 主任調査員　柴田昌児	46人
7	企画展基礎講座 第１回「松山の弥生時代の暮らしと道具」 第２回「弥生時代に使われた道具」	平成19年１月20日（土） 平成19年２月24日（土）	講堂	当館学芸員　小玉亜紀子 当センター調査員　加島次郎	45人 48人
8	初心者のための考古学講座 「祈りと祭り」 第１回　動物と祭り 第２回　呪符木簡と人形（ひとがた） 第３回　発掘現場見学 第４回　銅剣・銅鉾・銅鐸－その１－ 第５回　銅剣・銅鉾・銅鐸－その２－	平成18年６月17日（土） 平成18年７月15日（土） 平成18年８月19日（土） 平成18年９月16日（土） 平成18年10月21日（土）	講堂 〃 現場 講堂 〃	松山東雲短期大学　森　正康 愛媛県歴史文化博物館　大本敬久 当センター職員 愛媛大学　吉田　広 愛媛大学　吉田　広	48人 50人 46人 40人 44人

(3) 初心者のための考古学講座（写真６・表２－８）

当年度は『祈りと祭り』をテーマに計５回の講座を実施した。縄文時代から現代までの祈りや祭りの道具について理解を深めるために、講師には道具の種類やその特徴を取り上げて講義をしていただいた。また、第３回の発掘現場見学（文京遺跡）は好評をえた。

(4) クラフト教室「石を磨いて勾玉作り」(写真7・表3－1)

当教室は、市内の小学生以上の方を対象に勾玉作りをした。特に子供たちには、自由な発想で石製勾玉を製作することにより古代人の苦労や知恵を学ぶことを目的としている。また、子供たちの社会科学習の一助とするだけではなく、自主性と創造力を養うことをねらいとしている。

写真6　初心者のための考古学講座風景（発掘現場見学）

写真7　クラフト教室「石を磨いて勾玉作り」風景

(5) 夏休み古代体験学習（写真8・表3－2)

小中学生を対象にしたもので、火おこしと勾玉作りをすることにより、古代人の生活や知恵を学ぶことを目的に実施したものである。

写真8　夏休み古代体験学習風景（火おこし体験）

表3　教育普及活動（体験教室）一覧

No.	事業名	日時	会場	参加者数
1	クラフト教室 「石を磨いて勾玉作り」	①平成18年6月24日（土） ②平成18年9月23日（土） ③平成18年10月28日（土） ④平成19年3月17日（土）	松山市考古館　屋外	①27人 ②6人 ③28人 ④69人
2	夏休み古代体験教室	①平成18年7月29日（土） ②平成18年8月12日（土） ③平成18年8月28日（土）	講　堂 松山市考古館屋外	①13人 ②62人 ③43人
3	大人のための体験学習セミナー 「ガラス勾玉を作ろう！」	①平成19年1月27日（土） ②平成19年2月17日（土）	講　堂 松山市考古館屋外	①27人 ②28人

(6) 大人のための体験学習セミナー「ガラス勾玉を作ろう！」(写真9・表3－3)

当セミナーは、18歳以上の市民を対象にしたもので、古代風ガラス勾玉を製作することにより、古代人の苦労や知恵を学ぶことを目的に実施したものである。

(7) 現地説明会（写真 10・表 4）

遺跡の見学を通して、市民が埋蔵文化財に対する興味や関心をより一層持ってもらうために開催するものである。当年度は、6 ヶ所の遺跡において現地説明会を開催した。

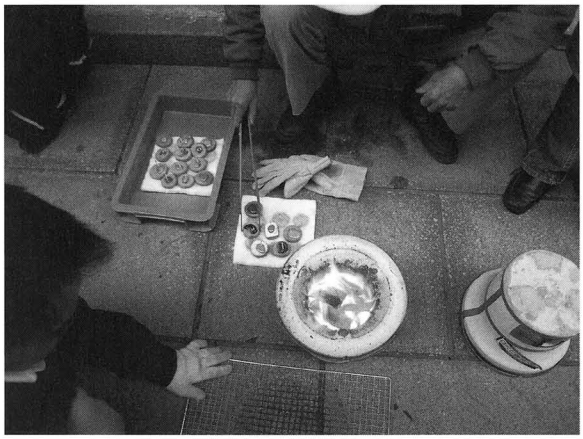


写真 9　大人のための体験学習セミナー「ガラス勾玉を作ろう！」風景

写真 10　現地説明会風景（久米高畑遺跡 67 次調査地）

表 4　現地説明会一覧

No.	遺跡名	日時	遺跡の主な概要	見学者数
1	松山城東郭跡	平成 18 年 4 月 22 日（土） 13：30 ～ 15：00	武家屋敷跡	80 人
2	樽味高木遺跡 13 次調査地 樽味四反地遺跡 14 次調査地	平成 18 年 8 月 26 日（土） 10：30 ～ 12：00	（樽味高木 13 次）弥生時代後期～古墳時代中・後期　集落、古代～中世　溝・土坑 （樽味四反地 14 次）弥生時代　溝・土坑、中世　溝	50 人
3	平井遺跡 3・4・5 次調査地	平成 18 年 12 月 16 日（土） 10：30 ～ 12：00	（3 次）低地（弥生土器出土）・土坑、古墳時代集落 （4 次）古墳時代　掘立柱建物・土坑・柱穴・溝、古代溝 （5 次）古墳時代　集落、弥生時代　土坑	100 人
4	久米高畑遺跡 67 次調査地	平成 18 年 12 月 23 日（土） 10：30 ～ 12：00	古墳時代　竪穴式住居、古代　掘立柱建物	80 人
5	久米高畑遺跡 68 次調査地	平成 19 年 2 月 24 日（土） 10：30 ～ 11：30	弥生時代終末　竪穴式住居、古代　掘立柱建物	60 人
6	樽味四反地遺跡 16 次調査地	平成 19 年 3 月 17 日（土） 10：00 ～ 11：30	弥生時代～古墳時代　集落・竪穴式住居・掘立柱建物・土坑	80 人

(8) 体験学習（表5）

年間に90件を超える団体が来館され、常設展示や収蔵庫等の施設見学に合わせ、火おこし体験などを実施した。

表5　体験学習一覧　(1)

No.	学校名・団体名	参加者	期間	内容	参加者数
1	デイサービスケアジャパン	－	平成18年4月4日（火）	展示見学	28人
2	デイサービスケアジャパン	－	平成18年4月5日（水）	展示見学	20人
3	デイサービス来住	－	平成18年4月5日（水）	展示見学	30人
4	デイサービスケアジャパン	－	平成18年4月8日（土）	展示見学・火おこし体験	22人
5	松山市立味生第二小学校	6年生	平成18年4月18日（火）	展示見学・火おこし体験	92人
6	松山市立西中学校	2年生	平成18年4月21日（金）	展示見学・火おこし体験	207人
7	デイケアセンターれんげ荘	－	平成18年4月27日（木）	展示見学	34人
8	松山市立宮前小学校	6年生	平成18年5月11日（木）	展示見学・火おこし体験	133人
9	ボーイスカウト	3～5年生	平成18年5月14日（日）	展示見学・火おこし体験・古墳見学	16人
10	ひめ句会	－	平成18年5月14日（日）	展示見学	8人
11	呉の民俗学グループ	－	平成18年5月16日（火）	展示見学	5人
12	愛媛大学留学生	－	平成18年5月18日（木）	展示見学	9人
13	なかすか3丁目子供会	－	平成18年5月21日（日）	展示見学・火おこし体験	10人
14	松山市立味酒小学校	6年生	平成18年5月23日（火）	展示見学・火おこし体験	108人
15	松山市立味酒小学校	6年生	平成18年5月24日（水）	展示見学・火おこし体験	72人
16	松山市立小野小学校	6年生	平成18年5月25日（木）	展示見学・火おこし体験	168人
17	松山市立睦月小学校	1～6年生	平成18年5月31日（水）	展示見学・火おこし体験	13人
18	松山市立味生小学校	6年生	平成18年6月1日（木）	展示見学・火おこし体験	157人
19	松山東雲女子大学	－	平成18年6月9日（金）	展示見学・火おこし体験	5人
20	美沢デイケアサービス	－	平成18年6月21日（水）	展示見学	13人
21	新田青雲中等教育学校	1年生	平成18年6月22日（木）	展示見学・火おこし体験・勾玉作り・古墳見学	102人
22	久万高原町保健栄養推進協議会	－	平成18年6月22日（木）	展示見学	36人
23	子供チャレンジ教室	－	平成18年6月24日（土）	展示見学・火おこし体験	53人
24	デイサービスセンターシエスタ本町	－	平成18年6月27日（火）	ハス見学・展示見学	16人

表５　体験学習一覧　(2)

No.	学校名・団体名	参加者	期間	内容	参加者数
25	デイサービスセンター シエスタ本町	－	平成18年6月28日（水）	ハス見学・展示見学	7人
26	デイサービスセンター なないろ	－	平成18年6月28日（水）	ハス見学・展示見学	8人
27	ボランティアガイドクラス	－	平成18年6月30日（金）	ハス見学・展示見学	25人
28	デイサービスセンター玉泉	－	平成18年7月2日（日）	ハス見学・展示見学	15人
29	デイサービスセンター ジョイフル	－	平成18年7月4日（火）	ハス見学・展示見学	15人
30	デイサービスセンター ジョイフル	－	平成18年7月5日（水）	ハス見学・展示見学	14人
31	デイサービスセンター ジョイフル	－	平成18年7月6日（木）	ハス見学・展示見学	12人
32	デイサービスセンター玉泉	－	平成18年7月6日（木）	ハス見学・展示見学	20人
33	デイサービスセンター ジョイフル	－	平成18年7月7日（金）	ハス見学・展示見学	16人
34	デイサービスセンター サンケア潮見	－	平成18年7月7日（金）	ハス見学・展示見学	16人
35	愛媛大学法文学部授業	－	平成18年7月8日（土）	展示見学・火おこし体験	35人
36	社会保険歴史講座	－	平成18年7月11日（火）	展示見学	19人
37	松山市立味酒小学校	6年生	平成18年7月12日（水）	展示見学	30人
38	デイサービスセンター虹の家	－	平成18年7月12日（水）	ハス見学・展示見学	9人
39	松山市小学校研修主任会	－	平成18年7月21日（金）	講堂使用	90人
40	五明の里窯体験学習	－	平成18年7月23日（日）	土器作り	23人
41	子供チャレンジ教室	－	平成18年7月25日（火）	展示見学	18人
42	子供チャレンジ教室	－	平成18年7月26日（水）	展示見学	18人
43	子供チャレンジ教室	－	平成18年7月27日（木）	展示見学	26人
44	松山市小・中学校事務主任会	－	平成18年8月1日（火）	講堂使用	95人
45	松山市小・中学校養護教諭主任会	－	平成18年8月3日（木）	講堂使用	100人
46	デイサービスセンター サンケア潮見	－	平成18年8月3日（木）	ハス見学・展示見学	12人
47	デイサービスセンター サンケア潮見	－	平成18年8月5日（土）	ハス見学・展示見学	20人
48	松山市小学校音楽主任会	－	平成18年8月8日（火）	講堂使用	120人
49	五明の里窯体験学習	－	平成18年8月27日（日）	土器作り	47人

表５　体験学習一覧　(3)

No.	学校名・団体名	参加者	期間	内容	参加者数
50	八幡浜公民館	－	平成18年8月27日（日）	展示見学	25人
51	五明の里窯体験学習	－	平成18年9月3日（日）	土器作り	20人
52	デイサービス　ツクイ	－	平成18年9月18日（月）	展示見学・火おこし体験	11人
53	まつやま環境教室	－	平成18年9月24日（日）	展示見学	25人
54	松山市立津田中学校	－	平成18年9月28日（木）	展示見学・火おこし体験	27人
55	日赤奉仕団（文化財めぐり）	－	平成18年10月4日（水）	展示見学	37人
56	愛媛句会	－	平成18年10月8日（日）	展示見学	8人
57	味生公民館	－	平成18年10月13日（金）	展示見学	22人
58	平成済美中等高等学校	－	平成18年10月19日（木）	展示見学・火おこし体験	102人
59	西消防署	－	平成18年10月22日（日）	講演	16人
60	生石公民館	－	平成18年10月27日（金）	展示見学	42人
61	四国中央市石床愛護班	－	平成18年10月29日（日）	展示見学・火おこし体験・勾玉作り	90人
62	松山市立中島東小学校	－	平成18年10月31日（火）	展示見学・火おこし体験	26人
63	松山市立難波小学校	6年生	平成18年11月1日（水）	展示見学・火おこし体験	20人
64	松山市立姫山小学校	5年生	平成18年11月1日（水）	展示見学・火おこし体験	121人
65	松山市公民館連絡協議会	－	平成18年11月7日（火）	展示見学	83人
66	新玉公民館婦人教育部	－	平成18年11月15日（水）	展示見学	43人
67	パートナーハウスかとれあ	－	平成18年11月15日（水）	展示見学	10人
68	松山市立桑原中学校	－	平成18年11月16日（木）	展示見学・火おこし体験	15人
69	古代史研究会	－	平成18年11月16日（木）	展示見学	27人
70	愛媛大学法文学部授業	－	平成18年11月18日（土）	展示見学	4人
71	ロータリークラブ	－	平成18年11月18日（土）	展示見学	11人
72	春日町内会（文化財めぐり）	－	平成18年11月22日（水）	展示見学	30人
73	倉敷社会保険健康センターペアーレ倉敷	－	平成18年11月25日（土）	展示見学	31人
74	愛媛大学法文学部授業	－	平成18年11月26日（日）	展示見学	10人

表５　体験学習一覧　(4)

No.	学校名・団体名	参加者	期間	内容	参加者数
75	愛媛大学国際交流センター	－	平成18年11月29日（水）	展示見学・火おこし体験	13人
76	西条市立周桑小学校	6年生	平成18年11月30日（木）	展示見学・火おこし体験	31人
77	㈱ケアジャパン デイケアセンター	－	平成18年12月6日（水）	展示見学	27人
78	子供チャレンジ教室	－	平成18年12月10日（日）	展示見学	34人
79	北条辻シルバーサロン	－	平成18年12月12日（火）	展示見学	23人
80	松山市立雄新中学校	－	平成18年12月13日（水）	展示見学・火おこし体験	13人
81	愛大附属中学校	1年生	平成18年12月14日（木）	総合学習	2人
82	子供チャレンジ教室	－	平成19年1月21日（日）	展示見学	34人
83	子供チャレンジ教室	－	平成19年1月27日（土）	展示見学	17人
84	子供チャレンジ教室	－	平成19年1月28日（日）	展示見学	59人
85	日浦公民館	－	平成19年2月3日（土）	展示見学・勾玉作り	12人
86	かんげつ句会	－	平成19年2月4日（日）	展示見学	5人
87	英数学館　松山校	－	平成19年2月21日（水）	展示見学・火おこし体験・勾玉作り	10人
88	第一高等学院	－	平成19年2月22日（木）	展示見学・火おこし体験・勾玉作り	5人
89	下宇和壮年会	－	平成19年2月25日（日）	展示見学	15人
90	松山市立素鷺小学校	5年生	平成19年3月2日（金）	展示見学・火おこし体験	101人
91	双海町少年少女教室	－	平成19年3月3日（土）	展示見学	41人
92	断酒会	－	平成19年3月4日（日）	展示見学	141人
93	宗像古代史研修会	－	平成19年3月4日（日）	展示見学	35人
94	松山市立さくら小学校	5年生	平成19年3月8日（木）	展示見学・火おこし体験	149人
95	都市環境センター	－	平成19年3月11日（日）	火おこし体験	20人
96	松山市立湯山中学校	2年生	平成19年3月13日（火）	展示見学・火おこし体験	90人
97	文化財めぐり	－	平成19年3月25日（日）	展示見学	36人
98	南斎院町内会	－	平成19年3月25日（日）	展示見学	9人

(9) 博物館学芸員実習（写真 11）

平成 6 年度から博物館学芸員資格の取得を希望する学生に対し、実習を実施している。当年度は、9 月 12 日～ 17 日（屋内実習）と 9 月 19 日～ 22 日（屋外実習）の日程で、愛媛大学生 7 名、松山東雲女子大学生 2 名、徳島大学生 1 名を受け入れた。展示実習（展示解説や来館者案内）、写真実習（機材の取り扱いや撮影技術）、保存処理（技術や工程）などのカリキュラムを実施した。

(10) 職場体験（表 6）

当センターでは、中・高校生教育の一環として実施されている「職場体験学習」を受託している。当年度は 3 校の生徒を受け入れ、埋蔵文化財の発掘調査業務や屋内整理業務等を体験していただいた。

表 6　職場体験学習一覧

No.	学校名・学年	日時	内容	参加者数
1	松山市立勝山中学校（2 年生）	平成 18 年 10 月 19 日（木） 9：00 ～ 16：00	発掘調査現場	1 人
2	松山北高等学校（1 年生）	平成 18 年 10 月 26 日（木） 13：30 ～ 14：40	総合的な学習の時間	4 人
3	西条市立東予西中学校（1 年生）	平成 19 年 2 月 7 日（水） 10：30 ～ 14：00	総合的な学習の時間	3 人

(11) 出前考古学教室（写真 12・表 7）

「総合的な学習の時間」、「 選択教科社会科の授業 」、「文化祭」等の利用では、各学校からの要請を受けて、学校や公民館に赴き出前考古学教室を実施した。当年度は 50 回実施した。

写真 11　博物館学芸員実習風景

写真 12　出前考古学教室風景

表７　出前考古学教室一覧

No.	学校名・団体名	対象	期間	内容	参加者数
1	松山市立味酒小学校	6年生	①平成18年4月27日（木） ②　〃　6月 6日（火） ③　〃　6月21日（水） ④　〃　6月23日（金） ⑤　〃　7月 6日（木） ⑥　〃　7月12日（水） ⑦平成19年1月19日（金）	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	174人 174人 69人 105人 174人 174人 36人
2	松山市立みどり小学校	4～5年生	①平成18年4月25日（火） ②　〃　5月 8日（月） ③　〃　5月18日（木） ④　〃　5月25日（木） ⑤　〃　6月 8日（木） ⑥　〃　6月15日（木） ⑦　〃　6月22日（木） ⑧　〃　7月13日（木） ⑨　〃　11月30日（木） ⑩　〃　12月14日（木） ⑪平成19年1月18日（木） ⑫　〃　1月25日（木） ⑬　〃　2月 8日（木） ⑭　〃　2月15日（木） ⑮　〃　2月26日（月）	講義 火おこし体験 講義 講義 講義 講義 講義 クラブ活動 クラブ活動 クラブ活動 クラブ活動 クラブ活動・火おこし体験 クラブ活動 クラブ活動 クラブ活動	123人 123人 37人 37人 37人 37人 37人 27人 30人 30人 30人 30人 30人 30人 30人
3	久枝児童館	小学生	平成18年5月14日（日）	勾玉作り	16人
4	松山市立浮穴小学校	6年生	①平成18年5月18日（木） ②　〃　10月31日（火）	火おこし体験・勾玉作り 講義	97人 98人
5	松山市立小野中学校	1年生	①平成18年6月16日（金） ②　〃　7月 5日（水）	講義 講義	182人 182人
6	松山市立雄新中学校	1～3年生	①平成18年6月30日（金） ②　〃　11月 5日（日）	勾玉作り 勾玉作り	7人 44人
7	松山市立東中学校	1年生	①平成18年7月4日（火） ②　〃　11月2日（木）	講義 勾玉作り	80人 21人
8	松山市立道後小学校	全学年	平成18年7月22日（土）	火おこし体験	400人
9	石井公民館	4～6年生	①平成18年8月18日（金） ②　〃　8月23日（水） ③　〃　8月25日（金） ④　〃　8月29日（火） ⑤　〃　8月30日（水） ⑥　〃　11月20日（月）	火おこし体験 東山古墳公園を探険 勾玉作り 講義 講義 講義	7人 7人 11人 7人 5人 6人
10	松山市立津田中学校	1年生	①平成18年9月21日（木） ②　〃　9月26日（火） ③　〃　11月 9日（木）	講義 講義 勾玉作り	25人 25人 30人
11	久米公民館	一般	平成18年10月19日（木）	講義	30人
12	松山市立城西中学校	2年生	①平成18年10月25日（水） ②平成19年 2月13日（火） ③　〃　3月20日（火）	講義 ガラス勾玉作り 講義	47人 47人 47人
13	パートナーハウスかとれあ	高齢者	平成18年10月31日（火）	現地遺跡見学	10人
14	松山市立鴨川中学校	全学年	平成18年11月3日（金）	勾玉作り	21人
15	松山市立北中学校	全学年	平成18年11月3日（金）	勾玉作り	33人
16	松山市立味生第二小学校	4年生	平成18年11月7日（火）	勾玉作り	200人
17	難波公民館	全学年	平成19年1月22日（月）	勾玉作り	44人

3. 収集・保管活動

(1) 大連古代ハス（写真13）

平成10年4月に松山市農業指導センターから古代ハスの株を分けていただいた。この古代ハスは、平成8年1月に中国大連市の観光訪問団が表敬訪問で松山を訪れた際に、大連市観光局局長の張宏安氏から大連市で出土した1千年前のハスの種子を松山市に寄贈していただいたもので、農業指導センターが育成していたものである。当年度は、50輪以上が開花した。

写真13　大連古代ハス開花風景

4. 広報・出版活動（表8・9）

当センターでは、考古館主催の展示会・講演会などを開催するに先立ち、多くの観覧者を募るためにポスターやチラシを発刊している。また、発掘調査の成果を公開する発掘調査報告書を刊行している。研究者はもとより市民の方々においても、これらの出版物を大いに活用していただくことで埋蔵文化財保護の普及啓発に役立つものと思われる。

表8　考古館出版物一覧

No.	出版物名	発行日	対象	版型・頁	部数
1	発掘へんろ展　ポスター 〃　　チラシ	平成18年4月	一般	B2 A4　2頁	500枚 7,000枚
2	発掘へんろ展展示報告会　レジュメ	平成18年4月	聴講者	A3　4頁 A4　1項	100部
3	考古学講座 (1) レジュメ 〃 (2) 〃 〃 (3) 〃 〃 (4) 〃 〃 (5) 〃	平成18年6～10月	聴講者	A3　2頁 A3　4頁 A3　2頁 A4　1頁・A3　3頁 A4　8頁	70部 70部 80部 70部 70部
4	発掘調査速報展　ポスター 〃　　チラシ	平成18年7月	一般	B2 B5　2頁	500枚 1,000枚
5	発掘調査報告会　レジュメ	平成18年8月 〃　9月	聴講者	A3　7頁 A3　14頁	100部 100部
6	特別展　ポスター 〃　パンフレット 〃　チラシ	平成18年10月	一般	B2 A4　16頁 B5　2頁	600枚 3,500部 10,000枚
7	特別展　解説会レジュメ 〃　記念講演会①　レジュメ 〃　　②　〃	平成18年10～12月	聴講者	A4　3頁 A3　4頁 A4　2頁・A3　4頁	100部 100部 100部
8	大人のための体験学習セミナー パンフレット	平成19年1月	参加者	A4　4頁	30部
9	企画展　ポスター 〃　チラシ	平成19年1月	一般	B2 B5　2頁	500枚 10,000枚
10	企画展　記念講演会　レジュメ 〃　基礎講座①　レジュメ 〃　　②　〃	平成18年2月 〃　1月 〃　2月	聴講者	A3　4頁 A4　1頁 A3　2頁	100部 100部 100部

表９　調査報告書一覧

No.	報告書名	発行日	対象	冊数
1	松山市文化財調査報告書　第115集 『松山大学構内遺跡Ⅳ－６次調査－』	平成19年3月31日	一般	800冊
2	松山市文化財調査報告書　第116集 『鶴が峠遺跡Ⅰ』	平成19年3月31日	一般	800冊
3	松山市文化財調査報告書　第117集 『東野森ノ木遺跡１・２・３・４次調査地 樽味立添遺跡３次調査地 樽味高木遺跡７・８・９・11次調査地 樽味四反地遺跡７・８・９・11次調査地 枝松遺跡６次調査地』	平成19年3月31日	一般	800冊
4	松山市文化財調査報告書　第118集 『南梅本上方遺跡－１次調査地－ 南梅本上方遺跡－２次調査地－ 南梅本長広遺跡－１次調査地－ 南梅本長広遺跡－２次調査地－』	平成19年3月31日	一般	800冊
5	松山市文化財調査報告書　第119集 『大峰ヶ台遺跡－10次調査－』	平成19年3月31日	一般	800冊
6	松山市文化財調査報告書　第120集 『中村地区の遺跡』	平成19年3月31日	一般	800冊
7	松山市埋蔵文化財調査年報18 （平成17年度）	平成18年10月31日	一般	800冊

5. 施設の利用（表10）

当センターは、考古館主催事業だけではなく、考古学関連団体主催の研究会会場としても利用してもらい、広く一般市民にも積極的に参加を呼びかけている。

表10　施設利用一覧

（敬称略）

No.	団体名・テーマ	日時	会場	代表・発表者
1	瀬戸内海考古学研究会　第94回 「弥生時代から古墳時代にかけての大型掘立柱建物」	平成18年7月22日（土）	講堂	西四国考古学研究所 清水眞一
2	瀬戸内海考古学研究会　第95回 「瀬戸内世界の社会と交通」 「瀬戸内の出現期古墳」	平成18年10月21日（土）	講堂	愛媛大学　下條信行 愛媛大学　村上恭通
3	瀬戸内海考古学研究会　第97回 「発掘調査の進め方と報告の手法に関する若干の提言」	平成19年1月27日（土）	講堂	当埋蔵文化財センター 橋本雄一
4	瀬戸内海考古学研究会　第98回 「相の谷１号墳出土遺物の再検討」	平成19年3月17日（土）	講堂	愛媛県歴史文化博物館 冨田尚夫 （財）愛媛県埋蔵文化財調査センター　山内英樹

6. 資料の貸出・調査（表11・12）

当センターでは、各博物館や教育委員会主催事業への出展や、研究者からの資料調査の要望などに応えるべく、可能な限りの資料の貸出や調査協力を行っている。

表11　資料貸出一覧

No.	貸出資料名	点数	貸出・利用目的	貸出・利用期間	貸出・利用者
1	文京遺跡3次出土　絵画土器 東雲神社遺跡出土　絵画土器 祝谷六丁場遺跡出土　絵画土器 樽味高木遺跡3次出土　絵画土器 古市遺跡出土　絵画土器 久米高畑遺跡出土　絵画土器 松山大学構内遺跡出土　絵画土器 福音小学校構内遺跡出土　絵画土器	3点 1点 1点 1点 1点 2点 1点 1点 計11点	平成18年春季特別展「弥生画帖 - 弥生人が描いた世界 -」への展示のため	平成18年4月10日 ～7月12日	大阪府弥生文化博物館
2	祝谷六丁場遺跡出土　分銅形土製品 文京遺跡1次調査地出土　分銅形土製品	1点 1点	『身体表現の考古学』の挿図として	平成18年7月6日	㈱青木書店
3	文京遺跡出土　弥生土器ほか	32点	伊予市埋蔵文化財展示会「よみがえる弥生時代の伊予市」に展示するため	平成18年10月4日 ～11月17日	伊予市教育委員会
4	南久米片廻り遺跡2次出土　円面硯ほか 南久米片廻り遺跡2次出土　円面硯（写真）ほか	87点 28点	特別企画展「よみがえる古代の南海道」に展示・資料に掲載するため	平成18年10月4日 ～12月6日 平成18年10月4日 ～10月27日	徳島市教育委員会
5	祝谷六丁場・樽味四反地遺跡出土 分銅形土製品（写真） 福音小学校講内遺跡出土　分銅形土製品	2点 12点	「松山百点」霜月号に掲載のため	平成18年9月22日 ～10月31日	松山百点事務局
6	東雲神社遺跡出土　土器 石井東小学校構内遺跡出土　土器 来住廃寺15次出土　土器 松山大学構内遺跡2次出土　土器 松山大学構内遺跡3次出土　土器 桑原田中遺跡出土　土器 福音寺筋違F遺跡出土　土器	2点 1点 2点 4点 4点 3点 2点	平成18年度テーマ展に展示するため	平成18年9月28日 ～19年3月30日	愛媛県埋蔵文化財調査センター
7	考古館外観（写真） 古照遺跡出土堰（写真） 朝日谷2号墳出土二禽二獣鏡（写真）	1点 1点 1点	東京書籍発行「邪馬台国トラベルガイド50」に掲載するため	平成18年10月31日 ～11月30日	個人
8	来住廃寺出土　下駄ほか	6点	下駄の樹種同定のためのサンプリング作業のため	平成18年11月7日	橿原考古学研究所員
9	朝日谷2号墳出土　鉄鏃（写真）	1点	『復元七支刀』（鈴木勉・河内國平編著）に掲載のため	平成18年11月29日	㈱雄山閣
10	大渕遺跡出土　彩文土器（写真1枚） 大渕遺跡出土　籾圧痕付き縄文土器（写真1枚） 大渕遺跡出土　縄文土器　深鉢・浅鉢（写真1枚） 大渕遺跡出土　石製収穫具（写真1枚）	1点 2点 3点 3点 （写真4枚）	平成19年度春季特別展において展示し、展示図録に掲載するため	資料：平成19年4月3日 ～6月29日 写真：平成19年1月17日～5月5日	滋賀県立安土城考古博物館
11	報告書『大峰ヶ台遺跡Ⅲ』の写真図版	転載 3点	『文化愛媛』第58号の連載記事への掲載のため	平成18年12月15日	（財）愛媛県文化振興財団
12	番町遺跡の発掘調査（写真）	2点	坂の上の雲ミュージアムでの展示のため	平成19年1月30日 ～2月8日	坂の上の雲まちづくり
13	番町遺跡図8　遺構全測図（電子データ）	1点	坂の上の雲ミュージアムでの展示のため	平成19年2月16日	坂の上の雲まちづくり
14	今治市相の谷1号墳出土　獣帯鏡（写真フィルム） 〃　ダ龍鏡（写真フィルム） 今治市相の谷9号墳出土　竜雲文帯鏡（写真フィルム） 伊予市広田神社上古墳出土　三角縁神獣鏡（写真フィルム） 今治市雉之尾3号墳出土　変形神獣鏡（写真フィルム）	1点 1点 1点 2点 1点	愛媛県歴史文化博物館資料目録第16集『今治市相の谷1号墳出土遺物』に掲載のため	平成19年2月13日 ～3月13日	愛媛県歴史文化博物館
15	常設展示古照遺跡（写真）	1点	中国四国農政局HPに掲載のため	平成19年3月7日 ～3月23日	中国四国農政局整備部

表 12　資料調査一覧　(1)

No.	調査資料名	点数	調査・利用目的	調査・利用期間	調査・利用者
1	「発掘へんろ」展示品	50 点	写真撮影	平成 18 年 4 月 26 日	個人
2	筋違 E 遺跡出土　甑形土器 筋違 C 遺跡出土　甑形土器	1 点 1 点 計 2 点	写真撮影	平成 18 年 5 月 1 日	個人
3	装身具（勾玉・玉類）	100 点	研究のため写真撮影	平成 18 年 5 月 13 日	個人
4	天山古墳の鏡	100 点	写真撮影	平成 18 年 5 月 30 日	個人
5	船ヶ谷遺跡 SR1 ②出土　鬼	2 点	卒業論文のための模写	平成 18 年 7 月 20 日	大学生
6	東本遺跡 6 次調査地出土　鉄鏃 東本遺跡 5 次調査地出土　鉄鏃	4 点 5 点	論文作成のための実測	平成 18 年 8 月 11 日	大学生
7	土器のうつりかわり 松山平野の遺跡 桑原地区の発掘 やりさき 須恵器大甕・弥生土器大壺	1 点 1 点 1 点 1 点 1 点	自由研究のため写真撮影	平成 18 年 8 月 11 日	中学生
8	鶴ヶ峠古墳群出土　埴輪・須恵器	コンテナ 27 箱	科学研究費に伴う資料調査	平成 18 年 8 月 11 日	愛媛大学教官
9	古照遺跡等	10 点	レポート作成のための写真撮影	平成 18 年 8 月 22 日	大学生
10	来住廃寺遺跡出土　下駄 久米窪田森元遺跡出土　下駄	5 点 1 点	個人研究及び論文作成のための資料調査	平成 18 年 10 月 17 日	奈良県立橿原考古学研究所員
11	北久米浄蓮寺遺跡出土　須恵器ほか	109 点	卒業論文作成のため	平成 18 年 10 月 31 日 ～ 12 月 22 日	大学生
12	東山鳶ヶ森 2 号墳出土　空玉 天山 1 号墳出土　空玉 播磨塚天神山古墳出土　空玉 三島神社古墳出土　空玉 三島神社古墳出土　半鈴形金銅製品	15 点 6 点 35 点 6 点 6 点	卒業論文作成のための資料調査	平成 18 年 11 月 1 日 ～ 11 月 2 日	大学生
13	文京遺跡出土の弥生土器	10 点	大学での授業と調査研究	平成 18 年 11 月 2 日	鹿児島国際大学教官
14	船ヶ谷遺跡出土の須恵器ほか	20 点	大学での授業と調査研究	平成 18 年 11 月 2 日	鹿児島国際大学教官
15	松山市内遺跡出土の絵画土器	90 点	弥生時代の土器絵画の研究の一環としての資料調査	平成 18 年 11 月 3 日 ～ 11 月 5 日	東京埋蔵文化財センター所員
16	若草町遺跡・朝日谷 2 号墳遺跡出土 青銅鏡	6 点	調査研究のため	平成 18 年 11 月 6 日	個人

表 12　資料調査一覧　(2)

No.	調査資料名	点数	調査・利用目的	調査・利用期間	調査・利用者
17	古照遺跡７次調査地出土　瓦器坏 影浦谷１号墳出土ほか　埴輪	１点 コンテナ 30 箱	「中近世土器の基礎研究」での資料調査	平成 18 年 11 月 12 日	個人
18	塚本１号墳、２号墳出土　須恵器 天山神社北古墳出土　須恵器 東山鳶ヶ森６号墳出土　須恵器 溝辺１号墳出土　須恵器 松ヶ谷古墳出土　須恵器 かいなご１号墳出土　須恵器 播磨天神山古墳出土　装飾付須恵器片 葉佐池古墳出土　装飾付須恵器	20 点 8 点 1 点 8 点 1 点 1 点 10 点 5 点	論文作成のため	平成 18 年 11 月 28 日	個人
19	常設展示室くらしの変遷（カラー）	3 点	展示参考のため	平成 18 年 12 月 14 日	個人
20	東野お茶屋台遺跡５次調査地（測量原図）	一式	学術目的の研究のため	平成 18 年 12 月 22 日	個人
21	文京遺跡出土の石鏃 祝谷六丁場遺跡出土の石鏃 岩崎遺跡出土の石鏃	17 点 22 点 8 点	卒業論文作成のための資料調査	平成 19 年 1 月 6 日 ～1 月 11 日	大学生
22	企画展「暮らしと道具」展示品	50 点	埋蔵文化財資料として保存するための写真撮影	平成 19 年 1 月 20 日	個人
23	常設展　若草遺跡重圏日光鏡 朝日谷２号墳二禽二獣鏡	2 点 2 点	中学校の宿題の資料にするための写真撮影	平成 19 年 1 月 30 日	中学生
24	船ヶ谷遺跡出土　土器 福音小学校構内遺跡出土　土器・鉄製品	20 点 40 点	調査報告書作成、調査研究のため	平成 19 年 2 月 9 日	個人

7. 職員研修・会議（表 13）

当センターでは、独立行政法人奈良文化財研究所で実施されている発掘技術者研修をはじめとして、各種研修や会議に参加している。こうした研修や会議には、積極的に参加することにより、職員の資質向上と業務の円滑な推進を図っている。

表 13　職員研修・会議一覧

No.	研修・会議名	日時	開催地	参加者数
1	第 27 回全国埋蔵文化財法人連絡協議会	平成 18 年 6 月 8 日（木）～ 9 日 (金)	山口県	1 名
2	平成 18 年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 コンピュータ等研究委員会 中国・四国・九州ブロック地区委員会	平成 18 年 9 月 7 日（木）～ 8 日 (金)	高知県	2 名
3	平成 18 年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 中国・四国・九州ブロック会議	平成 18 年 11 月 9 日（木）～ 10 日 (金)	広島県	2 名
4	平成 18 年度第 3 回埋蔵文化財担当者等講習会	平成 19 年 1 月 10 日（水）～ 12 日 (金)	熊本県	1 名
5	平成 18 年度埋蔵文化財担当者 専門研修会「報告書作成課程」	平成 19 年 1 月 10 日（水）～ 19 日 (金)	奈良県	1 名

8. 考古館月別入館者数調（表 14）

表 14　平成 18 年度　考古館月別入館者数調（平成 18 年 4 月 1 日～ 19 年 3 月 31 日）　（単位：人）

月	開館日数	有料入館者				無料入館者				特別展示室	展示室延入場者数	入館者数
		一般	高齢者	団体各種割引	小計	高校生以下	身障者	その他	小計			
4	26 日	202	85	34	321	363	7	12	382	204	907	1,168
5	25 日	250	14	0	264	558	6	23	587	967	1,818	1,140
6	26 日	237	61	53	351	300	20	12	332	1,039	1,722	1,702
7	26 日	285	75	7	367	162	6	91	259	672	1,298	1,797
8	27 日	228	27	12	267	242	6	315	563	1,105	1,935	1,246
9	26 日	164	13	0	177	79	15	2	96	487	760	654
10	26 日	173	122	40	335	239	14	9	262	15	612	988
	特 15 日	192	62	0	254	228	11	101	340		594	
11	25 日	390	135	122	647	272	8	8	288		935	1,311
	特 25 日	393	97	118	608	267	9	179	455		1,063	
12	24 日	134	67	10	211	79	5	4	88		299	577
	特 15 日	136	27	1	164	82	5	169	256		420	
1	24 日	158	14	0	172	102	3	0	105	398	675	676
2	24 日	141	13	0	154	80	4	3	87	507	748	680
3	26 日	183	30	177	390	495	11	15	521	871	1,782	1,284
計	305 日	3,266	842	574	4,682	3,548	130	943	4,621	6,265	15,568	13,223

松山市埋蔵文化財調査年報　19

平成19年12月26日　発行

編集・発行　松山市教育委員会
〒790-0003　愛媛県松山市三番町6丁目6-1
TEL(089) 948-6605

財団法人　松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター
〒791-8032　愛媛県松山市南斎院町乙67番地6
TEL(089) 923-6363
FAX(089) 925-0260

印刷　岡田印刷株式会社
〒790-0012　愛媛県松山市湊町7丁目1-8
TEL(089) 941-9111